

リアホサ

総大会の説教

新しい七十人と
中央若い女性会長会が召される

新たに二つの神殿が
発表される



©JOSEPH BRINKLEY 聖画工房ブリックレー

「シロアを求めて」 ジョセフ・ブリッキー画

エルサレムにあるシロア（シロアム）の池は、市の城壁の外にあるわき水から注ぎ込む水を蓄えています。

その地域には新鮮な水を得る場所がほかにないため、シロアの水は長い間神の守りと支えの象徴となりました。

イザヤ書第8章6節から8節に記録されているように、イスラエルの王国は二人の王のために主に捨てるとイザヤは預言しました。

後にそれは現実となります。イザヤの時代の人々とは異なり、この女性はシロアの新鮮な水を求めています。

つまり象徴的な意味で、神の変わらぬ愛と守りを求めているのです。

リアホナ 2013年5月号 目次

第15巻・5号

土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 わたしの知っていること
ボイド・K・パッカー会長
- 9 堅固な基
デーモン・M・デイビーズビショップ
- 12 わたしたちは天父の娘です
イレイン・S・ダルトン
- 15 救い主は赦したいと望んでおられます
クレグ・A・カードン長老
- 18 「これがわたしの業であり、
わたしの栄光である」
M・ラッセル・バラード長老
- 22 「わたしのもとにきなさい」
ヘンリー・B・アイリング管長

土曜午後の部会

- 26 教会役員の支持
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 28 2012年度教会監査部報告
ロバート・W・キャントウェル
- 28 2012年度統計報告
ブルック・P・ヘイルズ
- 29 平安に満ちた家庭を築くために
リチャード・G・スコット長老
- 32 個人の平安——義の報い
クエンティン・L・クック長老
- 36 主の方法
スタンレー・G・エリス長老
- 39 全世界に福音を携えて行く
ジョン・B・デイクソン長老
- 41 わたしたちは純潔を信じる
デビッド・A・ベドナー長老
- 45 波に乗る
ラッセル・M・ネルソン長老

神権部会

- 48 聖なる場所に堅く立ちなさい
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 52 若者が持つ神権の力
タッド・R・カリスター長老
- 55 仕え、教え導く神聖な務め
デビッド・L・ベック
- 58 4つの称号
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 62 わたしたちは一つです
ヘンリー・B・アイリング管長
- 66 神権持つ子らよ
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

- 70 神の光のもたらす希望
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 77 これは奇跡です
ニール・L・アンダーセン長老
- 81 わたしたちの話す言葉
ローズマリー・M・ウィクソム
- 83 結婚——よく見て覚えましょう
L・ホイットニー・クレイトン長老
- 86 律法への従順は自由をもたらす
L・トム・ペリー長老
- 89 従順は祝福をもたらす
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午後の部会

- 93 「主よ、信じます」
ジェフリー・R・ホランド長老
- 96 キリストに従う者たち
ダリン・H・オークス長老
- 99 御父と御子
クリストフェル・ゴールデン・ジュニア
長老
- 102 家庭——人生の学校
エンリケ・R・ファラベラ長老
- 104 主によって受け入れられる
エリック・W・ゴビシュカ長老
- 107 美しい朝
ブルース・D・ポーター長老
- 109 贖い
D・トッド・クリストファーソン長老
- 113 また逢う日まで
トーマス・S・モンソン大管長

中央若い女性集会

- 115 あなたにとっての聖なる場所
アン・M・ディブ
- 118 一人の若い女性を救うことは、
その子孫を救うことにもなる
メアリー・N・クック
- 121 動かされないようにしなさい
イレイン・S・ダルトン
- 125 故郷へ向かうすばらしい旅
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 72 末日聖徒イエス・キリスト教会
中央幹部
- 130 指導者の言葉
——大会を生活に取り入れる
- 132 大会で話された実話や物語の索引
- 133 わたしたちの時代のための教え
- 133 中央補助組織会長会
- 134 教会のニュース



第183回 年次総大会の概要

2013年4月6日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ランドール・K・ベネット長老。閉会の祈り——ジーン・A・ステイブンス。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リチャード・エリオット、アンドリュー・アンズワース。「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；“In Hymns of Praise,” *Hymns*, 75番；「天よりの声聞け」『賛美歌』166番、ウィルバーク編曲；「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番；「信仰」『子供の歌集』50、エリオット編曲、未刊；「贖いの主」『賛美歌』73番、ウィルバーク編曲、未刊。

2013年4月6日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ラッセル・T・オスガソープ。閉会の祈り——J・デビン・コーニッシュ長老。音楽——ブリガム・ヤング大学合同聖歌隊：指揮——ロナルド・ステアラー、ロザリンド・ホール；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「主イエスよ、わが胸」『賛美歌』80番、ステアラー編曲、ジャックマン刊；「部屋を出る前に」『賛美歌』78番、ジョンソン編曲、ジョンソン刊；「喜べ、主を」『賛美歌』32番；「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番、ステアラー編曲、ジャックマン刊。

2013年4月6日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ロナルド・A・ラズバンド長老。閉会の祈り——ラリー・M・ギブソン。音楽——ユタ州ソルトレーク・シティー地域各ヤングシングルアダルトのステークから成る合同聖歌隊：指揮——ジャスティン・ビルズ；オルガニスト——クレイ・クリスチャンセン。“Arise, O God, and Shine,” *Hymns*, 265番、ウィルバーク編曲、オックスフォード刊；「神よ、汝れに近寄らん」『賛美歌』55番、ビルズ編曲、未刊；「シオンのつわもの」『賛美歌』159番；「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番、ビルズ編曲、未刊。

2013年4月7日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ステイブン・E・スノー長老。閉会の祈り——O・ビンセント・ハレック長老。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース、クレイ・クリスチャンセン。「信仰もて行け」『賛美歌』168番；“Let Zion in Her Beauty Rise,” *Hymns*, 41番、ケーセン編曲、ジャックマン刊；「われに來よ」『賛美歌』66番、ウィルバーク編曲、未刊；「導きたまえよ」『賛美歌』41番；「愛あるところ」『子供の歌集』76、カードン編曲、未刊；「恐れず來たれ、聖徒」『賛美歌』17番、ウィルバーク編曲、未刊。

2013年4月7日日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——キャロル・M・ステイブンス。閉会の祈り——ラリー・Y・ウィルソン長老。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ、ボニー・グッドリフ。「來たれ、主の子ら」『賛美歌』31番、マーフィー編曲、未刊；「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』36、マーフィー編曲、未刊；「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番；「心に平和と」『賛美歌』91番、マーフィー編曲、未刊。

2013年3月30日土曜夜、中央若い女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——イレイン・S・ダルトン。開会の祈り——エラ・エッジリー。閉会の祈り——エミリー・マクスウェル。音楽——ユタ州ハイランド地域のステークから成る若い女性の合同聖歌隊：指揮——メリリー・ウェップ；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ；「山の上に」『賛美歌』2番，“Arise”のデスクントを付加；“In That Holy Place,” デフォード、デフォード刊；「さらに聖くなお務めん」『賛美歌』74番、ゴーツ編曲、未刊；「力強き主よ」『賛美歌』164番、ケーセン編曲、ジャックマン刊；“Let Zion in Her Beauty Rise,” *Hymns*, 41番、ウェップ編曲、未刊。

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聴くことができます。インターネットで conference.lds.org を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ

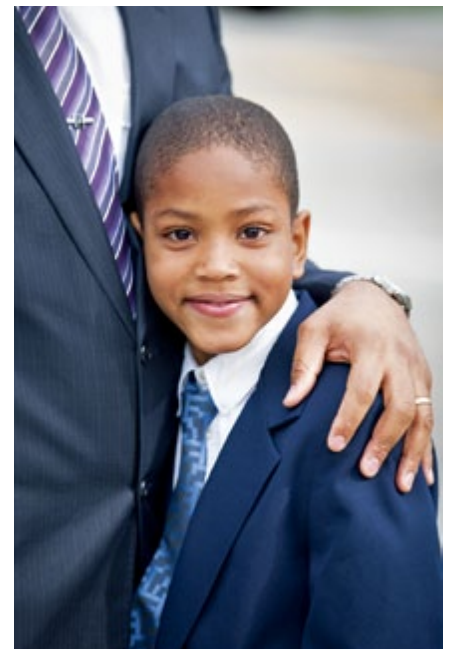
ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙

表紙——写真／レスリー・ニルソン
裏表紙——写真／レスリー・ニルソン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——コーディー・ベル、ウェストン・コルトン、スコット・デービス、クレイグ・ダイヤモンド、ロイド・エルドリッジ、サラ・ジェンソン、コリン・キング、アシュリー・ラーセン、レスリー・ニルソン。アメリカ合衆国、アリゾナ州——ミンディー・スー・エバンス。オーストラリア——コリン・リガートウッド。ブラジル、ブラジリア——トメ・シケイラ。ブラジル、ソブラウ——フランシスコ・フラビオ・ジマス・カルネイロ。アメリカ合衆国、カリフォルニア州——ロンダ・ハリス。チリ——オスカ・シュミットナー。デンマーク——アン・マリー・リンドバーク。エクアドル——ジミー・パディヤ・ピン。エルサルバドル——ホスエ・ペニャ。アメリカ合衆国、ニューヨーク州——マーク・ウェインバーク。スコットランド——シルビア・メアリー・ブラウン。南アフリカ——ジェレミー・ラコトマモニー。



大管長会:トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長:クレグ・A・カードン

顧問:シェーン・M・ポーエン, ブラッドリー・D・フォスター, クリストフェル・ゴールデン, ジュニア, アンソニー・D・パーキンス

実務運営ディレクター:デビッド・T・ワナー

家族・会員支援ディレクター:ビンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター:アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー:ガフ・キャノン

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ライアン・カー, ラリオン・ポーター, ガートン

出版補佐:メリッサ・ゼンデノ

執筆・編集:スーザン・パレット, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ミンディ・ライ・フリードマン, ローリー・フラウ, ギャラリー・H・ガフ, ジェニファー・グレース・ジョーンズ, マイケル・R・モリス, リチャード・M・ロムニー, ポール・バンデンバーク

実務運営アートディレクター:J・スコット・クヌーセン

アートディレクター:タッド・R・ピーターソン

デザイン:ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, C・キンボール, ポット, トーマス・チャイルド, ネット・ジャインズ, ケリー・リン・C・ヘリン, コリー・ヒンクレー, スーザン・コフグレン, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ, ブラッド・テアー

版權および許諾コーディネーター:コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹:シェーン・アン・ピーターズ

制作:コニー・パウソープ・ブリッジ, ジュリー・バーデット, プライアン・W・ギューギ, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン, ゲール・テート・ラファティ

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター:エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長:デレック・リン・ウェスマン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大会号 80円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。 Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2013 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2013 Vol. 37 No. 5. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5).

NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazine, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.



話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B 22, 67
アンダーセン, ニール・L 72
ウィクソム, ローズマリー・M 81
ウークトドルフ, ディーター・F 26, 58, 70, 125
エリス, スタンレー・G 36
オークス, ダリン・H 96
カードン, クレグ・A 15
カリスター, タッド・R 52
クック, クエンティン・L 32
クック, メアリー・N 118
クリストファーソン, D・トッド 109
クレートン, L・ホイットニー 83
コピシュカ, エリック・W 104
ゴールデン, クリストフェル・ジュニア 99
スコット, リチャード・G 29
ダルトン, イレイン・S 12, 121
ディクソン, ジョン・B 39
デイビーズ, デイーン・M 9
ディブ, アン・M 115
ネルソン, ラッセル・M 45
バックナー, ボイド・K 6
バラード, M・ラッセル 18
ファラベラ, エンリケ・R 102
ヘイルズ, ロバート・D 48
ベック, デビッド・L 55
ベドナー, デビッド・A 41
ベリー, L・トム 86
ポーター, ブルース・D 107
ホランド, ジェフリー・R 93
モンソン, トーマス・S 4, 66, 89, 113

テーマ別索引

あ愛 66, 83, 125
証 18, 66, 93
イエス・キリスト 22, 29, 48, 70, 89, 96, 99, 107, 109
一致 62
祈り 9, 113
戒め 86, 89
癒し 58, 70
か回復 45
家族 6, 18, 29, 55, 83, 102, 118
家族歴史 118
活発化 55
家庭 29, 102
神の性質 12, 18, 58
感謝 113
犠牲 104
希望 70, 107
逆境 12, 70, 107, 118
教会の発展 39
悔い改め 15, 41, 83, 109
啓示 52
バックナー, ボイド・K 83, 102
結婚 83, 104
謙遜 83, 104
子供 81, 102
コミュニケーション 81
さ死 118
死すべき状態 125
指導力 52
従順 48, 86, 89
贖罪 12, 109, 121
神権 18, 52, 55, 62
信仰 83, 93
神聖さ 115
神殿 4, 32, 121
信頼 52
真理 89
救いの計画 41, 125
聖餐 9
聖典 66, 102
聖文研究 9
聖霊 6, 115
聖約 104
前世 125
選択の自由 86
備え 66
尊敬 83
た父なる神 36, 99
忠誠 83
弟子の務め 58
伝道活動 4, 39, 45, 62, 66, 77
道徳 6, 41, 121
は標準 48
平和 29, 32
奉仕 22, 55, 58, 109
ま耳を傾ける 81
モルモン書 45
や赦し 15
預言者 36
わ若い女性 12



トーマス・S・モンソン大管長

大会へようこそ

わたしは皆さんに、聞こえてくる言葉に耳を傾け、そのメッセージを受け入れるようお勧めします。それがわたしの願いです。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、教会の第183回年次総大会に皆さんをお迎えできることは、わたしにとって大きな喜びです。

前回お会いしてから6か月の間に、わたしは少し旅をして、皆さんの地元で一部の方々とお目にかかる機会がありました。10月の総大会の後、わたしはドイツへ行き、その国の幾つかの場所と、またオーストリアの数か所で、教会員と集会を持つ特権を頂きました。

10月の終わりには、M・ラッセル・バラード長老と姉妹、クレグ・C・クリステンセン長老と姉妹、またウィリアム・R・ワーカー長老と姉妹の助けを得て、カナダ・アルバータ州カルガリー神殿を奉献しました。11月には、アイダホ州ボイシ神殿を再奉献しました。わたしに同行して奉献式に参列してくれたのは、デビッド・A・ベドナー長老と姉妹、クレグ・C・クリステンセン長老と姉妹、それにウィリアム・R・ワーカー長老と姉妹です。

これらの奉献と併せて行われた文化の祭典はともに素晴らしいものでした。カルガリーでの文化の祭典のときは、モンソン姉妹の85歳の誕生日だったため、出席を控えさせていただきました。彼女と一緒にいるべきだと感じたからです。けれども、妻とわたしは自宅の居間で有線

テレビ放送によってその祭典を見ることができました。そして翌朝、わたしは奉献のために飛行機でカルガリーへ行きました。ボイシでは、神殿地区の9,000人以上の青少年が文化の祭典に参加しました。非常に大勢の若人が参加したので、発表の舞台となった競技場に家族の付き添うスペースがないほどでした。

つい先月は、ディーター・F・ワークトドルフ管長が、ワークトドルフ姉妹、ジェフリー・R・ホランド長老と姉妹、またグレゴリー・A・シュワイツァー長老と姉妹とともにホンジュラスのテグシガルパへ行き、そこで新しく竣工した神殿を奉献しました。奉献の前夜には、すばらしい青少年の祭典が催されました。

ほかに、すでに発表されている神殿、様々な段階で準備が進められている神殿や建築中の神殿があります。

今朝、さらに二つの神殿を発表でき光栄です。これから数か月あるいは数年先に、次の場所に神殿が建てられます。ユタ州シーダーシティーとブラジルのリオデジャネイロです。兄弟姉妹の皆さん、神殿の建設はこれからも同様に続きます。

御存じのように、10月の総大会で、わたしは、若い男性と若い女性が専任宣教師として奉仕できる年齢の変更を発表しました。現在、若い男性は18歳、若い



女性は19歳で奉仕することができます。教会の若人の反応は驚くほどで、感動的です。2日前の4月4日現在、伝道中の専任宣教師は6万5,634人で、さらにすでに召しを受けてまだ宣教師訓練センターに入っていない人が2万人以上、またビショップとステーク会長との面接の過程にある人が6,000人以上います。宣教師の増加に伴い、58の新しい伝道部を設



けることが必要になりました。

この伝道の勢いを維持できるように、また宣教師の多くは必ずしも豊かでない家庭から伝道に出ているため、できる範囲で、教会の中央宣教師基金に惜しみなく献金して下さるよう、皆さんにお願いします。

さて、兄弟姉妹の皆さん、今日と明日、わたしたちは靈感を受けたメッセージを

聞きます。わたしたちに話をする人たちは、主が今わたしたちに聞かせたいと思っておられることを知るためよく祈って求めてきました。

わたしは皆さんに、聞こえてくる言葉に耳を傾け、そのメッセージを受け入れるようお勧めします。それがわたしの願いです。主イエス・キリストの御名により、アーメン。■



十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

わたしの知っていること

これまでに読み、教え、学んだすべてのことの中で、わたしが伝えなければならない最も貴く神聖な真理は、イエス・キリストに対するわたしの特別な証^{あかし}です。

1992年、それまで十二使徒補助として9年、十二使徒定員会会員として22年奉仕していたわたしは、その年に68歳となりました。そのときから、何か文章に残したいという思いに駆られ、「未完成の作文」という題の詩を書き始めました。この詩の最初の部分は、次のような内容です。

ある夜、一つの考えを思いついた。
深い洞察に満ちた考えだった。
眠れないほど疲れ果てていたときに、
その考えは浮かんだ。

多忙な一日を送り、
自らの行く末について思い巡らしていた
ときだった。
それはこんな考えだった。
若いころのわたしは68歳ではなかった!

足を引きずらずに歩くことができた。
肩が痛むことはなかった。
一つの文章を2度読めば
暗唱することができた。

何時間もほとんど休むことなく
働き続けることができた。
今となってはできないことも
当時は、難なくこなせた。

しかし、時を戻せたとしても、
その選択が与えられたとしても、
老いを若さと取り換えることはするまい。
そうすることで失うものが多いから。

このまま進むことに後悔の念はまったく
ない。
あのすばらしい若さを放棄しても。
後戻りすることで失うものが
何なのかを知っているから。

10年後、わたしはこの詩に何行かを付け
加えることにしました。

10年があつという間に過ぎ去った。
その間に、多くの痛みもなくなった。
股関節補強金具のおかげで足を引きずる
ことはなくなった。
前のようにまっすぐ歩く自分がいる。

別の金属のおかげで首の骨はずれなく
なった——
すばらしい発明品だ!
おかげで小児まひの影響も和らいだ。
「かたくなな時代の人々」の仲間入りだ。

肉体は目に見えて衰えてきた。
それが好転することはあるまい。
唯一勢いを増しているもの、
それはわたしの忘れっぽさ。

「わたしのことを覚えていますか」と
だれかに聞かれたら、
「もちろんですとも。あなたは昔とちっとも
変わっていない」と答えるだろう。
でも気を悪くしないでほしい。
名前の方は思い出せなくても。

確かに、知りたくないことも
幾つか学んだ。
しかし、年を重ねるごとに、
霊の成長をもたらす貴い真理を学んだ。

自らの生涯で得たあらゆる祝福の中で
最大のもの、それは
最愛の妻から得た
交わりと慰め。

子供たちは皆、すばらしい伴侶^{はんりよ}と結ばれ、
自分たちの家族に恵まれ、
子供、そして孫が生まれ、
皆、瞬く間に成長した。

若さを取り戻すことについて、
わたしの考えは少しも変わっていない。
年を取るのはいよいこと。なぜなら年齢
を重ねるにつれて
真理の知識が身に付くからだ。

あなたは尋ねる。「未来はどうなるの
でしょうか。
どのような行く末が待っているのだ
うか」と。
わたしはつぶやかずとにかく進む。
その質問には88歳になったら答えよう!

そして昨年、わたしは次の行を付け加
えました。

さて御覧のように88歳まで生きてし
まった。
年月は速やかに流れ去った。
歩いていたのが、足を引きずるようになり、
今度は杖が必要になった。

そして今や、待望の車いすにまで乗っている。

時々居眠りをすることはあるが、
神権の力はなくなるらない。
肉体的に衰える代わりに、
霊は大きく成長する。

全世界の至る所を旅し、
その距離は 300 万キロを超えた。
衛星放送のおかげで、
わたしの声は世界中を駆け巡る。

今、心からの確信をもって言える。
わたしは主を知り、愛していると。
主の聖なる言葉を宣べ伝えるとき、
昔の人々と同じ証ができる。

主がゲツセマネでお感じになったことは
とうてい理解できないことを知っている。
主はすべてをわたしたちのためにして
くださったことを知っている。
主ほど偉大な友人はおられない。

主は再び来られる、
力と栄光をまとめて。わたしはそのこと
を知っている。
主に再びまみえることを知っている。
この生涯を終えるときに、

わたしは主の傷ついた足を前にひざま
ずき、
主の御霊の輝きを感じる。
わたしは声を震わせ、こうささやく。
「わが主、わが神よ、わたしは知ってお
ります。」¹

わたしはほんとうに知っているのです！
我が家の裏窓からは、小さな花園、森、
そして森に沿って流れる小川が見渡せ
ます。この花園に面した家の壁には、
つたが生い茂っています。毎年のように、
このつたは小鳥が巣作りする場所となっ
ています。つたの中の巣は、獲物を探して



うろつくキツネやアライグマ、ネコに襲わ
れる心配がありません。

ある日のこと、つたの中がひどくざわつ
いていました。恐ろしいまでの悲痛な鳴き
声に呼応して、近くの森に住む 10 羽ほど
の小鳥も恐怖の鳴き声を発し始めました。
1 匹のヘビの体が一部つたから外にはみ
出し、引っ張り出せるぐらいの長さで窓の
前にぶら下がっていました。ヘビの胴体
の真ん中辺りには二つのふくらみがありま
した。巣の中のひな鳥を 2 羽、のみ込ん
でしまったことは明らかでした。この家に
住むようになって 50 年、そのような光景を
目にしたことは一度もありませんでした。
それは一生に一度の経験でした。少なく
ともわたしたちはそう思いました。

数日後、また一騒動ありました。我が
家の裏庭にはイヌを走らせたり、遊ばせたり
することのできる広い屋根付きの場所
がありますが、今度はその屋根を覆うつた
の中での出来事でした。前回と同様、恐
怖の鳴き声が聞こえ、近所で見かける小
鳥の群れが目に入ってきました。この騒
動の原因が何なのかは分かっていました。
孫がその屋根によじ登り、1 匹のヘビを
引っ張り出しました。そのヘビは、巣の中
で捕まえて殺した母鳥を、まだ、しっか
りと口にくわえていたのです。

わたしはつぶやきました。「どうしたの

だろうか。エデンの園にまた侵入者か。」

そのとき、預言者によって語られた数々
の警告を思い出しました。わたしたちは
敵対者の影響を受けないわけではありま
せん。自分の家も例外ではありません。
わたしたちは幼い子供たちを守る必要が
あるのです。

わたしたちは最も霊的なものが脅かさ
れるきわめて危険な世界に住んでいます。
家庭、すなわちこの世から永遠にわたって
続く基本的な組織が、見える力、見えない
力の攻撃を受けているのです。敵対者の
動きは活発です。その目的は害を及ぼすこ
とです。家族を弱め、破壊することができ
れば、敵対者は成功したことになります。

末日聖徒は、たぐいまれなる家族の大切
さを認め、敵対者が家庭の中に忍び込め
ないような生活を送ろうと努力しています。
わたしたちは自分自身と子供たちの安全
および防御のために、自分たちが交わした
聖約を尊び、日々たゆまず、キリストの
弟子に求められる従順な生活を送ります。

イザヤはこう語っています。「正義は平
和を生じ、正義の結ぶ実とはこしえの平安
と信頼である。」²

この平和は主が宣言された次の啓示でも
約束されています。「備えていれば恐れる
ことはない。」³

家庭とそこに住む人々を守るために完



全な神権の力が与えられています。父親は子供を教え、福音の儀式と家族に必要なほかのあらゆる神権の守りを施す権能と責任を持っています。子供たちがはっきりと分かるように、母親に対し、愛と貞潔、そして敬意を示さなければなりません。

信仰とは、現実的な力であって、単なる信念の表現ではないことを、わたしは理解できるようになりました。義にかなった母親の忠実な祈りほど大きな影響力を持つものはありません。

自らよく学び、家族に聖霊の賜物とイエス・キリストの贖い^{あがな}について教えてください。永遠の見地から見て、自分の家庭という囲いの中で行う業ほど大切な業はありません。

わたしたちは自分が天の両親の霊の子供であり、この地上に、死すべき肉体を受け、試されるために生まれてきたことを知っています。肉体を持つわたしたちには、肉体を持たない者を支配する力があります。⁴ 何をするのかを選ぶ自由、自らの行動をよく考えて選ぶ自由はありますが、結果を選ぶ自由はありません。結果に変更を加えることはできないのです。

選択の自由は聖典の中で「道徳的な選択の自由」と定義されています。わたしたちは善と悪のいずれかを選ぶことができるといことです。敵対者はわたしたちを誘惑し、道徳的な選択の自由を誤った方法で使わせようとします。

聖文では次のように教えられています。「すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて、未来に関する教義

と原則に従って行動できるようにして、各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負うようにするためである。」⁵

アルマはこう教えています。「主はほんのわずかでも、罪を見過ごしにされることはないからである。」⁶ このことを理解するには、罪と罪人を分けて考えなければなりません。

例えば、救い主は御自分の前^{かんいん}に姦淫の罪を犯した女性が連れて来られたとき、次のような言葉で訴えを取り下げられました。「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。」⁷ これこそが、主の教えと導きの精神なのです。

寛容は美德ですが、ほかの美德と同様、度が過ぎると悪徳に変わります。「寛容のわな」にはまらないよう注意する必要があります。国の法律が弱体化したことにより、不道徳の合法化を黙認するという放任主義が生まれ、そのため、神がお与えになった純潔の律法が破られ、そこから生じる深刻な霊的結果に歯止めが利かなくなっています。

すべての人はキリストの光、すなわち一人一人に善悪の違いを理解させる指針となる力を持って生まれてきます。この光を受けて何を行うのか、義にかなった生活を送るようにとの促しにどのようにこたえるのかは、現世で受ける試しの一部です。

「見よ、善悪をわかまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように

勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわかまえることができる。」⁸

わたしたちは皆、いつでも靈感あるいは聖霊のささやきにこたえられるよう準備をしていなければなりません。主は、わたしたちを促し、導き、教え、戒めるために、わたしたちの思いに純粋な英知を注ぐ方法を御存じです。神の息子、娘は皆、知る必要のあることをすぐに知ることができます。靈感と啓示を受け、それに従って行動できるようになってください。

これまでに読み、教え、学んだすべてのことの中で、わたしが伝えなければならない最も貴く神聖な真理は、イエス・キリストに対するわたしの特別な証です。主は生きておられます。主が生きておられることをわたしは知っています。わたしは主の証人です。主について証することができます。主はわたしたちの救い主、贖い主であられます。このことを確信しています。イエス・キリストの御名^{みな}によって証します、アーメン。■

注

1. ボイド・K・バックナー, "Unfinished Composition," (「未完成の作文」) 2012年
2. イザヤ 32:17
3. 教義と聖約 38:30
4. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』 211 参照
5. 教義と聖約 101:78
6. アルマ 45:16
7. ヨハネ 8:11
8. モロナイ 7:16



管理ビショップリック第二顧問
ディーン・M・デイブーズビショップ

堅固な基

御自分のもつに來るよつにという救い主の招きにこたえましよう。
安全で堅固な基の上に人生を築きましよう。

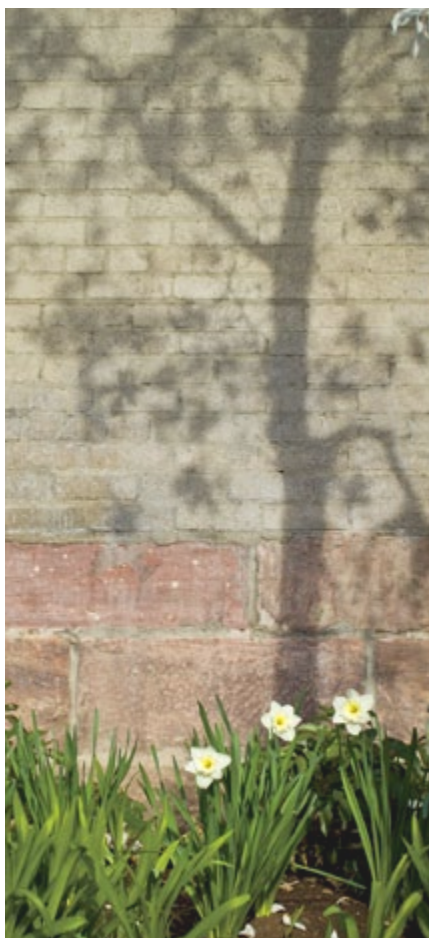
1989年10月17日、わたしは仕事を終えて車で帰宅する途中、カリフォルニア州サンフランシスコのマーケット・ストリートとビール・ストリートの交差点の信号に差しかかるうしていました。ちょうどそのとき、車が揺れるのを感じ、「タイヤがパンクしたに違いない」と思いました。車の揺れが続く中、バスが随分近くにいるのに気づき、「あのバスにぶつけられた」と思いました。それから車がさらに強く揺れ出したので、「タイヤが4本ともパンクしてしまった」と思いました。しかし、それはパンクでもバスのせいでもありませんでした。強い地震だったのです。赤信号で停止すると、舗装道路がまるでマーケット・ストリートを伝わる波のように揺れていました。地面の揺れが続く中、目の前の高いオフィスビルが左右に揺れ、左側の古い建物からレンガが落ち始めました。

その日の午後5時4分にサンフランシスコ湾岸地域を襲ったロマ・プリータ地震によって家を失った人は1万2,000人に上ると報告されています。

地震はサンフランシスコ湾岸地域、特に地盤の不安定なサンフランシスコとオークランドに甚大な被害をもたらしました。サンフランシスコのマリーナ地区は、砂、土、がれき、そして地下水をたっぷり含んだ材質が混じってできた埋め立て地でした。その中には、サンフランシスコ

湾に捨てられた1906年のサンフランシスコ地震のがれきも含まれていました。¹

1915年ごろ、埋め立て地にアパートが何棟も建てられました。1989年の地震では、この水分をたっぷり含んだゆるい泥と砂とがれきが液状化現象を起こし、建物の崩壊を招いたのです。建物が堅固な基の上に建てられていなかったためでした。



ロマ・プリータ地震はわたしも含め、多くの人の生活に影響を与えました。その日の出来事を深く考えるときに心と思いで再認識するのは、人生の嵐や地震や災難に耐え抜くには堅固な基の上に建てなければならないということです。

ニーファイ人の預言者ヒラマンは、イエスキリストという堅固な基の上に人生を築くことの大切さについて、きわめて明確にこう教えています。「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5:12)

今日の神殿ごんいちの建設計画では、そのデザインと構造と建設資材に人念な注意が払われます。神殿建設予定地の土壌や地質を綿密に調査します。その地域の風や雨や天候の変化を調査して、完成した神殿がその地域特有の嵐や気候に耐えられるようにするだけでなく、予期せぬ地震、台風、洪水、その他の自然災害にも耐えられるように神殿は設計され、位置を決められているのです。多くの神殿ではコンクリートや鋼鉄の杭が地中深くまで打ち込まれ、神殿の基礎を揺るぎないものとしています。

現代の設計士や建築家のように、愛と思いやりに満ちた天の御父と御子は、わたしたちが確固として揺らぐことのない人生を築き、それを支えることができるように、設計図や道具やその他の資材を用意してくださいました。その設計図こそ、救いの計画、すなわち偉大な幸福の計画です。この計画は、わたしたちに始まりと終わりと不可欠な段階を明確に示し、理解させてくれる図面のようなものです。その段階



には、御父の子供一人一人が御父のみもとに戻り、永遠にともに住むために必要な儀式が含まれます。

信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物、そして最後まで堪え忍ぶことは、人生の「青写真」の一部です。どれも、適切な土台作りに必要であり、わたしたちの人生をキリストの贖罪にしっかりとつなぎ留める助けとなります。これらは人の人生を形作り支える骨組みです。さらに、神殿の設計図に、重要な材料の組み合わせと配合の方法について詳細な指示を与える「仕様書」があるように、祈ること、聖文を読むこと、聖餐を受けること、不可欠な神権の儀式を受けることは、人生という建物の一体化と結び付きを助ける「仕様書」になります。

このような仕様書を適用するときには、欠かせないのがバランスです。例えば、最高の強度のコンクリートを作るためには、その過程において砂、砂利、セメント、水の量を正確に量らなければなりません。これらの材料のどれかを誤った量で加えたり、入れ忘れたりすれば、もろいコンクリートができ、重要な機能を果たせなくなってしまいます。

同じように、わたしたちが生活の中で、日々の個人の祈りや聖文を味わうこと、毎週聖餐を受けて強められること、神殿の儀式などの神権の儀式に頻繁に参加

することについて適切なバランスを欠いてしまうと、わたしたちの霊にも構造上の弱体化を招く危険性が生まれます。

パウロはエペソ人への手紙の中で、次のように言っています。この言葉は、わたしたちの人格と魂のバランスと調和の取れた成長に必要な事柄に当てはめることができます。「このキリストにあって、建物全体が組み合わせられ、主にある聖なる宮に成長[する]……。」(エペソ 2:21)

祈りは、わたしたちの信仰と人格の土台作りに必要な、最も基本的で重要な建材の一つです。祈りにより、わたしたちは神に感謝と愛と献身を表すことができます。祈りにより、わたしたちは自らの意志を神の御心に従わせ、それと引き換えに自らの生活を神の教えに添ったものに変える強さを頂きます。祈りは、生活の中で神の影響を、すなわち啓示が受けられるように求める方法でもあります。

アルマはこう教えました。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるように、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」(アルマ 37:37)

偽りのない、心からの祈りによって、主に自らの思いと気持ちと望みをお伝えすることが、わたしたち一人一人にとって、息をし、食事をするのと同じくらい大切で自然なこととなるべきです。

毎日聖文を研究することで信仰と人格が強められます。肉の体に栄養を与えるために食物が必要なように、わたしたちの霊と心も、預言者の記録に記されたキリストの言葉をよく味わうことで満たされ、強められます。ニーファイはこう教えています。「キリストの言葉をよく味わうように……。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2 ニーファイ 32:3)

聖文を読むことは良いことですが、ただ読むだけでは救い主の教えを広く、深く、十分に理解することはできません。研究し、深く考え、聖文で教えられているキリストの言葉を自分に当てはめて初めて、わたしたち人間の理解を超えた知恵と知識がもたらされます。それがわたしたちの決意を強め、どのような状況でも最善を尽くせる霊的な蓄えを与えてくれるのです。

わたしたちの生活を強め、救い主の基にしっかりとつかまっているために最も重要な段階の一つが、毎週ふさわしい状態で聖餐を受けることです。聖餐の儀式は教会員一人一人に前もって自らの生活について深く考え、したこと、しなかったことの中に悔い改めが必要なことがあったかどうかを考える機会を与えてくれます。その後、イエスの体と血の神聖な記念としてパンと水を頂き、主の贖罪の証人となります。真心から、謙遜に聖餐を頂くならば、わたしたちは永遠の聖約を新たに、清くされ、聖められ、いつも御子の御霊を受けられるという約束を受けます。御霊は一種のモルタルのように働いて結びつきを強め、わたしたちを聖めるだけでなく、すべてのことを思い起こさせ、繰り返しイエス・キリストを証してください。ふさわしく聖餐を受けることで、わたし

たち個人と、イエス・キリストという基の岩とのつながりが強められるのです。

救い主はその務めの間、わたしたちの命を守り人格を強める教義と原則と必要な行いを、愛をもって明確に教えられました。山上の垂訓の終わりに、主はこう言われました。

「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者を、わたしは岩の上に家を建てた賢い人にたとえよう。

雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それは倒れなかった。岩を土台としていたからである。

また、わたしのこれらの言葉を聞いて行わないものは皆、砂の上に家を建てた愚かな人にたとえられる。

雨が降り、洪水が起こり、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまった。そして、その倒れ方はひどかった。」(3 ニューファイ 14:24-27; マタイ 7:24-27 も参照)

兄弟姉妹、わたしたちはだれも、それと分かっていながら、適切な設計図や建材のないまま、砂や砂利の上に自宅や仕事場や聖なる礼拝の家を建てることはしないでしょ。御自分のもとに来るようにという救い主の招きにこたえましょう。安全で堅固な基の上に人生を築きましょう。

わたしはへりくだって証します。イエス・キリストとその贖罪を生活の中心に据え、主の幸福の計画に注意深く従って毎日祈り、聖文を研究し、そして毎週聖餐を受

けるならば、わたしたちは強められます。真の成長と永続する改宗を経験します。人生の試練や苦難によりよく備えられ、耐え抜くことができるようになります。約束された喜びと幸福を得ることができます。そして、自分の人生が確固として、決して崩れることのない堅固な基の上に築かれていると自信を持つことができるようになります。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. ウィキペディア日本語版「ロマ・プリータ地震」の項参照。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/ロマ・プリータ地震>





前中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトン

わたしたちは 天父の娘です

神の娘として、状況や経験は異なっても、わたしたちがそれぞれ果たす役割は重要です。なぜなら、わたしたちが重要だからです。

毎週、世界中の若い女性が、若い女性のテーマを暗唱しています。どの言語であっても、「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています」¹という言葉を書く度に、御霊がわたしの霊にそれは真実だと教えてください。わたしたちが何者かだけでなく、だれの娘であるかを、知ることができます。わたしたちは昇栄された御方の娘なのです。

わたしはこれまで、あらゆる国や大陸で、自信に満ち、しっかりと意見が言える若い女性の皆さんに会いました。彼女たちは光に満ち、熱心な働きと試練によって洗練され、純粋で慎み深い信仰を持っています。徳高く、聖約の守り手である彼女たちは、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人に」²なります。彼女たちは自分が何者かを知っており、神の王国を築くうえで自分には大切な役割があることを知っています。

大学時代、わたしはBYUのインターナショナル・フォークダンサーの一員でした。ある夏のこと、わたしたちのグループはヨーロッパの伝道部をツアーで回るという特別な機会にあずかりました。数か月前突然に父を亡くしたばかりのわたしにとっ

ては、試練の夏でした。スコットランドに滞在中、わたしは特に落ち込んでいました。ある教会堂で踊ったその夜、演技が終わった後に、伝道本部の隣の家に向かいました。歩いている途中で、門の近くの手入れの行き届いた庭に置かれた、一つの石が目に入りました。そこに刻まれた「あなたが何者であろうとも、その役割を立派に果たしなさい」という言葉を讀んだとき、心の奥深くにしみ渡り、天の

力がわたしに及び、メッセージが与えられたと感じました。愛ある天の御父は、わたしを御存じであると知り、自分は独りぼっちではないと感じました。わたしは泣きながらその庭に立っていました。「あなたが何者であろうとも、その役割を立派に果たしなさい」というこの短い言葉によって、天の御父がわたしを御存じであり、わたしの人生に計画をお持ちであるというビジョンを新たにしました。そこで感じた御霊が、自分の役割が重要であることを理解する助けになりました。

後に、若い宣教師としてスコットランドで伝道していた預言者デビッド・O・マッケイ大管長が、かつてこの言葉に励まされていたことをわたしは知りました。伝道中、落ち込んでいた彼は、建物の石に刻まれたその言葉を見て、勇気づけられたのです。何年も経って、建物が取り壊されたとき、彼は手配してその石を手に入れ、伝道本部の庭に置いたのでした。³

神の娘として、状況や経験は異なっても、わたしたちがそれぞれ果たす役割は重要です。なぜならわたしたちが重要だからです。日々、ほかの人を養い、教え、世話をすることは、ときにありきたりで、



オーストラリア、シドニー



ないがしろにされ、困難で、さげすまれた仕事に思えることもあります。でも「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し〔ておられ〕ます」という若い女性のテーマの最初の部分を思い出すとき、わたしたちの関係や対応はまったく変わってきます。

最近、わたしの偉大な母が92歳で亡くなりました。彼女はこの世の人生を静かに生き、静かに去りました。本人が思い描いたような人生ではありませんでした。父は45歳の若さで、3人の子供であるわたしと弟2人を残して先立ちました。母は未亡人として47年間生き、昼間は学校で教え、夜はピアノを教えて家族を支え、隣に住む祖父の世話をしました。子供たち全員がきちんと大学に行けるようにしてくれました。それについては、「社会に貢献できる者」になるようにと、一歩も譲りませんでした。一度も不平不満を言いませんでした。母が聖約を守ったことによって、天の力を呼び寄せ、家庭に祝福をもたらし、奇跡を起こしました。母は祈りや神権や聖約の力に頼りました。主に仕えることに忠実でした。堅固な献身によって、わたしたち子供は強められました。母はよく、この聖句を聞かせてくれました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言う

ことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」⁴ この聖句を自分のモットーとしていた母はそれが真実であると知っていました。聖約を守る者となるという意味を理解していました。母は世に知られることはありませんでしたし、それを望んでもいませんでした。自分が何者か、だれの者かを知っていました。自分が神の娘であることを知っていたのです。まさに、母は自分の役割を立派に果たしました。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はかつて、女性や母親についてこう語りました。

「女性の力を決して忘れてはなりません。だれよりも直接的に子供の人生に影響を与える人、それは母親です。……主の方法で子供を養い育てる人、それも母親です。母親の影響力は、ほかに匹敵するものはありません。

女性は生命を創造し、子供を育て、若い女性を教えてください。女性は男性にとって不可欠の同僚であり、男性とともに神の王国を築く協力者です。女性の役割は実に大きく、その貢献はまさに驚くべきものです。」⁵

では、母親や父親は娘の心に、自分は神の娘であるという、気高く永遠の真理を、どのように植え付けることができるでしょうか。彼女たちがこの世を離れて神の王国に入れるように、どのように助ける

ことができるでしょうか。

道徳的にますます退廃する世の中で、若い女性は「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人に」なる男性と女性を必要としています。今ほどこれが重要な時代はありません。若い女性は、徳高い女性としての資質を示す母親や指導者を必要としています。母親である皆さんと娘さんとの関係、そして皆さんの模範は、何よりも重要です。皆さんが、娘の父親、彼の持つ神権や神聖な役割をどのように愛し、尊ぶかが、彼女たちの態度や行動に現れてくるでしょう。

だれもが「立派に果たす」べき役割とは何でしょうか。家族の宣言はそれを明らかにしています。

「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。……

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することに



なります。』⁶

モルモンは、彼の時代の不道德な社会で、女性たちはあらゆるものに勝って最も大切に貴いもの、すなわち純潔と徳を奪われたと嘆きました。⁷

わたしは再び、徳に立ち返るようにと、呼びかけます。徳は神の娘が持つ、強さと力です。徳とは、高い道徳的標準に基づいた思いと行いのパターンであり、純潔が含まれますが、⁸ この徳がこの社会で最高に価値あるものとして取り戻されたら、世界はどうなるでしょうか。もしも、不道德やポルノグラフィ、虐待が減少したら、結婚や人生を台無しにし、傷つく人も減るでしょうか。マスコミは、神の大切な娘たちを物として扱い、価値を下げて見る代わりに、高貴な人たちとして扱い、可能性を与えるでしょうか。もしもすべての人が、「わたしたちは天父の娘で〔す〕』という宣言の重要性を真に理解したら、女性はどうに見なされ、扱われるでしょうか。

数年前、このカンファレンスセンターの完成を間近に控え、わたしはヘルメットと

安全メガネを着けて神聖な建物のバルコニーの階に入りました。夫がじゅうたんを敷く手伝いをしており、そのじゅうたんに掃除機をかけるためです。今説教台が置かれている場所で重機が土を移動させていたため、建物内には厚い土ほこりが舞い、それが落ちてじゅうたんの上にたまってしまったのです。わたしの役目は掃除機をかけることでした。わたしは掃除機をかけて、かけて、かけ続けました。3日後、家から持って来た掃除機は壊れてしまいました。

この美しい、新しい建物で最初の総大会が開かれる前日の午後、夫から電話がありました。この歴史的な説教台の下に、じゅうたんの最後の1枚を敷くところでした。

「このじゅうたんの裏にどの聖句を書けばいいだろう」と彼が言うので、

「モーサヤ18章9節の『いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人になる』という聖句を書いて」とわたしは言いました。

極めて困難な世の中であって、これこ

そ、教会の若い女性やすべての女性が行っていることです。彼女たちは善をもたらす力です。徳高く、模範的で、知的で、働き者です。違いを生み出しています。なぜなら、彼女たちはほんとうにこの世のものとは違うからです。彼女たちは自分の使命を立派に果たしています。

何年も前に、自分の小さな役目を立派に果たそうと掃除機をかけていたとき、やがてこの説教台のじゅうたんの上に立つことになるとは思ってもありませんでした。

今日わたしは神の娘として、神が生きておられることを証します。イエスはキリストであり、わたしたちの贖い主です。主の無限の贖いの犠牲によって、わたしは主の娘として受け入れられ、聖められ、永遠の家族と結び固められて、いつの日か主とともに住むために主のもとに戻るのです。わたしは、女性、妻、そして母である特権を頂いたことについて、永遠に主を賛美します。わたしたちが神の預言者であるトーマス・S・モンソン大管長に導かれていることを証します。義にかなった男性とその神権の力によって、わたしの生活が祝福されていることに感謝しています。「役割を立派に果たす」努力を続けるときに、救い主の贖いによる、人に能力を与える力を通して強さを得られることに感謝しています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. 『若い女性 成長するわたし』, 3
2. モーサヤ18:9
3. マシュー・O・リチャードソン “‘What E’er Thou Art, Act Well Thy Part’: John Allan’s Albany Crescent Stone” *Journal of Mormon History*, 第33巻(2007年秋), 31-61; フランシス・M・ギボンズ “David O. McKay: Apostle to the World, Prophet of God” (1986年), 45 参照
4. 教義と聖約82:10
5. ゴードン・B・シンクレイ 「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 21
6. 『家族——世界への宣言』『リアホナ』2010年11月号, 129
7. モロナイ9:9 参照
8. 『若い女性 成長するわたし』70 参照



七十人
クレグ・A・カドーン長老

救い主は赦したいと望んでおられます

主は人を愛され、主が赦したいと望んでおられることを理解してほしいと願っておられます。

救い主が地上で務めを果たしておられたとき、律法学者やパリサイ人を含む大勢の人が「ガリラヤやユダヤの方々の村から、またエルサレムから」救い主に従って来ました。¹ ある中風の男性が癒しを求めて、床に乗せられて来ましたが、群衆にさえぎられて救い主に近づけませんでした。友人たちは彼を屋根の上に運び上げ、救い主の前につり下ろしました。この信仰を御覧になった主は、群衆がまだ知らないある目的をもって、こう宣言されました。「人よ、あなたの罪はゆるされた。」²

男性は驚いたに違いありません。彼の反応について聖文には何も記されていませんが、きっと自分の願いは理解されていないと思ったことでしょう。

救い主は、群衆が従って来たのは奇跡のためだということを御存じでした。主は水をぶどう酒に変え、³ 汚れた霊を追い出し、⁴ 役人の息子を癒し、⁵ 重い皮膚病の人を癒し、⁶ ペテロの義理の母を癒し、⁷ そのほか大勢の人を癒しておられました。⁸

しかしこの中風の男性の件では、主は弟子と不信者の双方に、世の救い主という御自分の特別な役割を明確に示されました。救い主のその言葉を聞いた律法学者とパリサイ人は互いに論じ始め、神以外

に罪を赦せる者はいないとして、これは冒瀆に当たると言いました。救い主は彼らの論議を見抜いてこう言われました。

「あなたがたは心の中で何を論じているのか。

あなたの罪はゆるされたと言うのと、起きて歩けと言うのと、どちらがたやすいか。」⁹

救い主は返事を待たずに、「しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威を持っていることが、あなたがたにわかるために」と言い、その病人にこうおっしゃいました。「あなたに命じる。起きよ、床を取り上げて家に帰れ。」¹⁰ そして、そのとおりにになりました!

この奇跡的な肉体の癒しを通して、人の子は罪をお赦しになるという、さらに力強く霊的な真理をわたしたちすべてに示されたのです!

その真理はすべての信者に受け入れられていますが、救い主は最後の裁きだけでなく「地上にいる間」にも罪を赦されるという肝心な真理の方はよく受け入れられていません。主は人を罪のあるままお赦しになりませんし、¹¹ 過去の罪に戻るのも認めておられません。¹² しかし、悔い改めて主の福音に従う人は赦されます。¹³

この赦しの中に、能力を受け、救出するという贖いの力が見事に調和しているの

を見ることができます。主イエス・キリストを信じる信仰を働かせるなら、能力を授ける贖いの力は助けを必要とするときにわたしたちを強め、¹⁴ 救出する力は「生まれながらの人を捨て[る]」¹⁵ ときにわたしたちを聖めてくれます。これはあらゆる人、特に失敗を繰り返して救い主の助けと救いを受けられないと感じている人に希望を与えてくれます。

ペテロが発した次の質問のおかげで、救い主がわたしたちの理解力に光を注いでくださる¹⁶ 機会が得られました。兄弟を赦すのは「七たびまでですか」とペテロは尋ねたのです。確かにそれは十分な回数でしょう。ところが、救い主の答えは、主の憐れみ深い心を理解させていただきました。「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。」¹⁷

主は人を愛され、主が赦したいと望んで





おられることを理解してほしいと願っておられます。教義と聖約の中で、主は20回以上も「あなたの罪は赦された」または、同様の言葉を言っておられます。¹⁸ そのうち約半分は、主が特に預言者ジョセフ・スミス、またはジョセフとともにいた人に語られた言葉です。¹⁹ それが初めて記録されたのは1830年で、最後に記録されたのは1843年です。このように、数年にわたって主はジョセフに「あなたの罪は赦された」と言い続けられました。

ジョセフは「大きな罪、すなわち憎むべき罪」²⁰を犯しませんでした。わずかな例外はあるにせよ、主の意味する「七〔の〕七十倍」とは深刻な罪にも適応されるということを感じておくべきです。

主はカートランドに集まった長老たちに言われました。「わたしはあなたがたが世に打ち勝つように望んでいるので、あなたがたを哀れもう。」²¹ 主は人の弱さと、「世」が不完全な人間に与える永遠の結果を御存じです。²² この節の「ので」という言葉は、主の憐れみによってのみ最終的に「世に打ち勝つ」ことができることを確認しています。その憐れみはどのように

現れるでしょうか。カートランドの長老たちに主はこう言われました。「わたしはあなたがたの罪を赦した。」²³ 救い主は、赦すことを望んでおられるのです。

悔い改めなしに赦しをもたらされることはありません。「主なるわたしは、わたしの前に自分の罪を告白して赦しを求める者たち」を赦すと主は宣言し、さらに「死に至る罪を犯していない者たちについては罪を赦す」²⁴と付け加えられました。主は「ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはしない」²⁵ものの、罪の重さを区別されます。「聖霊に対する冒瀆」は赦されないと明言されています。²⁶ 殺人の重さを宣言し、²⁷ 姦淫などの性的な罪の深刻さも明言しておられます。²⁸ 深刻な性的な罪を繰り返すと、赦されることがより困難になると教えられています。²⁹ 「いっそう大なる光に対して罪を犯す者は、いっそう大きな罪の宣告を受ける」³⁰と教えられています。それでも憐れみ深い主は、改善には時間がかかることを御存じで、即座に完全になるようには求められません。死すべき人間の弱さゆえに多くの罪を犯しても、悔い改めて赦しを求める

度に主は赦してくださいませ。³¹

薬物乱用やポルノグラフィーなどの常習癖を克服しようとしている人やその周囲の人、そしてすべての人は、わたしたちの義にかなった努力を主が御存じであり、悔い改めを完了したときに「七たび〔の〕七十倍」優しく赦してくださいませを知ることができます。だからといって、故意に罪に戻っても罰せられないというわけではありません。³²

主は常に人の心に関心を持っておられます。³³ 誤った信仰で自分を正当化しても罪は正当化されません。³⁴ この神権時代に主は正当化についてある僕にこう警告されました。「〔彼〕は、ニコライ派と彼らのすべての秘密の忌まわしい行いと、わたしの前における自分の浅ましさをすべて恥じなさい。」³⁵ ニコライ派とは、性的な罪を犯しても主の恵みにより赦されると主張する古代の宗派でした。³⁶ 主はそれを喜ばれません。³⁷ 「心〔が〕満足〔していないときや、〕真理に従わない〔とき〕、不義を喜んでいる」³⁸ ときに、主の憐れみと恵みは及びません。むしろ、わたしたちが最善を尽くした後、³⁹ 「時がたつて」⁴⁰ 神の憐れみと恵みにより、能力を授ける贖いの力を通して、世に打ち勝つことができるのです。この尊い賜物を謙遜に求めることにより、「弱さ〔は〕強さに変」⁴¹ わります。そして主の力により、わたしたちは独りでは到底できないことができるようになるのです。

主はわたしたちが受けた光⁴² や、わたしたちの心の望み⁴³ や行い⁴⁴ を御覧になり、わたしたちが悔い改めて主の赦しを乞うときに赦してくださいませ。わたしたちは自分自身や、愛する人や知人のことを思うときに、自分自身やほかの人を同じように進んで赦すべきです。⁴⁵

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』には、常習癖を克服することの難しさが記されていて、求道者や新会員がそのような問題をすぐに克服できなくても「ショックを受けたり、落胆したりしては」ならない

と、神権指導者や会員に教えています。むしろ、「信頼を示すべきであって、……裁くようなことをしてはなりません。理解できる一時的な後退であると考えてください。」⁴⁶では、同様の問題を抱え、一時的に義の道からそれてしまっている子供や家族についてはどうでしょうか。もちろん彼らもわたしたちの揺るぎない姿勢と忍耐、愛、そして赦しを受けるに値します。昨年10月の総大会でモンソン大管長はこう勧告されました。

「人は変われるということをお忘れはいけません。悪い習慣を捨て去り、罪を悔い改めることができます。……

〔わたしたちは〕彼らが弱点を乗り越えられるよう助けること〔ができます〕。現在の姿を見るのではなく、将来……の姿を見る力を養わなくてはなりません。」⁴⁷

この大会と同じような、教会の初期の大会で、主は会員にこう語られました。

「まことに、あなたがたに言う。あなたがたは清いが、すべての者が清いわけではない。……

すべての肉なるものはわたしの前に墮落している。

……まことにあなたがたのある者はわたしの前に罪悪があるが、それでもわたしは、あなたがたの弱さを憐れもう。」⁴⁸

主のメッセージは今日も変わりません。罪を犯して「神の栄光を受けられなくな〔る〕」⁴⁹という経験を、すべての人が何度も繰り返していることをわたしたちの天の御父は御存じです。御父は御子を、「人の弱さを知っており、誘惑を受ける者たちを助ける方法を」⁵⁰御存じである御子を送ってくださいました。御子は「誘惑に陥らないように常に祈〔る〕」⁵¹よう教えておられます。わたしたちは「神に憐れみを呼び求めなさい。なぜなら、神は人を救う力を備えておられるからである」⁵²と教えられています。主は人に、悔い改めて、⁵³ 赦す⁵⁴よう命じておられます。悔い改めは容易ではありませんが、心を尽くして主の福音に従おうとすれば、

主はこう約束してくださっています。「まことに、わたしはあなたがたに言う。〔あなた〕が罪を犯したにもかかわらず、わたしの心は、〔あなた〕に対する哀れみに満たされている。わたしは〔あなた〕をことごとく捨ててしまうことはせず、激しい怒りの日に憐れみを思い起こそう。」⁵⁵ 救い主は赦したいと望んでおられるのです。

毎週放送されるモルモンタバナクル合唱団の番組は、ウィリアム・W・フェルプス作詞の有名な賛美歌「賛歌を捧げん」の歌詞で始まります。この曲の4番の歌詞はそれほどなじみがありませんが、慰めを与えてくれます。

尊き聖き主
は栄えのみ言葉
罪ある者をも
悔い改めて、生活すれば
主は赦したもう⁵⁶

主の言葉を覚え、信じ、悔い改めを生じる信仰を働かせるようにお勧めします。⁵⁷ 主はあなたを愛し、赦したいと望んでおられます。イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。■

注

1. ルカ 5:17。マルコ 2:2 も参照
2. ルカ 5:20。マタイ 9:2；マルコ 2:5 も参照
3. ヨハネ 2:1-11 参照
4. マルコ 1:21-28；ルカ 4:33-37 参照
5. ヨハネ 4:46-54 参照
6. マタイ 8:1-4；マルコ 1:40-45；ルカ 5:12-15 参照
7. マタイ 8:14-15；マルコ 1:29-31；ルカ 4:38-39 参照
8. マタイ 8:16-17；マルコ 1:32-34；ルカ 4:40-41 参照
9. ルカ 5:22-23。マタイ 9:3-5；マルコ 2:6-9 も参照
10. ルカ 5:24。強調付加。マタイ 9:6-7；マルコ 2:10-12 も参照
11. 1コリント 6:9-10；アルマ 11:34, 37；ヒラマン 5:10-11 参照
12. 2ペテロ 2:20；ヤコブの手紙 2:10；教義と聖約 82:7 参照
13. イザヤ 1:18；エレミヤ 31:34；ルカ 7:36-50；エノス 1:5；アルマ 24:10；モロナイ 6:8；教義と聖約 1:32:58:42-43 参照
14. モルモン書ヤコブ 4:7；アルマ 14:26；モロナイ 10:7 参照
15. モーサヤ 3:19。2ニーファイ 10:24-25 も参照
16. アルマ 32:28, 34 参照
17. マタイ 18:21-22, 強調付加。ルカ 17:1-4 も参照
18. 教義と聖約 20:5-7:25:3:29:3:31:5:36:1:50:36:60:6-7:61:2:62:3:64:1-4, 5-7, 15-17:75:6-8:82:1:84:60-61:90:1, 6:108:1:110:5:112:3:124:74-76, 78:132:50 参照
19. 教義と聖約 20:5-7:29:3:60:6-7:61:2:62:3:64:5-7:84:60-61:90:



- 1:110:5:132:50 参照
20. ジョセフ・スミス—歴史 1:28
 21. 教義と聖約 64:2, 強調付加
 22. 1ニーファイ 20:9-11; 教義と聖約 24:2; 50:41; 63:47; 108:1-8 参照
 23. 教義と聖約 64:3
 24. 教義と聖約 64:7
 25. 教義と聖約 1:31. 32-33 節, アルマ 45:16 も参照
 26. 教義と聖約 132:27. マタイ 12:31; ルカ 12:10 も参照
 27. 出エジプト 20:13; モーサヤ 13:21; 教義と聖約 132:19; モーセ 5:31-36 参照
 28. アルマ 39:5; 教義と聖約 42:24-26 参照
 29. 教義と聖約 42:22-26, 75-78, 80-82; 63:13-17; 76:103 参照
 30. 教義と聖約 82:3. ヨハネ 15:22 も参照
 31. モロナイ 6:8 参照
 32. モーサヤ 15:26 参照
 33. サムエル上 16:7; 詩篇 24:3-4; 箴言 23:7; マタイ 15:18-20; マルコ 7:20-23; ヘブル 3:12; 3ニーファイ 12:19; 教義と聖約 59:8; 64:34 参照
 34. 教義と聖約 20:29-30; 121:37 参照
 35. 教義と聖約 117:11
 36. Bible Dictionary, "Nicolaitans" の項参照
 37. 黙示 2:6, 15 参照
 38. 教義と聖約 56:15
 39. 2ニーファイ 25:23; 教義と聖約 138:4 参照
 40. モーセ 7:21
 41. エテル 12:27
 42. ヨハネ 15:22; 教義と聖約 1:33; 82:3 参照
 43. アルマ 41:5-6; 3ニーファイ 9:20; 教義と聖約 137:9 参照
 44. 1ニーファイ 15:33; アルマ 41:3-4; 教義と聖約 137:9 参照
 45. マタイ 6:14-15; 教義と聖約 64:8-10; 98:39-48 参照
 46. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』189
 47. トーマス・S・モンソン「人が将来なり得る姿を見る」『リアホナ』2012年11月号, 68, 69, 強調付加
 48. 教義と聖約 38:10-11, 14, 強調付加
 49. ローマ 3:23
 50. 教義と聖約 62:1. アルマ 7:12 も参照
 51. 教義と聖約 61:39, 強調付加
 52. アルマ 34:18, 強調付加. 2ニーファイ 31:19; アルマ 7:14 も参照
 53. ヒラマン 13:11, 教義と聖約 19:4, 13-21 参照
 54. 教義と聖約 64:8-10 参照
 55. 教義と聖約 101:9, 強調付加. 教義と聖約 82:1-7 も参照
 56. 『賛歌を捧げん』『賛美歌』84 番
 57. アルマ 34:15-17 参照



十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老

「これがわたしの業であり、わたしの栄光である」

神は神の神権を受け入れ尊ぶ人々に、惜しみなく神の力をお与えになっています。神権は不死不滅と永遠の命という約束された祝福に導くものです。

パッカー会長、わたしたちは皆、そのすばらしい詩の98歳版を心待ちにしています。会長は、何とすばらしい教えを授けてくれたことでしょうか。

数週間前の暗く寒い冬の夜のことでした。妻のバーバラとわたしは畏敬の念をもって空を見上げました。無数の星が格別に美しく輝いていました。そこでわたしは高価な真珠を開き、主なる神がモーセに語られたことを、驚嘆の念を抱きつつ読み返しました。「無数の世界を、わたしは創造した。また、わたし自身に目的があってこれらを創造した。子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。」(モーセ 1:33)

今日、ハッブル宇宙望遠鏡によりモーセが見たものの重要性が確認されました。ハッブルの科学者たちによると、地球と太陽はこの銀河系のごく一部であり、この銀河系ですらそれと似たような2,000億を超える銀河の一つにすぎないとのことです。神の被造物はあまりにも広大なので、わたしには理解し難く、考えの及ばないものです。

兄弟姉妹の皆さん、天地はこれまでも

今も、神権の力によって創造されています。この神権の力の源は全能の神と御子イエスキリストであられることをわたしたち教会員は知っています。神権は天地を創造した力であるばかりでなく、救い主が地上で教え導く中でお使いになった力でもあります。奇跡を行い、病人を祝福し、癒し、死者をよみがらせ、またわたしたちの御父の独り子として、ゲツセマネとカルバリの堪え難い苦痛に堪えるためにお使いになった力です。こうして救い主は憐れみをもって正義の律法を成就し、無限の贖罪を成し遂げ、復活を通して肉体の死を克服されたのです。

救い主がペテロ、ヤコブ、ヨハネをはじめほかの使徒たちにお与えになったのは、この神権の権能とその権能による力の鍵です。人々を祝福し、地上でつなぐことは何でも天でつながれるためです。

神権の力は神聖で欠くことのできない神の賜物です。神権の力は神権の権能とは異なります。神権の権能とは神の御名により行動することを承認するものです。そのような承認または聖任は按手により与えられます。神権の力は、それを行使する人がふさわしく、神の御心に従って行動



するときのみ与えられます。スペンサー・W・キンボール大管長はこう宣言しています。「主は神権者であるわたしたちすべてに、その権能の幾分かを与えてくださいました。しかし、わたしたちが天の力を呼び求めることができるのは、わたしたち一人一人が義にかなった生活をしているときだけです。」(「少年たちは身近に英雄を必要としている」『聖徒の道』1976年8月号、358)

現代の世に福音が回復され、イエス・キリストの教会が再建されましたが、そのようなすばらしい時期にバプテスマのヨハネをはじめ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、そしてモーセとエライアス、エリヤが地上を訪れ、この末日における神の業のために、預言者ジョセフ・スミスを通して神権のすべての鍵と権能を回復しました。

まさしくこれらの鍵、この権能、この力によって、今日イエス・キリストの教会が組織されています。この教会は、キリストが頭かしらとなって生ける預言者トーマス・S・モンソンを導いておられ、正しく召され聖任された使徒たちによって支えられています。

人に神権の力を与える天の御父の偉大な計画の中では、男性は神権をつかさどるたぐいえない責任を負いますが、男性だけが神権の業に携わるわけではありません。男女には異なる役割がありますが、両方も等しく貴重な役割です。女性は男性なくして、子供をもうけることができないように、男性は女性なくして、永遠の家族を築くために神権の力を十分に行使することはできません。つまり、永遠の観点から見ると、子供をもうける力も神権の力も夫婦が分かち合うものです。夫婦として男女は天の御父に従う努力をするべきです。夫婦が生活の中で、また家族のために神権の祝福を求めるときには、愛、謙遜、忍耐というキリスト教徒にふさわしい特質に焦点を当てるべきです。

御父のすべての息子、娘たちが神権の力の祝福にあずかり、その力によって強められる方法を天の御父は備えてくださっていることを理解するのはきわめて重要です。神の霊の子供たちのために作られた神の計画の中心は、神御自身が宣言された次の言葉にあります。「人の不死不

滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ1:39)

教義と聖約第81章に記されている預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は神権の力を使うべき目的について、こう説明しておられます。「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強めなさい。」(教義と聖約81:5)

「これらのことを行うことによって、あなたは同胞に最も大いなる善を行い、またあなたの主である者の栄光を増すであろう。」(教義と聖約81:4)

弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強めるという比喩的表現について考えると、あるかわいい7歳になる女の子が2年生の学習課題の一部として種まきをして育て始めた小さなトマトの苗を祖父に見せた話を思い出します。

その子は、一粒の小さな種がトマトの苗に生長し、そして、もし世話をすれば、たくさんのトマトがなり、それぞれの実からたくさんの種ができると説明しました。

彼女はこう言ったのです。「この種を

みんな育てると、もっとたくさんトマトができるわ。そうやってまた種を育てると、時期が来れば、すぐたくさんトマトができるのよ。」

女の子は驚きをもって言いました。「みんな、一つの小さな種からできるのよ。」

ところが、それからこう言ったのです。「もうちょっとで枯らしてしまうところだったの。暗い部屋に置いたままで、水を上げるのを忘れちゃったから。トマトのことを思い出したときには、しおれちゃって、枯れたみたいだった。すごくたくさんトマトができるはずだったのに、もう無理かと思って、泣いちゃった。」

それから起きた「奇跡」について、女の子は胸を弾ませながら祖父に話しました。

こう説明したのです。「ママがこう言ったの。もしかしたら、トマトはまだ枯れていないかもしれない。水を上げて日に当てれば、また元気になるかもしれないって。」

「そのとおりだったの。トマトに水を上げて、日に当たるように窓辺に置いたの。どうなったと思う？」と彼女は尋ねました。「生き返ったのよ。これからすごくたくさんトマトができるわ。」

彼女の小さなトマトの苗には、実をつける力が十分にありましたが、うっかり世話を怠ったために、元気がなくなってしおれてしまいました。しかし、思いやりのある優しい女の子の手によって、ただ水と光を与えられただけで、強められ生き返ったのです。

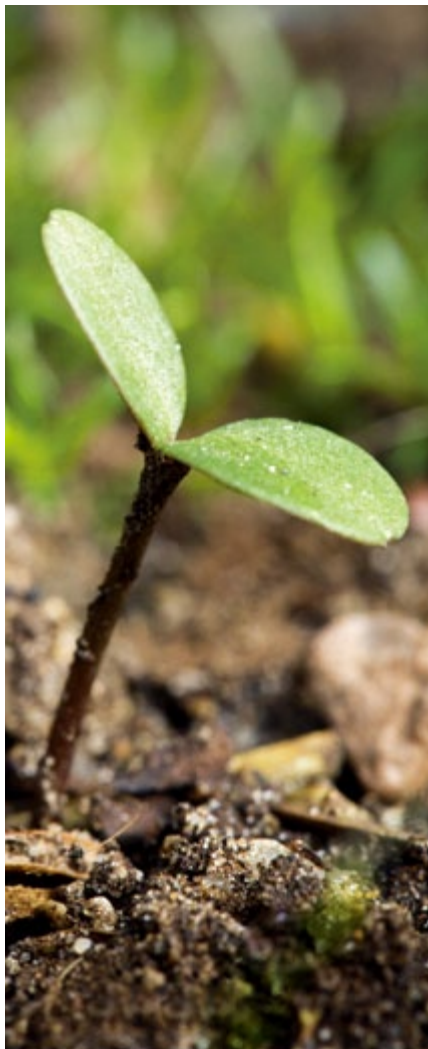
兄弟姉妹の皆さん、愛に満ちた天の御父の文字どおり霊の子供であるわたしたちは、神の子として無限の可能性を秘めています。しかし、うっかりしていると、しおれたトマトのようになることがあります。神の光、救い主の永遠の愛にあふれた生ける水、そして神権の力から遠のくと、真の教義とイエス・キリストの福音から離れ、霊的な栄養不足になって、しおれてしまうことがあります。

神権を持っていても、家族やほかの人々に奉仕することにより絶えず神権を

尊んでいない人は、神権の力に固有の祝福を受けることのない人のようになり、必ず霊的にしおれてしまいます。生活の中でなくてはならない霊的な栄養や光、神の力を受けることがないからです。それはちょうど、生長する可能性を十分に持ちながらも、世話されずにしおれてしまったトマトのようなものです。

世界や銀河、宇宙を創造したのと同じ神権の力が、わたしたちの生活の一部となる可能性がありますし、またそうなるはずです。それは家族や友人、隣人を助け、強め、祝福するためです。つまり、救い主が今日地上でわたしたちを教導いておられるとしたら、なさるであろうことをするためなのです。

また、この神権の力のおもな目的は、わたしたちを祝福し、聖別し、清めること



です。それにより永遠の御父である神のみもとで、神権の結び固めを受けた家族とともに生活し、永遠に広がる御二方の光と栄光の中で、神とイエス・キリストのすばらしい業に携わることができるようになるためです。

この目的を達成するために、数か月前に世界指導者訓練プレゼンテーションビデオの制作に加わる機会がありました。「神権を通して家族と教会を強める」というタイトルのDVDです。

新しい技術を活用したこの教育用DVDは66か国語に翻訳されており、神権の力がいかにわたしたちの生活やわたしたちの家族生活、そしてすべての教会員の生活に祝福と活力を与え、再活性化させられるのかを教えています。

また、男性も女性も子供も、既婚者も独身者も夫に先立たれた人も、また置かれた状況がどうであれ、わたしたちすべてがどのように神権の祝福にあずかれるかを示しています。8分から12分にわたる幾つかのビデオセグメントから成り、神権の鍵と権能と力について、また神権が個人や家族、教会をいかに強めるかを説明しています。

母方の曾祖母メアリー・フィールディング・スミスの開拓者時代に過ごした非常に小さな家で、特別な一場面が撮影されました。彼女の亡き夫ハイラムは預言者ジョセフの兄です。彼女はひとり親の役割を果たすために、神権に対する強い信仰により、神権の力を求め、その力に頼り、愛と福音の光の中で子供たちを育て、祝福しました。今日、彼女の子孫である何千人もの忠実な指導者や教会員が彼女の信仰と勇気、模範に感謝しています。

この新しい指導者訓練は現在、インターネットのLDS.org上でだれでも見て、活用することができます(www.lds.org)。LDS.orgでそのまま視聴することもできますし、自分のコンピューターやスマートフォン、タブレットにダウンロードすることもできます。



大管長会は「ステーク会長とビショップブリックに、ステークまたはワード評議会の集会でこのDVDを〔すべて〕見る機会を複数回持つように、また提示された教えを実行する方法についてステークやワードの評議会でも話し合うべきである」と求めています（大管長会の手紙、2013年2月1日付参照）。

このDVDの内容は、神権定員会、扶助協会、日曜学校、若い男性、若い女性、特に伝道の準備をしている人々、初等協会や第5週の合同集会の出席者に靈感を与え、鼓舞することでしょう。そして評議会を構成する会員はこのDVDを家族で使うように個人や両親に勧めることができるでしょう。兄弟姉妹の皆さん、この指導者訓練は教会員一人一人のためのものです。両親の皆さん、自分が学び感じたことを子供たちと一緒に考え、伝え、話し合ってください。また神権を通して家族が強められるように、子供たちがこのDVDを見て、皆さんと同じことをするようにしてください。

イエスはこう言われました。

「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。」（ヨハネ7:37）

「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」（ヨハネ4:14）

「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は……命の光をもつであろう。」（ヨハネ8:12）

皆さんの中に、天の御父の計画^{あかし}についての自分の信仰や証が、そうあるべきだと思うよりも少ないと感じている人がいるなら、救い主にもっと心を向けてください。少しの水と光によってしおれかけたトマトが生き返ったように、主の光と主の生ける水によって自分や家族が生き返るようにしてください。

さて、冒頭で、神権の力によって神が創造された被造物に驚異と畏敬の念を抱いたと述べました。わたしも、そしてほとんどの皆さんもそうだと思いますが、わたしたちを教え祝福する神の力は、とうてい十分に理解されていないのではないで

しょうか。それはあまりにも偉大で、雄大で、力強いものです。

ジョセフ・スミスはこう述べています。「神権は永遠の原則であり、日の初めもなく年の終わりもなく、これまでもこれからも神とともに永遠から永遠にわたって存在するものです。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』104）

神は神の神権を受け入れ尊ぶ人々に、惜しみなく神の力をお与えになっています。神権は不死不滅と永遠の命という約束された祝福に導くものです。

イエス・キリストの業は神権を通して成し遂げられることを証します。神権の力によって、天の御父と神の愛する御子はこの地球を創造し、わたしたちの利益のために偉大な幸福の計画を始められました。わたしたちが賢明であって、自分自身の生活、わたしたちの家族の生活、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が神の神権の力によって強められるよう絶えず求めることができますように、イエス・キリストの御名により、へりくだりお祈りします、アーメン。



は恐れ、不思議に思いながら、主の死と主が復活されたという知らせが自分たちにとってどのような意味を持つのか話し合っていました。

その日の午後、二人の弟子がエルサレムからエマオに向かう道を歩いていました。その途中で復活されたキリストが御姿を現し、一緒に歩いて行かれました。主が彼らのところに来られたのです。

ルカ書のおかげで、わたしたちは彼らとともに歩いて行くことができます。

「語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。

しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。

イエスは彼らに言われた、『歩きながら互に語り合っているその話は、なんの事なのか。』彼らは悲しそうな顔をして立ちどまった。

そのひとりのクレオパという者が、答えて言った、『あなたはエルサレムに泊まっていながら、あなただけが、この都でこのごろ起ったことをご存じないのですか。』⁶

彼らは、イエスがイスラエルの贖い主であるようにと望みをかけていたのに亡くなってしまったことへの悲しみについて、主に話しました。

よみがえられた主は、悲しみ嘆いているこの二人の弟子に語りかけられたとき、愛情を込めて語られたに違いありません。

「そこでイエスが言われた、『ああ、愚かで心のぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか。』

こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。』⁷

そして、幼いとき以来わたしの心を温めてくれたあの瞬間が訪れます。

「それから、彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行



かれる様子であった。

そこで、しいて引き止めて言った、『わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮になっており、日もはや傾いています。』イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた。』⁸

救い主はその夜、招きに応じて、エマオの村に近い弟子の家にお入りになりました。

主は彼らとともに食卓に着かれました。そして、パンを取り、祝福して裂き、それを彼らに渡されました。そのときに彼らは目が開けて、主のことが分かりました。すると、主の御姿が見えなくなりました。ルカはその恵まれた弟子たちの気持ちをわたしたちのために記しています。「彼らは互に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明して下さったとき、お互の心が内に燃えたではないか。』」⁹

すぐに、二人の弟子は急いでエルサレムに引き返し、自分たちに起きたことを11人の使徒に告げました。すると、救い主が再び御姿を現されました。

救い主は、御父のすべての子供の罪を贖い、また死の縄目を断つという、主の使命に関する預言についても一度説かれ

ました。

イエスは「言われた、『こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

あなたがたは、これらの事の証人である。』¹⁰

救い主の御言葉は当時の弟子たちと同様に、わたしたちにも当てはまるものです。わたしたちはこれらのことの証人です。わたしたちがバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったときに引き受けた栄誉ある責任については、預言者アルマが何世紀も前にモルモンの泉で明らかにしています。

「そして、アルマは言った。『見よ、ここにモルモンの泉がある。(この泉はこのように呼ばれていた。)あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖わ



れ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望んでいる。

まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあろうか。』

人々はこの言葉を聞くと手をたたいて喜び、『それこそわたしたちが心から望んでいることです』と叫んだ。』¹¹

わたしたちは、助けの必要な人を助け励ますこと、また、生きているかぎり救い主の証人となることについて聖約を交わしています。

わたしたちは、救い主への愛と救い主からの愛を感じる時にのみ、これらの約束を確実に守ります。わたしたちは交わした約束に忠実であるとき、主への愛を感じます。その愛は増すでしょう。なぜなら、奉仕するときに、主の力と、主が近づいてくださることを、感じるからです。

トーマス・S・モンソン大管長は、忠実な弟子に対する主の約束をよく思い出させてくれます。「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御

霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲について、あなたがたを支えるであろう。』¹²

わたしたちはもう一つの機会に主が近づいてくださるのを感じてきました。主に献身的に仕えるとき、主がわたしたちの愛する家族に近づいてくださるのです。わたしは主の奉仕の業に召されて転居したり、家族と離れたりする度に、主が妻と子供たちを祝福してくださるのを目にしました。主は御自身の愛する僕たちを備え、わたしの家族を御自身に近づける機会を用意されました。

皆さんは生活の中でその祝福を感じてきました。皆さんの中には、愛する人が永遠の命に至る道から迷い出ている人が多くいます。彼らを連れ戻すためにもっと何ができるだろうかと皆さんは考えます。信仰をもって主に仕えるなら、皆さんは、彼らに近づいてくださるようと主に頼ることができるのです。

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが主の用向きを受けて家族から離れていたときに主が彼らに約束されたことを、皆さんは覚えています。「友である……シドニーとジョセフ……。あなたがたの家族は健在である。彼らはわたしの手の内にあり、わたしは自分のよいと思うままに彼らに行く。わたしには一切の権威があるからである。』¹³

アルマやモーサヤ王のように、忠実な親として、長い間よく奉仕をし、主のために犠牲を払ってきたにもかかわらず、子供が道を迷い出ている人もいます。彼らはで

きることをすべて行い、愛情深い誠実な友人たちの助けも借りたものの明らかな変化は見られませんでした。

アルマと当時の聖徒たちはアルマとモーサヤ王の息子たちのために祈りました。すると、天使が訪れました。皆さんの祈りと、信仰を働かせる人々の祈りによって、皆さんの家族を助ける主の僕たちが訪れるでしょう。家族がサタンとその手下の攻撃を受けているときにも、主の僕たちは、彼らが神のみもとへ帰る道を選べるように助けるでしょう。サタンとその手下の目的は、現世でも永遠の世でも家族を壊すことなのです。

皆さんは、アルマとモーサヤの息子たちが反抗していたときに天使から告げられた次の言葉を覚えています。「天使はまた言った。『見よ、主は、御自分の民の祈りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもってあなたのことを祈ってきたからである。したがって、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるためである。』¹⁴

主に祈り、仕えている皆さんが自分自身と家族のために願うすべての祝福を受けると約束することは、わたしにはできません。しかし、救い主が皆さんに近づき、最善のものを皆さんと家族に祝福として与えてくださると約束することができます。皆さんが手を差し伸べて人に奉仕をするときに、皆さんは主の愛に満ちた慰めを受け、祈りの答えとして主が近づいてくださるのを感じるでしょう。皆さんが助けの必要な人の傷に包帯を巻き、罪を悲しむ人に主の贖罪の清めを受けるよう勧めるとき、主の力が皆さんを支えてくれます。主の御手が皆さんの手とともに差し伸べられ、皆さんの家族も含め、天の御父の子供たちを助け、祝福してくださるでしょう。

わたしたちには、故郷への榮譽ある帰還



アメリカ合衆国、カリフォルニア州ロサンゼルス

が備えられています。そのときに、わたしたちがそれまでずっと愛してきた主の約束が成就するのを目にするでしょう。わたしたちは主に迎えられ、主と天の御父とともに永遠の命にあずかるのです。イエス・キリストはそのことをこう述べておられます。

「わたしのシオンを起こして確立するように努めなさい。すべてのことについてわたしの戒めを守りなさい。

わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大なるものである。」¹⁵

「生きている者は地を受け継ぎ、死ぬ者はその労苦をすべて解かれて休み、彼らの業は彼らについて行くからである。そして、彼らは、わたしが彼らのために用意した父の住まいで冠を受けるであろう。」¹⁶

わたしは証します。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」¹⁷という天の御父の招きに、わたしたちは御霊によって従うことができます。

キリストは御言葉と模範によって、主に近づく方法を示してくださいました。パプ

テスマの門を通して主の教会に入ることを選んだ天の御父の子供は皆、現世で主の福音を教わり、「わたしのもとにきなさい」¹⁸という主の招きを、主の召された僕たちから聞く機会があります。

地上の主の王国および霊界にいる、主と聖約を交わした僕は皆、主に代わって人々を祝福し、人々に仕えるときに、御霊によって主の指示を受けるでしょう。そして彼らは主の愛を感じ、主に近づく喜びを見いだすでしょう。

わたしは、エマオへの途上の家であったかも二人の弟子と一緒に夕べを過ごしたかのように、確かに主の復活を証することができます。パルマイラの森で輝かしい朝の光の中で御父と御子にまみえたジョセフ・スミスと同じように確かに、わたしは主が生きておられることを知っています。

この教会はイエス・キリストのまことの教会です。トーマス・S・モンソン大管長が保持している神権の鍵かぎのみに、家族を結び固め、天の御父と主イエス・キリストとともに永遠に住まわせる力があるのです。わたしたちは裁きの日に、救い主の御前

に顔と顔を合わせて立ちます。それは現世で主に仕えて主に近づいた者にとって喜びの時です。次の御言葉を聞いて喜びを感じることでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。」¹⁹ わたしはこのことを、よみがえられた救い主、贖い主の証人として、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 88 : 63
2. 教義と聖約 6 : 20
3. 「主よ、われと共に」『賛美歌』94 番
4. ルカ 24 : 5 - 7
5. マルコ 16 : 7
6. ルカ 24 : 15 - 18
7. ルカ 24 : 25 - 27
8. ルカ 24 : 28 - 29
9. ルカ 24 : 32
10. ルカ 24 : 46 - 48
11. モーサヤ 18 : 8 - 11
12. 教義と聖約 84 : 88
13. 教義と聖約 100 : 1
14. モーサヤ 27 : 14
15. 教義と聖約 14 : 6 - 7
16. 教義と聖約 59 : 2
17. ジョセフ・スミス—歴史 1 : 17
18. マタイ 11 : 28
19. マタイ 25 : 21



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ワークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・バックカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・バックカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、

ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会顧問と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちはウォルター・F・ゴンサレス長老を七十人会長会の会員から解任しました。

わたしたちとともに感謝を示してくださいの方は、その意を表してください。

また、ウリセス・ソアレス長老を七十人会長会の会員として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちは次の方々を、2013年5月1日をもって地域七十人から解任するよう提議します。ルーベン・V・アレオー、セリオ・M・アナヤ、ノーラン・D・アーチボルト、カルロス・L・アストルガ、エクター・アビラ、M・アンソニー・バーンズ、デビッド・カブレラ、ミルトン・カマルゴ、ロバート・E・チェンバーズ、^{チェンカーケン}陳家庚・ビクター、^{チンクオ・チャン}仲國強、ネルソン・D・コルドバ、ゲリー・L・クリッテンデン、エドワード・デュベ、マシュー・J・アイリング、シオネ・M・フィネアングノフォ、アルフレッド・L・ジェザティ、ジェームズ・B・ギブソン、ヨベンシオ・A・グアンソン、マリオ・E・ゲーラ、ルイス・S・エルナンデス、ヘルナン・I・ヘレーラ、ハビエル・イバニェス、パウロ・H・イティノゼ、ダグラス・W・ジェソップ、ステイブ・C・カー、ジョニ・L・コッホ、ファウステイノ・ロベス、リチャード・K・メルチン、フリーボディー・A・メンサ、ベンソン・E・ミサルチャ、アベラルド・モラレス、W・T・デビッド・マレー、K・ブレット・ナトレス、S・ギフォード・ニールセン、西原里志、マイケル・D・ピッカード、ウィリアム・F・レイノルズ、マイケル・A・ロバーツ、フェルナンド・A・R・ダ・ロカ、マンフレッド・シュツツェ、テレンス・C・スミス、ルーベン・L・スピタレ、ジョシュア・スバンドリオ、フランク・V・トライソル、ミゲル・R・バルデス、アルヌルフォ・バレンスエラ、カルロス・A・C・ピラノバ、テレンス・M・ピンソン、ルイス・ウィールドマン、リチャード・C・ザンプラノ。

彼らのすばらしい奉仕に、ともに感謝を示してくださいの方は手を挙げてその意を表してください。

わたしたちは、中央若い女性会長の





イレイン・S・ダルトン姉妹, メアリー・N・クック姉妹, アン・M・ディブ姉妹を心からの感謝をもって解任するよう提議いたします。

それに伴って若い女性中央管理会の会員の姉妹たちを解任いたします。

これらの姉妹たちの特筆すべき奉仕と献身に感謝して下さる方は、その意を表してください。

わたしたちは、新たに七十人第一定員会の会員として、以下の方々を支持するよう提議いたします。エドワード・デュベ, S・ギフォード・ニールセン, アルヌルフ・パレンスエラ。また、新たに七十人第二定員会の会員として、以下の方々を支持するよう提議いたします。ティモシー・J・ダイクス, ランディー・D・ファンク, ケビン・S・ハミルトン, アドリアン・オチョア, テレンス・M・ビンソン。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方は、同様にその意を表してください。

七十人第二定員会の会員としての召しを考慮して、わたしたちはアドリアン・オチョア兄弟を中央若い男性会長会の第二顧問としての召しから解任します。

感謝を示して下さる方は手を挙げてその意を表してください。

わたしたちは次の方々を新しい地域

七十人として支持するよう提議します。ルーベン・アコスタ, フレデリック・O・アキンボ, オマール・A・アルバレス, セルジオ・アントゥネス, アラン・C・バット, グラント・C・ベネット, フェルナンド・E・カルデロン, ウィルソン・B・カルデロン, H・マルセロ・カルダス, 陳鈺生 (フレディー), クリストファー・チャールズ, バレーリ・V・コードン, ポール・R・コワード, M・T・ベン・デービス, マッシモ・デ・フェオ, マリオン・B・デ・アントゥニャーノ, フランシスコ・J・ルイス・デ・メンドーサ, ロバート・A・ドゥライデン, ロバート・J・ダドフィールド, ダニエル・F・ダニガン, ジェフリー・D・エルクソン, E・サビエル・エスピノーサ, メリウラ・M・ファタ, サム・M・ガルベス, クロード・R・ガミエッテ, メルビン・C・ギディー, ジャオ・R・グラール, デビッド・P・ホマー, ダニエル・W・ジョーンズ, ジョン・A・コランテン, スティーブン・O・レイン, アクセル・H・ライマー, グスタボ・ロベス, ホセ・E・マラビラ, アルフレド・ミロン, ウーゴ・モントヤ, ジョアキム・J・モレイラ, 大田原勝幸, ホセ・C・ピネダ, ゲーリー・S・ブライス, ミゲル・A・レイエス, ゲーリー・B・サビン, アルフレド・L・サラス, ネサワルコヨトル・サリナス, シロ・シュマイル, D・ザッカーリー・スミス, マイケル・L・

サウスワード, G・ローレンス・スパックマン, バーン・P・スタンフィル, ウィリアム・H・ストッダード, スティーブン・E・トンブソン, ジョージ・J・トバイアス, アイサケ・K・トゥックアフ, ジャック・A・バンリーネン, ラウル・E・ビセンシオ, ラウル・S・ピラヌエバ, アラン・R・ウォーカー, キース・P・ウォーカー, 胡開盛・レナード。賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、中央若い女性会長として、ボニー・リー・グリーン・オスカーソンを、第一顧問としてキャロル・ルイーゼ・フォーリー・マッコンキーを、第二顧問としてエベリン・ニール・フット・マリオットを支持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

そのほかの中央幹部, 地域七十人, 中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

兄弟姉妹の皆さん, 皆さんの賛意の表明と変わらぬ信仰と献身, そしてわたしたちのための祈りに感謝します。

新しい中央幹部と中央若い女性会長会の方々は、壇上のそれぞれの席にお着きください。■

2012年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

愛 する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会、および管理ビショップリックで構成されています。

同評議会は、教会の各部門と運営組織の予算、ならびに教会のユニットに配分される予算を承認します。教会の各部門は承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、基金の収支と資産の保全が適切に管理されているかを監査するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、監査を実施する

人々は公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果、教会監査部では、2012年度において、教会のすべての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部
ロバート・W・キャントウェル
実務運営ディレクター■



2012年度 統計報告

大管長会秘書
ブルック・P・ヘイルズ提出

教 員に情報を提供するために、大管長会は2012年12月31日における教会の発展に関する統計報告を次のように発表しました。

教会のユニット数

ステーク	3,005
伝道部	347
地方部	591
ワードおよび支部	29,014

教会員数

会員総数	14,782,473
2012年における新たな記録上の子供	122,273
2012年にバプテスマを受けた改宗者	272,330

宣教師数

専任宣教師	58,990
教会奉仕宣教師	22,961

神殿数

2012年に奉獻された神殿 (ミズーリ州カンザスシティー神殿、 ブラジル・マナウス神殿、 ユタ州プリガムシティー神殿、 アルバータ州カルガリー神殿)	4
2012年に再奉獻された神殿 (アルゼンチン・ブエノスアイレス神殿、 アイダホ州ポイシ神殿)	2
儀式が執行されている神殿	140



十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

平安に満ちた家庭を 築くために

わたしたちがこの世に与えることのできる最大の祝福は、福音を教え、聖約を守り、愛に満ちた家庭、すなわち、キリスト中心の家庭が持つ力です。

現代世の中は、速いペースで生活するよう人を追い立てます。かりです。だれもが心の奥で、平安で静かな避け所を持つ必要性を感じています。時間に追われる生活に備えるために、出発点に立ち戻り、気持ちを入れ替えて、充電することのできる場所が必要なのです。

平安を得るための理想的な場所は家庭です。それは主イエス・キリストを中心とした生活をするために最善を尽くしてきた場所です。

ふさわしい神権者である父親と忠実で献身的な母親が協力して家族を義のうちに導いている家庭もあります。多くの家庭はその家族構成が異なります。しかし状況の違いにかかわらず、わたしたちは自分の家庭と生活を主イエス・キリストを基としたものにできます。主はこの世における真の平安の源であられるからです。

世俗的な事柄であろうと霊的な事柄であろうと、決断を下すときにはいつも、救い主の御心にかなうようにしてください。主が家庭の中心になっているときには、平安と安らぎがあります。家庭の中に安心感があり、そこに住む人皆が平安を感じます。

親には導く役割がありますが、この勧告は親の皆さんだけに限られたものではありません。キリストを中心とした家庭を築くために努力する責任は、子供たちにもあります。一人一人の行動が、ともに暮らす家族全員に影響を与えることを、親が子供に理解できるように教えることが大切です。善悪の別なく自分のすべての行動に責任を感じるように教えられた子供は、神の王国の中で信頼できる民に成長します。

皆さんは救い主を中心とした家庭を築くための基本原則が何であるか、きつとお分かりでしょう。預言者が勧告している、毎日の個人と家族の祈り、毎日の個人と家族の聖文研究、毎週の家庭の夕べは、キリストを中心とした家庭を築くために欠かせない、重要な柱です。これらを日ごろから実践していないのであれば、平安と世の避け所をどれだけ必要とし、切望したとしても、それを手に入れることは難しいでしょう。

キリストが従うよう求めておられる預言者の教えに従順であってください。福音の原則に従わない自分を正当化しては、後に得られる幸福を失ってしまいます。小さなことから大きなことが生じるこ



オーストラリア、シドニー

とを忘れてはなりません。軽率な行為や不注意から大きな問題が生じることもあります。さらに重要なことに、単純な良い習慣を続けることによって、人生は豊かな祝福に満たされるのです。

初等協会の子供の皆さん、青少年のプログラムに参加している若い男性と女性の皆さん、現在奉仕している忠実な宣教師の皆さんは、わたしが皆さんの年齢だったときよりもずっと効果的に多くのことを行っています。皆さんは前世において忠実であり、従順で純粋でした。また現世の生涯を勇敢に、気高く、立派に、首尾よく歩めるように、前世において才能や能力を向上させてきました。

皆さんはほんの少し前に、そのようなすばらしい能力と無限の可能性をもって現世に生まれました。それでも、現実の危険が皆さんの周りを囲んでいます。悪魔の汚れに染まった誘惑に屈するなら、皆さんのすばらしい可能性や能力は制限され、損なわれるでしょう。しかし、サタンは救い主を打ち負かすことはできません。

サタン¹の運命は定められています。サタンは自分の敗北を認めており、できるだけ多くの人を道連れにしたいのです。皆さんの弱点につけ込み、良い特質や能力を破壊しようとしています。主の側から離れないでください。そうすれば常に勝利を得るでしょう。

今日、技術が驚くべき速さで進歩しています。わたしと同世代の多くの人にとって、先端技術について行くのは難しいことです。こうした技術は、使い方によって、祝福にもなれば、進歩を妨げるものにもなります。義にかなった目的で理解され使用されるならば、技術は脅威にはならず、霊的なコミュニケーションを高めるものとなります。

例えば、多くの人がポケットに入る電子機器を持っています。ほとんどいつも携帯していて、1日に何度も使うかもしれません。残念なことに、こうした機器はみだらな考えや時間の浪費の原因にもなり得

ます。しかし正しく使うなら、携帯機器は世が作り出す邪悪な影響から身を守る道具にもなり得るのです。

四大聖典と何年分もの大会説教がポケットに入るなどということを、ごく数年前に想像できた人はいるでしょうか。単にポケットに入れているだけで守られるというわけではありませんが、毎日静かなひとときにその言葉を研究し、深く考え、耳を傾けるなら、御霊の導きをいっそう強く受けることでしょう。

先端技術を賢く活用してください。電子機器の聖文の重要な言葉に印を付け、頻繁に読み返すようにしましょう。皆さんがメールをするのと同じように頻繁に聖文を読むなら、何百もの聖句をすぐに暗記できるでしょう。それらの暗記した聖句は、聖霊による靈感と導きの力強い源となって必要なときに与えられるでしょう。

聖霊の穏やかな導きを日々受けるために最善を尽くすことは、救い主を中心とし

た生活を送るうえで非常に重要です。それらの促しに従って行動するならば、わたしたちはさらに強められます。

従順になる努力をすることに加えて周りの人々に奉仕するとき、いっそう大きな平安が得られます。自分には大した才能がないと思っている多くの人が、その才能を謙虚に惜しみなく使って周囲の人々を祝福しています。利己主義は大きな悪の根源です。その悪を正す方法は救い主の生き方に表れています。主は無私の奉仕に焦点を当てて生活する方法を示してくださっています。

わたしは一つの真理を学びました。人生の中で繰り返し見てきたので、それが絶対的な法則であると知っています。この真理により、従順と奉仕が神の力とどのようにかかわっているのかがはっきりと分かります。主の戒めに従い主の子供たちに無私の奉仕をするとき、当然の結果としてわたしたちは神から力を頂きます。それは自分の力以上のことを行う力です。主から強さと力を受けるので、わたしたちの知力や才能、能力が広がるのです。主の力は平安に満ちた家庭を築くための重要な要素です。

救い主中心の家庭を築くと、当然ながら、皆さんの家庭は自分の家族だけでなく、もっと困難な状況にいる友人のための避け所にもなるでしょう。友人たちはそこで感じる安らぎに引き寄せられることでしょう。彼らを迎え入れてください。彼らはキリスト中心の環境の中で成長することでしょう。子供の友人たちとも仲良くなってください。彼らの良い模範となってください。

わたしたちがこの世に与えることのできる最大の祝福は、福音を教え、聖約を守り、愛に満ちた家庭、すなわち、キリスト中心の家庭が持つ力です。

何年も前、ある伝道部を訪問した後で、妻のジェニーンがそこで出会ったある長老の話をしてくれました。彼に家族のことを尋ねると、驚いたことに家族はいません





アメリカ合衆国、ニューヨーク州ニューヨーク市

という返事でした。母親は出産後すぐに彼の養育を行政機関に任せたそうです。子供のころ、いろいろな里親家庭を転々としてきましたが、幸いなことに10代のときに福音を見いだしました。愛に満ちた、家族のようなワードが、彼が伝道に出られるように援助してくれたのだそうです。

後に、ジュニーンはこの立派な長老について伝道部会長夫人に尋ねました。彼は数か月前に病気になり、伝道部会長の家で数日過ごしていたことが分かりました。その間、彼は伝道部会長宅の家庭の夕べに参加しました。伝道地へ戻る前に、彼は伝道部会長に「伝道が終わるときに、また伝道部会長の家に2、3日滞在してもいいですか」と尋ねました。キリスト中心の家庭生活がどのようなものかを観察して、将来の自分の家庭のお手本にしたいと思ったのです。

最善を尽くしてそのような家庭を築いてください。困難な状況にいる人に手を差し伸べてください。真の友人になってください。そのような真の友情によって、苦難は堪えやすく、人生の旅路は心地よいものになります。友情は個人的な利益を得

るために利用するものではなく、感謝し分かち合うべき宝なのです。そのような友情によって力づけられる必要のある人を皆さんの家庭へ迎え入れてください。

最後に、愛する家族の一員が良い選択をしていないという人のために少しお話しします。主を信頼し、主の時を信頼し、やがて祈りがはっきりとこたえられ、救いの手が差し伸べられることを信じましょう。最善を尽くして奉仕し、祝福をもたらし、へりくだってあらゆることが神の御手の中にあることを認めましょう。信仰を働かせ、主にお任せするべきこともあるということをお出ししましょう。主は重荷を主の足もとに下ろすよう言われます。信仰を働かせるなら、道をそれた人は見捨てられず、愛に満ちた救い主に見守られていることが分かるでしょう。

人の過ちではなく、良い点を見ましょう。汚れを取り除くために適切な処置が必要などきもあります。常にその人の美点に目を向けましょう。

希望が細い糸にしか見えないときもありますが、実際にはそれは糸ではなく、人

を力づけ高めることのできる太い命綱、人をつなぐ頑丈な鎖なのです。それは人を慰め、恐れを止めてくれます。努めてふさわしく生活し、主に信頼を置きましょう。

主が勧めておられることを一度にすべてできなくても、心配するには及びません。あらゆることには時があると主は言っておられます。心から導きを祈り求めるなら、人生のそれぞれの時期に重視すべきことが分かるように導いてくださいます。わたしたちは一歩ずつ着実に進みながら、学び成長し、主のようになることができるのです。

わたしは証します。イエス・キリストの福音に固く根ざして従順に生活するなら、家庭は必ず平安な避け所になります。苦難や心痛がたくさんあることには変わりありませんが、逆境のさなかにあっても、心の平安と深い幸福を感じる^{あかな}ことができます。イエス・キリストの贖いはそのような豊かな平安をもたらし^{あかな}てくれます。このことを、イエス・キリストの御名により証^{あかし}いたします、アーメン。■



十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

個人の平安—— 義の報い

人生の様々な試練にもかかわらず、救い主の贖罪^{しよくざい}とその恵みのおかげで、義にかなった生活をする^{こと}で個人の平安が報いとして与えられます。

最 近の経験によって、平和に関する教義について、とりわけ、わたしたち一人一人に、永続する個人の平安を得させてくださるイエス・キリストの役割について大いに考えさせられました。

ここ数か月のうちに起きた二つの出来事に深く心を動かされたのです。その一つは、かけがえのない6歳の少女エミリー・パーカーの葬儀で話をしたときのことです。エミリーはコネチカット州ニュータウンで起きた悲惨な銃撃事件で、幼い子供19人を含む25人の犠牲者とともに命を失いました。わたしは彼女の家族に深い哀悼の意を寄せると同時に、多くの人々の心から平安が消えてなくなっていることに気づきました。そのような中であって、エミリーの両親のロバート・パーカー、アリッサ・パーカー夫妻には強さと信仰がはっきりと見て取れました。

二つ目の経験は、コートジボワールのアビジャンで、何千人もの忠実な教会員と集会を持ったときのことです。¹西アフリカにあるこのフランス語圏の国は、これまで経済的困窮と軍の圧政に耐え、近年の二つの内戦が2011年に入ってから終結を迎えたばかりでした。それでも、彼らとともにいる

とき、わたしは特別な平安を感じたのです。

わたしたちから平安を奪ったり、わたしたちが深く傷つけられたりするような出来事はしばしば起こります。

2001年9月11日の、アメリカ合衆国の各地を襲ったあの邪悪な攻撃を忘れられる人がいるでしょうか。あのような出来事に遭遇すると、平安や安心感といった思いがいかに一瞬のうちに打ち砕かれてしまうものか思い知らされます。

当時、我が家の長男とその妻は、ニューヨーク市の世界貿易センタービルから3ブロック離れた所に住んでおり、最初の子供の誕生を心待ちにする日々でした。事件当日、1機目の飛行機がビルの北棟に激突したとき、アパートの屋上に行き、その光景を目にした二人は、ぞっとしました。何か悲惨な事故が起きたと考えたのです。それから、今度は南棟に2機目の飛行機が激突するのを目の当たりにしました。二人はすぐに、これは単なる事故ではなく、マンハッタン島の南部が攻撃を受けているに違いないと察しました。南棟が崩れ落ちたとき、二人の住んでいたアパートはマンハッタン島の南部一帯に降り注いだ粉塵^{みんじん}に覆われました。

目撃した光景に気が動転し、さらに攻

撃を受けることを案じた二人は、より安全な地域を目指して、リンカーンセンターの近くにある教会のマンハッタンステークの建物へと向かいました。建物に到着した二人は、自分たちと同様にステークセンターに集まるという判断をしたマンハッタン島南部に住む教会員がほかにも数十人いたことを知りました。二人はわたしたちに電話をかけてきて、自分たちの居場所を知らせてくれました。わたしたちは息子たちの無事を知って安心しましたが、彼らの居場所を聞いても驚くことはありませんでした。近代の啓示によって、シオンのステークは防御であり、「嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となる」と教えられているからです。²

二人は1週間以上アパートに戻ることができず、罪のない人々の命が失われたことにひどく打ちのめされていましたが、二人とも後々に影響の出る損害は特に受けませんでした。

こうした出来事について思い巡らすにつけ、世界全般の平和と個人の平安との間に見られる教義上の違いに深い感銘を受けます。³

救い主がお生まれになったとき、おびただしい天の軍勢が神を賛美し、こう宣言しました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に**平和**があるように。」⁴

しかしながら、神の御子の降誕に続くこの永遠に特筆すべき時期にあってさえも、ヘロデ王がベツレヘムの無垢な幼子たちを虐殺したことは衝撃的な話として語り継がれています。⁵

選択の自由は、幸福の計画に不可欠です。この自由があるからこそ、愛や犠牲、個人の成長といった、わたしたちが永遠に進歩するうえで必要な経験が得られるのです。また選択の自由によって、死すべき状態にあるわたしたちはあらゆる苦痛や苦悩を経験します。それらの苦しみは、自分たちの理解が及ばない事柄が原因と

なる場合もあれば、ほかの人々による破壊的で邪悪な選択の結果である場合もあります。天上における戦いは、まさに、地上における救い主の働きを理解するうえで不可欠な、わたしたちの道徳的な選択の自由をかけた戦いだったのです。

マタイによる福音書第10章で述べられているように、救い主は十二使徒に教えを授け、御自身の使命はこの世にあって普遍的な平和を実現するのではないことをお認めになりました。使徒たちは、彼らが訪れたふさわしい家に平安を残すよう告げられましたが、彼らは「おおかみの中に送〔られ〕るようなものである。……また……わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる」という警告を受けました。⁶ 34節では、次のような興味深い宣言がなされています。「地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。」⁷ キリストが地上で教え導いておられる間、地上に普遍的な平和が存在していなかったことは明白ですし、それは現在でも同じです。

教義と聖約に向けた主のはしがきの中で、数多くの非常に重要な原則が教えられています。悔い改めない人々に関して、世に来るすべての人々に与えられる御霊（キリストの御霊）は、⁸ 「いつでも人を励ますわけではない」⁹ と記されています。また「平和が地から取り去られ〔る〕」¹⁰ とあります。これまで預言者たちは平和が実際に地上から取り去られていると宣言してきました。¹¹ ルシフェルはまだつなぎ置かれておらず、この世で権勢を奮っています。¹²

世界中の善良な人々の義になかった願いは、世に平和がもたらされることです。これまでもそうでしたし、これからも常に変わらないでしょう。この願いがかなえられるという望みを、わたしたちは決して捨ててはなりません。しかし、ジョセフ・F・スミス大管長はこう教えました。「人類が神の真理と神の言葉を受け入れ、……神の力と権能を認めるまで、世に平和と愛の精神はもたらされないのです。」¹³



わたしたちは全世界の平和を心から望み、祈り求めています。しかし、義になかった人々に約束されているそのような平和を実現する役割は、わたしたち一人一人に、そして個々の家族（あがな）にあります。この平和は、救い主の使命と贖いの犠牲によって約束された賜物（たまもの）なのです。

この原則については、教義と聖約に次のように的確に表現されています。「しかし、義の業を行う者はその報いを受ける。すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受けるといふことを知っておきなさい。」¹⁴

ジョン・テラー大管長は、平和は望ましいものであるだけでなく、「神の賜物です」¹⁵ と教えました。

わたしが今お話している平和は、単なる一時的な平穏ではありません。それは永続的な深い幸福感であり、霊的な満足感です。¹⁶

ヒーバー・J・グラント大管長は救い主の平安について、このように説明しています。「主の平安はわたしたちの苦しみを和らげ、打ち砕かれた心を持つ者を癒し、憎しみの感情を取り除き、平安と幸福感で心を満たす隣人愛を抱かせてくれます。」¹⁷ エミリー・パーカーの両親に会ったとき、救い主の平安が二人の苦しみを和らげ、打ち砕かれた心を癒す助けになっ

ていました。あの銃撃事件の直後に、パーカー兄弟が犯人に対して赦しを表明したことは注目に値します。グラント大管長が述べたように、救い主の平安は、「憎しみの感情を取り除〔く〕」ことができるのです。裁きは主がなさることです。

コートジボワールの聖徒たちは、国内で内戦が続く間、イエス・キリストの福音に従う生活に心を向けることで、特に、先祖のために家族歴史と神殿活動に焦点を当てることで平安を見いだしました。¹⁸

わたしたちは皆、平和を切望します。平和とは、単に戦争や暴力、対立、争いがなく安全であることではありません。わたしたちが何者であるかを救い主は御存じであって、深刻な試練や悲劇のさなかにあつてさえ、わたしたちが主を信じる信仰を持ち、主を愛し、その戒めを守っているのを承知しておられることを知ることで、平安がもたらされるのです。リバティーの監獄にいる預言者ジョセフ・スミスに与えられた主の答えは、心に慰めをもたらします。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」¹⁹

神は「無秩序の神ではなく、平和の神



である」ことを忘れないでください。²⁰ 神に背く者に平安はないのです。わたしたちは皆、現世における選択の自由が提示された天上の会議に参列しており、自らの選択の自由を誤って使うことにより、この世の苦痛や言い表せないほどの悲劇にさえ遭遇することを知っていました。そのために、わたしたちは怒ったり、困惑したり、無力になったり、傷ついたりするかもしれないことを理解していたのです。しかし、わたしたちは、救い主の贖罪がこの世のあらゆる不公平に打ち勝ち、埋め合わせをし、平和をもたらしてくれることも知っていました。マリオン・D・ハンクス長老は、次のようなウーゴ・ベッティの言葉を額に入れて壁にかけていました。「神を信じるとは、すべての戒めが正しいことが証明され、想像もできなかった素晴らしい報いが待っているということを知ることである。」²¹

平安の源は何でしょうか。多くの人々は、この世の方法で平安を探し求めます。こ

れまでに成功したことがなく、今後も成功する見込みのない方法です。平安は、ばく大な富や権力、名声を手に入れることで見いだせるものではありません。²² 楽しみや気晴らし、レジャーを追い求めることによっても見いだせません。これらはどれも、たとえどれほど多くを手に入れたとしても、永続する幸福や平安を生み出すことはないのです。

エマ・ルー・セインが大好きだった賛美歌は、実に的を射た疑問を投げかけています。「平和はいずこにありや。ほかに癒しなき時、慰めはいずこにありや。」²³ その答えは救い主です。救い主こそ平和の神であり、「平和の君」であられるのです。²⁴

どのようにすれば救い主の近くにいられるでしょうか。神の御前に自らへりくだり、常に祈り、罪を悔い改め、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってバプテスマの水に入り、イエス・キリストの真の弟子になることは、義にかなった人々の示す優れた

模範であり、その報いとして永続的な平安が与えられます。²⁵ ベニヤミン王が、キリストの贖罪について靈感あふれるメッセージを語り終えると、群衆は地に伏しました。「主の御霊が彼らに降られた。そして彼らは、罪の赦しを受け、良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた。それは、彼らが……イエス・キリストを深く信じたためである。」²⁶ 悔い改めと義にかなった生活は良心の安らぎをもたらしますが、これは満足感を得るために欠かせません。²⁷ 重大な罪を犯したときには、平安を得るために告白が必要です。²⁸ 罪に苦しむ人がその重荷を主にゆだね、贖罪による祝福を求めることによって得られる平安に匹敵するものは、恐らくほかにありません。教会で好んで歌われる別の賛美歌もこう歌っています。「重荷はみもとに頼みてゆかん」²⁹

現在、何万人もの若い男性や若い女性、夫婦宣教師たちが、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの使者となる召しを受け入れていることを知って、心から喜んでいます。彼らは回復された平和の福音を世に携えて行き、1度に一人ずつ、一家族ずつ、義にかなった働きをして、この平安を天の御父の子供たちにもたらしめているのです。

教会は、キリストに従う者たちが平安を得る避け所です。この世の若者の中には、自分は霊的ではあるが、宗教的ではないと言う人もいます。霊的な事柄を感じ取ることは、望ましい第一歩です。しかし、わたしたちが仲間から手を差し伸べられ、教えを受け、神の善い言葉で養われる場所は教会の中なのです。さらに大切なのは、家族を結び合わせる神聖な儀式や聖約を施し、わたしたち一人一人に日の栄えの王国におられる父なる神とイエス・キリストのみもとに戻る資格を得させてくれるのは、教会にある神権の権能であるということです。彼らが主と聖約を交わすことによって、これらの儀式が平安をもたらしてくれるのです。

神殿は、そうした神聖な儀式の多くが執り行われる場所であり、この世からの平安に満ちた避け所でもあります。神殿の敷地を訪れたり、神殿のオープンハウスに参加したりする人々も、この平安を感じます。フィジー・スバ神殿のオープンハウスと奉献式は、わたしが特に覚えていた経験の一つです。フィジーでは政治的な騒乱が続いており、反乱軍がスバの繁華街で放火や略奪行為に及び、国会議事堂を占拠し、議員を人質にしていました。国内が戒厳令下にあったのです。フィジー国軍は教会に対し、限られた人数しかオープンハウスに集まる許可を与えてくれなかったため、奉献式に集ったのはごく少数のグループだけでした。一般の会員たちは、安全を考慮して招待されませんでした。このような神殿の奉献式は、最初のノーブー神殿が非常に困難な状況の下で奉献されて以来、初めてのことでした。

オープンハウスに招待された人物の一人に、インド人を先祖に持つ美しいヒンドゥー教徒の女性がいました。国会議員の一員である彼女は、当初人質として拘束されていましたが、女性であるという理

由で解放されたのです。

日の栄えの部屋で、この世の喧噪から解放されたその女性は、涙を流しながら、自分を包み込んでいる平安な気持ちについて言い表しました。聖霊が慰めを与え、神殿の神聖な特性について証されるのを、彼女は感じたのです。

救い主は平和の真の源です。人生の様々な試練にもかかわらず、救い主の贖罪とその恵みのおかげで、義にかなった生活をする中で個人の平安が報いとして与えられます。超越を祝うためにひっそりと集まった部屋で、救い主は使徒たちに、彼らは祝福として「助け主、すなわち、……聖霊」を受けると約束されました。それから、次のような重大な意味のある言葉を口にされました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」³⁰その後、御自身が執り成しの祈りをささげられるまさにその前にこう言われたのです。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみが

ある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」³¹

これについてエライザ・R・スノーは、見事に書き記しています。

「神を賛めたたえ
絶えず喜べよ
悩みは多くも
主は『われに頼れ、平和得よ』と言う」³²

以上のことを、イエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

- 2013年2月10日の日曜日に、アビジャンで2回の大会が開催された。出席者9,693人のうち619人はまだ教会員ではなかった。コートジボワールの教会員総数は約1万9,000人である。
- 教義と聖約115:6
- 平和という言葉には様々な意味がある。古典ギリシャ語では、相反する勢力の間での戦争行為の中断、中止、あるいは、不戦状態を指している。ヘブル語の平和には、もっと広範な意味があり、時には単なるあいさつの決まり文句として用いられる。平和とはまた「神が定められた条件や状況の下でのみ人にもたらされる存在の様態」を指す。(ハワード・W・ハンター, "Where Is Peace?" Conference Report, 1966年10月, 14-17)
- ルカ2:14. 強調付加。
- マタイ2:16 参照; ロス・ダウザット, "The Loss of Innocents," *New York Times*, 2012年12月16日付, 12も参照。
- マタイ10:16, 22
- マタイ10:34
- 教義と聖約84:46 参照
- 教義と聖約1:33
- 教義と聖約1:35
- この点について、ウッドラフ大管長は1894年に、また1896年に再度、宣言している。*The Discourses of Wilford Woodruff*, G・ホーマー・ダーラム編(1946年), 251-252参照。マリオン・G・ロムニー, Conference Report, 1967年4月, 79-82も参照。
- ジョセフ・フィールディング・スミス, *The Predicated Judgment*, Brigham Young University Speeches of the Year (1967年3月21日) 参照。しかし、ニール・A・マックスウェル長老は次のように述べている。「地上から平和が取り去られようとも、[すべての物事が混乱しようとも、]……わたしたちは心に平和を保つことができます。」「敵する者は皆一つに集められたり」『聖徒の道』1993年7月号, 81)
- 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』400参照
- 教義と聖約59:23



デンマーク、コペンハーゲン

15. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』 150 参照
16. 古代ギリシャの時代から今日に至るまで、この**幸福感**と**満足感**という二つの言葉は、その意味についてだけでなく、わたしたちの人生に与える指針という点からも分析され、詳細に調べられ、研究されてきている。デビッド・マローフ、*The Happy Life: The Search for Contentment in the Modern World* (2011年) 参照。マローフ氏の著作についての論評“How to Live Well” *Wall Street Journal*, 2013年1月26-27日, C6も参照。
17. 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』 226 参照
18. コートジボワールにある5つのステーキのうち3つのステーキは、神殿儀式のために家族の名前を提出する成人の割合が教会で上位25位に入っており、中でもコートジボワール・ココディステーキは最上位である。(C・テラー・ワーナー、スーザン・ワーナー共著“*Apostle Visits Ivory Coast, Is ‘Impressed with Exceptional Spirit,’*” *Church News*, 2013年3月3日付, 4, 14) 内戦があること、最も近い神殿がバスで12時間もかかるほど遠いガーナのアクラにあることを考えると、これは驚嘆すべき信仰の表れであり、それによって個人と家族に平安がもたらされているのである。
19. 教義と聖約121:7-8。 Harold B. Lee 大管長はこう教えている。「ですから、わたしたちは精錬されなければなりません。わたしたちの持つ強さと力を証明するために、試しを受けなければならぬのです。」(『歴代大管長の教え——Harold B. Lee』 215)
20. 1コリント14:33 参照
21. マリオン・D・ハンクス「愛をもって人と語る神」『聖徒の道』1993年1月号, 71から
22. ジェフリー・R・ホランド *For Times of Trouble* (2012年), 79 参照。ジェフリー・R・ホランド長老は、「真の貧困は、罪そのものを除いて、ほかのいかなる状況にも増して人を気落ちさせることがある」と教えている。しかし、義にかなった金銭の使い方をすれば、平安を増し加えることができる。
23. “Where Can I Turn for Peace?” *Hymns*, 129番
24. イザヤ9:6
25. ジョン・グリーンリーフ・ホイットティアはこれについて次のように簡潔に述べている。「いかに生きるかに気をつけなさい。昼の間に、夜になって心に平安を感じられなくなるような行いをしてはならない。」(Conduct [From the Mahabharata], in *The Complete Poetical Works of John Greenleaf Whittier* [1802年], 484から)
26. モーサヤ4:3, 強調付加。マリオン・G・ロムニー, Conference Report, 1967年4月, 79-82も参照
27. 良心とは、わたしたちを平安に導いてくれる道徳上の指針である。少なくとも二つの源、天の御父から栄光に満ちた天与の賜物として与えられているキリストの光(教義と聖約88:6-13:93:2参照)と聖霊の賜物(教義と聖約39:6参照)によって活気づけられる。
28. 「戒めに背いた人が平安を得るには、二つの教しが必要です。主の教会の然るべき管理役員からの教しと、主御自身からの教しです[モーサヤ26:29参照]。』(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』 41)
29. 「いとやさし」『賛美歌』70番
30. ヨハネ14:26-27
31. ヨハネ16:33
32. 「試しは多くも」『賛美歌』69番



七十人
スタンレー・G・エリス長老

主の方法

主の方法は、各自が指導者の教えに耳を傾け、正しい原則を理解し、自らを治めることです。

七十人

わたしは七十人として奉仕しています。七十人は使者として主の御言葉を使徒や預言者や御霊から受けたとおりに伝え、また、キリストの御名の特別な証人として全世界で福音を宣べ伝え、教会を築き上げ、教会の諸事を整えるために召されています(教義と聖約107:25, 34参照)。

農家の少年

わたしはアイダホ州パーレー近くの農場で育ち、次のことを学びました。

1. 働くこと—植えなければ、収穫はありません。
2. 賢く働くこと—灌溉して肥料を施せば、収穫は増えます。
3. 時期の重要さ—適切なときに植えなければ、早霜にやられて収穫ができなかもしれません。
4. 自分の楽しみや望み、都合に関係なく、必要なことや、すべきことを行う。—牛の乳搾りは、自分がしたいときではなく、牛にとって必要なときにします。
5. 率直さ—一家畜や機械を相手に、回りくどい対応や周囲への気遣いをしていてる暇はありません。(これに関して、わたしは教会でよくこう尋ねます。「率直に話してほしいですか、それとも遠回しに話しましょうか。」するとたいの人が選ぶのは「率直に」です。

今日も率直に話します。)

6. 最後に、アイダホの農場の少年として学んだのは、基本に忠実であることです。

すべての会員にとって、また教会の教義として、信仰箇条の最初の真理に勝る基本はありません。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」(信仰箇条1:1)

さらに、神はわたしたちの天の御父であり、わたしたちを御存じであり、わたしたちを愛し、わたしたちがみもとに戻ってくることを望んでおられます。イエスはわたしたちの救い主、贖い主であられ、贖いを通して、わたしたちが死を克服してよみがえり、わたしたちが昇栄して永遠の命を得ることを可能にしてくださいました。聖霊はわたしたちの慰め主、啓示者、教師、証人、指導者であります。

兄弟姉妹、考えてみてください。わたしたちは霊の孤児ではありません。独りではないのです。

孤児ではなく、両親がいることの利点は何でしょうか。わたしたちは、両親から学び、両親の経験から恩恵を受け、警告によって危険を避け、彼らの知識のおかげで理解が深まります。迷いや混乱はなく、だまされることも、力を失うこともありません。天の御父が、数ある方法の一つではなく、唯一確かな方法を教え示してくださいましたとなればなおのことです。

神は確かな方法を持っておられる

実際に、神の定められた方法は、生きることや¹愛すること、²助け、³祈り、⁴人と話し、⁵交わり、⁶導くこと、⁷結婚し、⁸子供を育て、⁹学び、¹⁰真理を知り、¹¹福音を伝えること、¹²食べ物を賢く選ぶこと¹³などに及んでいます。

主の方法は、聖文のほかに『真理を守る』や『若人の強さのために』、また生ける使徒や預言者の教えの中にあります。

1. 例えば、主は聖文の中でこう教えられました。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。

天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」(イザヤ 55:8-9)

2. 終わりの日の悪の一つは「すべての人が自分の道を……歩[む]」ことです(教義と聖約 1:16)。箴言が警告しているように「自分を見て賢いと思っ
てはならない」「自分の知識に頼ってはならない」のです(箴言 3:5-7 参照)。
3. 主の方法で行う人は、主から祝福を約束され、それを求める権利がありますが、主の方法で行わない人は、何の約束も受けません(教義と聖約 82:10 参照)。
4. 預言者サムエルが新しい王を見つけるために遣わされたとき、主は御自分の方法と人の方法を比較されました。「しかし主はサムエルに言われた。『顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。』」(サムエル上 16:7)
5. だれもが貧しい人や困っている人を助けたいと願いますが、主はこう警告されました。「しかしそれは、わたし自



オーストラリア、シドニー

身の方法で行われなければならない。」(教義と聖約 104:16) そうでなければ、援助が実際に相手を傷つけるかもしれません。主は自立を促す必要があると教えられました。たとえ助けられることができても、相手が自分でできることを代わってするべきではありません。施そうとする善意があだとなるのは、世の中によくあることです。確かに、神は最善の方法を御存じなのです。

別の例も見てみましょう。主は伝道の方法を定めておられます。それは、聖文と『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に説明され、御霊の導きに従って実行されます。

また主は愛するための主の方法を定められました。世の人々は、二人が愛し合っていることが大切だと言います。天の御父もそれは大切であると教えておられますが、それだけではありません。愛を表現するには定められた方法と時があるのです。

自らを治める

ジョセフ・スミスは若いときから主の方法を学びました。教会をどのように導いているのか聞かれたとき、「会員に正しい原則を教え、自らを治めさせる」と説明しました。¹⁴ 兄弟姉妹、生ける使徒と預言者は今も正しい原則を教えています。そこでお聞きします。わたしたちは自らを治めるためにこれらの原則に従っているでしょうか。

わたしたちは「植えられた場所で咲きなさい」と教えられてきました。しかし、新しい場所へ移って、子供にもっと多くの友人や、充実した青少年プログラムを与えたいと思うことがあります。

兄弟姉妹の皆さん、住む街が子供の救いに不可欠の要素であると、本気で考えているのでしょうか。使徒と預言者は、家の中で起こることは、子供が外で経験することよりはるかに重要であると度々教えています。子供をどこで育てるかよりどのように育てるかが大切なのです。

もちろん、住む場所を決める要素はほかにもあって、ありがたいことに、主は確



認を求めるわたしたちを導いてください
ます。

もう一つの問いは「自分がどこで必要
とされているか」です。わたしは16年間、
テキサス州ヒューストン北ステークの会長
会で奉仕し、その間に多くの人が引っ越
して来ました。そして電話で「どこがい
ちばん良いワードですか」とよく尋ね
られました。でも「わたしたちが力にな
れるワードはどこですか」と聞かれた
のは16年で1度だけでした。

教会初期の時代にブリガム・ヤング
大管長や指導者は、召された場所へ
行って教会を築くよう会員たちに要請
しました。皮肉なことに今でも、預
言者の依頼があれば、どこへでも
行くと言う忠実な教員があらゆる所
にいます。しかし、モンソン大管長
が1,400万人の会員それぞれに、
各家族がどこで必要とされているか
告げてくれるとほんとうに期待でき
るでしょうか。主の方法は、各自が
指導者の教えに耳を傾け、正しい原
則を理解し、自らを治めることです。

特に重要なこと

教会で様々なことが起こり、主が
あらゆる所で御業を速めておられる
今日、すべてを主の方法で行うこと
が極めて重要です！

特に救いの業で学んだように「神は、
御子を送ることによってもっとすば
らしい方法を備えられました（エテ
ル12:11）。キリストの教義は「道
であり、このほかには人を神の王国
に救う道も名も天下に与えられて
いない」のです（2 ニーファイ
31:21）。

結論

今日の世の中で、多くの人が混乱
した人生を送り、さらに悪いことに
禁じられた道をさまよひ、誤った選
択の結果に苦しんでいるを目にする
とき、わたしはアルマのように叫
びたくります。

「おお、わたしが天使であって、
わたしの心の願いを遂げることが
できればよいものを。わたしの心
の願いとは、出て行って、神のラ
ッパのように地を震わせる声で

語り、すべての民に悔い改めを叫ぶ
ことである。

まことに、わたしは……あらゆる
人に……贖いの計画を告げ知らせ、
もはや地の全面に悲しみのないよ
うに、悔い改めて神のみもとに〔そ
して神の道に〕来ることを彼らに
勧めたい。（アルマ29:1-2）

主には確かな方法があることを証
します！ 天の御父はわたしたちを御
存じで、愛し、助けたいと願って
おられ、最善の方法を御存じです。
わたしたちは霊の孤児ではないの
です！

救い主イエス・キリストは「道
であり、真理であり、命」であられ
ます（ヨハネ14:6。アルマ38:9
も参照）。主の方法は永遠の真理
に基づき、「この世において平和を、
また来るべき世において永遠の命
を受けられるようにわたしたちを導
いてくれるのです（教義と聖約59:
23）。イエス・キリストの御名に
よって証します、アーメン。■

注

1. 2 ニーファイ5:27; モーサヤ4:27; アルマ7:23-25 参照
2. 出エジプト20:14; 申命6:5; ヨハネ13:34-35; ローマ1:24-32; 1テサロニケ4:3; アルマ39:3-5 参照
3. モーサヤ4:21-27; 教義と聖約104:15-18 参照
4. マタイ6:5-13; 2ニーファイ32:8-9; 3ニーファイ18:21; 教義と聖約10:5 参照
5. 箴言15:1; コロサイ4:6; ヤコブ5:12; 3ニーファイ11:29-30
6. 教義と聖約64:10-11; 121:41-46 参照
7. マタイ25:14-30; ヨハネ10:1-14; 教義と聖約50:26; 107:99-100; 121:34-40 参照
8. 創世2:24; モルモン書ヤコブ2:27; 教義と聖約42:22; 132:19 参照
9. モーサヤ4:14-15; 教義と聖約68:25-28 参照
10. 教義と聖約43:8-9; 88:77-79, 118 参照
11. モロナイ7:15-19; 10:3-5; 教義と聖約9:7-9 参照
12. 教義と聖約33:8-10; 100:3-8 参照
13. 教義と聖約89章参照
14. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』284 参照



七十人
ジョン・B・ディクソン長老

全世界に福音を 携えて行く

教会は……、主の定められた時に添って、国から国、文化から文化、人から人へと着実に全世界へ広がってきました。

地上における救い主の働きはすべて成し遂げられました。ゲツセマネと十字架上で主の苦しみは終わりました。使徒行伝第1章にはこのように記されています。イエスは復活した後、40日にわたって使徒たちに「現れて」、**「神の国のことを語られた」**(使徒1:3)。

主は彼らにこう告げました。「聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」(使徒1:8)

その後間もなく、「イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて

言った、『ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。』(使徒1:9-11)

救い主はまことに再臨の時に戻って来られますが、それまでにイエスの福音は「地のはてまで」^の宣べ伝えられなければなりません。

マタイによる福音書によれば、使徒たちは福音をすべての国民に携えて行くという特別な戒めを受けました。

「イエスは彼らに近づいてきて言われた、『わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し〔なさい。〕』(マタイ28:18-19)

時の中間の時代に、初期の教会で福音が伝えられたのはイスラエルの家だけに限られていました。その後、前任使徒のペテロは、イスラエルからさらに異邦人にまで福音が伝えられる時が来たことを告げる啓示を受けました。使徒行伝第10章と11章を読むと、教会をより多くの神の子供たちの間で展開するためには、その手続きと方法を教会の管理役員と全会員に知らせる必要があったことが理解できます。

福音が異邦人のもとへ届けられることをペテロに印象づけるため、主は、異邦人の百卒長であり、善良な人であったコルネリオを使われました。当時の聖徒たちはそのような考えを以前に聞いたことがありませんでした。教会の実務上の変更を知らせる啓示は、前任使徒であるペテロに

与えられました。その後福音は急速に異邦人の国々の間に広まったことをわたしたちは知っています。

当時の教会が広がっていった例の一つとして、異邦人に対する偉大な使徒となったパウロの改心があります。パウロはダマスコに向かう途中で示現を受けました。彼はそこで光を目にし、声を聞いて、自分の罪を悔い改め、そして神によって召されました(使徒22:6-18参照)。その後の彼はイエス・キリストの福音を広める大きな力となりました。

今度はそれから1,800年後の福音の回復、すなわち再臨に先立つ万物更新の時へと移動します。わたしは預言者ジョセフ・スミスを通して教会が回復され、現在も大管長と十二使徒定員会^{あかし}の指導の下で前進し続けていることを証します。古代の使徒の時代と同じく、彼らも、全世界に福音をもたらすという戒めを受けています。

末日聖徒イエス・キリスト教会は1830年に組織されて以来、主の定められた時に添って、国から国、文化から文化、人から人へと着実に全世界へ広がってきました。

1978年、前任使徒を通じて啓示が与えられるという正規の方式にのっとり、スペンサー・W・キンボール大管長にある啓示が与えられました。この度は世界中のすべてのふさわしい男性が神権を受けられるようになるという啓示でした。これは、わたしたちの時代に、世界中の天の御父のすべての子らが、回復された福音のすべての祝福を受けられることを意味します。キリストの再臨が近づいている時代の神の王国にとって、それは時宜^{じぎ}にかなった決定でした。

それがわたしにとってどのような意味を持ったかをお話したいと思います。わたしが伝道部会長に召されて、妻のディクソン姉妹と家族とともにメキシコへ旅立とうとしていたときでした。当時七十人の一員だったリチャード・G・スコット長老から、この特別な啓示が発表されること



を聞きました。その経緯を聞いてみると、わたしの目に涙があふれてきました。それが正しいことであり、全人類が福音のあらゆる儀式と聖約と祝福にあずかる時が到来したことを知って、言葉に表せないほどの喜びを感じました。

それは35年前のことでした。神権に関する1978年の啓示によって大きな祝福を受けた信仰深く忠実な人々の住むアフリカ西地域で、わたしが七十人の一員として数年間働くことになるとは、そのとき知る由もありませんでした。ディクソン姉妹とともにその地で4年間生活しました。そこで得た経験はすばらしいものであり、わたしたちの生活を変えるものとなりました。

西アフリカの人々は全体として、神を信じ、自分たちの信条を恥じることなく宣言し、他の人々と分かち合い、またすばらしい指導力を持っています。彼らは100人

単位で教会に加わり、アフリカ西地域のどこかで毎週幾つかの支部やワードが組織され、それらのほとんどは、アフリカ人の神権指導者と補助組織指導者だけで構成されています。

皆さんが、ナイジェリアのアバまたはガーナのアクラ神殿に行って聖徒たちとともに参入し、彼らの決意を感じ取り、全員がアフリカ人で構成されている神殿会長会と親しく交わることができたら、と心から思います。あるいは今日このカンファレンスセンターに出席しているアフリカ人の地域七十人と言葉を交わしていただけたら、と心から思います。彼らは弁護士、大学教授、会社の管理職でもあります。あるいはアフリカのステーキやワードの指導者やその家族と親しくなっていただけたら、と思います。

アフリカ全土で、教会の教科課程に

従って開かれる日曜学校、補助組織や神権組織のクラスに出席することは、神聖な経験となります。彼らは福音をよく理解しており、御霊によって教え、学んでいます。

福音を学んでいるアフリカの人々は幸せです。西半球に住む多くの人々が心を奪われている外見を気にしないからです。果てしない物欲に心を向けていないのです。

アフリカ人は「些細なことを気に留めず、最も大切なことに最大の関心を向ける」と言われています。豪華な家や立派な車にはほとんど関心がなく、天の御父と御子イエス・キリストを知り、永遠の家族を築くことに大きな関心を寄せています。彼らの信仰の自然な結果として、主は意義深い方法で彼らを引き上げておられます。

彼らがわたしたちと同じようにしていることが分ると、終わりの時におけるイエス・キリストの教会の発展に彼らが重要な役割を果たすことになるとしても、何ら驚くに当たりません。終わりの時の神の王国を表す、「人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進む」のを旧約の預言者ダニエルは予見しました（教義と聖約 65:2）。このことを考えると、アフリカのすばらしい兄弟姉妹はこの預言の成就に重要な役割を果たして当然ですし、また、主の定められた方法に従ってその啓示は成就されることでしょう。

天の御父はそのすべての子らを愛しておられ、イエスはキリストであり、福音は生者と死者を含むあらゆる人にもたらされることを、イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■



十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

わたしたちは 純潔を信じる

純潔の律法に従うならば、現世では幸福が増し、永遠の世では進歩が可能にな〔り〕ます。

わたしのメッセージは、霊にかかわる非常に重要で根本的な問題です。純潔の律法が非常に重要なのはなぜか、という問題です。聖霊の導きにより、わたしが強調する原則が真実であることが確認されるよう祈っています。

御父が立てられた幸福の計画

純潔の永遠にわたる重要性は、天の御父が御父の子供たちのために立てられた幸福の計画という広い視野に立って初めて理解することができます。「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されています。霊の息子、娘です。したがって、……神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。」（『家族——世界への宣言』または『リアホナ』2010年11月号、129）すべての人は地上へ来る前に、死すべき肉体を持つ者として、神の霊の子供として神とともに住んでいました。御父の計画により、神の霊の息子、娘たちは肉体を得、地上での経験を積み、昇栄に向って進歩することができます。

肉体の重要性

わたしたちは肉体があるおかげで、前

世ではとうてい得られなかった意義深く感動的な様々な経験を行うことができます。そこで、ほかの人との関係、真理を認め真理に従って行動する能力、イエス・キリストの福音の原則と儀式に従う力は、肉体を通してさらに強められます。現世の学びの場において、永遠の生活に備えられるように、優しさ、愛、親切、幸福、悲しみ、失望、苦痛、さらには肉体的な制約という苦難を経験します。簡潔に言えば、聖文に書かれているように「肉において」学ぶべき教訓があり、積むべき経験があるということです（1ニーファイ 19:6；アルマ 7:12-13）。

生殖の力

地球が創造された後、アダムはエデンの園に置かれました。しかし、重要なことに、神は「人が独りでいるのは良くない」と言われました（モーセ 3:18。創世 2:18も参照）。そしてエバがアダムの妻となり助け手となりました。幸福の計画を実行するには、男性と女性の霊と肉体、精神と情動の独特な結合が必要だったので、「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」のです（1コリント 11:11）。男性と女性は互いに学び、強め、祝福し、補うのです。



この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。」(『リアホナ』2010年11月号, 129) 生めよ, 増えよ, 地に満ちよ, という戒めは現代にも当てはまります。したがって, 男女間の結婚は, 前世の霊が現世へ入るための承認された手段です。結婚前の禁欲, 結婚後の貞節はこの神聖な手段を汚れから守るものです。

生殖の力には霊的に重要な意味があります。この力を誤って用いるならば, 御父の計画と現世の生活の目的が損なわれます。創造主である天の御父と御子は, 御二方の創造の力の一部をわたしたち一人一人にゆだねられました。命を生み出す力を正しく用いるための特定の指針は, 御父の計画の中で非常に重要な要素となっています。その神聖な力についてどう思うか, どう用いるかによって, 現世における幸福と永遠の世における行く末がほぼ決定されるのです。

ダリン・H・オックス長老はこう説明しています。

「この世に生命を送り出す能力は神がその子供たちに賜った至高の力です。その行使は最初の戒めの中で命じられました。しかし, その誤用を禁じる別の戒めも与えられました。神が御計画を実現されるうえで生命を生み出す力が果たす目的を理解すれば, 教会がなぜ純潔の律法を強調するのかは明らかです。……

結婚というきずなを離れてこの創造の力をどのように行使しても, それは多かれ少なかれ, 男女に付与された最も神聖な属性をおとしめ, ゆがめる罪深い行為です。」(「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号, 83 参照)

性道徳の標準

末日聖徒イエス・キリスト教会には, 性道徳という一つの不変な標準があります。性的な関係は神の計画の中で定められた婚姻関係を結んだ男女間でのみ認められています。そのような関係は単に好奇心や性欲を満たすためのものでもなく, 自分中心の娯楽や遊びでもありません。相手を征服するためのものでもなく, ただ行うものでもありません。それは現世の生活において人の神聖な特質や可能性を表す最高の方法の一つであり, 夫婦間の情緒的, 精神的きずなを強める一つの方法です。人は道徳的な選択の自由を祝福として頂いている者であり, 性的な行動, あるいは現代的な考え方, もしくは世俗的な論理ではなく, 神からの受け継ぎによって, 神の子供であると言えるのです。

生まれながらの人

わたしたち一人一人の中にはある程度, ベニヤミン王が述べている「生まれながらの人」が力を振るっています(モーサヤ3:19 参照)。生まれながらの人は悔い改めず, 肉欲や官能におぼれ(モーサヤ16:5; アルマ42:10; モーセ5:13 参

照), 気ままで度を越しやすく, 高慢で利己的です。スペンサー・W・キンボール大管長が教えているように, 「『生まれながらの人』とは, 動物的な情欲に負け, 霊的な心を曇らせてしまう『この世的な人』」です(「家族に流れる海流」『聖徒の道』1975年7月号, 292 参照)。

それとは対照的に, 「キリストの人」(ヒラマン3:29) は霊的で, 「激情をすべて制し」(アルマ38:12), 節度と自制心があり, 情け深く, 利己的ではありません。キリストの人は神の御言葉(みことば)をしっかりとつかみ, 自分を捨てて自分の十字架を負い(マタイ16:24; マルコ8:34; ルカ9:23; 教義と聖約56:2 参照), 忠実, 従順, 救い主と主の福音に対する献身を示しながら狭くて細い道を前進します。

神の息子, 娘としてわたしたちは神から神聖な能力を受け継いでいますが, 現在は墮落した世界に住んでいます。肉体が創造された源である元素はまさに, 生来墮落しており, 罪や墮落, 死の影響を常に受けています。したがって, アダムの墮落および, それが霊と現世の生活に与えた結果により, わたしたちは肉体を通してきわめて直接的な影響を受けています。それでもなお, 人は二つの部分から成っていて, 永遠の部分である霊が墮落の影響を受ける肉体に宿っています。イエスが使徒ペテロに強調したように, 「心は熱しているが, 肉体が弱い」のです(マタイ26:41)。

では現世の試しにはどのような特性があるでしょうか。それはまさに次の問いに要約されます。自分は生まれながらの人の傾向に従うのか, それとも聖霊の導きに従って生まれながらの人を捨て, 主イエス・キリストの贖いによって聖徒になるのかという問いです(モーサヤ3:19 参照)。これは試しです。生まれながらの人の性欲, 欲望, 性癖, 衝動はすべて, イエス・キリストの贖いによって克服することができます。わたしたちがこの地上へ来たのは, 神のような特質を伸ばし, 肉体の

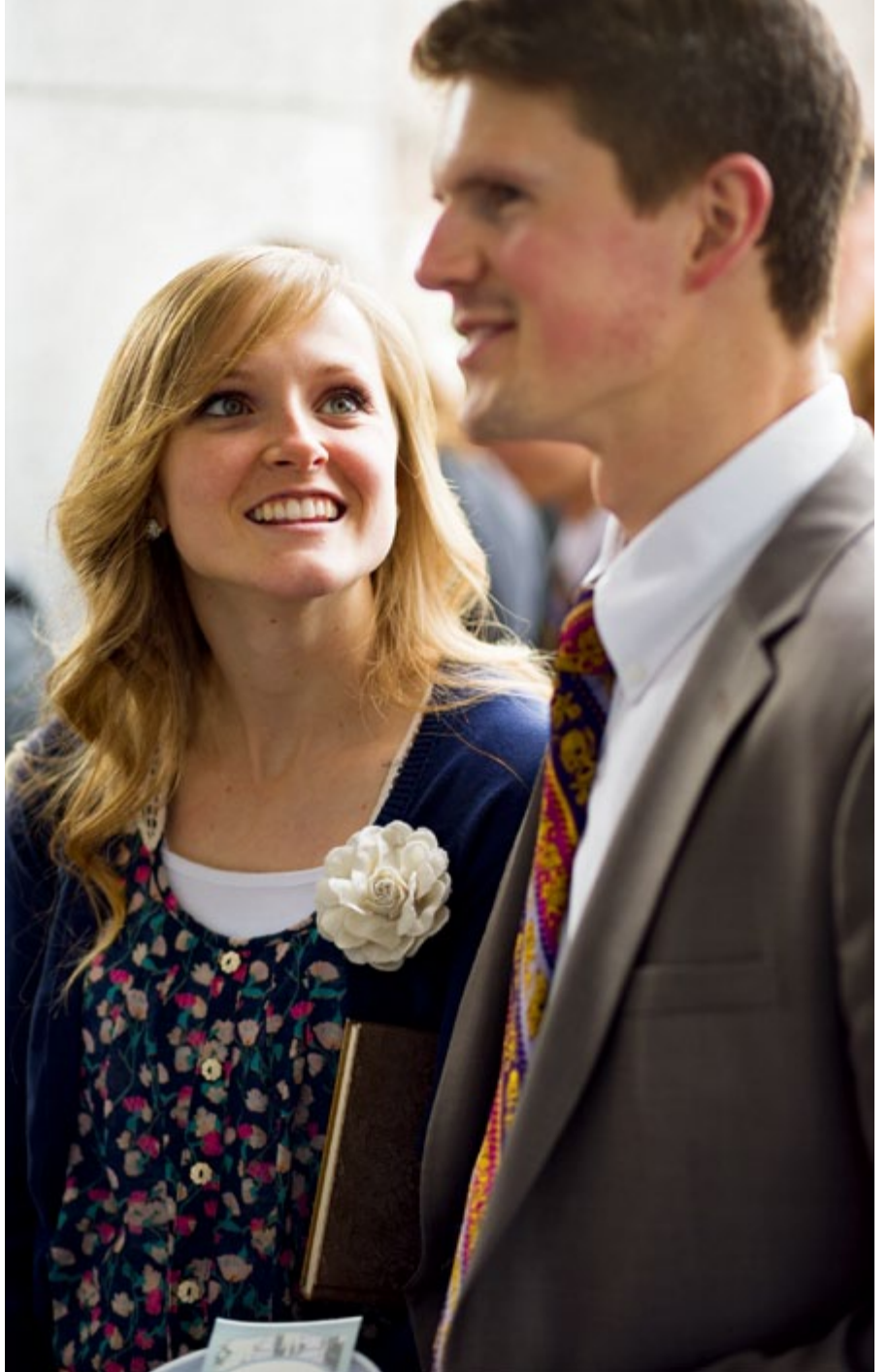
あらゆる情欲を制するためです。

サタンの意図

御父の計画の目的は、御自身の子供たちに導きを与え、幸福になるのを助け、復活し昇栄した肉体を授けてみもとへ無事に連れ戻すことです。天の御父はわたしたちが光の中でともに生活し、希望に満たされるよう望んでおられます。それとは対照的に、ルシフェルは神の息子、娘たちを混乱と不幸に陥れ、永遠の進歩を妨げようと躍起になっています。偽りの父がおもに目指すのは、すべての人が「自分のように惨めになる」ことです（2ニーファイ 2：27）。ルシフェルはわたしたちがついには暗闇の中で孤独を味わい希望を失うことを望んでいるのです。

サタンは執拗に、御父の計画の中で最も重要なものをゆがめようとしています。サタンには肉体がなく、永遠の進歩が止められています。川の水がダムによってせき止められているように、サタンは肉体がないために、永遠の進歩を止められているのです。ルシフェルは神に反抗したために、骨肉の体を通して可能となる現世のあらゆる祝福と経験を拒んだのです。肉体に宿った霊だけが学ぶことのできる教訓を学ぶことができません。全人類が文字どおり復活を実際に受けられるということに憤りを感じています。のろわれたという言葉が聖文に照らして説明するならば、成長を続けて天の御父のようになる能力がないという意味になるでしょう。

御父が立てられた幸福の計画と、人の霊的な成長にとって、肉体は非常に重要なものであるため、ルシフェルはわたしたちが肉体を誤って使用するよう誘惑して、わたしたちの進歩を妨げようとたくらんでいます。皮肉なことに、肉体を持たないゆえに惨めな状態にあるサタンは、肉体を持つわたしたちがその肉体を誤用し、サタン自身のように惨めになるよう誘惑しています。サタンは自分が持っている手段を、霊的な破滅へと誘う試みの



おもな標的にしているのです。

純潔の律法を破ることは由々しい罪であり、肉体の幕屋を誤って用いることです。救いの計画を知り理解する人々にとって、肉体を汚すことは背きの行為であり（モーサヤ 2：36 - 37；教義と聖約 64：34 - 35 参照）、わたしたちの本質が神の息子、娘であるという真実を否定することです。現世を超えて永遠の世に目を向けるとき、サタンが勧める偽りの交わりは一時的な空しいものであることがたやすく分かります。

純潔の祝福

アルマは息子シブロンに、「激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい」と勧めました（アルマ 38：12）。重要なことに、わたしたち一人一人の内にある生まれながらの人を鍛錬するならば、神と神の子供たちをいっそう豊かに深く、永続的に愛することができるようになります。愛は、義にかかった自制により増し、衝動的な放縦により消え去るのです。

マリオン・G・ロムニー管長はこう宣言しています。

「心の清い者、徳高い者に約束されてい



る祝福以上に、熱心に求めなければならない祝福がほかに考えられるだろうか。イエスは、徳高い行為にはそれぞれ特定の報いがあることを話されたが、最大の報いを、心の清い者のために残しておかれたように思われる。『彼らは神を見るであろう』と主は言っておられる（マタイ5:8）。そして、そのような人々は主にまみえるだけでなく、主の御前にあって安らぎを感じるであろう。

救い主が与えてくださった約束を読んでみよう。『絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増〔す〕であろう。』（教義と聖約121:45）（「主に頼りなさい」『聖徒の道』1979年10月号, 62参照）

また、わたしたちが徳の道を歩むとき、このように約束されています。「聖霊は常にあなたの伴侶と……なるであろう。」（教義と聖約121:46）したがって、純潔の律法を守るならば、現世で受けられる最大の祝福の幾つかを賜ります。すなわち、家族、友人、教会員、そして最終的には救い主の御前に出るのにふさわしい霊的な自信を得られるのです。希望をもって光の中を歩むとき、義にかなった方法で

もともとわたしたちの内に備わっている帰属感が満たされるのです。

悔い改めの原則

このメッセージを聞いている皆さんの中には、性的な罪やその他の罪を悔い改める必要のある人がいます。救い主はしばしば偉大な医者と呼ばれていますが、この呼び名には、文字どおりの意味と象徴的な意味があります。わたしたちは皆、肉体のけがや傷から生じる痛みを経験したことがあります。痛みを感じるとたいいてい、痛みが取り除かれることを望み、苦しみを和らげるための薬や治療をありがたいと思います。罪を、罪悪感、またはアルマが述べた「良心のとがめ」をもたらす霊的な傷と考えてください（アルマ42:18）。霊に対する罪の影響は肉体に対する苦痛の影響と似ています。つまり、罪悪感^{いび}は危険から身を守る警告となり、それ以上傷口を広げないようにする守りとなります。救い主の贖いから、霊的な傷を癒し、罪悪感を取り除くことができる癒しの膏葉^{こうやく}がもたらされます。しかし、この薬は主イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、一貫した従順の原則に従うことによつてのみ与えられるのです。心から悔い改

めるならば、その結果として良心の平安、慰め、霊的な癒し、再生を受けることができます。

皆さんのビショップや支部会長は、悔い改めと癒しを助ける権能を持つ霊的な医者^{いび}の助手です。でも忘れないでください。悔い改めの程度と深さは、罪の性質と重大さに釣り合ったものでなければなりません。特に聖約を交わした末日聖徒にとってはそうです。深刻で霊的な傷を完全に、また十分に癒すには、継続的な治療と時間が必要です。

約束と証^{あかし}

これまでに述べた教義は、生殖の神聖さをあざけり、人の命の価値をますます軽視する世の多くの人々にとっては古臭くて時代遅れのように思われることでしょう。しかし、主の真理は、流行や人気、世論によって変わるものではありません。純潔の律法に従うならば、現世では幸福が増し、永遠の世では進歩が可能になると約束します。純潔と徳は現在も、これまでも、そしてこれからも常に、「あらゆるものに勝つて最も大切で貴いもの」です（モロナイ9:9）。主イエス・キリストの聖なる御名^なにより証します、アーメン。■



十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

波に乗る

わたしは回復とその力によって全地に真理と義の大きな波を押し広げてくださる神と御子イエス・キリストに感謝しています。

愛する兄弟姉妹、わたしもトーマス・S・モンソン大管長やその他の指導者と同様に、もっと多くのふさわしい宣教師が必要であるという預言者の呼びかけに応じてきた人々をたたえたいと思います。現在、かつてないほど伝道活動に対する熱意の波が全世界に広がっています。昨年10月のモンソン大管長による歴史的な発表以来、大勢の長老や姉妹、夫婦が召され、またさらに多くの人が準備を進めています。¹ 今、わたしたちは、「このすべての宣教師をどうするのですか」というような質問を受けます。答えは簡単です。宣教師がいつも行ってきたことをこれから先も行います。福音を宣べ伝え、全能の神の子供たちに祝福をもたらすのです。

もっと多くの若い男性と女性の皆さんが、伝道の召しを受けるにふさわしくあろうと努めるときに、この波に乗ることでしよう。皆さんはこれが真理と義の波であること、その波の頂に乗る機会があることが分かります。

10代の皆さん、新しい教科課程を受け入れて、イエス・キリストの教義を互いに教え合ってください。今は皆さんが神の慈しみについてほかの人に教える準備をする時です。

若い男性と女性の皆さん、わたしたち、皆さん、そして神にとって、皆さんが教育を受けることは常に重要です。可能な所

では、もし皆さんが伝道後に大学に通いたいのであれば、伝道を始める前に志望校に入学願書を提出するようにしてください。多くの高等教育機関が宣教師候補者に18か月から30か月の休学を認めます。こうすることで、長老と姉妹の皆さんは、将来の高等教育を開始する場所について心配することなく奉仕できます。わたしたちはこのような計画を可能にしてくれている教育機関の指導者に非常に感謝しています。

両親、教師、その他の皆さん、宣教師として奉仕するのにふさわしいように若人を備えさせるとき、その波に乗ってください。そうするとき、皆さんの模範的な生活



は、友人や隣人の関心を引くことでしよう。皆さんが現在のような生き方をしている理由を尋ねる人に答えられるように用意をしていてください。皆さんの内にある希望と喜びについて説明できる用意をしていてください。² そのような質問をされると、次のように言うといいでしょう。「宣教師に尋ねてみましょう。きっと教えてくれます。もしよければ、宣教師がそれを教えてくれるときに、わたしも同席します。」

成人の皆さん、その波に乗って、将来の宣教師が霊的、物理的、また経済的に備えるのを助けてください。貯金箱に小銭を入れることが皆さんの習慣の一部となります。年配の夫婦の皆さん、伝道に行ける日の計画を立ててください。わたしたちが皆さんの奉仕をとっても感謝する日になることでしよう。その時まで、恐らく皆さんの中には、今朝再びモンソン大管長が提案したように、³ 中央宣教師基金に献金してお金を伝道部に送ることのできる人もいます。

その数が増している選ばれた兄弟とその愛する伴^{はんりよ}侶は、教会の伝道部を管理するように召されるときに、その波に乗ります。その奉仕で、彼らは現代と将来の人々の行く末に影響を及ぼします。伝道部会長は、宣教師の福利と安全と成功に対する責任の鍵^{かぎ}を持っています。伝道部内のステーク会長や地方部会長と相談した後、各伝道部会長は、宣教師に、特定のステーク、ワード、また支部で奉仕する割り当てを与えます。

ステーク会長とビショップは、宣教師候補者との面接にいつそう多くの時間を費やすことで、その波に乗ります。これらの神権指導者は、ユニット内の伝道活動に対する責任の鍵を持っており、会員に伝道への参加を促します。

各ワード評議会の兄弟姉妹が波に乗りに始めています。その評議会には、ワード伝道主任がいます。⁴ ここで、ワード伝道主任の皆さんそれぞれに向けて具体的に話したいと思っています。皆さんはワード



の伝道活動を進めるためにビショップにより召されました。また、多くの成果を上げているため、皆さんを助ける補佐が召されている人もいます。ワード評議会のほかの人々とともに、皆さんは、あまり活発でない会員やパートメンバーの家族、福音に関心のある隣人を特定します。皆さんは割り当てられている専任宣教師と定期的に集会を持ちます。宣教師に助言し、支援します。宣教師がデイリープランナーを予定でいっぱいにして、有意義な教える機会に集中できるように、彼らを助けてください。これは皆さんの責任です。皆さんの役割は重要です。この業を成功させるために実に重要です。皆さんが信仰と熱意をもって波に乗れば、ほかの人々もそうします。皆さんは、ワード伝道主任として、神の子供たちを救出するこの神聖な業において会員と宣教師をつなぐ役割

を負っている人です。⁵

教会員でない、探求心のある友人や隣人も、波に乗ることができます。わたしたちは彼らに、善いもの、真実なものをすべて保って生活するように勧めます。また、それ以上のもの、特に神の永遠の計画によって家族を永遠のものとすることができる輝かしい真理を受け入れるように勧めます。⁶

この真理と義の波は実に素晴らしいものです。人が作ったものではなく、主からのものです。「わたしは、時が来ればわたしの業を速やかに行う」と主は言われました。⁷ この波の起こりは193年前に発せられた神聖な宣言にあります。非常に短い御言葉です。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」⁸ 全能の神はこう述べて、少年ジョセフ・スミスを主イエス・キリストに紹介されました。こ

の短い御言葉で福音の回復が始まりました。なぜでしょうか。生ける神は愛に満ちている神だからです。神はその子供たちが神と神から遣わされたイエス・キリストを知るようにと願っておられるのです。⁹ そして、子供たちに不死不滅と永遠の命を得てもらいたいのです。¹⁰

この輝かしい目的のために、教会の宣教師は回復について教えます。宣教師は、およそ2,000年前に主が御自分の教会を設けられたことを知っています。主の十字架の刑と使徒たちの死後、人々は教会とその教義を変えました。その後、霊的な暗黒の時代を経て、昔の預言者たちが預言したように、¹¹ 天の御父とイエス・キリストが教会とその教義と神権の権能を回復してくださいました。その回復のおかげで、すべての人が救いと昇栄に関する知識と必要な儀式を再び得られるようになりました。¹² 究極的に、わたしたちは昇栄すると、神とイエス・キリストのみもとで永遠に家族とともに住むことができるのです。

わたしは回復について語るときにいつも感動を覚えます。これは実に素晴らしい歴史上の事実です。驚くべき事実です。目を見張る出来事です。天から使者たちがこの御業の権能と力を授けるために来たということは、何と素晴らしいことでしょうか。

永遠の御父とイエス・キリストは預言者ジョセフ・スミスに何度も御姿を現されました。¹³ 御二方の指示の下で、ほかにも天の使者たちがそれぞれの目的をもって訪れて来ました。例えば、

- 天使モロナイはモルモン書を現しました。¹⁴
- バプテスマのヨハネはアロン神権を回復しました。¹⁵
- ペテロとヤコブとヨハネはメルキゼデク神権を回復しました。¹⁶
- モーセはイスラエルの集合の鍵を授けました。¹⁷

- エライアスはアブラハムに関する知識の鍵を授けました。¹⁸
- エリヤは結び固めの権能の鍵を回復しました。¹⁹

そのほかに、昔の聖徒たちが持っていた知識が、回復によって加えられました。主は聖文が記された新たな書物を与えてくださいました。聖書に、イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書を加えてくださったのです。それは預言と、古代アメリカの民に対する復活された主の教導の業の記録です。神の偉大な幸福の計画²⁰ すなわち救いの計画²¹ について説いている書物です。モルモン書は聖書と完全に調和しています。これらの神聖な記録は両方とも、イエス・キリストの福音が真実であり、贖罪が重要であることを断言しています。²²

回復は聖書の多くの預言を成就します。

例えばイザヤは、主の家が山々の頂に立つと預言しました。²³ アメリカ西部の山々へのモルモンの開拓者の移住は、犠牲と信仰でその預言を成就した出来事です。イザヤはまた、神は「不思議な驚くべきわざ」を行われると預言しました。²⁴ それは現在、その数を増している宣教師の神聖な働きによって成就されつつあります。

什分の一に関する旧約聖書の教えが回復されました。²⁵ その結果、什分の一を納める人がさらに大勢、従順であることによって祝福を受けています。メルキゼデクに関する記述は、回復に伴って与えられた聖文により明確にされています。²⁶ ヨセフの木（モルモン書）とユダの木（聖書）は神の手で一つになるという預言は、現在すでに成就されています。²⁷

回復は新約聖書の聖文も明確にしています。死者のためのバプテスマに関する新約聖書の記述が、現在もっとよく理解さ

れています。²⁸ 亡くなった先祖のための儀式が、現在全世界の141の神殿で代理の儀式として執行されています。福音を知らずに死んだ先祖に救いを与える方法はほかにはないのです。²⁹ 「もうひとりの御使が中空を飛[び]……地に住む者……に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえ」来るという黙示者ヨハネの示現は、天使モロナイの使命とモルモン書について預言したものでした。³⁰

モルモン書は回復の最も重要な部分です。それは主の指示の下で書かれ、保存され、伝えられました。それは「神の賜物と力により」翻訳されました。³¹ 教義と聖約の書には、預言者ジョセフ・スミスに与えられた追加の多くの啓示が含まれています。わたしたちは、ほかのどの預言者よりもジョセフ・スミスを通して多くの聖文の記録を与えられています。彼は切ない思いを抱いたに違いない出来事があったときに、イリノイ州ノーブーで聖徒たちにこう述べました。「わたしは自分が完全であると言ったことは一度もありません。しかし、わたしが教えてきた啓示には、まったく誤りがありません。」³²

会員と宣教師は一つとなって、神とイエス・キリストと主の福音について学ぶようにすべての人に勧めます。探求心のある人は皆、熱心に求め、これらの事柄が真実であるという確信を得るために一心に祈るはずで。そして、真理が聖霊の力によって明らかにされることでしょう。³³

わたしは回復とその力によって全地に真理と義の大きな波を押し広げてくださる神と御子イエス・キリストに感謝しています。わたしたちがこの波に乗り、「あらゆる国民、部族、国語、民族」に福音を携えて行くようにという主の命令を果たせませすように、³⁴ イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「大会へようこそ」『リアホナ』2012年11月号、4-5参照
2. 1ペテロ3:15参照





十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

聖なる場所に 堅く立ちなさい

わたしたちは神の教義の上に従順に堅く立ち、聖なる場所に立っています。なぜなら、神の教義は神聖で、変わることがないからです。

3. トーマス・S・モンソン「再び大会に集い」『リアホナ』2011年5月号, 6参照
4. 『手引き 第2部 — 教会の管理運営』(2010年), 5.1参照
5. わたしたちは献身するように誠実に努めている聖徒たちに感謝しています。聖徒たちはもっと聖くなるように努めています。「まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを」求めています(ジョセフ・スミス訳マタイ6:38)。
6. 「家族は永遠に」『賛美歌』187番参照。詳しい説明については、教義と聖約132:7, 19を見てください。
7. 教義と聖約88:73
8. ジョセフ・スミス—歴史1:17
9. ヨハネ17:3参照
10. モーセ1:39参照
11. マタイ17:11; 使徒3:20-21; エペソ1:10; 2ニーファイ30:8; 教義と聖約132:40, 45参照
12. 3ニーファイ27:13-14, 21; 教義と聖約39:6; 信仰簡条1:4参照
13. カール・R・アンダーソン, *The Savior in Kirtland* (2012年), 228-243参照
14. 教義と聖約27:5参照。ジョセフ・スミス—歴史1:33-34も参照
15. 教義と聖約13章参照
16. 教義と聖約20:2-3; 27:12; 128:20参照。ラリー・C・ポーター, “Dating the Restoration of the Melchizedek Priesthood,” *Ensign*, 1979年6月号, 4-10も参照
17. 教義と聖約110:11参照
18. 教義と聖約110:12参照
19. 教義と聖約110:13-16参照
20. アルマ42章, 特に8節参照
21. 例として, アルマ12:28-30参照
22. 例として, 1コリント15:22; アルマ34:9参照
23. イザヤ2:2参照
24. イザヤ29:14
25. 創世14:18-20; マラキ3:8-10; 教義と聖約119-120章参照
26. 創世14:18; 詩篇110:4参照。アルマ13:14-18; 教義と聖約84:14-22も参照
27. エゼキエル37:16, 19; 教義と聖約27:5参照
28. 1コリント15:29; 教義と聖約128章参照
29. 教義と聖約137:7; 138:31-34参照
30. 黙示14:6。教義と聖約133:36-39も参照
31. モロナイが書いたモルモン書タイトルページ; 教義と聖約135:3
32. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』(2007年), 522
33. モロナイ10:4-5参照
34. 黙示14:6。1ニーファイ19:17; 教義と聖約133:37も参照

兄弟の皆さん、神の神権を持つ兄弟たちとともに集えることを光栄に思います。わたしたちは末日、つまり「苦難の時代」¹に生きています。神権を持つ者として、敵対する者の火の矢に対し、信仰の盾を持って堅く立つ責任があります。わたしたちは世の人々の模範となって、取り去られることのない天与の権利と自由を守っています。家庭と家族を守っているのです。

高校1年のとき、わたしは別の町で行われた野球の対抗試合に初めて行きました。帰って来ると父は、長い帰りのバスの中で、福音の標準に合わない言葉遣いや行いをわたしが見てきたことを察知しました。父はプロの画家で、座って騎士の絵を描きました。騎士は、城や王国を守る事ができる戦士です。

父が絵を描きながら聖文を読んでくれたので、忠実な神権者になって神の王国を守り、擁護するにはどうすればよいのが分かってきました。使徒パウロの次の言葉が指針になりました。

「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

すなわち、^{むねあて}立て真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

また、救^{すくい}のかぶとをかぶり、御霊^{みたま}の剣、すなわち、神の言^{ことば}を取りなさい。」²

兄弟の皆さん、神権の召しを忠実に果たすならば、神からの賜物としてこの武具が与えられます。わたしたちにはこの武具が必要です。

若い男性の皆さん、皆さんのお父さんやおじいさんは、皆さんが日々受けているような試練に直面することがありませんでした。皆さんは末日に生きています。皆さんのお父さんは自分から踏み込まないかぎり、困った事態に陥ることはありませんでした。今は違います。何もしなくても誘惑はやって来ます。これを忘れないでください。サタンは皆さんを欺こうとしており、「罪が門口で待ち伏せて」³います。サタンの強引な戦法に、皆さんはどう立ち向かいますか。神の武具で身を固めてください。

わたしの別の経験から教えましょう。

1982年1月、わたしはユタ州プロボにあるBYUの構内で開かれたディボーションナルで話しました。教会が説教台のこちらの端だとすると、世の中は、1メートルも離れていない反対の端だったと学生たちに言いました。わたしが大学生のころは「世の中の標準と教会の標準とに隔たりはあまりなかった」ことを伝えたのです。それから30年たったその日、わたしは学生たちの前に立ち、同じように両手を広げてこう説明しました。「世の中の標準は、教会の標準からかけ離れてしまいました。〔遠くに行ってしまう、ここから見えないくらいです。〕この建物を出て、はるかに遠く、地球の裏側まで行ってしまいました。……わたしたちや子供、孫たちが忘れてはならないのは、教会は変わらないということです〔まだここにいます〕。世の中は変わり続け、教会とのずれは大きくなる一方です。……ですから、よく注意してください。もし今の世の中と今後の動向を基準として自分の行動と教会の標準を判断するならば、自分が望ましくない状況にいることに気がつくでしょう。』⁴

当時は、世の人々がこんなにも速く、こんなにも遠く、神から離れてしまうとは想像もできませんでした。教義や原則、戒めが与えられていながら、なぜ神から離れてしまうのか理解できなかったのです。それでも、キリストとその教会の標準は変わりません。イエスが言われたように、「真理はとこしえにいつまでも**変わらない**」⁵のです。これを理解し受け入れるならば、社会的な圧力やあざけり、さらにはこの世の中や、自分自身を友人と呼ぶ人たちから受ける差別にすら、立ち向かう用意ができるようになります。

わたしたちの周りには、「わたしと友達になりたいなら、わたしの価値観を受け入れなさい」と言う人がたくさんいます。真の友達は、福音と友情のどちらかを選ぶよう求めたりはしません。パウロの言葉を借りると、「こうした人々を避け〔るべき〕」⁶なのです。真の友達は、細くて狭い道に



とどまるよう力づけてくれます。

聖約と戒め、儀式という福音の道にとどまるならば、わたしたちは守られ、この世で神の業を行う備えができます。知恵の言葉を守れば、アルコールや薬物、たばこなどの有害物質の中毒に陥ることなく、選択の自由が守られます。自分の一を納め、聖文を研究し、バプテスマと確認の儀式を受け、聖霊を常に伴侶にできるような生活をし、ふさわしい状態で聖餐を受け、純潔の律法に従い、準備をしてメルキゼデク神権を受け、神殿で聖なる聖約を交わすならば、奉仕する備えができるのです。

わたしたちは神殿で奉獻の律法に従う備えをし、それを守ると約束します。有能な若い男性は、宣教師になるように努め

ることによってこの律法に従います。人生の最初の20年間の10分の1の期間を、主へのフルタイムの奉仕にささげるのです。この犠牲を払うことによって彼らは強められ、人生で最も崇高な聖約に進むことができます。多くの人は神殿で結び固められ、永遠の家族を作り始めるのです。

細くて狭い道を押し進む過程で、霊的な力、つまり選択の自由を用いて思いのままに行動する力が増し加わります。新しいオンライン教科課程「わたしに従ってきなさい」を通して教義を学び、証を分かち合うことによって、若い男性も若い女性も、この霊的な成長が促進されます。

さらに、選択の自由を使って自分を成長させてください。自分の賜物や才能を見つける際には、両親や教師が助けとなる

ことを忘れてはならないのですが、御霊の導きに従わなければなりません。自分で選んで自分で行動するのです。自分から率先して行いましょう。教育や職業訓練を含めて、自分の人生を設計してください。興味のある分野を探求し、才能を伸ばしてください。努力して自立してください。目標を立て、過ちを克服し、経験を積み、取り組んだことをやり遂げてください。

道を進みながら、必ず家族や定員会、クラスの活動や合同ミューチャルの活動に参加してください。健全な娯楽を一緒に楽しんでください。このような経験を通して、皆さんは各人が持つ霊的な賜物と、

神の息子と娘が互いに補い合う永遠の特質を尊重してそれに感謝するようになります。

何よりも、救い主を信じる信仰を持ってください。恐れてはなりません。熱心に福音に従うならば、わたしたちは主にあって強くなります。主の力がともにあれば、「飲み食いし、楽しみなさい。……神は少しの罪を犯すことは許して下さる。……これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから……。」⁷と
言う反キリスト者を拒むことができます。いかなる哲学や信条が、救い主を否定し、神のすべての子供たちのために立てられ

た偉大な永遠の幸福の計画に異議を唱えようとも、主の力があれば、わたしたちはこれらすべてに立ち向かうことができるのです。

その永遠の計画の条件について議論を挟む権限はわたしたちにはありません。エルサレムを守る城壁を築く任務を受けたネヘミヤを思い出してください。責任を放棄して下って来るよう求められても、拒否しました。独善的だったわけではありません。端的にこう説明しています。「わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。どうして……工事をやめることができようか。」⁸

時には避雷針になって、神の標準を守り、神の業を行うためにあざけりを堪え忍ばなければならないこともあります。神の教義を基にして生活しているのであれば恐れる必要はないことを証します。誤解や批判、さらに言われのない非難まで受けることがあるかもしれませんが、わたしたちは決して独りではありません。救い主は「侮られて人に捨てられ」⁹しました。救い主とともに立つことは、わたしたちの神聖な特権です。

皮肉なことに、堅く立つことがこの世から距離を置くことや、この世から離れることを意味することさえあります。救い主は「サタンよ、引き下がれ」¹⁰と言われました。エジプトに売られたヨセフはポテパルの妻の誘惑から逃れるために走って逃げ、¹¹リーハイはエルサレムを後にして家族を連れて荒れ野に向かいました。¹²

安心してください。わたしたちより前の預言者も皆、それぞれの時代で堅く立ったのです。

ニーファイはサタンに打たれ、兄のレーマンとレムエルから迫害されながらも、主の特別な業を成し遂げました。¹³

アビナダイは自分の言葉を信じない人、自分をあざける人に向かってキリストのことを証し、死をも恐れませんでした。¹⁴

2千人の若い兵士たちは、福音を軽視する人々から家族を守りました。¹⁵



モロナイは、自由の旗を掲げて自分の民の家族と信仰の自由を守りました。¹⁶

サムエルは城壁の上に立ち、石や槍を投げつけられながらも、キリストが来られることを預言しました。¹⁷

預言者ジョセフ・スミスは救い主の福音を回復し、血をもって自分の証を結び固めました。¹⁸

そして、モルモンの開拓者たちは、ひどい反対や苦難に遭いながらも堅く立ち、預言者に従って長い距離を旅し、西部に定住しました。

これらの神の僕と聖徒が堅く立つことができたのは、救い主とともに立っていたからです。救い主がいかに堅く立っておられたかを考えてください。

イエスは若いころ、父親の仕事を忠実にやり、神殿で博学な人々に福音を説かれました。¹⁹ その務めを通して救い主は神権の業を果たされました。人を教え、癒し、仕え、祝福し、高められたのです。時に応じて大胆に悪に向かって立ち、神殿をも清められました。²⁰ また、言葉や威厳ある沈黙によって、真実を擁護して立つこともなさいました。祭司長たちがカヤパの前で主を告発したときには、賢明かつ勇敢に、偽りの証言に答えることを拒み、黙っておられたのです。²¹

ゲツセマネの園で、わたしたちの救い主であり贖い主であられる御方は、贖いの苦い杯を飲まずに身を引くことはなさいませんでした。²² 最後まで堪え忍ばれたのです。そして遂に、「すべてが終わった」²³ と言えるようになるまで、御父の御心を行うために十字架上で再度苦しまれました。堅く立ち、完全な従順を示された救い主に対して、御父はこう言われました。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。」²⁴

様々な年代にある、愛する神権者である兄弟の皆さん、わたしたちの救い主イエス・キリストとともに堅く立って神の御名をあげましょう。救い主が生きておられ、その



みわざに携わるために、わたしたちは「聖なる召しを受けている」²⁵ ことを、特別に証します。「それゆえ、……あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。」²⁶ わたしたちは神の教義の上に従順に堅く立ち、聖なる場所に立っています。なぜなら、社会的、政治的な信条は移り変わろうとも、神の教義は神聖で、変わることがないからです。わたしは使徒パウロのように宣言します。「目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。」²⁷ これが、皆さんに対するわたしの心からの祈りです。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

注

1. 2テモテ3:1
2. エペソ6:13-17, 強調付加
3. モーセ5:23
4. ロバート・D・ヘイルズ, "This Is the Way; and There Is None Other Way," *Brigham Young University 1981-82 Speeches*

- (1982年), 3-4に掲載。speeches.byu.eduからご覧いただけます。
5. 教義と聖約1:39, 強調付加
6. 2テモテ3:5
7. 2ニーファイ28:8
8. ネヘミヤ6:3
9. イザヤ53:3; モーサヤ14:3
10. ルカ4:8 (訳註——「サタンよ、引き下がれ」という意味の言葉は日本語訳にはない。)
11. 創世39:7-12 参照
12. 1ニーファイ2章参照
13. 1ニーファイ18章などの例を参照
14. モーサヤ11-17章参照
15. アルマ53, 56-58章参照
16. アルマ46:11-13 参照
17. ヒラマン13-16章参照
18. 教義と聖約135章参照
19. ルカ2:46-49 参照
20. マタイ21:12-13 参照
21. マタイ26:57, 59-63 参照
22. 教義と聖約19:16-19 参照
23. ヨハネ19:30
24. 3ニーファイ11:7
25. アルマ13:3。2テモテ1:9も参照
26. 教義と聖約87:8
27. 1コリント16:13



七十人会長会
タッド・R・カリストー長老

若者が持つ神権の力

若者が持つ神権は義にかなって行使されるとき、大人が持つ神権と同じように力強いのです。

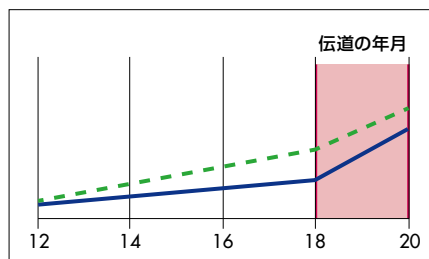
18 78年、わたしの曾祖父のジョージ・F・リチャーズは17歳でした。この時代には時々あったことですが、曾祖父はすでに長老に聖任されていました。ある日曜日、彼の母親はひどい痛みでうめいていました。そのとき彼の父親は対応できなかったため、ビショップとほかの数人が母親に祝福を与えるように招かれましたが、彼女の痛みは取り除かれませんでした。そのため、彼女は息子のジョージの方を向き、祝福してくれるように頼みました。ジョージは自分の日記にこう書いています。「わたしは母が苦しんでいること、そして今まで一度もしたことの無い神権の祝福をするように頼まれたことで泣いていました。そして別の部屋に行き、涙を流して祈りました。」

彼は落ち着くと、母親の頭に手を置き、とても簡潔な祝福を与えました。後に彼はこう記しています。「わたしの手がまだ母の頭の上にあるときに、母のうめきは止まり、母は苦しみから解放されました。」そして曾祖父は、次の最も洞察に満ちた考えを記しました。曾祖父の母親がビショップの祝福によって癒されなかったのは、主がビショップの祝福を尊重されなかったからではなく、主が一人の若者のために祝福を取っておかれたからだに曾祖父は常に感じていた、と述べています。その祝福とは、若者が持つ神権は義にかなって行使されるとき、大人が持つ神権と同

じように力強いという教訓を、曾祖父が学ぶことでした。

今夜、わたしはこの力について話したいと思います。執事定員会会長について話しますが、これから話す原則はアロン神権を持つすべての青少年と、教師定員会会長および祭司定員会会長補佐を含むそれぞれの指導者にも当てはまります。

伝道部会長として奉仕していたとき、わたしは、若い長老たちが伝道期間中に、霊性とリーダーシップの技術を劇的に増し加えるのを見ました。若い男性の期間と伝道期間を通しての彼らの霊性とリーダーシップの技術のレベルを、数値で表すことができるとしたら、それはこのグラフのような線を描くでしょう。伝道期間中のこのような劇的な成長には、少なくとも3つの要素がかかっているとわたしは思います。一つ目は、今まで以上に、わたしたちが彼らを信頼することです。二つ目は、わたしたちが彼らに対して愛と高い期待を持つことです。そして3つ目は、彼



霊性と指導力

らはその期待にしっかりとこたえることができるように、わたしたちが彼らを繰り返し訓練することです。

こう尋ねることができるかもしれません。「これらの原則を執事定員会会長にも当てはめられるのではないのでしょうか。」もしそうすれば、成長はもっと早くから始まり、このグラフ上の緑の線になるでしょう。今から、これらの原則を、どのように執事定員会会長に当てはめることができるのかについて話したいと思います。

まずは信頼についてです。わたしたちは執事定員会会長に大きな責任を任せることができません。実際、主はそうされています。それは主が彼らに鍵、すなわち、彼らの定員会を管理し、その業を指示する権利を進んでお与えになることによって示されています。この信頼の証拠として、わたしたちは執事定員会会長を、定員会の在籍期間やそれに類似した要因のみで召すのではなく、啓示によって召します。執事定員会会長を含むこの教会のすべての指導者には、自分が啓示によって召されたと知る権利があり、そう知るべきです。このように確信することで、自分が神から信頼され、支持されていることを知る助けとなります。

二つ目と3つ目の特質である、高い期待と、それにこたえるための訓練は密接に関連しています。わたしは伝道地で偉大な教訓を学びました。それは、往々にして宣教師の働きが、伝道部会長の期待の度合いに応じて良くも悪くもなるということです。それは執事定員会会長についても同じです。もし定員会集会の司会やビショップリック青少年委員会集会への出席しか期待しなければ、彼らがするのはそれだけになります。しかし、指導者の皆さんは彼らにより大きなビジョン、つまり主のビジョンを与えることができます。なぜビジョンはそれほど重要なのでしょうか。それは、より大きなビジョンがあればより大きな動機が生まれるからです。



啓示を受ける権利は、この教会のすべての召しに本来備わっています。それゆえ、執事定員会会長たちは、顧問を推薦するための啓示を受ける権利、迷い出た人々の救助に関する啓示を受ける権利、そして定員会の会員に、彼らの義務について訓練するための啓示を受ける権利を持っていることを知る必要があります。

賢い指導者は、執事定員会会長が啓示を受けるうえで助けとなる原則を教えます。指導者は執事定員会会長に、「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を……受け[る]。」(教義と聖約 42:61) という主の明確な約束を教えることができます。主は惜しみなく啓示を与えてくださいます。主はジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに、「あなたは……尋ねる度に、わたしの御霊からの教えを受けてきた」



ことを思い起こさせられました(教義と聖約 6:14)。ですから、執事定員会会長の皆さんに対しても同じなのです。主は皆さんを愛しておられ、主の思いと御心を皆さんに明らかにしたいと望んでおられます。主が、解決できない問題を抱えておられることを皆さんは想像できるでしょうか。わたしにはできません。皆さんは啓示を受ける権利を持っているので、皆さんが主の助けを求めさえすれば、定員会の会長として抱えているすべての心配事を解決できるように、主は助けてくださいます。

すばらしい指導者の皆さんは執事定員会会長に、啓示が勤勉と個人の努力に取って代わるものではないことを教えるでしょう。以前、ヘンリー・B・アイリング管長がハロルド・B・リー大管長に「どうすれば啓示を受けられますか」と尋ねました。リー大管長はこう答えました。「もし啓示を受けたいのであれば、状況をよく見て、分析してください。」¹ 賢明な指導者は、執事定員会会長が顧問を推薦する備えをするために行う幾つかの霊的な働きについて、定員会会長と話し合うでしょう。定員会会長は次のような質問をし、答える必要があるでしょう。ほかの若い男性を励ますことのできる良い模範となる人はだれだろうか。特別な困難に直面している人の必要に敏感な人はだれだろうか。

最後にこの賢い指導者は、執事定員会

会長に、啓示が来るときに認識し、それに従って行動する方法を教えるでしょう。わたしたちは、まぶしい光と大きな雑音が当たり前で、速くて刺激的なもので満たされている世の中に生きています。しかし、それは世の方法であり、主の方法ではないことを、この若い男性は知る必要があります。救い主は、ほとんどだれも主を知らない所でお生まれになりました。主は、世の初めから終わりまでの間で、最も崇高で比類のない行いを静かな園でされました。ジョセフ・スミスは、最初の示現を人里離れた森で受けました。神からの答えは静かな細い声で訪れます。それは平安や慰めの気持ちであり、善いことを行うように促される印象であり、啓発される思いです。またそれは時々、小さな思いの種の形で訪れ、敬虔に養うなら霊的な巨大樹になり得るものです。時々これらの印象や思いは、執事定員会会長の皆さんに、顧問を推薦したり、現在活発でない若い男性に責任を与えたりするように促すかもしれません。

何年も前にステーキ会長会で奉仕していたとき、一人の善良な男性をステーキ書記として召すように促されました。当時の彼は、定期的に教会に出席するのが困難な状況にありました。しかし、わたしたちは、彼が召しを受け入れれば、すばらしい働きをしてくれることを知っていました。



わたしたちは召しを伝えましたが、彼の答えは「いいえ、わたしにはできないと思います」でした。

それからある印象が浮かび、わたしは「それでは、グレンデールステーキにはステーキ書記がないことになりますね」と言いました。

彼は驚いて言いました。「何を言っているのですか。ステーキ書記は必要ですよ。」

わたしは答えました。「主があなたを召すようにわたしたちを促しているのに、わたしたちにほかのだれかをステーキ書記として召してほしいのですか。」

彼は「分かりました。わたしがやります」と言いました。

そして彼は実際に召しを果たしました。多くの大人だけでなく、多くの若者も、主に召され、必要とされていることを知るときに、その召しにこたえることでしょう。

次に、皆さんは執事定員会会長に、主が彼に対してされている期待の一つは、活発でない会員と教会員ではない人の両方を含む、失われた人々を救助することだと知らせることができます。主は御自身の使命の中心となることを、次の言葉で宣言されました。「人の子は、滅びる者を救うためにきたのである。」(マタイ 18:11) もし失われた人々を救助することが救い主の優先事項であるのなら、もしそうすることがトーマス・S・モンソン大管長の優先事項であるのなら、同じようにすることはこの教会のすべての指導者、すべての執事定員会会長の優先事項であるべきではないでしょうか。リーダーシップの中心

にあり、わたしたちの奉仕の中心部分としてあるべきものは、失われた人々のところへ行き、彼らを連れ戻すという、燃えるような、切実で確固とした決心なのです。

定員会の会員たちが訪問した一人の若い男性はこう言いました。「今日 30 人も人がわたしの家に来たことは驚きでした。……教会に行きたいという気持ちになりました。」そのような愛と心遣いに、青少年は抵抗できないでしょう。

正しい観点を得て、定員会集会で、時折レッスンのすべてまたは一部を教えている執事定員会会長についての多くの話を聞くとき、わたしの胸は高鳴ります。数週間前、わたしはある執事定員会のクラスに出席しました。12歳の若者が贖いについて25分間のレッスンをしてくれました。彼はほかの執事たちに、彼らが考える贖いとは何かを尋ねることから始めました。それから彼は意義深い聖文を幾つか分かち合い、思慮深い質問をし、彼らはそれに答えました。しかし、時間が余ることに気づいた彼は、賢明さと恐らくは父親からの事前の助言により、クラスに出席していた指導者に、彼らが伝道中に贖いについて尋ねられた質問とその答えを分かち合うように尋ねました。そして彼は自分の証でレッスンを終えました。わたしは驚嘆して聞いていました。わたしはこう考えていました。「わたしがアロン神権の青少年だったときに、レッスンの大部分を教えたことなんて一度でもあっただろうか。」わたしたちは若い男性に対する期待とビジョンを高めることができます。そして彼らはそれにこたえるでしょう。

指導者の皆さんは、執事定員会会長に物事を指揮させ、クラスの注意を皆さんに向けさせるのをやめるときに、彼らを最も高めることができます。皆さんが素晴らしいレッスンをするときではなく、彼らが素晴らしいレッスンをすることを皆さんが助けるときに、また、人を救助するときではなく、彼らがそうするのを助けるときに、皆さんは召しを導んで大いなるものとしたことになるのです。

「知恵を自分の中に残したまま死なないように」という昔のことわざがあります。わたしは大人の指導者に同じようにお伝えします。リーダーシップの技術を自分の中に残したまま解任されなくてください。あらゆる機会であらゆる青少年を教えてください。アジェンダを準備する方法、威厳と思いやりをもって集会の司会をする方法、人を救助する方法、靈感に満ちたレッスンを準備し、行う方法、そして啓示を受ける方法を彼らに教えてください。若い男性の心と思いにリーダーシップと霊性をどれほど刻むことができたかが、皆さんの成功を量るはかりとなります。

執事定員会会長の皆さんは、召しを導んで大いなるものとするならば、若い今でも、神の御手に使われる者となるでしょう。なぜなら、若者が持つ神権は義にかなって行使されるとき、大人が持つ神権と同じように力強いからです。そして、皆さんが神殿の聖約を交わし、宣教師そしてこの教会の将来の指導者となるとき、皆さんは啓示を受ける方法、人を救助する方法、そして力と権能によって王国の教義を教える方法を知っていることでしょう。そして皆さんは生まれながらに受けている高貴な権利にふさわしい青少年となるでしょう。世の救い主、贖い主であられるイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. ヘンリー・B・アイリング “Waiting upon the Lord” *Brigham Young University 1990-91 Devotional and Fireside Speeches* (1991年), 17



中央若い男性会長
デビッド・L・ベック

仕え、教え導く 神聖な務め

皆さんは神権に聖任された瞬間から、力と権能と、教え導く神聖な務めを受けているのです。

仕え、教え導く喜び

アロン神権者である若い男性の皆さん、皆さんは神から愛されている息子です。神には皆さんに携わってほしい偉大な業があります。この業を成し遂げるには、人々に仕え、教え導くという神聖な務めを果たさなければなりません。¹

仕え、教え導くとはどういう意味か知っていますか。シャイ・ジョンソンという名の女の子のことを話す間、この質問について考えてください。

昨年シャイは高校生活を始めたとき、残酷で軽率ないじめの被害者となりました。教室に入るとひどい扱いを受け、突き飛ばされ、なじられました。ごみを投げつけてくる生徒もいました。皆さんの学校でもこんなふう虐待されている人を見かけたことがあるかもしれません。

あまりに多くの人にとって10代は孤独と恐れの時期ですが、このような経験をする必要などありません。幸いにもシャイには、仕え、教え導くとはどういう意味がよく分かっている若者たちが学校にいました。

シャイの母親は学校の教師にいじめがなくなるよう助けてほしいと頼みましたが、なりませんでした。そこでカーソン・ジョーンズというアロン神権者に連絡を取

りました。フットボールチームの司令塔であるクォーターバックで先発を務める人物です。母親は彼に、いじめている子を見つめるのを手伝ってほしいと頼みました。

カーソンは引き受けましたが、心の奥で、ただいじめる生徒を特定する以上のことが自分にはできるのではないかと感じました。御霊は彼に、シャイが愛されていると感じられるよう助けなければならぬとささやきました。

カーソンはシャイへの務めを果たすために手を貸してほしいとチームメートの何

人かに頼みました。彼らは昼食のときに一緒に座らないかとシャイを誘いました。シャイが無事に教室まで行けるよう付き添いました。当然のことながら、親友がフットボール選手になってからは、もうだれもシャイをいじめませんでした。

その年はフットボールチームにとって胸を躍らせるシーズンでした。でも、シーズン全勝の感動の中にあっても、この若者たちはシャイのことを忘れませんでした。試合後にはグラウンドにいるチームのもとと一緒に来るようシャイを招きました。シャイは心強く思いました。幸せでした。

このフットボールチームは勝ち続け、州で優勝しました。しかし、フットボールで優勝するよりもさらに大切なことが学校で起きました。ほかの生徒がこの若者たちの模範に動かされ、もっと素直になり仲良くするようになっていったのです。今や生徒たちは、互いに対しもっと親切で、尊重し合うようになりました。

全国ネットのマスコミがこの若者たちのしたことを知り、一連の話を国中に紹介しました。一人に仕えようとして始まったこの話に大勢が鼓舞され、それに倣うようになりました。

シャイの母親はこの若者たちのことを「姿を変えた天使」と呼んでいます。カー





ソンと友人たちはすぐさまこう答えます。「ぼくたちがシャイの生活に祝福をもたらしたより、はるかにシャイはぼくたちに祝福をもたらしてくれました。」これが自分を忘れて人に仕えるときに起こることです。つまり自分を見いだすのです。² 皆さんはそれ以外ではできないような方法で変わり、成長します。この若者たちは、仕えて教え導く喜びを味わい、人々を祝福する機会を探し続けています。そしてこれから何か月かの間に専任宣教師として召され、さらに広く人々に仕え、教え導くようになることを心待ちにしています。³

必要と務め

世界中にはシャイ・ジョンソンのような人が何千人もいます。天の御父の愛を感じる必要のある人たちです。皆さんの学校や定員会、そして家族にもいるかもしれません。すぐに思い浮かぶ人もいるでしょうし、それほど目立たなくても必要を抱えた人もいます。皆さんの知っているほとんどの人が皆さんの働きによって何らかの方法で祝福を受けられることでしょう。主は皆さんを頼りにし、彼らに手を差し伸べるよう望んでおられます。

人に仕え、教え導くのにスター選手であ

る必要はありません。皆さんは神権に聖任された瞬間から、力と権能と、教え導く神聖な務めを受けているのです。ジェームズ・E・ファウスト管長はこう教えました。「神権とは、神の御名によって **教え導く** ために人に託された権能です。」⁴ アロン神権者は天使の働きの鍵、つまり教え導く働きの鍵を持っているのです。⁵

皆さんが天の御父の子供たちを愛するとき、御父は皆さんを導いてくださり、天使が助けしてくれます。⁶ 皆さんは人々を祝福し魂を救う力を与えられるでしょう。

イエス・キリストは皆さんの模範です。主が来られたのは「仕えられるためではなく、仕えるため」です。⁷ 仕え、教え導くとは、愛し、世話することです。物心両面の求めに応じるよう心を配ることです。つまり、救い主がここにいたらなさるであろうことをするという意味です。

あなたの家族

自分の家庭から始めてください。家庭こそが、皆さんの最も大切な働きができる場所です。⁸

おもしろい実験を試してみたいですか。お母さんが家事のことで次に何か頼んできたなら、「頼んでくれてありがとう、母さん。

喜んで手伝うよ」というふうに言ってください。そしてお母さんの反応を見るのです。この実験の前に応急手当の腕を磨いておいた方がよい人もいるでしょう。お母さんが驚いて倒れてしまうかもしれませんから。お母さんの意識を取り戻してから、皆さんは親子関係が著しく向上し、家庭に御霊が増していることに気づくでしょう。

これは家族に仕え、教え導く方法の一つにすぎません。方法はほかにたくさんあります。家族に優しい言葉で話するときも、仕えていることになります。きょうだいに親友のように接するときにも仕えていることになります。

恐らく最も大切なのは、お父さんが家庭で霊的な指導者として務めを果たすのを助けることで皆さんが仕えることです。家庭の夕べや家族の祈り、家族の聖文学習で全面的に協力し、力になってあげてください。家庭に御霊があるように皆さんのなすべきことを行ってください。こうするなら、役割を果たすお父さんを強めるとともに、皆さんが将来父親になる備えとなるでしょう。家庭に父親がいない場合、皆さんが家族に仕える務めを果たすことはいっそう必要です。

あなたの定員会

皆さんには自分の属する定員会で仕え、教え導く務めもあります。

神権は世界中に広がっています。皆さんの多くはモンソン大管長のレスキューの呼びかけに聞き従っていることでしょう。今日、教会の歴史上かつてないほど多くの活発なアロン神権者がいます。しかし、活発でなく皆さんを必要としている人々が依然として存在するのです。

昨年の6月、新しい支部がインドのバンガロールに設立されました。神権会で唯一の若い男性は、最近執事に聖任されたグラードウィンという名の少年でした。

グラードウィンは、若い男性会長と支部会長とともに、活発でない若い男性に電

話したり家を訪ねたりし始めました。間もなく、二人目の若い男性、サミュエルが再び教会に来るようになりました。

毎週グラードウィンとサミュエルは、定員会に出席しなかった人たちに電話し、学んだことを分かち合いました。誕生日には電話をするか訪問しました。一人また一人と、活発でなかった若い男性たちは友達となり、定員会の活動に誘うと応じるようになりました。今日、支部の若い男性全員が教会に活発に集っています。

アロン神権定員会は会議の席に着き、互いに教化し合う、つまり高め合い強め合うようにと、聖文は教えています。⁹ 皆さんは福音の真理を教え、霊的な経験を分かち合い、証を述べるときに、教化し合います。青少年の教科課程は定員会の集会でこの相互の働きかけを促してくれますが、それは定員会の会員皆が愛され大事にされていると感じるときにのみ実現するのです。定員会集会にはあざけりやいじめが入り込む余地はありません。気持ちを隠さずに打ち明けられるような定員会ならなおさらです。定員会の集会を全員が安心して参加できる場所にするよう、定員会会長会は率先して努めなけ

ればなりません。

使徒パウロは次のように勧めています。「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。」¹⁰

神権者は決して下品で汚れた言葉を使ってはなりません。決して人をけなしたり傷つけたりしてはなりません。常に人を高め、強めるのです。これは仕え、教え導くうえで簡単ながら力強い方法です。

どんなときも

仕え、教え導く業は、儀式やホームティーチングでの訪問、時折の奉仕計画に限られるものではありません。わたしたちはどんなときも神権者です。日曜日だけではなく、ワイシャツを着てネクタイを締めているときだけではなく、どこにしようと仕え、教え導く義務があります。仕え、教え導くという働きは、わたしたちにとって単なる行いではなく、わたしたちが何者であるかを示すものでもあるのです。

毎日、仕え、教え導いてください。その

機会は皆さんの周りの至る所にあります。探してください。認識できるよう主に助けを求めてください。皆さんはその機会のほとんどが、ささやかながらも心のこもった行いで成り立つことに気づくでしょう。そうした皆さんの行いは、ほかの人がイエス・キリストに従う者となれるよう助けるのです。¹¹

御霊にふさわしくなろうと努めるとき、仕え、教え導くように促す考えや思いに気づくでしょう。促しに従って行動するとき、皆さんは自分の行った以上に受け、しかも仕え、教え導く機会と能力は増し加わり、広がっていくでしょう。

若い兄弟の皆さん、皆さんは神の御名によって仕え、教え導くために、このすばらしいアロン神権の権能と力を授かっていることを証します。

皆さんが行動するとき、神の御手に使われる者となって人を助けることができると証します。皆さんの人生はさらに豊かで有意義なものとなるでしょう。悪を阻止するさらに大きな力を見いだすでしょう。イエス・キリストに真に従う者にのみ知られている真の幸福を見いだすでしょう。

仕え、教え導く神聖な務めを果たす喜びを皆さんが味わえますように、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 84 : 111 参照
2. マルコ 8 : 35 参照
3. トレント・トューン, "Kindness of Arizona High School QB Carson Jones and Teammates Has Gone Viral," *Deseret News*, 2012年11月9日付参照. deseretnews.com/article/865566351/Kindness-of-Arizona-high-school-QB-Carson-Jones-and-teammates-has-gone-viral.html
4. ジェームズ・E・ファウスト「孫へのメッセージ」『リアホナ』2007年5月号, 54
5. 教義と聖約 13 : 1 参照
6. 教義と聖約 84 : 88 参照
7. マタイ 20 : 27 - 28 参照
8. 『手引き 第2部』(2010年) 2. 4. 5 参照
9. 教義と聖約 107 : 85 参照
10. エペソ 4 : 29
11. 『手引き 第2部』 3. 2. 3 参照





大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

4つの称号

わたしは……4つの称号を提案したいと思います。それらの称号は、神の永遠の計画におけるわたしたち個人の役割と、……神権者としての可能性を理解する助けとなるでしょう。

愛する兄弟であり、友である皆さんとともにこの場にいられることで、わたしの心は感謝と喜びにあふれています。息子や孫をお連れのお父さんや祖父の皆さんに、賞賛の言葉を送ります。今日ここに来ることを選んだ若い男性の皆さんを歓迎します。ここは皆さんにふさわしい場所です。わたしたちを一つに結ぶ兄弟愛を感じることができるように願っています。ここで兄弟たちとともに、きずなや支え、友情を見いだせるように祈っています。

わたしたち男性は時々、称号で自分自身を表します。わたしたちの多くには複数の称号があって、それぞれの称号はわたしたちが何者であるかについて大切なことを伝えています。例えば、幾つかの称号は、**息子**、**きょうだい**、**夫**、**父親**のように、家族での役割を表しています。その他の称号としては、**医師**、**軍人**、**職人**のように、世の中の職業を表しています。そしてある称号は、教会内での召しを表しています。

今日、わたしは世界中のすべての神権者に当てはまるとされる4つの称号を提案したいと思います。それらの称号は、神の永遠の計画におけるわたしたち個人の役割と、末日聖徒イエス・キリスト教会の神権者としての可能性を理解する助けとなるでしょう。

天の御父の息子

最も基本的な意味でわたしたちすべてを定義付ける一つの称号は、**天の御父の息子**です。たとえわたしたちが何者であって人生で何をしようと、わたしたちが文字どおり神の霊の子供であることを忘れてはなりません。この世界に来る前、わたしたちは神の子供でした。そしてわたしたちは永遠に神の子供です。この基本的な真理は、自分自身、兄弟姉妹、そして人生そのものの見方を変えるはずで

残念なことですが、この称号が意味するすべてのことに完全にふさわしく生活している人はいません。「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」¹いるからです。

神の息子であることの意味を知りながら、その可能性を生かしていないことが分かると、時に落胆してしまいます。サタンはそのような感情に乗じることを好みます。サタンは、皆さんの神聖な可能性よりも、むしろ罪によって自分自身の価値を決めるように仕向けます。兄弟の皆さん、サタンに耳を貸してはなりません。

わたしたちは皆、赤ちゃんが歩き始めるのを見たことがあるでしょう。赤ちゃんは小さな歩幅でよちよち歩いては倒れます。わたしたちはそのような努力をとがめるのでしょうか。もちろんそのようなことはしません。つまり赤ちゃんを罰する父親

がいるでしょうか。むしろ、励まし、拍手し、ほめたたえます。あらゆる小さな一歩を重ねてその子供は両親にさらに似た者になるのです。

さて、兄弟の皆さん、神の完全さに比べると、わたしたち死すべき人間は、ぎこちなくよろめく赤ちゃんとはほとんど変わりません。しかし、わたしたちの愛する天の御父は、わたしたちが御自分になることを望んでおられます。そして、愛する兄弟の皆さん、それはわたしたちの永遠の目標でもあるべきなのです。神は、わたしたちが瞬時にではなく、歩みを一歩ずつ踏み出すことでそこに到達することを理解しておられます。

わたしは、戒めと規則を決めてわたしたちが失敗するのを待ち、それから罰を与えるだけの神がおられるなどとは信じていません。わたしが信じている天の御父は、しっかりと立って神に向かって歩くあらゆる努力を喜ばれ、わたしたちを愛し、心にかけてくださっている御方です。わたしたちがつまずいたときさえ、神はわたしたちが落胆しないように、決して自らの責任から逃げたりあきらめたりするのではなく、勇気を奮い、信仰をもってやり続けるように強く促してくださるのです。

わたしたちの天の御父は御自分の子供たちを教え導かれ、救い主に従う望みを持った子供たちにしばしば目に見えない天の助けを送られます。

イエス・キリストの弟子

そして、それがわたしたちすべてが共有している次の称号につながります。キリストに従おうと熱心に努める人は皆、キリストの**弟子**と呼ばれます。わたしたちのだれもが完全でないことは理解していますが、わたしたちの基準を引き下げたり、受けている特権以下の生活をしたり、悔い改めの日を引き延ばしたり、あるいはもっと成長して、さらに良い、さらに完全な、さらに聖められた王であられる主の僕になることをおろそかにしたりするための言い訳

として、その事実を使ったりはしません。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、この世の誘惑に影響されない完全な男女のために建てられたのではなく、むしろ、まさにわたしや皆さんのような人のために建てられたのです。そしてこの教会は、わたしたちの贖い主、主イエス・キリスト²の岩の上に建てられ、主の贖罪を通してわたしたちは聖められ、「同じ国籍の者……神の家族」³になることができます。

イエス・キリストの贖罪がなければ、人生は希望も未来もない行き止まりの道です。贖罪により人生は、天の御父のみもとにおける永遠の命へと至る成長と発展の旅路、気高く靈感に満ちた旅路となるのです。

しかし、贖罪がキリストにさらに似た者となるようにわたしたちすべてを助けることを意味するとしても、わたしたちを皆、同じ人間にするという意味ではありません。わたしたちは時々、個性の違いと罪を混同します。ほかの人がわたしたちと異なっているので、神はその人を喜んでおられないという間違った考えを持つことさえあります。このような考え方は、教会が一つの金型からあらゆる会員を造ろうとしていて、それぞれの会員が、他の会員と同じように見て、感じて、考え、行動するようにしている、と人を信じ込ませるものです。これは、すべての人がその兄弟と異なるように、またどの息子もその父親と異なるように創造した神の知恵に反します。一卵性の双子でさえ、その個性と霊的な特質は同じではありません。

それはまた、神の子供たち一人一人の道徳的な選択の自由と、その永遠にも及ぶすべての結果を認め、擁護しているイエス・キリストの教会の目的と意図を否定するものです。イエス・キリストの弟子として、わたしたちは回復された福音の証と神の戒めを守る決意において一つとなっています。しかし、わたしたちは文化的、社会的、政治的趣向において異なっています。

この多様性を利用して、主の弟子を高め、強めるためにわたしたちの才能を伸ば



して使うよう互いに励まし合うときに、教会は力強く成長するのです。

兄弟の皆さん、真の弟子とは生涯の旅路をかけて救い主に従うことです。わたしたちのベツレヘムからゴルゴタへの道には、わたしたちの旅をあきらめさせる機会が数多くあるでしょう。時々、その道がわたしたちの思っていたよりも多くを求めていると思えることもあるでしょう。しかし、わたしたちの十字架が重すぎて運べないと思えるときでも、神権を持つ男性として、贖い主に従う勇気を持たなければなりません。

神の御子に従って一歩ずつ歩んでいると、自分がまだ完全ではないことを思い起こすかもしれません。それでも確固とした揺るぎない弟子となりましょう。あき

らめてはなりません。聖約を忠実に守りましょう。わたしたちの不完全な歩みを一歩ずつ神に向かって進めるとき、わたしたちの弁護者である贖い主を見失わないようにしましょう。

人を癒す者

兄弟の皆さん、もしわたしたちが主イエス・キリストに真心から従うなら、第3の称号を喜んで受け入れなければなりません。それは、人を癒す者です。神の神権に聖任されているわたしたちは、人を癒すように召されています。⁴

わたしたちの務めは、築き、修復し、強め、高めて、完全にすることです。わたしたちの責任は、救い主の模範に従い、苦しんでいる人に手を差し伸べることです。

「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」⁵のです。苦しんでいる人の傷に包帯をし、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強める」⁶のです。

ホームティーチャーとして、わたしたちは癒す者です。神権指導者として癒す者です。父親、息子、兄弟、夫として、献身的な癒す者になるよう決意すべきです。片手に病人を祝福する聖別された油の容器を持ち、もう一方の手に空腹な人に糧を与えるためのパンを持つのです。そして心に神の平和の御言葉をたずさえ、「傷ついた心を癒す」⁷のです。

これは、神権者としての第一の責任、そして最も大切な責任です。そしてこの責任はアロン神権者とメルキゼデク神権者の両方に当てはまります。イエス・キリストの回復された福音は、単に信じるときではなく、それに従って生きるときにわたしたちの生活をより豊かに祝福するものとなります。そのために、個人を高め、家族を強める福音の原則を応用するのです。正しいことを言うだけでなく、正しいことを行うのがわたしたちの特権であり責任です。

救い主は奇跡の働き手です。救い主は偉大な癒し手です。救い主はわたしたちの模範であり、光であって、最も困難なときでさえ正しい道を照らしてくださいませ。

救い主に従いましょう。主の務めに出で立ち、神と同胞に仕えることによって癒す者となりましょう。

永遠の命の相続人

わたしたちすべてが共有する第4の称号は、最初に挙げた称号に関連しています。すなわち、天の御父の息子として、わたしたちは御父の持つすべての**相続人**なのです。

「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にする

ために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。」⁸

愛する兄弟の皆さん、このことを考えてください。わたしたちはキリストと共同の相続人なのです。

それでも、わたしたちの多くが貴重な時間、思い、手段、エネルギーを使って、名声、この世の物、最新で今流行りの電子機器を楽しむことを追い求める意味があるでしょうか。

主は以下の神聖な約束をわたしたちの前に置かれました。「だれでも忠実であって……これら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は……わたしを受け入れるのである（と主は言う）。……また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。……それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。」⁹

わたしはこの約束のすべての意味を心に思い描くことはできません。しかし、それが壮大で、神聖で、永遠で、人生をかけてすべての努力を注ぐ価値があることを

よく知っています。

このことを知っていながら、喜びにあふれて進んで主と同胞に仕え、神の神権における責任を果たさないでいることができるでしょうか。

これはあらゆる方法でわたしたちの力を試し、またわたしたちのすべての能力を伸ばすように求める最も高貴な務めです。天が開くのを目撃し、わたしたちに道を示す聖霊の促しを自の当たりにしたくはないですか。それなら、手に鎌を持ち、この偉大な御業のために働きましょう。この大義はわたしたち自身よりもはるかに大いなるものです。

神と同胞に仕えるということは、わたしたちの想像をはるかに超えるすばらしい状態にわたしたちを駆り立て、変化させることでもあります。

おそらく皆さんは、自分は必要とされていない、見過ごしにされている、求められていない、あるいは取るに足りないと思っ

ているかも知れません。

もし神権者がそのように感じていると





したら、心から残念に思います。天の御父が皆さんを見送ごしにしたり、必要としないことは絶対にありません。御父は皆さんを愛しておられます。そして、教会が皆さんを必要としていることをはっきりとお伝えします。

「神は、知者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱者を選んで」¹⁰ いることを皆さんは御存じでしょうか。

恐らく、わたしたちが弱者であることはほんとうです。恐らく、わたしたちは知者でもなければ強い者でもありません。しかし、神がわたしたちを通して働かれるとき、わたしたちを妨げることはだれにもできないのです。¹¹

これが、皆さんが必要とされている理由です。皆さんは自ら特別な貢献をすることができます。そして神が力強い方法でその貢献を大いなるものとするのできるのです。貢献する皆さんの能力は教会の召しだけのものではありません。皆さんの奉仕の機会には限りがありません。もし今皆さんがベンチで傍観しているのなら、積極的に試合に参加するようお勧めします。

特別な召しが来るまで、神の王国の建

設に深く携わるのを待ってはいけません。神権者として、皆さんはすでに主の業に召されているのです。日々神の言葉を研究し、毎日天の御父に祈り、回復された福音の原則を自分に取り入れ、神に感謝をささげ、神の導きを求めてください。そして、まず自分の家族の中で、そして人生のすべての場面で学んだことに従って生活してください。

偉大な作曲家の交響曲の中で、皆さんが演奏する特別なパート、自分で歌う旋律があります。皆さんがそれを歌わなくても、交響曲は確かに続くでしょう。しかし、立ち上がってコーラスに加わり、皆さんを通して神の力が働くようにするなら、「天の窓」が開き、神が「あふるる恵みを、あなたがたに注ぐ」¹² のを見ることでしょう。神の息子としての真の可能性を求めてください。そうすれば、家族の中で、家庭で、地域社会で、国家で、そして実際に世界中に良い影響を及ぼすことができるのです。

そしてその過程で、人に奉仕して「自分の命を失い」¹³ 「キリストの満ちみちた徳の高さ」¹⁴ に至るまで成長し発展していることでしょう。その後、キリストとともに、御父が持つすべてを受け継ぐように備え

られるでしょう。

皆さんは神にとって大切な存在です。

わたしの愛する兄弟であり、友である皆さん、皆さんは大切な人です。愛され、必要とされています。この業は真実です。皆さんが特権として持っている神権は、まさしく神から来たものです。

ふさわしい神権者のこれらの称号について深く考えるとき、天の御父が皆さんのために用意しておられる大いなる受け継ぎに向かって皆さんを引き上げる神の助けを見いだせるように祈ります。この祝福と証をイエス・キリストの聖なる御名により、皆さんに残します、アーメン。■

注

1. ローマ 3:23
2. ヒラマン 5:12 参照
3. エペソ 2:19
4. 「われ主を愛して」賛美歌 134 番
5. モーサヤ 18:9
6. 教義と聖約 81:5
7. モルモン書ヤコブ 2:8
8. ローマ 8:16-17
9. 教義と聖約 84:33, 35, 37-38
10. 1 コリント 1:27
11. ローマ 8:31 参照
12. マラキ 3:10
13. マタイ 16:25
14. エペソ 4:13



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

わたしたちは一つです

どこにしようと、神の神権の中でどのような義務を受けてしようと、わたしたちが全世界に福音を携えて行くという目的において一つとなれるように祈ります。

最後の神権時代の初頭に、わたしたちは全世界に福音を宣べ伝えなければならないと主ははっきりと言われました。1831年に少数しかいなかった神権者に言われたことと同じことを、主は現在、多くの神権者に言うておられます。年齢や能力、教会での召し、または住んでいる場所に関係なく、わたしたちは主の再臨前の人の刈り入れの業に、皆等しく召されているのです。主のぶどう園の最初の働き人たちに主はこう言われました。

「さらにまた、わたしはあなたがたに言う。わたしはあなたがたに戒めを与える。長老も、祭司も、教師も、また会員も、すべての人がわたしの命じたことを準備して成し遂げるために、勢力を尽くし、その手の労苦を尽くしなさい。

また、あなたがたの教えを説くことが警告の声となるように、各人がそれぞれ隣人に、穏やかに、かつ柔和に警告するようにしなさい。

あなたがたは悪人の中から出なさい。あなたがた自身を救いなさい。主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」¹

さて、アロン神権者の皆さんは、この主の戒めには皆さんも含まれていることが理解できるでしょう。主の戒めを守るよう、主は必ず道を用意してくださることは分かっているのですから、皆さん一人

一人のために主が道を備えてくださると期待してよいのです。

主がどのようにして道を備えられるのかを、ある少年の例を挙げて話しましょう。この少年は現在、アロン神権の祭司で、16歳です。宣教師が初めて到着してからわずか1年という国に住んでいます。宣教師はこの国の二つの都市に派遣されましたが、この少年の住む都市には派遣されませんでした。

この少年はごく幼いころ、危険から逃れるために両親に連れられてユタ州に来て、宣教師から教えを受けて家族はバプテスマを受けました。少年はまだ8歳になっていなかったため、バプテスマを受けて教会員になることはありませんでした。

両親が事故で亡くなったため、この少年は海を渡って本国にいる祖母に引き取られました。生まれ故郷の都市に帰ったのです。

ちょうど1年前の3月のことです。この少年は道を歩いているときに、ある見知らぬ女性に話しかけるべきだと感じ、まだ覚えていた限られた英語を使って話しかけました。彼女は伝道部長からこの少年の住む都市に派遣された看護師で、間もなくその都市に派遣される宣教師のために住む場所と医療施設を探していたのです。話しているうちに、少年はこの女性と仲良くなりました。この女性は、伝道

本部に戻ると、この少年のことを宣教師に話しました。

2012年9月に、初めて二人の長老たちが到着しました。この親のいない少年は、彼らからバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会に入った、その長老たちの初めての改宗者でした。今年の3月で少年は会員になって4か月になりました。アロン神権の祭司の職に聖任されて、2番目の改宗者にバプテスマを施すことができました。この少年は最初の開拓者である神権者です。これから天の御父のほかの子供たちを集めて、人口約13万人の都市に教会を建てることになるのです。

2013年3月31日、復活祭の日曜日にその都市の教会に集った会員は何と6人に増えました。その日集會に出席した地元の会員はこの少年一人でした。前日にひざをけがしたものの教会に行く意志は変わらず、教会まで歩いて行けるようにと祈ったのです。そのおかげで教会に行けました。その日集會に来たのは4人の若い長老と一組の夫婦宣教師だけでしたが、少年は彼らとともに聖餐を受けました。

神がその王国を建設するうえでどのように働かれるかを理解していない人にとっては、これは驚くべき話には思えないかもしれませんが、神がこのような方法で働かれるのを、わたしは何度も見てきました。

若いころニューメキシコ州に住んでいたときにも主が働かれるのを見ました。預言者は、正直な心の者を宣教師が訪ねて福音を教えられるよう助けなければならない、そして王国の一員となる人々を愛さなければならないと、何世代にもわたってずっとわたしたちに勧告してきました。

忠実な神権指導者と会員に何ができるかを、わたしはこの目で見てきました。1955年に、わたしはアメリカ合衆国空軍の士官になりました。わたしの地元のビショップは、最初の赴任地であるニューメキシコ州アルバカーキに旅立つ前に、わたしに祝福を与えてくれました。

この祝福の中でビショップは、わたしが空軍で過ごす時間は福音を伝える奉仕の時となるだろうと言いました。最初の日曜日、わたしがアルバカーキ第1支部に着くと、一人の男性がやって来て地方部会長だと自己紹介し、わたしを地方部宣教師に召したいと言いました。

わたしは訓練のためにほんの2、3週間来ただけで、訓練が終わったらどこかほかの場所に転属されるのだと言いました。すると、地方部会長はこう言ったのです。「そのような事情は知りませんが、わたしたちはあなたを召さなければならないの

です。」その後、軍事訓練の途中に、訓練を受けていた数百人の士官の中からまたわたしが選ばれて、急死した士官の代わりに本部で働くことになりました。

そのため、わたしはそこに2年間滞在し、地方部宣教師の召しを果たしたのです。ほぼ毎晩、毎週末に、わたしは会員が連れて来た人々にイエス・キリストの福音を教えました。

同僚とわたしは、教える人を見つけるために戸別訪問することなく、月平均40時間、伝道活動をしました。会員たちがたくさん人を連れて来るので、一晩に二家族

教えることもよくありました。すべての会員は宣教師になりなさいという預言者の度重なる呼びかけにこたえる人たちが受ける力と祝福を、目の当たりにしました。

わたしがアルバカーキを発つ前の最後の日曜日、その都市で初めてのステーキが組織されました。この都市には現在、聖なる神殿があります。わたしたちがかつて、福音を教えてもらおうと友人を連れて来た聖徒たちとともに一つの礼拝堂に集い、御霊が証するのを感じたあの都市に主の宮があるのです。この友人たちは主のまことの教会に温かく迎え入れられ、平安を感じました。

ニューイングランド地方で学校に通っていたときにも、同じような光景を見ました。わたしは、偉大な地方部会長の顧問に召されました。この地方部会長は、一時は教会に対して興味を失っていたにもかかわらず、後に教会に戻って偉大な霊的指導者になった人でした。ホームティーチャーは彼を深く愛していたので、彼がたばこをやめないことをとがめることもなく、神が御覧になるような目で彼を見ていました。この地方部会長とわたしは、車で山を越え、海岸沿いを走って、マサチューセッツ州とロードアイランド州に点在する小さな支部を訪問し、神の王国を建設し、祝福しました。

この偉大な指導者とともに奉仕した年月、わたしたちは人々が模範により、宣教師の話聞くようにという誘いにより、友人を教会に連れて来るのを見ました。こうした支部の発展はわたしには緩慢で不確かなものに見えました。しかしその5年後、わたしがその地を去ることになった日曜日に、二人の使徒が来てその地方部をケンブリッジのロングフェローパークにあるステーキに組織したのです。

何年もたってから、わたしはその地を再び訪れてステーキ大会で司会をしました。ステーキ会長はベルモントのごつごつした山が見える場所にわたしを案内し、そこは神の神殿を建てるのに最適な場所と





アメリカ合衆国、カリフォルニア州ロサンゼルス

なるだろうと言いました。現在その場所には神殿が建っています。その神殿を見ると、わたしは小さな支部で一緒に座った謙遜な会員たちや、彼らが連れて来た隣人たち、そして彼らを教えた宣教師のことを思い出します。

今晚この集会には、新しい執事がいます。先ほど話した祭司が、地元の会員が一人しかいない集会に歩いて行った、あの復活祭の日曜日に、わたしはこの執事と一緒にいました。彼の父親が「今夜はこの子と一緒に神権会に出席する」と言う、その執事はうれしそうにほほえみました。この父親は、自分の父親が伝道部会長を務める伝道部で伝道し、偉大な働きをしました。わたしはこの父親の曾祖父の1937年版『宣教師の手引き』を見たことがあります。彼らは幾世代にもわたって人々を教会に導く業に携わっているのです。

その執事のビショップと話していて、わたしは主のみもとに人々を集めるという神権者の責任を果たすうえでその少年がどんな経験を望んでいるのかを知りました。ビショップは、ワード伝道主任が求道者の進歩状況をどう記録しているかを熱心に説明していました。この伝道主任は、宣教師と定期的に連絡を取って情報を入手しています。

このビショップとワード評議会は進歩しているすべての求道者について話し合います。そして、バプテスマの前に教会員と仲良くなり、活動に誘い、バプテスマを受けた人の成長を助けるために各人とその家族のために何ができるかを決めます。時には約束が多いためにアロン神権者に同僚になってもらって、宣教師が2組に分かれて教えることもあるそうです。

このワードでは、伝道計画の一環として、各神権定員会が知人を宣教師に紹介する目標を立てています。執事定員会の会長会ですら、目標を設定して、知っている人を神の王国に導く計画を立てるよう定員会の会員にチャレンジしているのです。

さて、強いワードの執事と、小さな教会で改宗して祭司に召されたばかりの少年との間にも、彼らと皆さんとの間にも、共通点がないように見えるかもしれません。また、わたしがニューメキシコ州やニューイングランド地方で見た奇跡的な出来事は、皆さんがこれまで教会を建てるために行ってきたこととあまり関係がないと思うかもしれません。

しかし、わたしたちが神権の責任を果たすうえで一致する方法が一つあります。自らを聖めて、天の御父のすべての子供たちに福音を携えて行くという戒めに伴う、個人の義務を果たすという方法です。

主が神の王国を地上にお建てになる過程でわたしたちは同じような経験をしています。主の教会では、素晴らしい手段や組織が与えられているにしても、伝道活動を行うという神権の義務を果たすように、預言者によって教えられている基本的な真理があります。

1959年4月の総大会で、デビッド・O・マッケイ大管長は、この原則を教えました。トーマス・S・モンソン大管長を含むそれ以後の預言者も同じ原則を教えています。マッケイ大管長は総大会の閉会に当たる話の中で、1923年のイギリス伝道部では、伝道部内の会員に、ある一般的な指針が送られたことを話しました。それは、教会に対して世の人々が抱く悪いイメージを払しょくするためにお金をかけて広告を出してはならないという指針でした。マッケイ大管長は次の決定を下したと言ったのです。「すべての教会員に責任を与えます。つまり、来る1923年にはすべての会員が宣教師になるのです。すべての会員は宣教師です。お母さんを教会に連れて来てもけっこうですし、お父さんでもけっこうです。職場の同僚を誘ってもいいかもしれません。あなたを通して、だれかが真理の素晴らしいメッセージを聞けるようにしましょう。」

そして、マッケイ大管長は続けてこう

言いました。「これが今日のメッセージです。すべての会員、つまり、150万人の会員が宣教師なのです。」²

2002年に、伝道活動がビショップの責任になったという発表があったとき、わたしはどうしようかと思いました。わたしもビショップを務めたことがあります。ビショップたちは、会員を教え導き、ワードの組織に指示を与えることで、すでに能力の限界まで責任を果たしているようにわたしには思えました。

わたしが知っているあるビショップは、これを責任が増えたと思わず、すべての会員が宣教師になるという大きな目標の下でワードを一つにまとめる機会だと考えました。彼はワード伝道主任を召しました。そして、毎週土曜日に自分が宣教師に会って、どんな活動をしているか聞き、宣教師を励まし、求道者の進歩状況を教えてもらいました。ワード評議会では、奉仕の経験を通して伝道の備えをする方法を見いだしました。そして、イスラエルの判事として、若い人たちが贖いの祝福を実感して自らを清く保てるよう助け

たのです。

このビショップのワードでは、改宗者のバプテスマが急増し、イエス・キリストの福音を世界に宣べ伝えるために備えをし、熱意に燃える若者が増えています。これについて最近、ビショップに説明を求めたところ、会員たちが何か義務を果たしたということではないよくだと言うのです。会員たちがこのような幸せを感じているのは、人々を聖徒の仲間に入れたいという熱意の点で全会員が一致したからだったのです。

この上昇傾向を熱意の副産物と考える会員もいます。彼らはモーサヤの子供たちのように、自分の生活の中に罪の影響があるのを感じ、神の教会の中にある、贖いの驚くべき癒しの力を感じました。救い主が下さったこの賜物に対する愛と感謝の気持ちを感じたからこそ、すべての人が罪の悲しみから逃れ、赦しの喜びを味わって一緒に神の王国に入れるよう助けたいと思うようになったのです。

彼らが一致団結して人々に奉仕できたのは、神への愛と友人や隣人への愛が

あったからです。彼らは、周囲にいるすべての人に福音を伝えたいと思いました。そして彼らは、自分の子供たちを、主に召されて主のぶどう園のほかの場所で人々に教え、証し、仕えるにふさわしい者になるよう訓練しました。

あの新しい執事が福音を伝えて王国を建てる義務を果たす大きなワードであろうと、あの新しい祭司が奉仕している遠く離れた小さな会員の集まりであろうと、目的は同じです。執事は、神の愛に促されて、教会員でない友人に働きかけます。友人と一緒に教会の奉仕や活動を行い、次に友人とその家族を宣教師に紹介して福音を教えてもらいます。バプテスマを受けた人々は友人を必要とし、彼が改宗者にとっての友人となるのです。

祭司は、聖徒たちの小さな集まりには何かの人々を誘います。そこで神の愛と、贖いがもたらす平安という祝福を感じてきたからです。

この祭司が続けて神権の義務を忠実に果たすならば、この集まりは支部になり、いつの日か、自分の住む都市にシオンのステークが組織されるでしょう。ワードには面倒見のいいビショップが召されます。この祭司の息子または孫が、いつの日か神の僕を近くの丘に案内して、「神の神殿を建てるにはすばらしい場所ではないですか」と言うようになるかもしれません。

どこにしようと、神の神権の中でどのような義務を受けていようと、わたしたちが全世界に福音を携えて行くという目的において一つとなれるように、また、人々が罪から清められ、わたしたちとともに神の王国に入って幸せになれるように祈ります。教会をつかさどる主であるイエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 38:40 - 42
2. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1959年4月, 122





トーマス・S・モンソン大管長

神権持つ子らよ

兄弟の皆さん、わたしたち一人一人が、熱心に聖文を調べ、目的をもって人生を計画し、証をもって真理を教え、愛をもって主に仕えることができますように。

毎年2回、この壮大なカンファレンスセンターが説得力のある声で、わたしたちを招いているように感じます。「神権持つ子らよ、来たれよ」¹と。教会の総大会の神権部会には、この集會に特有のすばらしい御霊があふれています。

今晚、世界中で主の宣教師として主に仕えているわたしたちの仲間の神権者が数多く出席しています。今朝のわたしのメッセージでお伝えしたように、現在6万5,000人を超える宣教師が伝道地で働いています。さらに宣教師訓練センターに入るのを待っている人や、推薦書を提出した人が何千人もいます。わたしたちは、喜んで熱心に奉仕する人々を愛し、称賛します。

聖典に含まれている中で、これ以上ないほど適切な宣言、これ以上ないほど大切な責任、これ以上ないほど直接的な戒めが、ガリラヤにおいて、復活された主によって11人の弟子たちに与えられました。主はこう言われました。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」²

この神聖な戒めは、その栄光ある約束とともに、時の中間においても今日においてもわたしたちの行動規範となっています。伝道活動は末日聖徒イエス・キリスト教会の際立った特徴です。これまで常にそうでした。これからもそれが変わることはないでしょう。預言者ジョセフ・スミスはこう宣言しました。「結局のところ、最も偉大で重要な義務は福音を宣べ伝えることです。」³

今から2年以内に、神の軍勢として現在奉仕しているすべての専任宣教師は、その働きを終えて家庭や愛する人のもとに帰るでしょう。それらの長老たちの後に続く人々を、今晚教会のアロン神権者の中に見いだすことができます。若い男性のみなさん、召しにこたえる備えができていますか。喜んで働きますか。奉仕する備えはできていますか。

伝道活動には、わたしたちの生活の様式を大きく変えることが求められます。それには、多くの時間と多大な献身、私心のない犠牲と熱心な祈りが必要です。その結果として、献身的な伝道の奉仕は永遠の喜びという報いとして戻って来て、その喜びはこの世から永遠にわたって続くのです。

チャレンジであるのは、主のぶどう園でもっと役立つ僕になることです。これは、年齢に関係なく、専任宣教師として奉仕

するために準備をしている人にも、キリストの福音を分かち合うことが義務であるわたしたち全員にも、当てはまります。

確実に成功するための原則を提案します。第1に熱心に聖文を調べる、第2に目的をもって人生を計画する（年齢に関係なく人生を計画すると付け加えてもよいでしょう）。第3に証をもって真理を教える、第4に愛をもって主に仕えるです。

この4つの原則を一つずつ考えてみましょう。

第1、熱心に聖文を調べる。

聖文は神を証します。聖文には永遠の命の言葉が含まれています。聖文はわたしたちのメッセージの土台です。⁴

教会の教科課程は聖文を強調しながら、各プログラムが相互に関連し合うように調整されています。さらにわたしたちは教会の集會だけでなく、個人で、また家族と一緒に、聖文を毎日研究するように勧められています。

わたしたちの生活の中ですぐに応用できる聖句の一つ引用しましょう。わたしたちはモルモン書のアルマ第17章で、アルマがモーサヤの息子たちに再会して、彼らが真理の大義に堅く立っていることを知って喜んだときの記録を読むことができます。そこにはこのように記されています。「彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。」⁴

兄弟の皆さん、熱心に聖文を調べてください。

第2の原則——目的をもって人生を計画する。

おそらく、現代の若人ほど難しい決断を迫られている若人はかつてなかったでしょう。学校、伝道、結婚のために準備をしなければなりません。兵役への備え

が含まれる人もいます。

伝道の準備は早い時期に始まります。霊的な準備に加えて、賢明な親は、息子が幼いときから伝道資金をため始めることができるように、お金を得る手段や方法を提供するでしょう。年月を経るにつれて、彼は外国語を学ぶように励ましを受けられるでしょう。必要なときに、語学力を生かせるようにするためです。やがて、ビショップやステーク会長がその若い男性を面接に招く、あの栄えある日が訪れます。そこでふさわしさが確認されます。そして宣教師推薦状の作成が完了するのです。

郵便配達人と「ユタ州ソルトレーク・シティ、サウステンプル通り、東47番」と印字された手紙を、家族全員がこれほど首を長くして待つ日々はほかにありません。手紙が到着します。緊張は極限に達します。召しが読み上げられます。しばしば、任地は遠く離れたところですが、任地がどこであっても、準備のできた従順な宣教師の答えは同じです。「わたしは行って奉仕します。」

出発の準備が始まります。若い男性の皆さん、皆さんが奉仕できるように両親が喜んで犠牲を払うことに感謝してください。両親の働きが皆さんを養い、両親の信仰が励みとなり、両親の祈りが支えとなるでしょう。伝道は家族全員の仕事です。大陸や海によって家族が隔てられるかもしれませんが、家族全員の心は一つです。

兄弟の皆さん、目的をもって人生を計画するとき、皆さんの伝道の機会は、正式に召された期間に限定されないことを覚えておいてください。軍隊で働いている皆さんは、軍役中の時間を有益なものにすることができます。軍隊にいる若い兄弟たちは、神権を尊び、神の戒めに従って生活し、人々に主の神聖な言葉を教えることによって、毎年たくさんの人々を神の王国に導いています。

皆さんが学校教育を受けている間、



模範を通して宣教師となる特権があることを見過ごしにしないでください。末日聖徒としての皆さんの模範は、観察され、評価され、しばしば手本にされているのです。

兄弟の皆さん、年齢や状況に関係なく、すべての人に勧告します。**目的をもって人生を計画してください。**

では、原則の第3のポイントに移ります。**証をもって真理を教える。**

使徒ペテロの勧告に従ってください。「また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」⁵ 声を上げて神会に関する真理を証してください。モルモン書に関する証を述べてください。救いの計画に含まれている栄えある美しい真理を宣言してください。

50年以上前、わたしがカナダで伝道部会長として奉仕していたとき、小さな田舎

町から来た一人の若い宣教師がいました。彼はトロントの街を見て、その大きさに驚いていました。彼は小柄でしたが、大きな証を持っていました。到着して間もなく、同僚と一緒に、オンタリオ州のオシャワでエルマー・ボラード氏の家を訪問しました。周りの風景が見えなくなるほどの激しい吹雪の中で戸別訪問をしている若者をおかしいと思ったボラード氏は、宣教師を家に招き入れました。宣教師はメッセージを伝えましたが、彼は御霊を感じませんでした。結局彼は宣教師を追い出し、二度と来ないように言いました。玄関ポーチを出ようとする長老たちを、彼はこう言ってあざけりました。「ジョセフ・スミスが神の預言者だなんてほんとうは信じていないくせに！」

ドアは閉じられ、長老たちは歩いて行きました。この田舎出身の若者が同僚に言



いました。「長老、わたしたちはポラードさんに答えませんでした。彼はジョセフ・スミスが預言者であることをわたしたちが信じてないと言いました。戻って証を伝えましょう。」最初、先輩の宣教師は躊躇しましたが、結局同僚と一緒に戻ることになりました。少し前に追い出されたドアに近づくと、恐ろしさで心臓が止まりそうでした。ドアをノックすると、ポラード氏が出て来ました。重苦しい時間が流れました。その後、御霊から力を受けて、後輩の宣教師が口を開きました。「ポラードさん、あなたは、ジョセフ・スミスが神の預言者であることをわたしたちがほんとうは信じていないとおっしゃいました。わたしは、ジョセフ・スミスがほんとうに預言者であったことをあなたに証します。彼は**確かに**モルモン書を翻訳しました。彼は父なる神と御子イエスに会いました。わたしはそのことを知っています。」

その後しばらくして、ポラード氏はポラード兄弟になり、神権会でこう証しました。「あの夜、わたしは眠れませんでした。あの言葉が耳に鳴り響いていたのです。」

『ジョセフ・スミスは神の預言者でした。そのことを知っています。知っています。知っています。』翌日、宣教師に電話してまた来るように頼みました。彼らのメッセージと証が、わたしと家族の人生を変えたのです。」兄弟の皆さん、**証をもって真理を教えてください。**

原則の第4のポイントは、**愛をもって主に仕える**ことです。愛に代わるものはありません。成功を収める宣教師は、同僚を愛し、伝道主任を愛し、自分が教える大切な人々を愛します。教義と聖約の第4章で、主は、奉仕の働きを行う者に求められる資格を定められました。幾つかの節について一緒に考えてみましょう。

「おお、神の務めに出で立とうとする人々よ、終わりの日に神の前に罪のない状態で立てるように、あなたがたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕えなさい。……

神の栄光にひたすら目を向けて、信仰、希望、慈愛、愛を持つ者には、その業に携わる資格がある。

信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、

信心、慈愛、謙遜、勤勉を思い起こしなさい。』⁶

わたしの声が届く範囲にいる皆さん、次のように自問してください。「今日、わたしは信仰、徳、知識、信心、愛を増し加えることができたでしょうか」と。

皆さんが自国や海外でささげる献身を通じて救いの手を差し伸べる相手は、皆さんがいちばん愛する人になることでしょう。

何年も前、クレーグ・サドベリーがオーストラリア・メルボルン伝道部に赴任する前に、母親のパールとともにわたしの事務所を訪れました。父フレッド・サドベリーの姿はありませんでした。クレーグの両親は25年前に結婚したのですが、父親は母親ほど教会が好きではなかったのです、教会員ではありませんでした。

クレーグは、両親を深く愛していること、何とかして、何らかの方法で、父親が御霊に動かされ、イエス・キリストの福音に心を開くことを願っていると、わたしに打ち明けてくれました。わたしはその望みがどうしたらかなえられるか、靈感を求めて祈りました。靈感が降りました。そして

クレグにこう言いました。「心を尽くして主に仕えなさい。神聖な召しに従順でありなさい。毎週、両親に手紙を書きなさい。時々、父親に個人的に手紙を書いて、彼をどれだけ深く愛しているか、彼の息子であることをどれだけ感謝しているかを伝えなさい。」クレグは感謝の言葉を述べ、母親とともに事務所を後にしました。

それからクレグの母親がわたしの事務所に来るまで、18か月間会っていませんでした。事務所に来た母親は涙で声を詰まらせながら、こう話しました。「クレグが伝道に旅立ってからもう2年近くになります。彼は毎週欠かさず手紙を書いてくれました。最近、夫のフレッドが証会で初めて立って、教会の会員になることを決心したと宣言し、わたしとこの場にいた会員たちを驚かせたのです。『息子の伝道の締めくくりとして、彼が専任宣教師として最後のバプテスマを自分に施せるように、二人で一緒にクレグに会いにオーストラリアに行こう』と、夫が言ったのです。」

遠く離れたオーストラリアで、自分の父親を水の中に導き、右腕を直角に上げて、次の神聖な言葉を宣言したときのクレグ・サドベリーほど、崇高な思いでバプテスマを施した宣教師はいないでしょう。「フレデリック・チャールズ・サドベリー。わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。」

愛が勝利を収めたのです。愛をもって主に仕えてください。

兄弟の皆さん、わたしたち一人一人が、熱心に聖文を調べ、目的をもって人生を計画し、証をもって真理を教え、愛をもって主に仕えることができますように。

わたしたちの完全な羊飼いであり全人類を贖った宣教師である主が、次のような神聖な約束を残しておられます。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」⁷

これらの言葉を語られた主の御名により証します。イエスは神の御子であり、わたしたちの贖い主、救い主です。

「わたしに従ってきなさい」⁸という救い主の優しい招きに、わたしたちがこたえることができるように祈ります。主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. 「神権持つ子らよ」『賛美歌』199番
2. マタイ 28:19-20
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』, 330
4. アルマ 17:2-3
5. 1ペテロ 3:15
6. 教義と聖約 4:2, 5-6
7. 教義と聖約 18:15-16
8. ヨハネ 21:22





大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

神の光のもたらす希望

神に対する愛を増し加え、隣人を愛するよう努力するとき、福音の光はわたしたちを包み、引き上げてくれます。

光の入り口

わたしの事務室には「光の入り口」と題するお気に入りの絵が掛けられています。デンマーク人の画家で友人のヨハン・ペンシンが描いた絵です。彼はデンマークのコペンハーゲンで最初のステーキ会長を務めました。

その絵には真っ暗な部屋と、開かれた扉が描かれていて、その扉から光が差し込んでいます。扉を通して差し込んでいる光は部屋全体に届かず、扉の前の一歩だけを照らしていることに興味がそそられます。

この絵の闇と光を、人生にたとえることができます。この世にいるわたしたちは時々、闇に取り囲まれているように感じる場合があります。だれしも、愛する人を失ったり、子供が迷い出て行ったり、医師から悲しい診断を下されたり、仕事上の問題を抱え、疑いや恐れから悩んだり、あるいは孤独感を覚え、愛されていないと感じたりしたことがあるのではないのでしょうか。

わたしたちは八方ふさがりの状況に陥ることがあります。けれども、神の光に希望を見出すことができると、神は約束しておられます。わたしたちの行く手を照らし、闇から抜け出す道を示してくださるといふ約束です。

闇に閉ざされた部屋

闇に閉ざされた部屋で成長期を過ごした一人の女性についてお話したいと思えます。彼女をジェーンと呼ぶことにします。

ジェーンは3歳のときから打ちたたかれ、ばかにされ、虐待され続けていました。脅しやあざけりも受けました。毎朝、次の日まで生き延びられるのだろうかと思いつつ目を覚ます日々を過ごしました。彼女を保護するべき者たちがそのいじめの張本人であり、あるいは虐待を放置していました。

ジェーンは自分を守るため、一切の感情を抑え込むことを身に付けました。救出される希望を持ってなかったため、感情を抑え込んで恐怖や現実から自分を閉じ込めたのです。彼女の世界には光がなかったため、闇に身を潜めました。絶えず容赦のない邪悪にさらされることでしかたどりで着くことのない無感覚状態を身に付けることによって、いつか殺されかねないという現実を受け入れたのです。

その後18歳になったとき、ジェーンは末日聖徒イエス・キリスト教会を見出しました。回復された福音の喜びと希望が心を貫きました。そして、バプテスマの勧めに応じました。初めて、生活に光が差し込んできました。前途に明るい道が伸びているのを知ったのです。自分の世界を

覆う暗黒から抜け出して、虐待者から遠く離れた地の学校に通うことにしました。そしてついに、闇と邪悪から解放されて、救い主のすばらしい平安と奇跡的な癒しを望むままに受けられるようになりました。

しかしそれから何年か後、虐待者が亡くなってから、ジェーンは再び、以前の恐ろしい出来事に悩まされるようになりました。福音の中に見つけたすばらしい光が、大きな悲しみと怒りによって破壊されそうになっていました。やがて彼女は、闇ばかりに心を向けていると、最後には自分を苦しめるものが勝利を取めることに気づきました。

カウンセリングと医師に助けを求めたジェーンは、闇が存在することを理解し、受け入れはするものの、いつもそのことに心を向けないようにすることが癒しへの最善の道であることに気づき始めました。なぜなら、彼女は光も存在することを知っており、そこに心を向けると決めたからです。

ジェーンは過去に経験した問題のために、復讐心や激しい怒りにさいなまれ、暴力に訴える可能性もありました。しかし、そうしませんでした。怒りを爆発させることや、危害を加えること、皮肉を言うことを拒み、闇を広げてしまう衝動に耐えました。自分を癒してくださいと神の助けに希望を託しました。光を輝かせ、他人を助けることに集中する方法を選びました。この決意によって彼女は過去と決別し、明るく輝く未来に足を踏み出したのです。

ジェーンは学校の教師になりました。それから数十年を経た現在に至るまで、彼女の愛は大勢の子供たちの生活に影響を与えてきました。子供たちが自分の価値を理解し、自分が大切な存在であることが分かるよう助けてきたのです。弱者、被害者、落胆した人の強い味方となってきました。彼女は周囲のあらゆる人を鍛え、強め、励ましています。

ジェーンは、闇から離れ、希望という輝く光を求めて歩むときに癒しが得られることを学びました。それは信仰と希望と



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファーソン



ニール・L・アンダーセン

七十人会長会



ロナルド・A・ラスバンド



L・ハイット・ミラー



ドナルド・L・ホールストロム



タッド・R・クリステンセン



リチャード・J・メイソン



クレイグ・C・クリステンセン



ウォリセス・ソアレス

七十人第一定員会
(アルファベット順)



マルコス・A・
アイトカグティス



ホセ・L・アロンソン



カロス・H・
アマダード



イアン・S・
アルタルン



マービン・B・
アーノルド



デビッド・S・
バクスター



シモン・M・
ボーン



クレーグ・A・
カードン



崔 滿煥



ドン・R・クラーク



スタンレー・G・
エリス



ジェームズ・J・
ハムラ



C・スコット・
グロー



アラン・F・
バックアー



フリート・A・
カーリソン



カール・B・
クラック



ロレンス・E・
コベルリ



クラウディア・R・
M・コスタ



リチャード・R・
カーラン



ペリミン・D・
ベリニ



ジョン・B・
ディクソン



エドワード・D・
エディ



ケビン・R・
ガグノン



ウォルター・F・
ゴンザレス



ジェリット・W・
ゴンク



フレッド・H・
ハールン



マーク・B・
ナッシュ



マイケル・T・
リンクワット



リン・G・
ロベンス



ケイト・D・
ライアン



デビッド・F・
エイベンズ



エンリケ・R・
ファラベラ



エンドル・D・
ガブレソット



ロバート・C・
グレイ



カルロス・A・
ゴイ



クリストファー・
クリスティ



S・キフォード・
ニールセン



マーク・B・
マッケイ



ウィリアム・W・
マカティ



ケビン・W・
ピアソン



マイケル・M・
ジョー



ジェームズ・B・
マルティン



ケビン・S・
ハミルトン



ラリー・R・
ローレンス



ペー・G・
マーム



ダニエル・L・
ジョーンズ



ポール・V・
ジョンソン



ハトリック・A・
キアロン



ポール・E・
コーリヤー



エリック・W・
コバヤシ



テール・G・
レランド



ウィリアム・W・
クリスティ



エドワード・E・
シュタインヒルバー



オ・ヘンセント・
オ'Connell



ジェームズ・B・
マルティン



フレッド・F・
ライアン



オ・ヘンセント・
オ'Connell



デニス・M・
デニソン



オ・ヘンセント・
オ'Connell



フレッド・F・
ライアン



アンソニー・D・
パークインズ



ポール・B・
ハイバー



ラファエル・E・
ラビノビッチ



ブルース・D・
バーナー



ウィリアム・R・
クリスティ



マイケル・T・
リンクワット



リン・G・
ロベンス



ケイト・D・
ライアン



ポール・M・
ジョー



オ・ヘンセント・
オ'Connell



フレッド・F・
ライアン



オ・ヘンセント・
オ'Connell



デニス・M・
デニソン



オ・ヘンセント・
オ'Connell



フレッド・F・
ライアン



ジョン・A・
D・シュタインヒルバー



ファン・A・
オ'Connell



アルナルド・A・
オ'Connell



フランシスコ・
J・ベニヤス



ウィリアム・W・
クリスティ



ウィリアム・R・
クリスティ



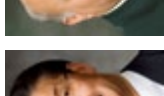
F・マイケル・
ワトソン



スコット・D・
ボワイティング



山下和彦



ホルヘ・F・
ゼイグラー

管理ビショップリック



第一顧問
ジェラルド・
コチャー



管理ビショップ
ゲアリー・E・
スライプマンソン



第二顧問
デイモン・M・
デイビーズ



第183回年次総大会のために
世界中から集まる末日聖徒たち。
時計回りに左上から、
エクアドル、グアヤキル；
南アフリカ、プレトリア；
チリ、サンティアゴ；
デンマーク、コペンハーゲン；
アメリカ合衆国、ニューヨーク州
ニューヨーク市；
ブラジル、ブラジリア；
スコットランド、エディンバラの
教会員と宣教師たち。

慈愛の実践であって、自分の生活を変えたばかりか、多くの人々の生活にも永遠の祝福をもたらしました。

光は光に結びつく

皆さんの中には、闇に支配されつつあると感じている人がいるかもしれません。心配事、恐れ、疑いの気持ちが重くのしかかっているかもしれません。そのような人と、また皆さんすべてに、すばらしくまた確かな真理を今一度お伝えします。神の光は実在します。あらゆる人がそれを受け取ることができます。それは万物に命を与えます。¹ 心の奥底の痛みを和らげる力を持っています。孤独と心の病を癒す乳香となることが出来ます。絶望のときに希望の種を植え付けてくれます。深い悲しみの谷に光を投げかけてくれます。目の前の道を照らし、深い闇夜から新たな夜明けという約束に導かれるという確信を与えてくれます。

これが「世に来るすべての人に光を与え」る、「イエス・キリストの御霊」です。²

しかし、暗闇の中にただ座ってだけの人、スイッチを押してくれるのを待っているだけの人、霊の光がもたらされることはほとんどありません。キリストの光に目を向けてそれを見いだすには信仰を働かせる必要があります。霊的な光をこの世的な目で見分けることはできません。イエス・キリストはこう教えておられます。「わたしは暗闇の中に輝いている光である。そして、暗闇はそれを理解しない。」³ なぜなら、「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」⁴

では、神の光のもたらす希望に目を向けてそれを見いだすにはどうすればよいでしょうか。

第1、あなたが今立っている地点から出発する。

天の御父の祝福と賜物を受けるため



に、わたしたちは完全でなくてもよいのです。これを知ることは、すばらしいことです。神の祝福を受けるためにわたしたちが完全になるまで待つ必要はありません。実際、わたしたちが光に向かって最初の一步を歩み始めたときから、天が開き始め、天からの祝福が降ってわたしたちの心に滴り始めるのです。

出発するための完璧な場所は、あなたが今立っている地点です。自分がどれほどふさわしくないと感じているか、あるいはほかの人よりもどれほど遅れをとっていると感じているかは問題ではありません。天の御父を求め始める瞬間に、御父の光に託す望みがあなたの霊を目覚めさせ、元気づけ、高めるのです。⁵ 闇は直ちに消え去らないかもしれませんが、夜が夜明けに道を譲るように、確かに光はやって来ます。

第2、主に心に向ける。

祈りを通して心の奥底にある思いを打ち明け、あなたがどのように感じているかを天の御父に説明してください。自分の

欠点を認めてください。心を注ぎ出し、感謝を表すのです。直面している試練を御父に伝え、強さと支えをキリストの御名によって御父に願ひ求めましょう。あなたの耳が開かれて、御父の声が聞こえるよう願ひ、目が開かれて、御父の光が見えるよう願ひ求めてください。

第3、光の中を歩む。

天の御父はあなたが過ちを犯すことを御存じです。御父はあなたが恐らく何でもつまずくかもしれないことを御存じです。御父はそれを悲しまれるでしょうが、それでもあなたを愛してください。御父はあなたの望みを打ち砕くことを願ってはおられず、あなたが奮起して、あなたが本来なるべき人になることを望んでおられます。

このため、御父は御子をこの地上に遣わして、道を照らし、道中のつまずきの石を安全に乗り越える方法を示されました。わたしたちに与えてくださった福音は、弟子として歩むべき道を教えるものです。福音はわたしたちが知り、行うべき事柄、



神の愛される御子、わたしたちの救い主の足跡に従って御父の光の中を歩まなければならないことを教えています。

光は闇に打ち勝つ

確かに、わたしたちは過ちを犯します。また、つまずきます。

しかし、神に対する愛を増し加え、隣人を愛するよう努力するとき、福音の光はわたしたちを包み、引き上げてくれます。闇は必ず消えます。なぜなら、闇は光のある所には存在できないからです。わたしたちが神に近づくとき、神はわたしたちに近づいてくださいます。⁶そして神の光のもたらす希望が日ごとに大きくなり、「その光はますます輝きを増してついに真昼と」なります。⁷

自分が闇の中を歩いていると感じているすべての方へ、救い主が人類に語られたこの確かな約束にすぎるようお勧めします。「わたしは世の光である。わたし

に従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」⁸

アフリカでともされた光

ずいぶん前に、妻のハリエットとともにこの約束が成就するのを目にした忘れられない経験があります。西アフリカを訪れたときのことです。教会が発展しており、喜びにあふれた末日聖徒が住んでいる地域です。けれども多くの問題もあります。特に、貧困の^{ありさま}有様を目にして心が痛みました。都会には失業者があふれ、家族は必需品に事欠き、安全が脅かされています。貴い多くの教会員がそのような貧困にあえいでいるのを知って大きな悲しみを覚えました。けれども、人々の重荷を軽くできるよう互いに助け合う素晴らしい会員たちがいることも知りました。

やがて、大都市近郊のある集会所に到着しました。わたしたちがそこで見たのは、闇に取り囲まれているために重荷を負

い、疲れ切っている人々ではなく、喜びに輝いている人々でした。福音に見いだした幸福感がわたしたちにまで達して、霊の高まりを感じました。わたしたちに示してくれた愛に頭が下がりました。彼らのほほえみは純粹で、ほほえみ返さずにはいられませんでした。

彼らはこの星に住むだれよりも幸せなのかもしれないと思ったことを覚えています。問題や試練に取り囲まれてはいましたが、これらの愛する聖徒たちは光にあふれていました。

集会が始まり、わたしは話を始めました。間もなく建物内が停電になり、わたしたちは完全な闇の中に取り残されました。

しばらくはだれの顔もほとんど見えませんでした。けれども聖徒たちの輝くような美しいほほえみを知っていましたし、また感じ取ることができました。これらのすばらしい人々とともにいることはどれほど大きな喜びだったことでしょうか。

礼拝堂内の闇は続きました。そのため、わたしは妻の横に腰掛け、停電から復旧するのを待ちました。その間に、驚くべきことが起こりました。

何人かが回復の賛美歌を歌い始めたのです。すると次々と会衆が加わっていき、圧倒されるほどすばらしい歌声が礼拝堂にあふれました。

会員たちは賛美歌集を必要としませんでした。自分たちの歌うすべての賛美歌の歌詞を一言一句暗記していたからです。そして力と思いを込めて次から次へと曲を歌いました。わたしは心を打たれました。

ついに明かりがとまり、部屋に光があふれました。ハリエットとわたしは互いに顔を見合わせると、二人とも頬が涙で濡れていました。

大きな闇の中で、このような美しくすばらしい聖徒たちが教会の建物とわたしたちの心を光で満たしてくれたのでした。

それはこの上なく感動的なひと時でした。妻もわたしも、あのときのことを決して忘れないでしょう。

光に来る

わたしたちは生活の中で時々、闇に触れたり、闇に包まれたりすることがあります。闇夜は重苦しく、気力を失わせ、恐れを抱かせるものです。

皆さんの顔に多くの悲しみが現れる様子や、つらい孤独感や恐れによって疲れた姿を見るとき、わたしは悲しみを覚えます。

それでもなお、わたしたちが生きていく希望はイエス・キリストにあることを証します。イエスは神による教化へと導いてくれる、まことの、純粹で力ある入り口です。

わたしは、闇が勝利を取ることができないことを、キリストとともに証します。闇がキリストの光に打ち勝つことはないのです。

闇は生ける神の御子のきらめく光の前に耐えられないことを証します。

一人一人が御子に対して心を開くようお勧めします。研究と祈りによって御子を探求めてください。主の教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会に行き、主と主の福音について学び、積極的に参加し、互いに助け合い、喜んで神に仕えましょう。

兄弟姉妹、たとえ漆黒の闇であっても、その夜が終わるとゆっくりとやって来る、喜ばしく、まぶしい夜明けに世の救い主はあなたを導いてくださいます。あなたの中でその夜明けは必ずやって来ます。

神の光のもたらす希望に向かって歩むとき、「少しの暗いところもない」⁹ 愛に満ちた天の御父の憐れみ、愛、優しさを見いだすことでしょう。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 88 : 11 - 13 参照
2. 教義と聖約 84 : 45 - 46
3. 教義と聖約 6 : 21
4. 1コリント 2 : 14
5. アルマ 34 : 31 参照
6. ヤコブの手紙 4 : 8; 教義と聖約 88 : 63 参照
7. 教義と聖約 50 : 24
8. ヨハネ 8 : 12
9. 1ヨハネ 1 : 5



十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老

これは奇跡です

上着に宣教師の名札を付ける専任宣教師でない場合、パウロが「墨によらず生ける神の霊によって書かれ」と述べたように、今こそ皆さんの心にそれを描く時です。

イエス・キリストの現世の生涯は、奇跡に満ちていました。おとめだった母親、新しい星、羊飼いたちへの御使いの訪れ、目の不自由な人や足の不自由な人への癒し、ゲツセマネと墓への天使たちの訪れ、そして最も大いなる奇跡となった、栄光ある復活です。

皆さんは、11人の使徒がガリラヤに近い山にいる情景を想像できるでしょうか。よみがえられた主が彼らに近づいて言われました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し[なさい。]」¹「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」²

「すべての国民」、「全世界」、「すべての造られたもの」。それは可能だったのでしょうか。イエスは弟子たちを励まされましたが、福音を伝えるときにほんとうに奇跡が起こるのだろうか、と彼らは思ったに違いありません。³ 信仰が疑いに打ち勝ち、ペテロは声を上げて言いました。

「エルサレムに住むすべてのかたがた、……わたしの言うことに耳を傾けていたください。……ナザレ人イエス[を]……あなたがたは……不法の人々の手で十字架につけて殺した。……このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである。」⁴

その日、まさに御霊が豊かに注がれ、3,000人がバプテスマを受けました。イエスが約束されたように、信じる人々の信仰に応じて、しるしと奇跡が示されました。

イエス・キリストの教会が183年前に地上に回復されたとき、少数の弟子たちに与えられた主の指示は、何世紀も前に告げられた主の御言葉の繰り返しでした。「警告の声は……すべての民に及ぶ。」⁵「まことに、この知らせは……全世界に、また地の最も遠い所まで出て行くであろう。」⁶

「すべての民」、「全世界」、「地の最も遠い所」。それは可能だったのでしょうか。

救い主は末日聖徒に明言されましたが、⁷ 末日聖徒はこの驚くべき業の広がりで行く末を予見できたのでしょうか。福音を伝えるときにほんとうに奇跡が起こるのだろうかと思ったに違いありません。

再び、信仰が疑いに打ち勝ち、数千人がバプテスマを受けました。ウィルフォード・ウッドラフ長老は、イギリスで彼の到着を待っていた一つの教団を見つけました。主の御霊が彼らに降り、長老はベンボーリーの農場で、最初の月に45人の説教者と数百人の会員にバプテスマを施しました。⁸

現代も同じです。デビッド・A・ベドナー長老とわたしは、およそ40年前に宣教師でした（しかし、赤い椅子に座っている帰還宣教師の最年長者でないことは確



かです)。当時、1万6,000人の宣教師がいました。昨日トーマス・S・モンソン大管長がお伝えしたように、現在は6万5,000人で、かつてない人数です。当時は562のステークがありました。現在は3,000を超えています。その当時、ワードと支部が59か国にありました。現在は、世界の224の国と属領のうちの189か所で集会が行われています。ニーファイが預言したように、この教会の会員数はわずかです。⁹しかしそれでも、皆さんとわたしは「石が人手によらずに切り出されて、……全地に満ち[る]」というダニエルの預言の成就の目撃者なのです。¹⁰

わたしたちの時代は、驚くべき奇跡の時代です。6か月前にモンソン大管長から、伝道の奉仕を望む若い男性と若い女性に関する年齢変更についての発表があったとき、教会の若い会員たちに、まさに御霊が豊かに注がれました。信仰が疑いに打ち勝ち、若い男性と女性は行動を起こしました。大会の次の木曜日に、わたしは宣教師の召しを大管長会に推薦する割り当てを受けました。18歳の男性と19歳の女性が、すでに計画を調整し、医者に会い、ビショップとステーク会長による面接を受けて、宣教師推薦書を提出したのを目にし、驚きました。すべてたった5日間でのことです。今はさらに数千人が、同じ手続きを進めています。これは奇跡です。

わたしたちを元気づける姉妹宣教師たちの信仰に、また世界の国々からの宣教師の数と、奉仕の準備をしている夫婦の数が増していることに、わたしたちは感謝しています。58の新しい伝道部が発表さ

れました。また、プロボの宣教師訓練センターがいっぱいになり、メキシコ・シティーに新しい訓練センターが設けられることになりました。

トーマス・S・モンソン大管長はこう述べました。「『それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、……教えよ』という救い主の命令を、教会は非常に真剣にとらえています。』¹¹「この……大義は進み行き、人々の生活を変え、祝福をもたらし続けることでしょう。世界中のいかなる……力も神の業を止めることはできません。』¹²

主の福音が全世界に広まるとともに、わたしたちは主の奇跡を目にしています。

兄弟姉妹、主はさらに多くの宣教師が奉仕するように靈感を下されました。同様に主は確かに、主の宣教師を受け入れるように、さらに多くの善良で正直な人々の意識を目覚めさせ、心を開かせておられます。皆さんはそのような人をすでに知っているか、または知ることでしょう。その人は皆さんの家族の中におり、また近隣に住んでいます。通りで皆さんのそばを通り過ぎ、学校で近くに座っており、インターネットで皆さんと接しています。皆さんもこの奇跡が行われるときの重要な当事者なのです。

上着に宣教師の名札を付ける専任宣教師でない場合、パウロが「墨によらず生ける神の霊によって書かれ」¹³と述べたように、今こそ皆さんの心にそれを描く時です。また帰還宣教師は、自分が宣教師だったときの名札を探してください。それ

を付けるのではなく、見える所に置いてください。主は皆さんが主の御手に使われる者になることを、これまで以上に、今、必要としておられます。だれにも、この奇跡に貢献できるものがあります。

義に従っている教会員は皆、福音を分かち合う方法について考えてきました。自然体で福音を分かち合う人がいます。わたしたちは彼らから多くを学ぶことができます。¹⁴時々感じる罪悪感がなくなことを願い、努力してもっと上手に行う方法を考えている人もいます。

福音を分かち合いたいという望みがあれば、わたしたちは皆、必ずひざまずきます。そうするべきです。主の助けが必要だからです。

モンソン大管長は、「教会が限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域、現在のところ福音を自由に伝える許可が下りていない地域」のために祈るようにと求めています。¹⁵わたしたちが熱心に、心を合わせて天の御父に願うとき、主はわたしたちのために大切な扉を開き続けてくださることでしょう。

わたしたちはまた、自分たちにも福音を分かち合う機会があるように祈ります。使徒ペテロは述べています。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求め人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。』¹⁶

現代の世界の困惑¹⁷と混乱¹⁸を見ると、礼拝の場所に集っている人が少なくなっているのも驚くに当たりません。多くの人がもっと神に近づき、もっとよく人生の目的を理解したいと思っていますが、疑問に対する答えを得られないでいるのです。真理に心を開いている人は大勢います。しかし、預言者アモスはこう述べています。「彼らは……主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。』¹⁹皆さんは彼らの疑問に答えることができます。日常の会話で、キリストを信じる彼らの信仰を増すことができるのです。²⁰



金曜日に結婚し、土曜日に上の子供たちとともにバプテスマを受けたこれらのモザンビーク出身の夫婦は、救い主イエス・キリストに従うことを選びました。

救い主は言われました。「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。」²¹

わたしは皆さんに約束します。皆さんがだれと話せばよいかを知りたいと祈るとき、名前と顔が皆さんの心に浮かんでくるでしょう。必要なその瞬間に語る言葉が授けられます。²² 皆さんに機会が与えられます。信仰が疑いに打ち勝ち、主は皆さんが奇跡を経験できるように祝福してくださいませ。

救い主は福音を分かち合う方法を教えてくださいました。わたしはアンデレの話が好きです。彼はこう尋ねました。「先生……どこにおとまりなのですか。」²³ イエスは住んでいる場所を告げずに、アンデレに言われました。「きてごらんなさい。そうしたらわかるだろう。」²⁴ 救い主はこう言おうとされたのだと思います。「来て、わたしが住んでいる場所だけでなく、わたしの生き方も見なさい。来て、わたしがどのような者かを見なさい。来て、御霊を感じなさい」と。その日のことすべては分かりませんが、アンデレが兄弟のシモンを見つけたときにこう述べたこと

は分かっています。「わたしたちは……キリスト〔に〕出会った。」²⁵

わたしたちの会話に関心を示す人々を、わたしたちは救い主の模範に従って、「来て、見てください」と招くことができます。招きを受け入れる人もいれば、受け入れない人もいます。わたしたちは皆、「来て、見てください」と何度か招かれた結果、それを受け入れたという人を知っています。かつてわたしたちと一緒にいた人で、今はまれにしか会わない人についても考え、戻って来てもう一度会うように誘いましょう。

わたしたちは各人の選びと時機を尊重します。主は、「各人に自ら選ばせなさい」²⁶と言われました。関心を示さないからといって、友情や愛のきずなを弱くする必要はありません。「来て、見てください」と招くときにその招きを受け入れられても受け入れられなくても、皆さんは、主の承認を感じ、またその承認を得て何度も信条を分かち合うためのさらなる信仰を感じることでしょう。

インターネットや携帯電話を使用している人々のためには、「来て、見てください」とほかの人を誘う新しい方法があります。オンラインで信仰を分かち合うことをもっ

と日常生活の一部としましょう。LDS.org, Mormon.org, フェイスブック, ツイッターで、その機会があります。

福音を分かち合うために、ボストンの若い会員たちが幾つかのブログを始めました。²⁷ 教会に加入した人々が宣教師からレッスンを受けた後、オンラインで学び始めました。この経験も、青少年が福音について直接話すことで、信仰を増すのに役立ちました。青少年の一人はこう言っています。「これは伝道という『仕事』ではなく、伝道という『楽しみ』です。」²⁸

わたしたちは皆、一緒にこれを行っています。同じワードの会員や宣教師とともに、計画し、祈り、互いに助け合います。どうぞ専任宣教師のことを考え、祈り続けてください。家族や友人を宣教師に託してください。主は宣教師を信頼して、主を求め人々を教え、祝福するために宣教師を召されたのです。

モザンビーク・マプト伝道部のパウロ・クレトリ会長が、次のような経験を分かち合ってくれました。「モザンビークでは〔結婚しないで〕男女が一緒に暮らすことは普通です。アフリカの慣習で、結婚するためには多額の持参金が必要で、ほとんど



のカップルにはその余裕がありません。』²⁹

会員と宣教師は助ける方法について考え、祈りました。

彼らの祈りに対する答えは、純潔の律法と、結婚して永遠の家族を築くことの重要性を強調し、また悔い改めて、法律上の結婚ができるように二人を助けながら、イエス・キリストに従うことによるのみ得られる幸福について教える、ということでした。

これはモザンビークの二つの異なる町にいる夫婦の写真です。金曜日に結婚して、土曜日に年長の子供たちと一緒にバプテスマを受けました。³⁰ 友人と家族が「来て、見てください」と招かれ、数百人が「来て、見ました」。

バプテスマの後、一人の姉妹がこう言いました。「先祖の伝統に従うか、イエス・キリストに従うか、選ぶ必要がありました。わたしたちはキリストに従うことを選びました。」³¹

皆さんはモザンビークに住んでいないかもしれませんが、自分の方法で、自分の文化の中で、イエス・キリストの回復された福音を分かち合うことができます。

天の御父に祈ってください。これは御父の神聖な業です。御父は皆さんのなすべきことについて導きを与えてくださるでしょう。御父は扉を開け、妨げとなるものを取り除いてくださり、皆さんが妨害に打

ち勝てるように助けてくださいます。主はこう宣言されました。「警告の声は、……弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ。……彼らをとどめる者はいない。」³²

わたしは「主の声は、聞こうとするすべての人が聞けるように地の果てにまで及ぶ」と証します。³³ これは奇跡です。ほんとうに奇跡です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. マタイ 28:19
2. マルコ 16:15
3. マタイ 28:20; マルコ 16:17-18 参照
4. 使徒 2:14, 22-23, 32
5. 教義と聖約 1:4
6. 教義と聖約 58:64
7. 教義と聖約 1:5 参照
8. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』(2004年), 89-92 参照
9. 1ニーフай 14:12 参照
10. ダニエル 2:34-35
11. トーマス・S・モンソン「大会へようこそ」『リアホナ』2009年5月号, 5
12. トーマス・S・モンソン「再び集うとき」『リアホナ』2012年5月号, 4
13. 2コリント 3:3
14. クレイトン・M・クリステンセン, *The Power of Everyday Missionaries: The What and How of Sharing the Gospel* (2013年)
15. トーマス・S・モンソン「大会へようこそ」『リアホナ』2009年11月号, 5-6
16. 1ペテロ 3:15
17. 長年真理とされてきたものが、見直されたり取り下げられたりしているのを人々はよく見えています。教義と聖約 1:16 参照。教義と聖約 132:8も参照
18. 教義と聖約 45:26; 88:91 参照
19. アモス 8:12

20. 預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「長老派教会に何か真理があるでしょうか。あります。バプテスト教会、メソジスト教会などに何か真理があるでしょうか。あります。……わたしたちは世にある正しい真実の原則をすべて集めて、それを大切にしなければなりません。」(*History of the Church*, 第5巻, 517)「わたしたちはだれにも、すでに得ている善いものを捨てるように求めているわけではありません。ここへ来て、さらに多くを得るように願っているだけです。もし全世界の人々がこの福音を受け入れたらどうなるでしょう。人々は気持ちに通い合うようになるでしょう。そして神の祝福が人々のうえに注がれるでしょう。これこそ、わたしが心の底から願っていることです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』[2007年], 155) Gordon B. Hinckley 大管長はこう述べています。「すべての教会には真理があり、善いことが行われています。わたしたちはそれを認めます。その善をすべて携えて来てください。そして、わたしたちの方でそれに付け加えることができるかどうか見てみましょう。これがこの御業の精神です。これがわたしたちの伝道活動の基本です。」(『生ける預言者の言葉——Gordon B. Hinckley 大管長の教えと勧告』『リアホナ』1999年4月号, 19)「わたしたちは友好的な人でなければなりません。すべての人の中にある善を認めなければなりません。わたしたちはほかの教会を批判しません。わたしたちは建設的また肯定的な方法で宣べ伝え、教えます。ほかの宗教の人々にはこう言います。『あなたが持っている善いものをすべて携えて来てください。そうすれば、わたしたちはそれに付け加えることができるかどうか見てみましょう』と。それが本来わたしたちのすばらしい伝道プログラムの基本であり、それが結果をもたらすのです。」(“Messages of Inspiration from President Hinckley,” *Church News*, 1998年11月7日付で引用, ldschurchnews.com 参照)
21. 3ニーフай 18:24
22. 教義と聖約 84:85; 100:6 参照
23. ヨハネ 1:38
24. ヨハネ 1:39
25. ヨハネ 1:41
26. 教義と聖約 37:4
27. 例として, www.youngandmormon.com を参照
28. 2013年3月22日のジャクソン・ハイトとの電話での会話
29. 2013年3月6日のパウロ・V・クレトリエ会長からの個人的な電子メール
30. パウロ・V・クレトリエ会長から提供された写真。最初のグループはマプトから来て2012年11月30日に結婚し、2012年12月1日にバプテスマを受けました。第2のグループはベイレから来て2013年3月1日に結婚し、2013年3月2日にバプテスマを受けました。
31. 2013年3月6日のパウロ・V・クレトリエ会長からの個人的な電子メール
32. 教義と聖約 1:4-5
33. 教義と聖約 1:11



中央初等協会会長
ローズマリー・M・ウィクソム

わたしたちの話す言葉

子供たちへの話し方や用いる言葉によって、わたしたちは彼らを励まし、元気づけ、信仰を強め〔る〕ことができます。

あ る若い父親は、最近、小学2年生のとき担任だったすばらしい教師が亡くなったことを知りました。彼女をしのんで彼はこう書き記しました。「思い浮かぶあらゆる感情や経験のうち最も心に残っているのは『慰め』です。たぶんわたしは彼女から文字のつづりや文法、算数を教えてもらったはずですが、それよりはるかに大切な、子供であることを楽しむということを教えてくれました。彼女の教室では、あちこちつづりを間違えることがあっても大丈夫でした。彼女は『一緒に頑張ろうね』とってくれました。何かをこぼしたり、破いたり、汚しても大丈夫でした。『一緒に直して、きれいにしましょう』と言ってもらえるからです。試してみたり、自分の力以上のことに挑戦したり、夢を思い描いたり、ささいなことから子供ならではのわくわくするような楽しみを見いだすことができました。」

この世で人が及ぼすことのできる最大の影響力の一つが子供への感化力です。子供の信念や自尊心は幼い時期に形作られます。わたしの声の届く場所にいる人はだれでも、その語る言葉を通して子供の自信を深めさせ、天父とイエス・キリストを信じるその子の信仰を増し加える力を持っています。

ヒラマン5章には「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を

築かなければならないことを覚えておきなさい」¹とあります。

これはヒラマンがその息子たちに教えた言葉です。続けて読みましょう。「ヒラマンの息子たちは父の言葉を思い出したので、……すべての民の中で神の言葉を教えるために出て行った。」²

ヒラマンの息子たちは迫害され、牢に入れられたにもかかわらず、かつて聞いたこの言葉のおかげで決して気落ちすることがなかったのです。彼らは守られ、火の柱に包み込まれました。すると、彼らを捕らえた者たちに語りかける声が聞こえました。

「悔い改めよ。……〔わたしの〕僕たちを、二度と滅ぼそうとしてはならない。

……それは雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫いた。」³

わたしたちは、天から来る声から学ぶことができます。それは大声で叱責したり侮辱したりする声ではありませんでした。静かでありながらも、希望を与え、同時に確固とした導きを与えてくれる、この上なく穏やかな声でした。

子供たちへの話し方や用いる言葉によって、わたしたちは彼らを励まし、元気づけ、信仰を強めて、天の御父のみもとへ戻る道にとどめさせることができます。彼らは耳を傾ける備えをしてこの地上に来たのです。

子供が耳を傾けていると分かる出来事が、ある生地屋で起こりました。買い物客で店が混雑している中、一人の母親が幼い息子を見失い、うろたえているのが、だれの目にも明らかでした。最初、母親は「コーナー」と息子の名前を呼びながら足早に店中を歩き回っていました。時間がたつにつれ、母親は必死になり、声はさらに大きくなりました。すぐにそのことが店の警備員に知らされ、店にいるだれもが子供の捜索に加わりました。数分たっても子供は見つかりません。当然のことながら、コーナーの母親は時がたつにつれてま





すます半狂乱になり、口早に何度も何度も息子の名前を叫び続けました。

一人の客が心の中で祈りをささげた後、コナーは恐らく店の中にいて、自分の名前を呼ぶ母親の叫び声を耳にしおびえているかもしれないと考えました。そのことをもう一人の女性に伝え、二人は急いである計画を立てました。静かな声で次のように繰り返しながら、二人は一緒に布地が置いてあるテーブルの間を歩き始めたのです。「コナー、わたしの声が聞こえたら、『ここにいるよ』って言ってちょうだい。」そう繰り返しながら、二人が店の奥の方へゆっくり歩いて行くと、思ったとおり、おどおどした小さな声で「ここにいるよ」と言うのが聞こえました。コナーはテーブルの下に置いてある布地の束の間に隠れていました。呼びかけに答える勇気をコナーに与えたのは、この上なく穏やかな声だったのです。

子供の必要を知るために祈る

子供の心に届くように話すには、子供の必要を知らなければなりません。彼らの必要を知るために祈るなら、わたしたちが話す言葉そのものに彼らの心へ届く力が宿るでしょう。聖霊の導きを求めると

き、わたしたちの努力は大いなるものとされます。主は言われました。

「わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。……

あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられるからである。」⁴

電源を切り、愛をもって耳を傾ける

残念なことに、人の気をそらすこの世の様々な事柄が妨げとなって、多くの子供たちが自己観の形成に影響を与える励ましの言葉を聞けないでいます。

「UCLA 健全な子供、家族、地域社会支援センター」を運営する医師ニール・ハルフォン博士は、それを「親による善意のネグレクト〔見過ごし〕」と呼んでいます。1歳半の幼児とその両親の例があります。

「男児は機嫌よく、活発に参加しており、明らかに両親と過ごす時間とピザを楽しんでいるように見えた。……夕食が終わるころ、母親が立ち上がり、父親に息子の世話を任せて何かの用事で外出した。

父親は……よちよち歩きの子供がピザの破片を投げて懸命に注意を引こうとしているにもかかわらず、携帯のメールを読み始めた。その後、父親は再び子供に注

意を向け一緒に遊び始めたが、すぐにやめて、妻が戻るまで子供と一緒に携帯電話でビデオを見て過ごした。

ハルフォン〔博士〕は両親と子供との結びつきが弱まり、子供の要求が満たされていないことに気づいた。」⁵

子供の必要をどう満たすかという祈りの答えは、電子機器を使う回数をもっと減らすことにあるかもしれません。何かに気をそらされていると、子供と交わり話をする貴重な機会が失われてしまいます。毎日時間を決めて電源を切り、互いが交わる時間を取り戻したらどうでしょうか。電子機器の電源をすべて切りさえすればいいのです。そうすれば、最初は家が静かになったと感じられ、何をし、何を言えればいいのかさえ分からない気分になるかもしれません。子供たちに全神経を集中させているうちに、会話が始まり、互いの言葉に耳を傾けるのが楽しいと思えるようになるでしょう。

子供たちに説き勧めるために書く

わたしたちは子供たちに向けて書く言葉を通して、彼らに影響を与えることができます。ニューフェイスは「わたしたちは子孫……に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている」⁶と書いています。

トーマス・S・モンソン大管長は、1960年代に北ベトナムの上空で撃墜された軍人パイロット、ジェイ・ヘスの経験について述べています。「その後の2年間、家族は彼が死んだのか生きていたのか分かりませんでした。実は、彼はハノイで捕虜として収容されていたのです。やっつのことで手紙を書く許可が出ましたが、25単語以内という制限がありました。同じ状況に置かれたら、皆さんやわたしは家族に何を伝えるでしょうか。2年以上も会っておらず、再会できるかどうか分かりません。彼からだとも認識でき、家族にとって教訓となる言葉を送りたいと思ったヘス兄弟はこう書きました。『大切なこと。神殿結婚、伝

道、大学、前進、目標、家族の歴史を記録に残すこと、年2回の写真撮影。』⁷

25単語以内という制限があったら、皆さんは子供に向けて何を書くでしょうか。

初めに話した、小学2年のときの担任教師の思い出について書いた若い父親は、現在かわいい女の赤ちゃんを育てています。御父から託された信頼の重さを感じています。娘が成長するとき、彼女の将来はどのようなものでしょうか。何を言えば、娘の心深くにしみ込むでしょうか。彼女を励まし、高め、正しい道にとどめるのはどんな言葉でしょうか。彼が時間を取って、「君は神の子だよ」とささやくなら、効果があるでしょうか。父親が頻繁に「君のすべてを愛しているよ」と言ってくれた言葉を、彼女はいつか思い出すでしょうか。

天父が「これはわたしの愛する子」と言われた後、「わたしの心にかなう者である」と付け加えられたとき、御父はそれを御子とわたしたちすべてに対して言われたのではないのでしょうか。⁸

わたしたちが子供たちに語り、書き送る言葉が、天父が御子イエス・キリストとわたしたちに抱いておられる愛を感じさせるものでありますように。その後、わたしたちが手を休めて耳を傾けられますように。なぜなら、子供たちはお返しに、大いなる驚くべきことを語ることでできる非常に優れた力を持っているからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ヒラマン 5:12
2. ヒラマン 5:14, 強調付加
3. ヒラマン 5:29-30
4. 教義と聖約 100:5-6
5. ロイス・M・コリンズ, "Baby's Development Potentially Harmed by Parents Texting," *Deseret News*, 2012年6月4日付. deseretnews.com/article/print/865556895/Babys-development-potentially-harmed-by-parents-texting.html.
6. 2ニューファイ 25:23
7. トーマス・S・モンソン「人生の旅路に喜びを見いだす」『リアホナ』2008年11月号, 86
8. マタイ 3:17



七十人会長会

L・ホイットニー・クレートン長老

結婚—— よく見て覚えましょう

幸福で神聖な結婚関係を築くために必要な生活規範に従うすべての人々は、主の約束を受けます。

数年前のある夜、妻とわたしは息子夫婦の家を訪れていました。それはにぎやかで楽しい、幼い子供のいる家庭の日常のひとつでした。食事が済んで間もなく、4歳の孫娘アナとわたしはまだテーブルに着いていました。アナはわたしの全関心が自分に向いていることに気づくと、長いすの上にもたすぐ立ち、わたしを見つめました。わたしが彼女を見ていることを確認したアナは「よく見て、覚えてね」と大まじめに命じると、わたしのために踊って、歌ってくれました。

「よく見て、覚えてね」というアナの言葉は幼児の口から出た知恵でした。わたしたちはよく見て、その後見て感じたことを吟味すると非常に多くのことを学ぶことができます。そこで、すばらしい忠実な結婚生活をよく見て学んだことから、幾つか気づいた原則をお話ししましょう。これらの原則は天の原則と一致しており、堅固で充実した結婚生活を作ります。皆さんもわたしと一緒によく見て覚えましょう。

第1に、最高に幸せな結婚では、夫と妻の双方が二人の関係を値段のつけようがないほど貴重な真珠、無限の価値ある宝であると考えていることに気づきました。二人は父母のもとを離れ、永遠に栄える結婚を作り上げるために、ともに歩み

始めます。彼らは神によって定められた道を歩いていることを理解しています。結婚ほど喜びをもたらす、善を生み、人を高める人間関係はほかにないことを知っています。よく見て覚えましょう。最高の結婚パートナーは、結婚を値のつけられない貴重なものであると考えます。

次は信仰です。幸福な結婚生活を見ると、主イエス・キリストを信じる信仰とキリストの教えを守ることが土台となっています。¹ 金銭に勝る結婚生活を送っている夫婦を見ると、信仰に関する規範を実践していることが分かります。聖餐会をはじめとする集會に毎週出席し、家庭の夕べを行い、一緒にまた個人で祈り、聖文を研究し、正直に什分の一を納めています。二人はともに従順で善良になろうと努めています。戒めを、好きなものだけを選んで食べるビュッフェ料理のように思いません。

信仰は結婚を強めるすべての徳の土台です。信仰を強めることが結婚を強めるのです。戒めを守ることによって信仰は成長し、結婚生活での調和と喜びも大きくなります。このように、戒めを守るとは堅固な結婚生活を築くための基本です。よく見て覚えましょう。イエス・キリストへの信仰は、幸福な永遠の結婚の土台です。



3番目は悔い改めです。幸福な結婚は悔い改めの賜物たまものに支えられていることをわたしは知りました。悔い改めは良い結婚関係には欠かせない要素です。常に反省をして、時を移さずに必要な段階を踏んで悔い改め、向上する伴侶はんりよは、結婚生活において癒しいよを受けます。悔い改めは一致と平安を回復し維持するための力です。

悔い改めの本質ほんしつは謙遜けんそんにあります。謙遜であるとは利己的ではないことです。身勝手な要求をせず、自分の方が道義をわかまえているといった話し方はしません。謙遜さがあれば、穏やかに返事をし²、自分の正当性を主張するために聞くのではなく、理解しようと誠意をもって耳を傾けます。謙遜な人は、だれもほかの人を変え

られないことを知っています。しかし、信仰と努力と神の助けがあればわたしたちは自分自身の心を大きく変えられることを知っています。³心の大きな変化を経験することで、わたしたちは人々、特に伴侶に優しく接するようになります。⁴謙遜とは、夫と妻の両方が祝福し合い、助け合い、高め合おうとすることです。決断するときには必ず、相手の気持ちを優先することです。よく見て覚えましょう。悔い改めて謙遜になるとき幸福な結婚生活を築くことができます。

4番目は尊敬です。素晴らしい幸福な結婚生活を送る夫と妻は、互いに相手に対等のパートナーとして接しています。地域や時代によっては、結婚生活で夫が妻を支配し、あるいは格下のパートナーとし

て扱うことがあります。そのような慣習は神聖な神の律法に添うものではなく、正しい原則と言動に替えなければなりません。

すばらしい結婚生活を営んでいる夫婦は、二人が対等に意見を述べ、賛否を表明することができる完全な資格ある同志として一致した決断を下しています。⁵彼らにとっては家庭が最優先であり、二人それぞれの責任を果たすうえで互いに助け合うことを第一としています。⁶こうした結婚の土台は交渉ではなく、協力です。食事の時間とそれに続く家族の時間は一日の中心であり、最善の努力を尽くす対象となります。電子機器のスイッチを切り、個人の楽しみを控えて家事を手伝います。可能な限り毎晩子供たちと本を読み、二人で幼い子供たちを寝かしつけ、二人一緒に床に就きます。仕事と状況が許すなら、夫と妻は協力して最も大切な業、つまり自らの家庭内の仕事を行います。

尊敬があるところには、幸福な結婚の重要な要素である透明性があります。互いへの尊敬と透明性が土台となっている結婚には、二人に共通する事柄に秘密はありません。夫と妻は財政に関するあらゆる決断をともに下し、どちらもすべての情報を得ることができます。

忠実さは尊敬の一つの形です。幸福な結婚を営む伴侶は互いに「完全に忠実」であると預言者は教えています。⁷ソーシャルメディアの使い方は、あらゆる点で完全に適切です。隠れてインターネットを使用することはありません。ソーシャルネットワークのパスワードを自由に教え合います。インターネット上でだれかのプロフィールを見るなど、伴侶の神聖な信頼を裏切るようなことは決して行いません。ネット上でも実際の生活でも、少しでも不適切なことを行ったり、口にしたりしません。良く見て覚えましょう。最高にすばらしい結婚は尊敬の念に満ち、透明で忠実です。

5番目は愛です。わたしが見た最高に幸せな結婚では、「ともに愛をもって生活

する」⁸ という最高に幸せな戒めの一つに従順であることがすぐに分かります。夫たちに主は命じられました。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。」⁹ 教会手引きには次のように書かれています。「この戒めの『結び合う』とは、だれかに完全に献身し、誠実であるという意味である。結婚した男女は互いに仕え合い、愛し合うことによって、また互いと神に対して完全に忠実であるという聖約を守ることによって、神と結び合い、互いに結び合う。……〔夫も妻も〕独身生活に終止符を打ち、生活の最優先事項として夫婦関係を築き上げる。彼らは神と互いに対して交わした聖約を守ることよりも、他の人や関心事を生活の中で優先させることはない。」¹⁰ よく見て覚えましょう。成功している夫婦の愛は、互いへの完全な献身が伴う愛です。

中には、結婚生活が思うほどには幸せでない人、結婚の経験がない人、離婚した人、ひとり親、何らかの理由で結婚できる状況にない人がいます。こうした環境には苦しいこと、つらいことも多いでしょう。しかし、それが永遠に続く必要はないのです。そのような状況にあっても「力の限りすべてのことを喜んで行〔いながら〕」¹¹ 耐える人を、天が豊かに祝福しますように。立派な伴侶になるための努力や準備も含めて、理想的な永遠の結婚を築けるよう努めてください。戒めを守り、皆さんへの主の完全な愛を信頼してください。結婚に関するすべての約束があなただけのものとなる日が必ず訪れます。¹²

モルモン書の最も美しい聖句の一つが簡潔に記されています。「彼らはめとり、嫁ぎ、主が彼らに立てられた多くの約束のとおり祝福された。」¹³ 幸福で神聖な結婚関係を築くために必要な生活規範に従うすべての人々は、主の約束を受けます。イエス・キリストの福音に忠実に生きるならば、当然の結果としてこれらの喜ばしい祝福がもたらされます。



わたしの人生の恋人、素晴らしい妻のキャシーに感謝しています。

結婚は神からわたしたちへの贈り物です。わたしたちの最高の結婚は、わたしたちからの神への贈り物です。愛に満ちた天の御父によるこの素晴らしい計画により、永遠に続く素晴らしい結婚の機会がもたらされたことを証^{あかし}します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129参照
2. 箴言15:1参照
3. アルマ5:11-12、26-31参照
4. モロナイ7:43-48; 8:25-26参照

5. 教義と聖約107:27-31参照
6. 「家族——世界への宣言」、129参照
7. トーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2011年5月号、68; ゴードン・B・ヒンクレー「人生の責務」『リアホナ』1999年5月号、4参照
8. 教義と聖約42:45
9. 教義と聖約42:22
10. 『手引き 第2部——教会の管理運営』(2010年)、1.3.1
11. 教義と聖約123:17
12. 『手引き 第2部』1.3.3
13. 4 ニーフай 1:11



十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

律法への従順は自由をもたらす

男女は選択の自由を神から賜物として受けますが、彼らの自由、そして結果として永遠の幸福も、神の律法への従順によってもたらされます。

昨年のクリスマスに、思い出がたくさん詰まった、特別な贈り物がありました。めいがくれたその品物は、わたしが結婚して実家を出るときにほかの荷物とともに残して行ったものでした。その贈り物とは、今手に持っているこの小さな茶色い本です。この本は、第二次世界大戦のときに軍隊に入った末日聖徒の軍人に贈られたものでした。わたし自身は、この本をヒーパー・J・グラント大管長と、顧問のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長とデビッド・O・マッケイ管長からの贈り物と考えています。

この3人の神の預言者は、本の巻頭で次のように書いています。「軍の諸事により、皆さんと直接、あるいは代理人を通して、個人的な連絡を頻繁に取ることができません。わたしたちが選んだ、次の最良の手段は、現代の啓示の一部と福音の原則に関する解説を皆さんの手にお渡しすることです。皆さんがどこにようと、これらの教えは新たな希望と信仰、さらには安心感と慰めと心の平安をもたらしてくれるでしょう。」¹

今日、わたしたちは別の戦争のただ中にいます。今度は武器を使った戦いでは

なく、思いと言葉と行いの戦いです。それは罪との戦いであり、わたしたちは今まで以上に戒めを守ることを心に留める必要があります。世俗主義が蔓延して、その信条と慣習の多くは主御自身が子供たちの益のために設けられたものと相反しています。

小さな茶色い本の中には、大管長会からの手紙のすぐ後に、軍務に就く人々にあてた、「律法への従順は自由をもたらす」と題された「軍務に就く男性への前書き」があります。この前書きでは、「軍務に就くすべての人の益のために設けられた」軍法と神の律法が比較されています。

そこにはこう述べられています。「神が司令長官を務めておられる宇宙には、普遍的で永遠の律法があり、その律法には特定の祝福と不変の罰が伴います。」

前書きの最後の言葉は神の律法に従うことに焦点が当てられています。「もし皆さんが誇りをもって家族のもとへ戻りたいと望むなら……人として実り多い人生を送りたいのなら——神の律法を守ってください。そうすれば、皆さんが戦争で守ろうとしている貴い自由に加え、人々が頼みにしているもう一つの自由、すなわち罪

からの自由も守ることができるでしょう。なぜなら、ほんとうに『律法への従順は自由をもたらす』からです。』²

どうして「律法への従順は自由をもたらす」という言葉が当時のわたしの心に響いたのでしょうか。どうして今日のわたしたちの心にも響くのでしょうか。

この言葉が心に響くのは、前世に関する知識が明らかになったからかもしれません。時の初めに、永遠の父なる神が御自身の計画を提示されたとき、サタンはその計画を変えようとしたことをわたしたちは知っています。サタンは全人類を贖うと言いました。だれ一人失われることがないその計画を、サタンは成し遂げられると確信していました。ところが、その計画には決して容認できない代価が伴いました。すなわち、神からの賜物である選択の自由が損なわれるという代価です（モーセ4:1-3参照）。この賜物について、ハロルド・B・リー大管長は次のように述べています。「選択の自由は神が人に与えられた賜物の中で命の次に大いなる賜物です。」³ したがって、サタンが人の選択の自由を軽視することはささいなことではありませんでした。実際のところ、選択の自由こそが天上の戦いのいちばんの争点となりました。天上の戦いの勝利は、人の選択の自由が勝ち取られたことを意味します。

ところが、サタンは引き下がりませんでした。サタンの代替計画、すなわちアダムとエバの時代から実行してきた計画は、男女を誘惑し、神がお与えになった選択の自由をわたしたちがふさわしくないことを本質的に証明することでした。サタンがなすことには多くの理由があります。その中でもいちばん強いのは、復讐という動機かもしれませんが、男女を自分と同じように惨めにする目的もあります。わたしたちはサタンの成功への執着心を決して軽視してはなりません。神の永遠の計画におけるサタンの働きによって「すべての事物には反対のもの」が生じ（2ニーファイ2:11）、



わたしたちの選択の自由が試されます。皆さんやわたしが行う一つ一つの選択は、選択の自由の試しです。すなわち、神の戒めに従うか従わないかを選ぶことは、実は「自由と永遠の命」を選ぶか、「束縛と死」を選ぶかの選択なのです。

この基本的な教義は第2ニーファイ第2章で明確に教えられています。「そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」(2ニーファイ2:27)

いろいろな意味で、この世はいつも戦争状態にあります。この小さな茶色の本を送ってくれたときも、大管長会は第二次世界大戦よりももっと大きな戦いを懸念していたのだと思います。より大きな戦争、すなわち罪に対する戦争において、この本がサタンとその軍勢に対抗するための盾となり、神の戒めを守って生活することをわたしに思い出させるものとなってほし

いという彼らの願いも込められていたのだと思います。

自分たちの状態を測り、前の世代と比較する一つの方法として、人類が知る最古の基準の一つ、すなわち十戒があります。文明社会の大部分、特にユダヤ教とキリスト教の世界において、十戒は善悪を区別するための、最も広く受け入れられている永続的な基準です。

わたしが思うに、十戒のうち4つはこれまでと同じようにまじめに受け止められています。文化的にも、わたしたちは殺人や盗みや偽証を嫌って強く非難していますし、親に対する子供の責任についても信じています。

しかし、社会全体としては、日常的に残りの6つの戒めをないがしろにしています。

- この世的な優先順位から読み取れることがあるとすれば、人々には確かにまことの神の「ほかに;……神として[いる]」事柄があるようです。
- 人々は有名な生活様式や富、そして時には刻んだ像や物を偶像にしています。

- 感嘆やののしりの言葉も含めて、人々は神の御名をあらゆる不敬な方法で使っています。
- 安息日に、最も大きな試合、最も真剣な娯楽、最も多い買い物など、礼拝を除くあらゆることを行っています。
- 結婚した夫婦以外における性的な関係を娯楽や遊びと見なしています。
- そしてむさぼりは、日常茶飯事となっています。(出エジプト20:3-17参照)

あらゆる神権時代の預言者は、最も重大な二つの戒めを犯すこと、すなわち殺人と姦淫かんいんに関して警告してきました。この二つの不可欠な戒めには共通の基盤があります。すなわち、命そのものが神から受けた特権であること、そしてわたしたちの肉体、すなわち現世における宮は、神が定められた範囲の中で創造されるべきであるということへの信仰です。命に関するどちらの面についても、自分の規則を神の律法と置き換えることはおこがましきの極みであり、最も罪深いことです。

結婚の神聖さを軽視する態度がもたらすおもな影響は、家族に及ぶ結果です。



家族のきずなは恐ろしい速さで弱まっており、この弱体化は広範囲にわたって社会に損害を及ぼしています。そこには直接的な因果関係が見えます。結婚した^{ほんりよ}伴侶への献身と貞節を捨てる時、社会をつなぎ合わせている糸も切ってしまうのです。

戒めについて考えるときに役立つ一つの方法は、戒めを、賢明で全知の天の御父から発せられた愛に満ちた勧告として考えることです。御父の目的はわたしたちの永遠の幸福であり、戒めはわたしたちが御父のもとへ戻れるように示された道路地図です。それは、わたしたちが永遠の幸福を得る唯一の方法です。家庭と家族はわたしたちの永遠の幸福にどれくらい大切でしょうか。わたしの小さな茶色い本の141ページには、次のようにあります。「まことに、天国はわたしたちの家庭を永遠の世に延長したものにすぎないのである。」⁴

家族と家庭に関する教義は、さらに最近、『家族——世界への宣言』の中でとても明確かつ力強く繰り返されました。こ

の宣言は家族が永遠に続くことを宣言し、神殿での礼拝とのかかわりを説明しています。この宣言はまた、家族の永遠の幸福が基づく律法も宣言しています。すなわち、「生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」⁵

神は預言者たちに、道徳的な真理があることを明らかにされます。罪はいつの時代も罪です。主の戒めへの不従順は、常にわたしたちから主の祝福を取り去ります。世の中は絶えず劇的に変化しますが、神とその戒めと約束された祝福は変わりません。不変のもので。男女は選択の自由を神から賜物として受けませんが、彼らの自由、そして結果として永遠の幸福も、神の律法への従順によってもたらされます。アルマが道をそれた息子のコリアントンに説き勧めたように「悪事は決して幸福を生じたことがない」のです（アルマ41：10）。

福音が完全に回復された今日、主は御自身の戒めに従う人々に約束されている

祝福を再び明らかにされました。

教義と聖約第130章にはこうあります。

「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている。

すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」（教義と聖約130：20 - 21）

主の不変の戒めと、個人、家族、社会としてのわたしたちの幸福や福利との関係ほど、聖文で強調されている教義はほかにないでしょう。道徳的な真理は存在します。主の戒めに不従順な人は必ず主の祝福を失います。これらの法則は決して変わりません。

社会の道徳的な指針が弱まる世の中にあって、イエス・キリストの回復された福音は決して揺るぎません。ステーキやワード、家族や会員も揺るぎません。わたしたちは大切だと思う戒めだけを選んで守るのではなく、神のすべての戒めを受け入れるべきです。確固としてしっかり立ち、主の一貫性に完全な確信を、そして主の約束に完全な信頼を寄せなければなりません。

わたしたちが丘の上の明かりとなり、これまでも、そしてこれからも変わることのない戒めを守る模範となれますように。戦時中、この小さな本が末日聖徒の軍人に道徳的に確固として立つよう励ましたように、わたしたちもこの末日の戦いにおいて全世界、特に主の祝福を求める神の子供たちにとって、かがり火となれますように。イエス・キリストの御名により^{あかし}証します、アーメン。■

注

1. 大管長会, Principles of the Gospel (1943年), iより抜粋
2. Principles of the Gospel, vii, viiiより抜粋
3. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』4
4. スティーブン・L・リチャーズ, Principles of the Gospel 141より抜粋
5. 『家族——世界への宣言』『リアホナ』2010年11月号, 129



トーマス・S・モンソン大管長

従順は祝福をもたらす

神の戒めに従順になることによって、真理を知り、人が抱く最大の疑問への答えを得ることができます。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、皆さんと今朝一緒にいられることに感謝しています。皆さんにお話をするに当たり、皆さんの信仰と祈りを切に求めるものです。

すべての世代にわたって、人間はこの地上での生活、また現世における自分たちの立場と目的、また平安と幸福への道について、知識と理解を追い求めてきました。わたしたち一人一人が、それを探しています。

その知識と理解はすべての人に開かれています。それらは永遠の真理の中に含まれています。教義と聖約第1章39節にこうあります。「見よ、見よ、主は神であり、御霊は証する。そして、その証は真実であり、真理はとこしえにいつまでも変わらない。」

ある詩人は、このように書いています。

天は滅び、地は裂くとも
真理は悪を切り抜け
永遠に変わらずあらん¹

「その真理はどこにあって、どのように認識できますか」と問う人もいます。1833年5月、オハイオ州カートランドで預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示の中で、主はこう宣言しておられます。

「真理とは、現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、

物事についての知識である。……

真理の御霊は神から出ている。……

人はだれも神の戒めを守らないかぎり、完全な真理を受けることはない。

神の戒めを守る者は真理と光を受け、ついに真理によって栄光を受けて、すべてのことを知るようになる。」²

何とすばらしい約束でしょう!「神の戒めを守る者は真理と光を受け、ついに真理によって栄光を受けて、すべてのことを知るようになる」のです。

福音のすべてが回復されているこの時代に、完全な真理を探すために地図のない海や標識のない道路を旅する必要は、皆さんにもわたしにもないのです。愛に満ちた天の御父が道を計画してくださいました。そして、常に変わることはない道案内を備えてくださいました。それは**従順**です。神の戒めに従順になることによって、真理を知り、人が抱く最大の疑問への答えを得ることができます。

わたしたちは人生を通じて従順を学びます。幼いころから、わたしたちを保護する責任を持つ人々からルールや決まりを教えられ、それによって安全が確保されます。そのようなルールに完全に従えば、人生はより簡潔なものとなります。しかしながら、わたしたちの多くは経験を通して、従順こそ賢明であることを学びます。

子供のころ、毎年夏の7月上旬から9月上旬にかけて、ユタ州プロボ溪谷のビビ

アンパークにある山小屋で家族とともに過ごしました。

休暇中の親友の一人にダニー・ラーセンがいました。彼の家族もビビアンパークに山小屋を持っていました。そこは男の子にとってパラダイスであり、彼とわたしは、川で釣りをしたり、石やそのほかの宝物を集めたり、ハイキングをしたり、高い所に登ったりして、毎日、毎時間、毎秒を楽しみました。

ある朝、ダニーとわたしは、その夜に溪谷にいるほかの友達と一緒にキャンプファイヤーをしたいと思います。近くの野原の一部を全員が集まれるように準備する必要がありました。6月から生えていた草が枯れて、とげだらけになっており、わたしたちの目的には適していなかったのです。わたしたちはその背の高い枯れ草を引き抜いて、そこに大きな円形の場所を設けようと思いました。わたしたちは一生懸命草を抜きました。しかしその枯れ草は頑固で、少しずつしか抜くことができませんでした。この仕事を終えるには1日かかるだろうということが分かりました。わたしたちの意欲も徐々に失われていきました。

そのとき、8歳のわたしの頭にすばらしい解決策が浮かびました。わたしはダニーに言いました。「この草を燃やせばいいんだ。草を燃やして大きな丸い形を作ればいい!」彼はすぐに賛成しました。わたしは山小屋へマッチを取りに行きました。

誤解のないように言っておきますが、当時8歳だったダニーとわたしは、大人の監視のないところでマッチを使うことを禁じられていました。わたしたちは二人とも火の危険について何度も警告されてきました。しかし、わたしは、家族がマッチをどこに置いているか知っていましたし、その雑草をどうしても処分したかったのです。わたしは夢中で山小屋へ走って行き、マッチを数本取り出して、だれも見えないことを確認しました。そして、マッチをポケットに入れました。

ダニーのところまで走って戻りました。間

題を解決してくれるものをポケットに入れていたので、とてもわくわくしていました。今でも覚えています、火をつければ、わたしたちが必要としている部分だけが燃えて、その後は魔法のように消えてくれるものと信じていました。

わたしはマッチを石にこすって火をつけ、乾き切った6月の草に火をつけました。まるでガソリンがかかっているかのようすぐに火は燃え移りました。最初、ダニーとわたしはその雑草が燃えていくのをわくわくしながら見守りました。しかし、ほどなくして、この火は勝手には消えてくれないということに気づきました。火を止められないことが分かったとき、わたしたちはパニックになりました。火は雑草をたどって山の斜面に向かい始めました。松の木や、そこにあるすべてのものが危険にさらされたのです。

結局、助けを求めに走る以外に選択肢はありませんでした。すぐに、ビビアンパークにいたすべての男性と女性が大きな麻袋を持って走って来て、その火をたたいて消そうとしてくれました。数時間後にやっと鎮火しました。古い松の木々が救われ、火にのみ込まれていたであろう家々も救われました。

その日、ダニーとわたしは、難しいけれども重要な教訓を得ました。特に重要な教訓は、従順であることです。

ルールや法律は、わたしたちの身の安全を確保してくれます。同様に主は、わたしたちがこの危険な地上での生活をくぐり抜け、霊的に安全に天の御父のみもとへ戻れるようにするために、導きや戒めを与えてくださいました。

何世紀も前に、動物を犠牲にささげることが伝統になっていた民に向かい、サムエルは大胆にこう宣言しました。「従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」³

またこの神権時代にも、主は預言者ジョセフ・スミスに次のことを明らかにされました。「主は心と進んで行く精神と

を求め。そして、進んで行く従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう。」⁴

昔も今も、預言者たちは従順が救いに不可欠であることを知っていました。ニーファイはこう宣言しました。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。」⁵ほかの人の信仰や従順が揺らいだときでさえ、ニーファイは常に主が求められることを行いました。それによって、数知れない世代が祝福を得ているのです。

アブラハムとイサクの従順の模範も、霊に感動を与えます。アブラハムにとって、愛するイサクをモリヤの地に連れて行き、燔祭としてささげるようにという神の戒めに従順に従うことは、何と難しかったことでしょうか。定められた場所に向かっていたときのアブラハムの重い心を想像できるでしょうか。イサクを縛り、祭壇に乗せ、殺すために刃物を取り出したとき、悲しみが体と心の両方に襲いかかったことでしょうか。アブラハムは主に対する確固とした信仰と信頼をもって、その戒めに従いました。彼は次の宣言を聞いたとき、その言葉をどれほど喜んで受け入れたでしょう。「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。」⁶

アブラハムは試練を受け、試されました。そしてその忠実さと従順さのゆえに、主は彼にすばらしい約束を下しました。「地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである。」⁷

従順を示すために、これほど劇的で心を引き裂くような経験は求められません。わたしたちにも従順が求められます。

ジョセフ・F・スミス大管長は1873年10月にこう宣言しました。「天の第一の律法は従順である。」⁸

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう言いました。「末日聖徒の喜びは、末日

聖徒の平安は、末日聖徒の進歩は、末日聖徒の繁栄は、そして、この民の永遠の救いと昇栄は、神の勧告に従順に歩むことにかかっているのです。」⁹

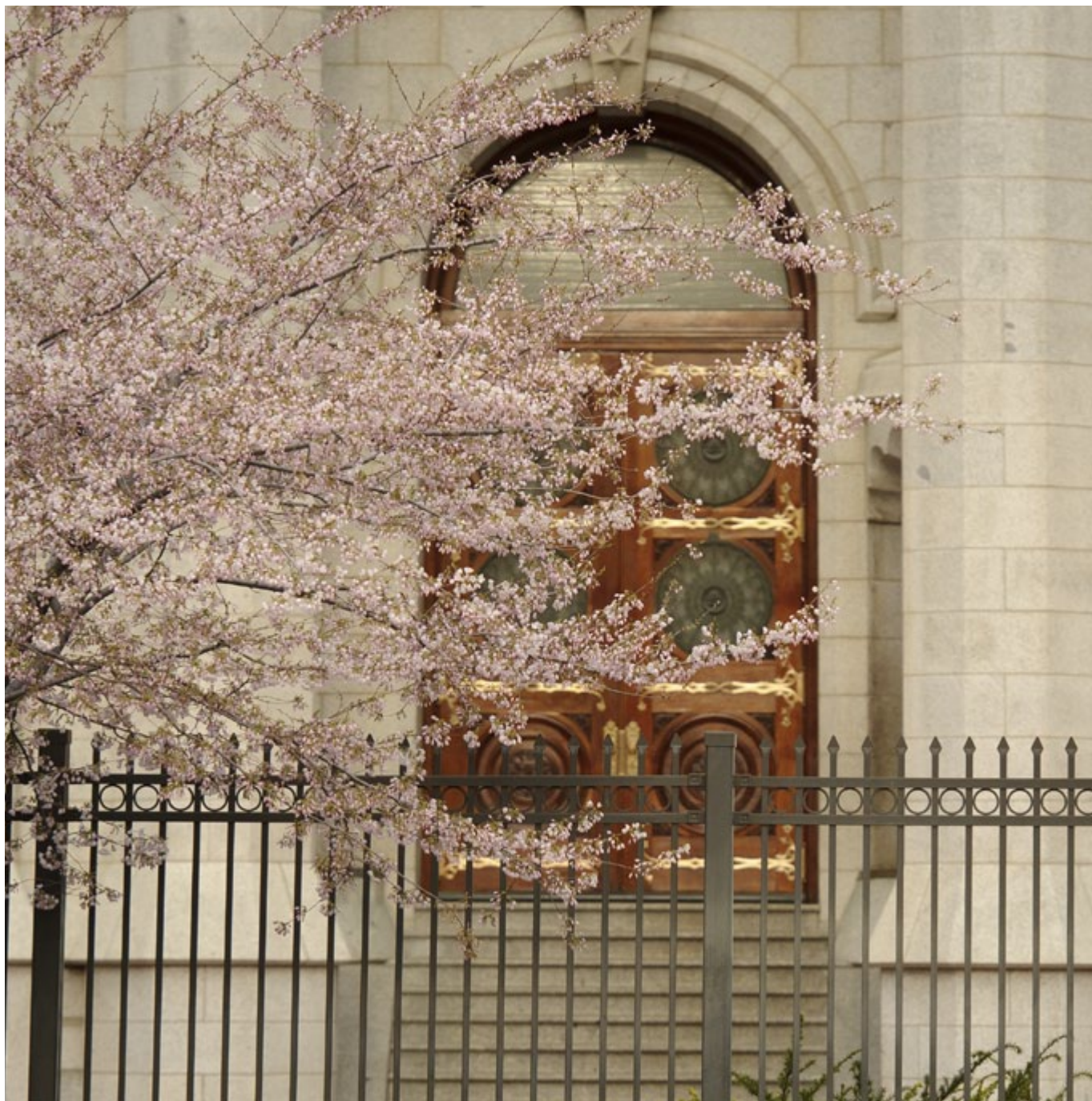
従順は預言者の特質の一つです。すべての時代を通じて、預言者は従順を通して強さと知識を得てきました。この強さと知識の源をわたしたちも受けられることを理解しなければなりません。それは、神の戒めに従うことにより、今の時代のわたしたちもすぐに受けられるものなのです。

わたしは長年にわたり、多くの忠実で従順な人々に会ってきました。わたしは彼らによって祝福され、靈感を受けました。その中の二人について、皆さんに分ち合いたいと思います。

ウォルター・クラウスは教会の熱心な会員であり、家族とともに第二次世界大戦後の東ドイツに住んでいました。当時その国には自由が限られていたためにクラウス兄弟は苦しみました。それでもクラウス兄弟は主を愛し、主に仕える人でした。クラウス兄弟は与えられたすべての割り当てを、忠実に、きめ細かく成し遂げました。

もう一人の男性はハンガリーの出身のヨハン・デンドーファーです。彼は1911年、17歳のときにドイツでバプテスマを受け、その後間もなくしてハンガリーに戻りました。第二次世界大戦後、故郷のデプレッセンという町で、まるで囚人のような扱いを受けました。当時、ハンガリー国民も自由が奪われていたのです。

ウォルター・クラウス兄弟はデンドーファー兄弟を知りませんでした。彼のホームティーチャーになって定期的に訪問するように割り当てられました。クラウス兄弟はホームティーチングの同僚に電話をして、こう言いました。「わたしたちはヨハン・デンドーファー兄弟を訪問するように割り当てられました。今週わたしと一緒に彼を訪問して福音のメッセージを分ち合うことはできますか。」そしてこう付け加えました。「デンドーファー兄弟はハンガリーに住んでいます。」



同僚は驚いて、こう聞きました。「いつ出発するのですか。」

「明日です」とクラウス兄弟は答えました。

「いつ戻って来ますか。」同僚が聞きました。

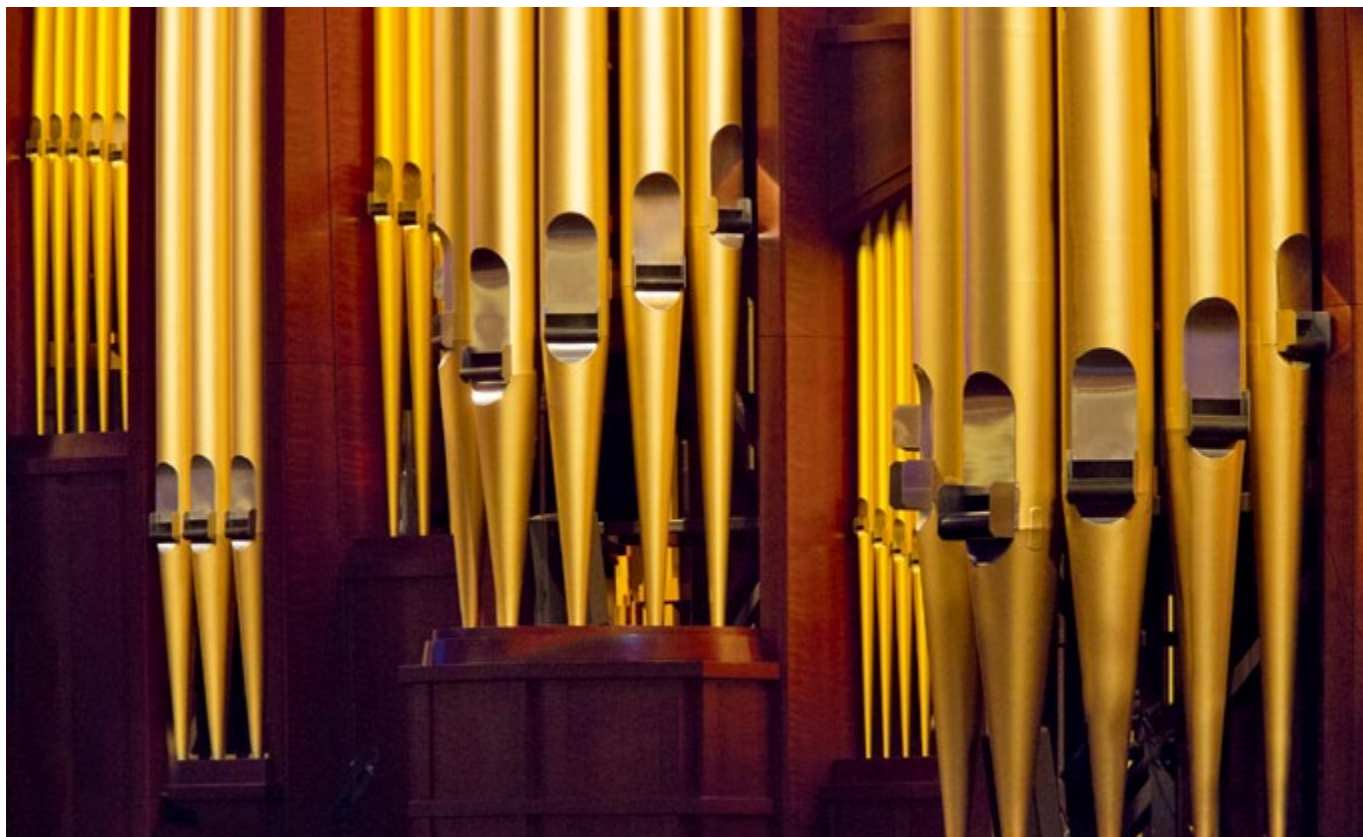
クラウス兄弟は答えました。「1週間ほどです。もし帰ることができれば」と。

二人のホームティーチングの同僚がデンドーファー兄弟を訪問するために出発しました。ドイツ北東部から電車やバスを

乗り継ぎ、ハンガリーのデブレッセンに移動しましたが、かなりの長旅でした。デンドーファー兄弟には戦前からホームティーチャーがいませんでした。彼はこの主の僕たちを見たときに、彼らが来てくれたことへの感謝で圧倒されました。彼はホームティーチャーとすぐには握手をしませんでした。寝室に戻って、小さな棚から箱を出し、長年ためてきた什分の一を取り出しました。彼は什分の一をホームティーチャーに渡してからこう言いました。

「やっと、主に対して什分の一の義務を果たすことができました。これで、主の僕と握手するのにふさわしくなれました。」後に、クラウス兄弟はわたしに言いました。「長年教会と連絡が取れなかった彼が、わずかな収入の中から常に10パーセントを取り分けておいたことに、言葉にできないほどの感動を覚えました。彼は実際にいつ納められるか分からないまま、忠実にそのお金をためていたのです。」

ウォルター・クラウス兄弟は9年前に



94歳で亡くなりました。彼は生涯を通じて忠実に、従順に仕えました。彼はわたしに、そして彼を知っていたすべての人に、すばらしい靈感を与えてくれました。彼はどんな割り当てを受けても、決して疑わず、つぶやかず、言い訳せずに、実行しました。

兄弟姉妹の皆さん、この人生の大きなテストは、従順であることです。主はこう言われました。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」¹⁰

救い主はこう宣言されました。「わたしから祝福を受けたいと思う者は皆、その祝福のために定められた律法とその条件に従わなければならない。その律法とその条件は、創世の前から定められたものである。」¹¹

わたしたちの救い主以上の従順の模範はおられません。パウロはこう述べています。

「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、

そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源と〔なられた。〕」¹²

救い主は完全な人生を送ることにより、御自分の聖なる使命を果たすことにより、神への愛を示されました。主は高ぶることも、尊大になることも、不忠実になることもありませんでした。常に謙遜で、誠実に、従順であられました。

イエスは悪魔に試みられたときも、40日40夜の断食の後に肉体的に疲れて空腹になられたときも、悪魔から最も強い誘惑を受けられたときも、御自分が正しいと知っておられることから離れることなく、完全な従順の模範を示されました。¹³

ゲツセマネの苦しみに直面したときも、「汗が血のしたたりのように地に落ち〔る〕」¹⁴ほどの苦しみに耐えながら、主は御子としての従順さを示し、こうおっしゃいました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」¹⁵

初期の使徒たちと同じ指示を、救い主はわたしや皆さんに与えておられます。「わたしに従ってきなさい。」¹⁶ わたしたちは従順になる決意ができているでしょうか。

わたしたちが求める知識、切に願う答え、また、複雑で常に変化するこの世の試練に立ち向かうために必要な強さも、進ん

で主の戒めを守ることによって得ることができます。もう一度主の言葉を引用します。「神の戒めを守る者は真理と光を受け、ついに真理によって栄光を受けて、すべてのことを知るようになる。」¹⁷

わたしたちが、従順によって得られる豊かな報いをもって祝福を得られますように、へりくだりお祈りします。わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 「真理は何と言えよ」『賛美歌』175番
2. 教義と聖約 93:24, 26-28
3. サムエル上 15:22
4. 教義と聖約 64:34
5. 1ネーファイ 3:7
6. 創世 22:12
7. 創世 22:18
8. ジョセフ・F・スミス, "Discourse," *Deseret News*, 1873年11月12日, 644
9. ゴードン・B・シンクレイ, "If Ye Be Willing and Obedient," *Ensign*, 1971年12月号, 125
10. アブラハム 3:25
11. 教義と聖約 132:5
12. ヘブル 5:8-9
13. マタイ 4:1-11 参照
14. ルカ 22:44
15. ルカ 22:42
16. ヨハネ 21:22
17. 教義と聖約 93:28



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

「主よ、信じます」

疑問と不安を正直に認めてください。しかし、最初に信仰の火を燃え立たせてください。なぜなら、信じる者にはすべてのことができるからです。

ある日、イエスが来られると、群衆がイエスの弟子たちと熱烈に論じ合っていました。救い主が何を論じているのか尋ねられると、病に冒された息子を持つ父親が進み出て、「お弟子たちに癒していただくようお願いしたのですが、できませんでした」と答えました。その子はまだ、歯をくいしばり、泡を吹き、彼らの目の前で地に転げ回っています。父親は、最後の頼みであるイエスに懇願しました。

『「できますれば、わたしどもをあわれんでお助けください。」』

イエスは彼に言われた、『……信ずる者には、どんな事でもできる。』

その子の父親は〔涙を流しながら〕すぐ叫んで言った、『〔主よ〕信じます。不信仰なわたしを、お助けください。』¹

彼の確信の薄さが、最初の言葉に表れています。しかし彼には、ただ一人の子供のために鬼気迫る思いがあります。最初はそれで十分であると言われています。アルマは「たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。……信仰になるまで、その望みを育ててゆけ」²と言っています。ほかに頼れるものがなくなった父親は、自分の持っている信仰を断言して、世の救い主に嘆願します。「できますれば

〔訳注——英文では「あなたは何でもおできになるのですから」という意味が込められている〕、わたしどもをあわれんでお助けください。』³ わたしは涙を流さずにこの言葉を読めません。このわたしどもという代名詞は明らかに意識的に使われています。この男性が言わんとしているのは、「わたしたち家族全員が切に願っています。苦労は尽きず、疲れ果てています。わたしたちの息子は水の深みに落ちています。炎の中に落ちています。息子は常に危険な状態にあり、わたしたちは絶えず恐れています。どこから助けが得られるか分かりません。あなたは助けることがおできになりますか。少しの祝福

でも、少しの希望でも、この子の母親が日々背負っている重荷が少し軽くなるだけでも感謝します。』

この父親の「できますれば」という言葉に対して、主は「信ずる者には」という言葉で返されます。⁴

「すぐ〔に〕」と聖句は書いてあります。ゆっくりとでも、疑ってでも、何かを得るためにでもなく、「すぐ〔に〕」彼は父親としての痛みを隠すことなく叫びます。「主よ、信じます。不信仰なわたしを、お助けください。」この新たな、不十分な信仰にこたえて、イエスはその子を癒し、マルコの記録によると、ほぼ死んだような状態から立ち上がらせるのです。⁵

聖典に記されたこの感動的な出来事を背景に、わたしは教会の若人に直接話したいと思います。年齢が若い人も、教会員になってからの年数が若い人も、信仰の年齢が若い人にも話します。ほほすべての人がそのいずれかに当てはまるでしょう。

この話を観察して最初に気づくのは、信仰を持つようにと言われた父親が、まず自分の強い点を主張し、それから弱い点を認めることです。彼は最初に肯定的な言葉を、躊躇せず（ちゆうちゆう）に言います。「主よ、信じます」と。わたしはもっと信仰が欲しいと望む人に申し上げます、この男性を覚えておきなさいと！ 恐れや疑いがあるとき、困難なときには、たとえ小さくてもすでに得ている土台にしがみついてください。





わたしたち皆がこの世で遂げなければならない成長を遂げるために、この子供の病気や、この父親の絶望と同じような経験が一人一人に訪れます。問題が発生したときに、なかなか解決しないときに、**すでに知っていることに固くしがみつ**いて、**新たな知識を得るまで、強くあ**ってください。今まきに行われたこの奇跡について、イエスはこうおっしゃいました。「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言え、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。』⁶ 信仰の大きさや、知識の深さは問題ではありません。それよりも、すでに持っている信仰とすでに知っている知識に忠実であることの方が大切です。

第2の観察は第1の観察のバリエーションです。問題に遭遇し、疑問が生じるときに、自分はどれだけ欠けているか、つまり「不信仰」であるかをまず述べてから信仰を求めないでください。それはまったく逆の順番だからです。この点について明らかに述べておきたいと思えます。持っていない信仰を持っているふりをするように言っているのではなく、**持っている信仰に忠実になるように言っている**のです。時々わたしたちは、信仰を正直に言い表すよりも疑いを正直に言い表す方が、勇気のある証拠であると勘違いすることがありますが、そうではありません！この聖文の明確なメッセージを覚えておきましょう。疑問があるときには、必要なだけ率直にそれを認めてください。人

生には様々な分野において多くの疑問があるからです。しかし、自分と家族が癒されるように願っているときには、そのような疑問が奇跡を起こす妨げとならないようにしてください。

さらに言うと、思っているよりも皆さんには信仰があるのです。なぜならモルモン書の言う「偉大な証拠」⁷があるからです。イエスは「その実によって彼らを見わけるであろう」と言われました。⁸ そしてその福音の生活の実が多くの末日聖徒の生活に今表れているのです。ペテロとヨハネが当時の聴衆に言ったように、わたしは今日、皆さんに言います。「わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない。」まさにわたしたちが見たり聞いたりしたのは、この教会の何百万人もの生活の中で「著しいし〔訳注——英文では「奇跡」という意味がある〕が行われた」ということなのです。それを否定することはできません。⁹

兄弟姉妹、これは現在進行している神の業です。その中のあちこちに現れや祝福があふれているので、時々、検討し、理解し、解決しなければならない問題が発生しても、どうか過剰に反応しないようにしてください。問題は今も発生し、これからも発生します。**この教会では、わたしたちが知っていることの方が、知らないことよりも常に大切です。また、この世界では、すべての人は信仰によって歩まなければならないことを覚えておいてください。**

ですから人間的な弱さに優しくあってください。自分の弱さに対しても、死すべ

き肉体を持つ男女のボランティアによって率られるこの教会で皆さんとともに仕える人々に対してもそうです。神の完全な御子を除けば、神は不完全な人間を通してその業を行ってこられました。それは神にとって大変な忍耐を要することでしょうが、それでも神はそのようにしておられます。わたしたちもそうするべきです。また、欠点を見たときには、この業の神聖さに**欠点があるのではない**ことを覚えておいてください。ある才能のある作家がこのように言っています。無限の油が注がれるときに、限りある器でそのすべてを受け入れられないからといって、油のせいにしないでください。¹⁰ この限りある器はまさに皆さんやわたしです。どうぞ忍耐強くあり、親切で、救済心を持ってください。

最後の観察です。疑いや困難に遭遇したとき、助けを求めることを恐れないでください。あの父親のように、謙遜に、正直に助けを望んでいれば、得ることができます。この心からの望みは聖典で「誠心誠意」と呼ばれ、「神の前に決して偽善と欺きを行うことなく誠意をもって」¹¹ 追求されるものです。このように願い求めるならば、神は必ず幕の両側からわたしたちの信仰を強める助けを送られると、わたしは証します。

わたしは先ほど若人に話していると言いましたが、まだ続いています。最近14歳の少年が少しためらいながらわたしにこう言いました。「ホランド兄弟、ほくはまだ教会が真実であると知っていると言えないのですが、真実であると信じています。」わたしはその少年を強く抱き締めました。そして彼に、**信じる**というのは重要な言葉であり、非常に重要な行為でもあり、「ただ信じている」だけだと言って謝る必要は決してないことを心から伝えました。わたしは彼に、キリスト御自身が「恐れることはない。ただ信じなさい」¹² と言われたことを伝えました。そして、その言葉はまさに、若き日のゴードン・B・ヒンクレーに伝道に行く動機を与えた言葉でした。¹³

わたしはその少年に、信じるのが確信を得るための第一歩であること、また、わたしたちの教会の信仰箇条の各条がまさに「信じる」¹⁴という言葉が力強く繰り返しているということを伝えました。また彼が正直に信仰を求めていることを褒めました。

わたし自身も、信仰の初心者であった14歳のときから60年の経験を経て、今知っていることをここに宣言します。神はあらゆる時に、あらゆる方法で、あらゆる状況の中で、わたしたちの愛し救ってくださる天の御父であられることを知っています。イエスは御父の完全な御子で、不完全なわたしたちの贖いのために、御父と御子の御心によって、わたしたちのため

に愛をもって御自身の命をささげてくださいましたことを知っています。御子が死から復活されたことを知っています。そのおかげで、皆さんもわたしも復活するのです。わたしは、自らが不完全であることを認めたジョセフ・スミスが、¹⁵ 神の御手に使われて永遠の福音をこの地上に回復するために選ばれた人であることを知っています。わたしはまた、福音を回復することによって、特にモルモン書を翻訳することによって、ジョセフ・スミスが、わたしが生涯を通じて、読み、知り、聞いてきたどの預言者にも増して、神の愛とイエスの神性、そして神権の力について、わたしに教えてくれたことを知っています。使徒になって50周年を迎える今も献身的にまた元気に

働いているトーマス・S・モンソン大管長が、今日預言者の外套を授かる正統な後継者であることを知っています。わたしたちは大管長がまとっているその外套をこの大会で再び見ました。わたしは、皆さんが預言者、聖見者、啓示者として支持しているそのほかの14人の男性が、モンソン大管長を、その手と心と使徒の鍵をもって支持していることを知っています。

ペテロが「いっそう確実な……預言の言葉」¹⁶と呼んだその確信によって、皆さんにこれらのことを宣言します。わたしにとってかつてはとても小さな信仰の種であったものが、命の木に育ったのです。ですから、もしあなたの信仰が今でも、これからでも、少しでも試されているのであれば、わたしの信仰に頼るようにお勧めします。この業はまさに神の真理です。疑いや悪魔に目をくらまされて、この道からそれるならば、わたしたちは滅びるということを、わたしは知っています。希望を持ち続けてください。旅を続けてください。疑問と不安を正直に認めてください。しかし、最初にそして永遠に信仰の火を燃え立たせてください。なぜなら、信じる者にはすべてのことができるからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. マルコ 9:22-24。14-21 節も参照
2. アルマ 32:27, 強調付加
3. マルコ 9:22, 強調付加
4. マルコ 9:22, 23, 強調付加
5. マルコ 9:24-27 参照
6. マタイ 17:20
7. ヒラマン 5:50 参照
8. マタイ 7:16
9. 使徒 4:16, 20 参照
10. アルフレッド・アンダーシェイム, *The Life and Times of Jesus the Messiah*, 全2巻 (1883年), 第2巻, 108
11. 2 ニーフアイ 31:13
12. マルコ 5:36
13. ゴードン・B・ヒンクレー, *Conference Report*, 1969年10月, 114 参照
14. 信仰箇条 1:1-13 参照
15. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』 521 参照
16. 2 ペテロ 1:19





十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

キリストに従う者たち

キリストに従うことは気まぐれや一時的にすることではなく、いつでも、どこにいても、常に実行する決意であり、生き方なのです。

今 朝モルモンタバナクル合唱団が歌った、わたしたちが最も親しんでいる賛美歌の中に次のような一節があります。

「われにこ来よ」と言う
救い主きに行かん
ひとりでは居おられず
御子みよ、共にあれ¹

スコットランド人の改宗者ジョン・ニコルソンは、救い主が最初に弟子たちを召されたときの出来事（マタイ4：19 参照）から靈感を受けて、この歌詞を書きました。初期の多くの指導者と同じように、彼も正式な教育をほとんど受けていませんでしたが、救い主とその計画を深く愛していました。²

この大会で語られたすべてのメッセージは、わたしたちが救い主の足跡に従う助けとなります。救い主の模範と教えは、イエス・キリストに従うすべての者の歩むべき道を明らかにしてくれます。

ほかのすべてのクリスチャンと同様、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、新約聖書のマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの書に記されている救い主の生涯を学んでいます。聖書のこれら4つの書に記された模範と教えに、わたしはここで目を向けてみます。わたしたち各人およびすべてのキリスト教徒の皆さんが、回復された主

の教会と、キリストに従う者としてふさわしくなるための方法を、ともに学ぼうおすすめします。

神の王国に入るにはバプテスマを受けなければならないと、イエスは教えられました（ヨハネ3：5 参照）。イエスは自らバプテスマを受けた後に、その務めを始められました（マルコ1：9 参照）。そしてイエスとイエスに従う者たちは、人々にバプテスマを施しました（ヨハネ3：22－26 参照）。わたしたちも同じようにしています。

イエスは教えを述べ始めるに当たって、御自分の言葉に耳を傾ける人々に悔い改めるよう勧められました（マタイ4：17 参照）。これは今も、主の僕たちが世界に向けて語っているメッセージです。

イエスは生涯にわたって、常に戒めを与えられました。そして「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめ

を守るべきである」と教えられました（ヨハネ14：15。21, 23 節も参照）。主の戒めを守るには「人々の間で尊たつとばれるもの」（ルカ16：15）と「人間の言い伝つたえ」（マルコ7：8。13 節も参照）から離れる必要があることを明確にされました。さらに、こう警告されました「もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。」（ヨハネ15：19）使徒ペテロが後に断言したように、イエスに従う者たちは「特別な民」でなければなりません（1ペテロ2：9 参照）。

末日聖徒は「世のもの」とならず、「人間の言伝え」に縛られてはならないことを理解していますが、キリストに従うほかの人々と同様、この世とその慣習から自分たちを切り離すのが難しい場合があります。ある人々は、世の方法に従って生活しています。イエスはそのような人について「彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだ」（ヨハネ12：43）とおっしゃいました。世の方法に従った生活は、数え切れないほど多く、簡単には挙げられません。社会的な公平さや、極端な服装や身だしなみなどの世の風潮から、家族の永遠の本質や働きについての様々な価値観に至るまで、多岐にわたっています。

イエスの教えは理論ではなく、常に行





動と結びついたものでした。イエスは「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行かうものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう」(マタイ7:24。ルカ11:28も参照) また、「主人が帰ってきたとき、そのようにつとめていられるのを見られる僕は、さいわいである」(マタイ24:46)と教えられました。わたしたちの好きな賛美歌ではこう歌います。

われ主を愛して
その道進まん……
われ主を愛して
従い行かん³

イエスが教えておられるように、イエスを愛する人はその戒めを守ります。モンソン大管長が今朝教えたように、そのような人々は従順です。キリストに従うことは気まぐれや一時的にすることではなく、いつでも、どこにいても、常に実行する決意であり、生き方なのです。救い主はこの原則を教えるとともに、聖餐の儀式を定めて、わたしたちがこの原則に従うことを思い起こし、決意を強めるための方法を明らかにされました(ほかの教会では聖体などと呼ばれています)。わたしたちは近代の啓示を通して、救い主を記念するしるしを受けるよう主が命じておられることを知っています(ジョセフ・スミス訳マタイ26:22『聖句ガイド』310; ジョセフ・スミス訳マルコ14:21-24、『聖句

ガイド』311参照)。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、毎週、礼拝に出席して、パンと水を取り、いつも御子を覚え、御子の戒めを守ると聖約することによって、この戒めを守ります。

イエスは「常に祈るべきことを人々に」教えられました(ルカ18:1)。さらに、十二使徒を召すに当たって「夜を徹して神に祈られた」(ルカ6:12)ように、その模範を示されました。ほかのキリスト教徒と同様、わたしたちはあらゆる礼拝集会で祈りをささげます。また、導きを求めて、さらに、個人で度々祈り、家族として毎日ひざまずいて祈るべきであると教えています。そしてイエスと同じように、天におられる御父に対して、イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります。

救い主は御自身の教会にあって補佐する十二使徒を召し、御自身の死後も業を継続するための鍵と権能を彼らに与えられました(マタイ16:18-19; マルコ3:14-15; 6:7; ルカ6:13参照)。回復されたイエス・キリストの教会である末日聖徒イエス・キリスト教会はその組織において、また鍵と権能が使徒に与えられていることにおいて、この範例に従っています。

イエスが従って来るよう求めたとき、ただちに応じないで、家族に対する務めを果たしてからその求めに応じようとした人たちがいました。イエスはそのような人に言われました。「手をすきにかけてから、

うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである。」(ルカ9:62) 多くの末日聖徒は、イエスが教えられた優先事項を実践しています。それは、子供や孫たちのもとを離れて宣教師の召しにこたえている夫婦宣教師やその他の人々のすばらしい模範に表されています。

イエスは、神が男と女を造られたこと、男はその父母を離れ、妻と一体となるべきであることを教えられました(マルコ10:6-8参照)。わたしたちがこの教えに忠実であることはよく知られています。

イエスは、有名な失われた羊のたとえの中で、群れから迷い出た羊を全力で捜すよう教えておられます(マタイ18:11-14; ルカ15:3-7参照)。ご承知のように、トーマス・S・モンソン大管長は、同胞である男女を救い出すことについてのすばらしい模範と教えを通して、この教えの重要性を説いてきました。

救助し、奉仕するように力を尽くすことで、わたしたちは「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」(マタイ22:39)という、愛に関する救い主のすばらしい模範と教えを実行しているのです。さらに主は、自分の敵をも愛するよう命じておられます(ルカ6:27-28参照)。この世の働きを終えるに当たって、主は偉大な教えを与えられました。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも



互に愛し合いなさい。

互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ 13:34-35)

互いに愛し合うことに関連して、イエスはまた、他人から不当な扱いを受けたときに彼らを赦すように教えられました(マタイ 18:21-35; マルコ 11:25-26; ルカ 6:37 参照)。多くの人がこの難しい戒めに苦しむ一方で、わたしたちは、この上なく過酷な状況に陥っても、愛に基づいた赦しを与えた末日聖徒の感動的な模範を知っています。例えば、クリス・ウィリアムズは妻と二人の子供を飲酒運転で死に追いやった人を、イエス・キリストを信じる信仰によって赦しました。悲劇が起きたわずか2日後の悲しみのさなかに、当時ビショップを務めていたこの寛容な人はこう言いました。「キリストの弟子であるために、ほかの選択肢はないのです。」

ほとんどのクリスチャンはイエスから教えられているように、貧しい人、乏しい人に慰めを与えます(マタイ 25:31-46; マルコ 14:7 参照)。末日聖徒イエス・キリスト教会とその会員たちは、この主の教えに従うことについて優れた働きをしています。会員たちは慈善事業に惜しみなく献金し、貧しい人、乏しい人に対して個人的に奉仕し、物品を寄贈します。さらに、会員たちは毎月2食を断ち、少なくともその食事に相当するお金を断食献金としてささげ、ビショップと支部会長はそのお金を使って、援助を必要とする会員の世話をします。おなかをすかせた人を助けるた

めに断食することは、慈愛に基づく行為であって、純粋な動機から行われるとき、霊を強めるものとなります。

教会が世界的に展開している人道支援についてはあまり知られていません。末日聖徒イエス・キリスト教会は全世界で苦しんでいる大人や子供たちに慰めを与えるため、会員たちが惜しみなくささげた資金を使って、食糧、衣類、その他の必需品を届けています。過去十年間で合計数億ドルに上るこれら人道支援のための献金は、宗教、人種、国籍を問わず使われています。

2011年に日本を襲った地震と津波の後、わたしたちは大規模な支援活動を展開し、提供した現金と支援物資は1300万ドルに達しました。さらに、教会が中心となって集めた3万1,000人以上のボランティアが60万時間以上の奉仕を行いました。合衆国東部に被害をもたらしたハリケーン・サンディーの被災者に対しては、人道支援活動として多くの様々な物資を寄付し、さらに約2万8,000人の教会員が参加して30万時間の清掃活動を実施しました。昨年はほかにも多くの活動を実施しましたが、中でも、アフリカのチャドで難民のために30万ポンド(13万6,000kg)の衣類と靴を寄贈しました。わたしたちは過去25年間に179か国で3,000万人近くの人々を支援してきました。⁶「モルモン」は貧しい人や乏しい人に与える方法を、ほんとうに知っている人々です。

聖書に記されている最後の教えの中で、救い主はあらゆる国民と人々に主の教えを携えて行くよう指示されました。末日聖

徒イエス・キリスト教会は回復の初期から、その教えに従うよう努力してきました。会員がわずか数千人で、貧しく、苦難にあえいでいた、教会が誕生して間もないころ、初期の指導者は海を越えて、東へ西へと宣教師を派遣しました。わたしたちは教会全体として、キリストのメッセージを伝え続け、現在は6万人以上の専任宣教師と数千人のパートタイム宣教師を擁しています。世界中の150を超える国々と地域に、宣教師を派遣しています。

イエスは山上の偉大な垂訓の中でこう教えられました。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)。この教えの目的と救い主に従う目的は、御父のもとへ行くことです。救い主は御父についてこう語りました。「わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられる」(ヨハネ 20:17)。

福音の回復以来与えられている近代の啓示によって、わたしたちは完全な者になるようにというこの戒めが、神の子供たちの救いを目的とした御父の計画の一部であることを知っています。その計画の下で、わたしたちは皆、天の両親の**相続人**となります。使徒パウロは「わたしたちが神の子である」と教えて、こう語りました。「もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であ[る。]……キリストと共同の相続人なのである」(ローマ 8:16-17)これは新約聖書で告げられているように、人は「永遠のいのち……をつぐ者」(テトス 3:7)であり、御父のもとへ行くなら、「[すべて]のものを受け継ぐ」(黙示 21:7)という意味です。それは御父の持つておられるすべてであって、わたしたちの肉につける思いでは理解し難い概念です。しかし、少なくとも、永遠におけるこの最終目的地に到達するには、救い主イエス・キリストに従わなければなりません。主は「わたしは道であり、真理であり、命であ

る。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」と教えておられます(ヨハネ14:6)。わたしたちは主に従い、この世と次の世にあって主のようになることを求めています。このため、賛美歌「われに來よ」で、わたしたちはこう歌います。

主に従うのは
悲しきこの世に
在るときのみならず
天の家にまで

永遠に主の言葉
従って行けば
み国の栄えも
すべて恵み受けん⁷

わたしは、救い主イエス・キリストについて証します。わたしたちは主の教えと模範に従うよう努力しています。主は、重荷を負っている人が皆、主のもとへ行き、主に学び、従い、それによって魂に休みを見いだすよう勧めておられます(マタイ4:19;11:28 参照)。主のメッセージが真実であり、回復された主の教会に神聖な使命と権威があることをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. 「われに來よ」, 賛美歌 66
2. カレン・リン・デイビッドソン, *Our Latter-day Hymns: The Stories and the Messages* (1988年), 142 - 143, 419
3. 「われ主を愛して」, 賛美歌 134
4. 例として, ハイディ・S・スウィントン, *To the Rescue: The Biography of Thomas S. Monson* (2010年), 149 - 61; トーマス・S・モンソン, 「救助に向かう」『リアホナ』2001年7月号, 57 - 60 参照。
5. クリス・ウィリアムズ, ジェシカ・ヘンリー記, "Father Relies on Faith to Forgive Intoxicated Teen Driver," *Deseret News*, 2012年8月1日。クリス・ウィリアムズ, *Let It Go: A True Story of Tragedy and Forgiveness* (2012年) も参照。
6. "Emergency Response: Church Assists Worldwide," *Church News*, 2013年3月9日, 9; Welfare Services Emergency Response, "2012 Year in Review," 8 参照。
7. 賛美歌 66



七十人
クリストフェル・ゴールデン・ジュニア長老

御父と御子

イエス・キリストの福音の中心となる原則ならびに救いをもたらす福音の力は、御父と御子を正しく理解することにある〔のです〕。

愛 する兄弟姉妹、この靈感あふれる総大会でお話しできることを感謝しています。

わたしの心に浮かんだテーマは、この上なく神聖なものです。最初に、これまでの歴史を通じて非常に多くのクリスチャンが示した信仰と献身的な働きに、感謝を表したいと思います。その中には、フランス・プロテスタントやアイルランド・カトリックだったわたしの先祖が含まれています。彼らの多くは、地位や財産、命までもなげうって、自分たちの神と信仰を守

りました。それは自分の信仰のため、神を礼拝するためでした。¹

わたしたちは、末日聖徒としてまたクリスチャンとして同様に、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストを、強く、そして心から、信じています。神への献身は、わたしたち一人一人と創造主である御方との間で、常に神聖で個人的な事柄です。

永遠の命の探求とは、神がどのような御方であるかを理解し、神のもとへ戻ってともに住むために努力することにほかなりません。救い主は「永遠の命とは、唯一



の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであると御父に祈られました。²

救い主御自身によるこの宣言に照らしてみると、御父とその御子の本質について何世紀にもわたり多くの人々の間で信じられている一般的な概念は、聖典の教えと一致していないことが明らかです。

イエス・キリストの福音の中心となる原則ならびに救いをもたらす福音の力は、御父と御子を正しく理解することにあると、謹んで申し上げます。³

イエス・キリストの福音の中で最も基本的なこの原則が重要であることは、1820年に預言者ジョセフ・スミスが受けた最初の示現によって確認されています。預言者はこのように記しています。「わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』⁴

少年ジョセフのこの経験と、その後を受けた多くの示現と啓示から、神は実際に存在すること、御父とその御子イエス・キリストは明らかに別個の御方であること、人は神にかたどって造られていること、天の御父は文字どおりイエス・キリストの御父であること、神は引き続き御自身を人に現されること、神はいつもわたしたちの近くにおられ、わたしたちに関心を寄せておられること、神はわたしたちの祈りにこたえてくださることが明らかになっています。

御父と御子がこれと同じように姿を現された聖典中の記録は比較的まれであるとはいえ、最初の示現から明らかになった驚くべき事実は、聖典の中に記されたほかの出来事と見事に合致しています。

たとえば新約聖書には、ステパノが殉教したときの、「ああ、天が開けて、人の子が

神の右に立っておいでになるのが見える」という、彼の最後の証^{あかし}が記されています。⁵

使徒ヨハネはパトモス島で受けた大いなる示現の中で、「全能者にして主なる神」⁶ならびに「その血によって……人々をあがな」⁷される神の小羊を見ました。

モルモン書は聖書と並んで御父と御子の教義を力強く証しています。モルモン書には救い主がニーファイ人を訪れられたこと、2,500人のニーファイ人が、復活したキリストを紹介する御父の声を聞いたことが記録されています。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。」⁸

四福音書の中でキリストが天の御父について160回言及しているのに対して、モルモン書にはニーファイ人の間で教えと導きを施したわずか3日間に、御父について122回語ったことが記されています。

例えば、マタイによる福音書の中でイエスは言われました。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨^{みむね}を行う者だけが、はいるのである。」⁹

ヨハネによる福音書の中でイエスはこう証されました。「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。」¹⁰

ルカによる福音書の中でイエスは大声

で言われました。「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」¹¹

主は常に、最大の敬意と従順さをもって天の御父について語りました。

このように申し上げることで、誤解がないようにしていただきたいと思います。イエス・キリストは、偉大なるエホバ、イスラエルの神、約束されたメシヤであられます。また無限の贖いのために、この世の救い主であり、贖い主でもあられます。使徒パウロは救い主についてこのように宣言しました。「それから終末となって、その時に、キリストはすべての君たち、すべての権威と権力を打ち滅ぼして、国を父なる神に渡されるのである。」¹²

贖罪の前夜、救い主は御父に対して大いなる執り成しの祈りの中で、次のように言われました。

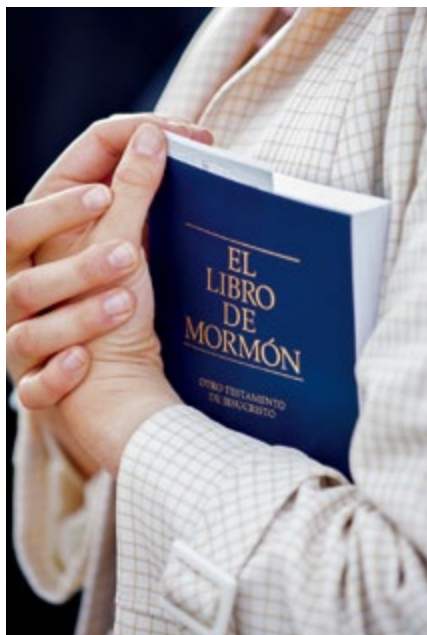
「わたしは彼ら〔言いかえれば、使徒たち〕のためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであり、すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。

わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」¹³

御父と御子は確かに別個の御方ですが、力と目的において完全に一致し、一つであります。その一致は御二方の間だけに限定されるのではなく、戒めに心から従い守る人だれもが同じ一致に到達することを、御二方は望んでおられます。

神を熱心に求める人はどのようにして御父と御子を知ることができるのでしょうか。救い主は約束しておられます。「しかし、助け主、すなわち、……聖霊は、あなた





がたにすべてのことを教え[る]であろう。」¹⁴

モルモン書の中で、キリストの教義について述べたニーファイは、聖霊は「御父と御子について証をされる」と宣言しました。¹⁵

聖霊の力あるいは影響力は、主の御心により、いずれの宗教を信じているかにかかわらず、だれでも感じることがあります。けれども聖霊のすべて、すなわち賜物を受けるには、「打ち砕かれた心と悔いる霊」¹⁶をもってバプテスマの儀式を受け、按手により聖霊の賜物¹⁷を受けなければなりません。これらおよび他の神聖な儀式は、神の神権の指示と力の下で執行されなければなりません。この点については次のように教えられています。

「また、この大神権は福音をつかさどり、王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を持つ。

それゆえ、この神権の儀式によって神性の力が現れる。」¹⁸

この真の光に照らして考えると、御父と御子の教義は永遠の家族の教義です。全人類は天の両親¹⁹の霊の子供として、この天の家族における御父の長子である

キリストとともに、かつて存在していました。²⁰

わたしたちは皆、そのような状態にありました。わたしたちは天の御父の子供です。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は預言者としての洞察に基づいて、こう語りました。「わたしたちが幕を通してかなたへ行き、わたしたちが〔天の〕御父をどれほどよく知っていて、御父の顔にどれほどなじみがあるかに気づくときほど、大きな驚きを覚えることはないでしょう。」²¹

人間の言葉ではそれらを告げることは不可能であり、聖霊と神の力によってのみ明らかにされることを、わたしは学んできました。このような思いから、永遠なる御父とその聖なる御子、イエス・キリストが実在し、近くにおられ、高潔な御方であることを、心より証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ケネス・スコット・ラトゥレット、*A History of Christianity*、第1巻: *Beginnings to 1500*、改訂、編集(1975年)、および *A History of Christianity*、第2巻: *Reformation to the Present* (1975年) 参照、ダイヤモンド・マッカ

2. ヨハネ 17:3
3. *Lectures on Faith* (1985年)、38 - 44 参照
4. ジョセフ・スミス—歴史 1:17
5. 使徒 7:56
6. 黙示 4:8
7. 黙示 5:9
8. 3 ニーファイ 11:7
9. マタイ 7:21、強調付加
10. ヨハネ 5:19、強調付加
11. ルカ 23:46、強調付加
12. 1 コリント 15:24。救い主とその使命についての理解を深めるために、「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2-3を参照
13. ヨハネ 17:20 - 22、強調付加
14. ヨハネ 14:26
15. 2 ニーファイ 31:18
16. 3 ニーファイ 9:20; モロナイ 6:2
17. ヨハネ 3:5; 3 ニーファイ 11:31 - 38 参照
18. 教義と聖約 84:19 - 20
19. 「家族——世界への宣言」、『リアホナ』2010年11月号、129 参照。
20. コロサイ 1:15; 教義と聖約 93:21 参照
21. エズラ・タフト・ベンソン、「Jesus Christ—Gifts and Expectations」 in *Speeches of the Year, 1974* (1975年)、313。「Jesus Christ—Gifts and Expectations」 *Ensign*、1988年12月号、6; *Tambuli*、1977年5月、24も参照



七十人
エンリケ・R・ファラベラ長老

家庭——人生の学校

教訓を学べるのが家庭です。家庭は、この地上における天国の一部とすることのできる場所なのです。

家庭で間違いを犯したことの言い訳として、子育てを教える学校がないからと言う親がいます。

実は、そのような学校は存在し、しかもいちばん良い学校にできるのです。その学校は**家庭**と呼ばれています。

わたしは過去の記憶をたどるとき、妻とともに大切に過ごしてきた時を思い出します。その思い出を皆さんと分かち合いますので、皆さんは、うれしかったか悲しかったかを問わず、自分の経験を思い出すとよいでしょう。わたしたちはそのすべから学びます。

1. 神殿こそがその場所です

わたしは伝道から帰ったとき、黒髪を腰まで伸ばした美しい若い女性に出会いました。美しい、大きな、琥珀色の瞳をした、笑顔が人の笑みを誘う女性でした。初めて出会った瞬間からわたしは心を引き込まれました。

妻は神殿で結婚することを目標としていましたが、当時、いちばん近い神殿に行くのに4,000マイル(6,400キロ)以上の旅をしなければなりませんでした。

わたしたちの民事結婚式は、喜びと悲しみ両方が混ざったものでした。この世限りの結婚だったからです。司式者は、「わたしは今、あなたがたが夫婦であると宣言します」と告げたその直後に、「死があなたがたを分かちまで」と述べたのです。

そこで、わたしたちは節約してお金のため、アリゾナ州メサ神殿までの片道切符を購入しました。

神殿では、わたしたちが聖壇にひざまずいていたとき、権能を持つ僕がわたしの待ち焦がれた言葉を宣言しました。わたしたちはこの世においても永遠にわたっても夫婦であると宣言されたのです。

友人が日曜学校に連れて行ってくれました。集会で彼は立ち上がって、わたしたちをクラスの人々に紹介しました。集会が終わると一人の兄弟がやって来て、わたしと握手して20ドル札を手に握らせてくれました。その後すぐに、別の兄弟が同じように手を差し出し、驚いたことに、彼もわたしの手に紙幣を握らせました。わたしはすぐに妻を探し、部屋の向こう側にいる妻に叫びました。「ブランキー、皆さんと握手して!」

すぐに、グアテマラに帰るのに十分なお金が集まりました。

「日の栄えの栄光には、三つの天、すなわち三つの階級がある。

その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位に入らなければならない。」¹

2. 口論するために必要なのは二人です

妻のモットーの一つはこれでした。「口論するために必要なのは二人です。わたしは決してその一人になりません。」

主は人と接するとき指針とすべき

特質を明確に述べておられます。それは、説得、寛容、温厚、柔和、それと偽りのない愛です。²

家庭内の身体的虐待という行為は、一部の社会ではあまり見受けられません。それは喜ばしいことです。しかし、精神的虐待をなくすということについては、まだまだ改善が必要です。この種の虐待によって生じた傷は記憶に長く残ります。わたしたちの人格を損ない、心に憎しみの種をまき、自尊心を低下させ、心を恐れで満たします。

日の栄えの結婚の儀式を行うだけでは不十分です。日の栄えの生活を送らなければならないのです。

3. 歌を歌う子供は幸せな子供です

これは妻がよく口にするもう一つのモットーです。

救い主は神聖な音楽の重要性を理解しておられました。救い主が弟子たちと過越を守られた後のことが、聖文にこう述べられています。「彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。」³

また、預言者ジョセフを通して主はこう言われました。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。」⁴

親から「神の子です」⁵を歌うよう教えられた幼い子供の歌を聞くことは、何と感動的でしょう。

4. わたしはあなたに抱き締めてもらいたいのです

「愛しているよ」「どうもありがとう」「ごめんなさい」という言葉は、人にとって乳香のようなものです。涙を喜びに変えます。打ちひしがれた人を慰め、またわたしたちの心の愛情を裏付ける言葉です。大事な水が不足すると植物がしおれてしまうように、愛の言葉と行いを伝えないとわたしたちの愛は弱まり、失われてしまいます。



かつて郵便でラブレターを送った日々のことや、わずかばかりの硬貨を集めて電話ボックスから愛する人たちに電話をかけたこと、無地の紙に絵を描き愛の詩をつづったことを思い出します。

今日、そのすべてがまるで博物館に並んだ過去の遺物のようです。

この時代の科学技術には驚いてしまいます。愛と感謝のメールを携帯電話で送ることは、何と簡単なことでしょうか。青少年はいつもそうしています。ひとたび家庭を設けたら、こうしたいろいろな美しい習慣は続くでしょうか。最近わたしは妻から次のような携帯メールを受け取りました。「天国のような抱擁、太陽のようなキス、月のような夕べ。良い一日を。愛しているわ。」

このようなメールをもらったら、天国になるような気持ちになるに違いありません。

天の御父は愛を表現することについて完

全な模範を示されました。御子を紹介されたとき、次のような言葉を使われました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」⁶

5. わたしはモルモン書と救い主イエスキリストを愛しています

妻が毎日モルモン書を読んでいる姿を見るとき、感慨深いものがあります。妻がそうしているときに、救い主の使命を証する聖句を読んで顔に喜びを浮かべるのを見るだけで、彼女の証を感じる事ができます。

「聖文を調べなさい。あなたがたは、聖文の中に永遠の命があると思って調べているが、聖文は、わたしについて証をするものである」⁷という救い主の御言葉は、何と知恵に富んでいることでしょうか。

この御言葉に促され、わたしは、最近本

の読み方を学んだ孫のラクエルに、「モルモン書を読むことを目標にしたらどう?」と尋ねました。

彼女の返事はこうでした。「でもおじいちゃん、難しいわ。厚い本だから。」

そこで、1ページ声に出して読むように頼みました。わたしはストップウォッチを手に取り、時間を計って言いました。「3分しかかからなかったよ。スペイン語のモルモン書は642ページだから、全部で1,926分だね。」

それで彼女がもっと弱気になったので、その数を60分で割り、読むのに必要なのは32時間だけだと言いました。1日半足らずです。

すると彼女は、「それなら簡単よ、おじいちゃん」と言いました。

結局ラクエルとその兄エステバン、それにほかの孫たちは、それ以上の時間をかけました。この書物は祈りと瞑想の気持ちをもって読む必要があるからです。

やがて、わたしたちは聖文に喜びを感じるようになると、詩篇の作者のように叫ぶことでしょう。「あなたのみ言葉はいかにわがあごに甘いことでしょう。蜜にまさってわが口に甘いのです。」⁸

6. 聖文を知るだけでは不十分です。それに従って生活しなければなりません

わたしは自分が帰還宣教師であり、熱心に聖文を調べたので、すべてを知っていると思ったときがあったことを思い出します。ブランクと交際中に、二人で一緒に聖典を読んだものです。わたしは自分の注釈と参照資料をたくさん使って、福音の知識を彼女に伝えました。結婚した後、わたしは妻から大きな教訓を学び、重大なことに気づきました。わたしは彼女に福音を教えようとしたかもしれませんが、福音に従って生活する方法を彼女から教わったのです。

救い主は山上の垂訓を終えるに当たって、次のような賢明な勧告をお与えになりました。「それで、わたしのこれらの言葉

を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。」⁹

聖文に見られる日の栄えの原則に従って生活する人は、苦しむ人に慰めを与えます。意気消沈している人に喜びをもたらし、道を見失った人に進む方向を示し、苦悩している人に平安を与え、真理を求める人に確かな導きを与えます。

要約すれば、

1. 神殿こそがその場所です。
2. 口論するために必要なのは二人です。わたしは決してその一人になりません。
3. 歌を歌う子供は幸せな子供です。
4. わたしはあなたに抱き締めてもらいたいです。
5. わたしはモルモン書と救い主イエス・キリストを愛しています。
6. 聖文を知るだけでは不十分です。それに従って生活しなければなりません。

このような多くの教訓を学べるのが家庭です。家庭は、この地上における天国の一部とすることのできる場所なのです。¹⁰ わたしは証します。イエス・キリストの福音であり、そして天の御父の計画である福音は、現世における確かな指針と永遠の命の約束を与えてくれます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 131:1-2
2. 教義と聖約 121:41 参照
3. マルコ 14:26
4. 教義と聖約 25:12
5. 「神の子です」『賛美歌』189 番
6. マタイ 3:17。マルコ 1:11:3 ニーフай 11:7 も参照
7. ヨハネ 5:39
8. 詩篇 119:103
9. マタイ 7:24
10. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』43, 150 参照



七十人
エリック・W・コピシュカ長老

主によって 受け入れられる

努力し主に受け入れられるようになると、主に選ばれ、祝福されていることが自覚できるように……なるでしょう。

子供のころ、父は屋外で作業をするときに、時々わたしと一緒に連れて行ってくれました。家から数キロ離れた所に小さな畑があり、種まきの季節の前にはいつもたくさんの仕事がありました。ガゼボと呼ばれる西洋風あずまやを修理したり、柵を取り付けたり、補修したりしました。思い返すと、こうした作業はいつも、凍えるように寒い日や、大雪の日、土砂降りの雨の日にしたように思います。でも、そんな仕事が大好きでした。父は辛抱強くわたしを受け入れて、いろいろなことを教えてくれました。

ある日、父はわたしにねじを締めるように言い、こう注意しました。「きつくしすぎると壊れるからね。」わたしは自分の腕前を父に見せたいと思い、力いっぱい締めました。ねじは壊れてしまいました。父は冗談を言い、二人でやり直しました。「やらかしてしまった」ときでも、いつも父の愛と信頼を感じました。父が亡くなって10年以上たった今でも、父の教えや、愛と励まし、そして父から受け入れられていると感じます。

愛する人に受け入れられたいという気持ちは、人の基本的な欲求です。善良な人から受け入れられると、意欲は高まります。自尊心と自信が増します。愛する人から

受け入れてもらえないと、しばしばほかの人にそれを求めます。他人の幸福になど関心のない人に求めてしまうかもしれません。真の友人と呼べない人とともに行動し、受け入れてもらうためにいかがわしいことに手を染めるかもしれません。グループへの帰属感や地位を示すような特定のブランドの服を着ることで、受け入れてもらおうとするかもしれません。人によっては、役職や高い地位を迫及することで受け入れてもらおうとする場合もあります。そういう人は、役職や地位によって自分の価値を定義しているかもしれません。

教会の中でも、そのような考え方がまったく存在しないわけではありません。受け入れてもらう相手や動機を間違えると、危険な道に足を踏み入れることになります。その道は人を迷わせ、時には破滅に導きます。愛されて自信を持つ代わりに、見捨てられて劣等感を抱くようになるのです。

アルマは息子ヒラマンに「神に頼って生きるようにしなさい」¹と勧告しました。人を力づけ、受け入れてくださる究極の御方は、天の御父と御子イエス・キリストです。御二方はわたしたちを御存じで、愛しておられます。肩書きや役職を見て受け入れることも、地位を気になさることもありません。御二方は心を御覧になるのです。

今の自分も、これからなろうとする自分も受け入れてくださいます。御二方を求め、御二方から受け入れていただくとき、人は常に高められ、励まされます。

わたしたち一人一人が究極的に受け入れられていると感じることのできる簡単なパターンを紹介しましょう。このパターンは、預言者ジョセフ・スミスを通して主が教えてくださったものです。「まことに、わたしはあなたがたに言う。彼らの中で、その心が正直で、打ち砕かれていて、かつその霊が悔いていることを知っており、また犠牲を払って……自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる。」²

このパターンは3つの簡単な段階から成っています。

1. 自分の心が正直で、打ち砕かれていることを知る。
2. 自分の霊が悔いていることを知る。そして、
3. 主が命じられるように犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとする。

第1に、自分の心が正直で打ち砕かれていることを知る必要があります。どうしたらそれが分かるのでしょうか。まず、自分の生活を真摯に見つめ直すことから始めます。心は思いの中心です。心の中をのぞき込み、自己評価をします。周りのだれも知らないことも、自分は当然知っています。自分の動機や願望を知っています。誠心誠意、正直に自らを省みると、正当化や自己欺瞞に陥ることはありません。

心が打ち砕かれているかどうか判断する方法もあります。打ち砕かれた心とは、柔和で、寛大で、受け入れる心です。救い主が「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている」³と言われるのを聞くとき、主がわたしの心の戸をたたいておられるのが聞こえます。主に対して戸を開けると、わたしはもっと御霊に従い、神の御心を受け入れます。



心が打ち砕かれ、正直になるまで誠心誠意祈りながら深く考えるなら、聖霊から教えを受けるようになるでしょう。心地よい確認を受けたり、穏やかに正されたり、行動を促されたりするようになるのです。

第2に、自分の霊が悔いていることを知らなければなりません。オックスフォード辞典は、悔いるの意味を「過ちを犯したと自覚したときの悲しみを感ず、表現すること」⁴と定義しています。霊が悔いていれば、罪と欠点を認めることができます。「義にかかわる〔すべての〕ことについて」⁵教えを受け入れやすくなります。神の御心に添った悲しみを感ず、進んで悔い改めます。悔いる霊は進んで「御霊の勧めに」耳を傾けます。⁶

悔いる霊は、行動への意欲と決意となって外に現れます。進んで神の前にへりくだり、進んで悔い改め、進んで学び、進んで変わります。「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」⁷と進んで祈ります。

主に受け入れられるための第3の段階は、「主……が命じるあらゆる犠牲」⁸を払って聖約を守ると心から決意することです。犠牲という言葉は、何か大きな、

難しいことを指すように思われがちです。そのような状況もあり得ますが、ほとんどの場合、犠牲とは日々の生活の中でキリストの真の弟子として生活することを指します。

犠牲によって聖約を守る一つの方法は、毎週ふさわしい状態で聖餐を受けることです。神聖な儀式に備えるように心から努力します。主と交わした神聖な約束を新たにし、確認します。このようにすれば、主に受け入れられていると感じ、自分の努力が認められ、イエス・キリストの贖いを通して罪が赦されるという確信が主から与えられます。この儀式で主は、わたしたちが進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守るならば、いつも御子の御霊を受けられると約束しておられます。聖霊を常に伴侶としていることは、神に受け入れられているという究極のしるしです。

犠牲によって聖約を守るそのほかの方法には、教会の召しを受け、召しを忠実に果たすこと、また預言者トーマス・S・モンソン大管長の勧めに従い、霊的な救助を必要としている人々に手を差し伸べるといった簡単なこともあります。近所や地域社会で人知れず奉仕をすることも、



先祖の名前を見つけて神殿の儀式をすることも、犠牲によって聖約を守ることです。日々の生活の中で、義にかなった生活をするように努めることも、率直であることも、御霊のささやきに耳を傾けることも、犠牲によって聖約を守ることです。時には、聖約を守るとは、人生の嵐が吹き荒れるときに、ただ確固として立ち、忠実であることだけを意味する場合があります。

主に受け入れられる方法に加えて、主に受け入れられるように努力することで個人と家族がどれほど祝福されるかについて、主はすばらしい比喻を用いて教えられました。「主なるわたしは、良い土地で清らかな流れのほとりに植えられた、多くの貴い実を結ぶ実り豊かな木のように、彼らに実を結ばせるからである。」⁹

主の御霊と波長が合い、主に受け入れられていると感じるとき、想像を絶する祝福を受け、多くの義の実を結ぶことができます。そのときわたしたちは、「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」¹⁰と

主から言われる人々の中に、自分を見いだすことでしょう。

努力し主に受け入れられるようになる時、主に選ばれ、祝福されていることが自覚できるようになり、主が良い方向に導いてくださることがさらに確信できるようになり、主の深い憐れみを、心と、生活と、家庭の中ではっきり感じるようになるでしょう。

主に受け入れられ、主の約束された祝福にあずかりたいという望みを持つように心からお勧めします。主が示してくださった簡単なパターンに従うなら、役職、地位、様々な障害に関係なく、主に受け入れられていることが分かるようになります。主に愛され受け入れられていることで、力がわき、信仰が増し、人生のあらゆる出来事に対処できるようになります。困難の中にあっても、成功し、栄えて、¹¹心安らかにしていただけるでしょう。¹² わたしたちは主が次のように言われた人々の中にいるでしょう。

「幼い子供たちよ、恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり、わたし

はすでに世に勝っており、そしてあなたがたは父がわたしに与えてくださった者に属しているからである。

父がわたしに与えてくださった者は、だれも失われない。」¹³

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. アルマ 37 : 47
2. 教義と聖約 97 : 8
3. 黙示 3 : 20
4. *Oxford Dictionaries Online*, “contrite” の項, oxforddictionaries.com
5. アルマ 21 : 23
6. モーサヤ 3 : 19
7. ルカ 22 : 42
8. 教義と聖約 97 : 8
9. 教義と聖約 97 : 9
10. マタイ 25 : 21
11. モーサヤ 2 : 22 参照
12. モーサヤ 2 : 41 参照
13. 教義と聖約 50 : 41 - 42



七十人
ブルース・D・ポーター長老

美しい朝

わたしたちには神がともにおられるので、
将来を恐れる必要も、希望と勇気を放棄する必要もありません。

ある木曜日の夜にエルサレムのとある家の2階で、イエスと弟子たちは過越を祝いました。集まった弟子たちはその食事が後に、最後の晩餐と呼ばれるようになることを知りませんでした。この事実と意味を知っていたとしたら、彼らは涙に暮れていたことでしょう。

しかし、主はゲツセマネとゴルゴタでの厳しい試練が間もなく始まることをはっきりと御存じでした。世界の歴史上最大の苦難の時が、間もなく訪れようとしていました。けれどもイエスは言われました。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)

わたしたちは今、混乱と不確実の時代、主がエノクに預言した「悪事と報復の時代」(モーセ 7:60)に生きています。混乱と苦難が待ち受けているかもしれませんが、わたしたちには勇気を出し、それらを喜びとする根拠があります。御子の再臨に備えて、神が御自身の教会と王国を回復された、最後の神権時代に生きているからです。

ボイド・K・パッカー会長はかつて、自分の孫たちについて、また彼らがいつその苦難に直面する世界に生きていることについて話しました。「彼らはその生涯の中で多くの出来事を目にするでしょう。その中には、大いなる勇気と信仰が求め

られる出来事もあるでしょう。けれども助けと導きを祈り求めるなら、敵対するものに打ち勝つ力が授けられます。」

後に彼はこう付け加えています。「文明の基盤となるはずの道徳的価値観は、かつてない速さで低下しています。それでも、わたしは未来を恐れませんが、(「恐れてはならない」『リアホナ』2004年5月号, 77, 78)

兄弟姉妹、わたしたちには神がともにおられるので、将来を恐れる必要も、希望と勇気を放棄する必要もありません。ガリラヤでイエスが最初の弟子たちを召し、最初に与えられた勧告の中で記録に残されているのは、「恐れることはない」(ルカ 5:10)という短い言葉でした。イエスはその務めを果たす間、何度もこの勧告を与えられました。現代の聖徒に向けて、主は言われました。「元気を出しなさい。

恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍らに立つからである。」(教義と聖約 68:6)

主は教会と民の傍らに立ち、御自身が来られる時までの安全を確保してください。シオンとそのステークには平和があります。主が次のように宣言されたからです。「シオンの地とそのステークに集合することが、防御のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となるためである。」(教義と聖約 115:6)

教会は会員たちの安全を守る防壁となります。世界の情勢がひどく悪化することがあっても、忠実な末日聖徒はシオンのステークに安らぎの場所を見いだすことでしょう。

人手によらずに山から切り出された石は全地に満ちるまで転がり進み、それを止めることのできる人はいないと、主は宣言しておられます(ダニエル 2:31-45; 教義と聖約 65:2参照)。人のいかなる力も、これを止めることはできません。神がこの業の創始者であられ、イエス・キリストが隅のかしら石であられるからです。

ニーファイは示現の中で、終わりの時に神の小羊の力が「主の聖約の民のうえに下」り、「彼らは義と神の力をもつて、大いなる栄光のうちに武装してい」るのを見ました(1ニーファイ 14:14)。

わたしたち一人一人とさらに家族として、末日聖徒イエス・キリスト教会に忠実





であり続け、御霊^{みたま}を導き手としていれば、神の力を守りとすることができます。試練が訪れるかもしれません。自分に、また周囲で起きることを、すべて理解できないかもしれません。けれども、へりくだり、静かに主に頼るならば、人生のあらゆる試練において、主は導きと強さを与えてくださるでしょう。主に喜んでいただくことだけを望むならば、主はわたしたちの心の奥底に平安があるように祝福して下さることでしょ

回復の初期の時代に、教会員は過酷な試練に遭いました。ブリガム・ヤング大管長はそのときのことについて次のように述べています。「四方を暴徒、死、滅亡の危機に取り囲まれても、今と同じ、心の中には喜びと満足以外の何も感じることがありません。望みがまったくくなく思えるときでも、この福音の中には、結果的に真理の大義と益になること以外の何も見たことがありません。」（「歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング」, 389）

伝道中にわたしの同僚だったポールは、いつも元気ではつらつとしていました。若い父親だったときに、彼は多発性硬化症になってしまいました。その後の逆境にもかかわらず、彼は喜びと楽しいユーモアで人々に奉仕し続けました。あるとき、彼は初めて電動車いすに乗ってわたしのオフィスに入って来て、こう言いました。「人生はモーター付き車いすで始まるのだ！」彼が亡くなる数年前、大勢の人々の歓声の中、車いすに乗ってオリンピックの

聖火を高く掲げていた彼の姿を忘れないでしょう。燃え続ける聖火のように、困難な人生の中でもポールの信仰が薄れてしまうようなことは、決してありませんでした。

わたしはブリガム・ヤング大学の学生だったとき、何人かの若い青年とともに1軒の家に住んでいました。ルームメイトだったブルース以上の楽道家を、わたしは知りません。だれに対しても、どのような状況にあっても、否定的な言葉を彼から聞いたことがありませんでした。彼がいると必ず励ましを受けました。その元気は救い主と、主の福音の真理に対する信頼から生まれたものでした。

ある冬の寒い日、もう一人の友人であるトムが大学の構内を歩いていました。朝の7時で、構内には人けがなく、真っ暗でした。激しく雪が降り、そのうえ冷たい風が吹きつけていました。「何とひどい天気だろう」とトムは思いました。暗い雪の中をさらに歩いて行くと、だれかの歌声が聞こえました。

想像したとおりに、ひどい吹雪の中から永遠の楽道家ブルースの姿が現れました。両手を空に向かって広げ、ブロードウェイ・ミュージカル「オクラホマ」の中の曲を歌っていました。「ああ、何て美しい朝なんだ ああ、何てすばらしい日なんだろう 気分はすこぶる爽快だ すべてがぼくの思いのままさ」（リチャード・ロジャーズとオスカー・ハマースタイン2世、「美しい朝」〔1943年〕）。

それから現在に至るまで、雪嵐の中で

喜びにあふれていた声が、わたしにとって信仰と希望とはどのようなものかを示す象徴となってきました。邪悪がますますはびこる世にあってもわたしたち末日聖徒は、天の力が神の教会と民とともにあることを胸に、喜びの歌を歌います。行く手に美しい朝があり、神の御子が東の空からおいでになって、再び地を統治される福千年の幕開けの知識があることを、喜びとしています。

わたしは、世の歴史上忘れられないほかの二つの美しい朝についても思いをはせます。1820年の春、ニューヨーク州パルマイラで、晴れわたった美しい朝に、ジョセフ・スミスという名の少年が森に入ってひざまずき、祈りました。その祈りの答えとして、御父と御子^{みぎがた}が御姿を現され、時満ちる神権時代と地上におけるイエス・キリストの教会の回復が始まりました。

さらにもう一つの美しい朝が、約2,000年前、エルサレムの古い城壁から少し離れた場所で明けました。その復活祭の朝に、太陽はとりわけ大きな光を放っていたに違いありません。何人かの女性が十字架にかけられた後の主の遺体に油を塗るため、園の墓を訪れました。すると二人の天使が現れて、こう宣言しました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」（ルカ24:5-6）

イエス・キリストが罪と死に打ち勝たれたことを^{あかし}証します。永遠の御父の^{あわ}憐れみの計画と、御父の永遠の愛について証します。わたしたちが毎朝起きる度に、信仰を込めて天を見て、「ああ、何て美しい朝なんだ」と口にできるよう、イエス・キリストの御名^なによってお祈りします、アーメン。■



十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

あがな 贖い

キリストに従うにつれて、わたしたちは主の贖いの業に携わり、推し進めようとするようになります。

植 民地時代にアメリカでは、労働力の需要が非常に高まっていました。18世紀と19世紀初頭、イギリスやドイツをはじめ、ヨーロッパ諸国で移住を望む労働者の募集がありました。希望者はいたのですが、その多くは旅費を払う余裕がありませんでした。そこで、移民後に一定の期間、無給で働いて旅費を払うという契約を結ぶことがよくありました。あるいは、すでにアメリカに住んでいる家族が、到着した者の旅費を払うという約束で移住することもありました。しかし、その約束が守られない場合には、一定期間無給で働いて渡航費を返済する義務がありました。「無賃渡航移住者」はこうした契約移民を指す言葉です。ある意味で、彼らは自分の自由を買うために、労役によって渡航費の代償を払わなければならないのでした。¹

イエス・キリストがどのような御方かを説明する最も重要な称号は贖い主です。これは先ほど簡単に説明した「無賃渡航移住者」と同じ語源から成る言葉ですが、贖うという言葉には、債務や負債を支払うという意味があります。また、贖いは例えば、身の代金を払うことにより救済し自由にするという意味もあります。間違いをした人が、それを修正するか、埋め合わせるならば、その人は自らを贖ったと言えます。このような意味はそれぞれ、イエス・キリストが贖罪を通して成し遂げられた偉大

な贖いの側面を表しています。辞書によれば、贖罪には「罪人に代わって犠牲を払うことにより、罪とその罰から解放すること」が含まれるのです。²

救い主の贖いには二つの部分があります。第1は、アダムの背きとその結果として起きた、人類の墮落を贖うことです。その方法は墮落の直接的な結果である肉体の死と霊の死を克服することです。肉体の死はよく理解されています。霊の死

は人が神から離れることです。パウロの言葉を引用すると、「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされる」のです(1コリント15:22)。肉体の死と霊の死からの贖いは普遍的に、そして無条件に与えられるものです。³

救い主の贖いの第2の部分は、墮落の間接的な結果、すなわち、アダムの背きによる罪ではなく、わたしたち自身の罪からの贖いです。墮落のおかげで、わたしたちはこの世に生まれました。この世界には罪、すなわち神がお定めになった律法に対する不従順が蔓延しています。すべての人について、主はこう言っておられます。

「まことに彼らが成長し始めると、彼らの心の中に罪が宿る。そして、彼らは善を尊ぶことを知るために、苦さを味わうのである。

そして、善悪を知ることが彼らに許される。それゆえ、彼らは自ら選択し行動する者である。」(モーセ6:55-56)

責任能力を持ち自分で選択できる人が





自身の罪から贖われるためには、条件があります。その条件とは、罪を告白し、捨て、信心深く生きる、つまり悔い改めることです（教義と聖約 58：43 参照）。主はこう命じておられます。「それゆえ、あなたの子供たちに次のことを教えなさい。すなわち、どこにいる人でもすべての人が、悔い改めなければならない。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことはできない。清くない者はそこに住むことができない、すなわち、神の前に住むことができないからである。」（モーセ 6：57）

救い主のゲツセマネでの苦痛と十字架の苦悩により、わたしたちに課せられた正義の要求が満たされ、わたしたちは贖われます。主は悔い改める人を赦し、憐れみを注いでくださいます。贖いは、罪のない人が被るあらゆる苦しみを癒し、償うことにより、正義が負う負債を補償します。「神はすべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、アダムの家族に属する、生けるものすべての苦痛を受けられる」からです（2 ニーファイ 9：21。アルマ 7：11 - 12 も参照）。⁴

キリストに従うにつれて、わたしたちは主の贖いの業に携わり、推し進めようとするようになります。家族をはじめすべての人にわたしたちがこの世で提供できる

最大の奉仕は、信仰と悔い改めを通してキリストのみもとへ導いて、キリストの贖い——すなわち現世での平安と喜び、そして、来世での不死不滅と永遠の命——にあずからせることです。宣教師の業は、主の贖いの愛を大いに表現するものです。彼らは主のメッセージを伝える権能を与えられた使者として、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物というたぐいえない祝福を受けるように勧め、霊的再生と贖いへの道を開いているのです。

また、わたしたちは亡くなった人々に対する主の贖いの業を助けることもできます。「この神権時代の忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け、死者の霊たちの大いなる世界において暗闇と罪の束縛の下にいる者たちの間で、悔い改めと神の独り子の犠牲による贖いの福音を宣べ伝えて」います（教義と聖約 138：57）。わたしたちが神殿で行う死者のための身代わりの儀式により、罪に束縛されたまま亡くなった人々でさえ、自由になれるのです。⁵

贖いの最も重要な側面は悔い改めと赦しにかかわるものですが、この世にかかわる非常に重要な側面もあります。イエスは善い働きをしながら巡回されたと言わ

れています（使徒 10：38 参照）。善い働きには、病人や虚弱な人を癒し、空腹の群衆に食べ物を与え、最も優れた道を示すことが含まれます。「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるため」なのです（マタイ 20：28）。わたしたちも聖霊の導きを受けて、主の贖いの模範に倣って、善い働きをすることができます。

贖いにかかわるこの種の働きとは、問題を抱えた人々を助けることです。貧しい人や弱い人と友達になることです。苦痛を和らげ、間違いを正し、真理を擁護し、次世代を強め、安全で幸せな家庭を築くことです。わたしたちが地上で行う贖いにかかわる働きの大部分は、人々が成長し、義にかなった望みや願いを達成するのを助けることです。

例を一つ挙げたいと思います。わたしが常に感動し鼓舞されてきた、ヴィクトル・ユーゴーの小説『レ・ミゼラブル』の一場面です。物語の最初の方で、司教ビアンヴェニュは、行く当てのないジャン・ヴァルジャンに食事を与え、一夜の宿を提供しました。ジャン・ヴァルジャンはおなかをすかせた幼いおいやめいに食べさせるパンを盗んだために投獄されて、19 年におよぶ重労働を課せられた後に釈放されたばかりでした。憤りを募らせ、心をかたくなにしたヴァルジャンは、司教の親切にもかかわらず、司教の銀の食器を盗みます。後に警官に引き留められ、窃盗の嫌疑をかけられると、それはもらったものだろうそをつきます。警官に司教の家へ連れ戻されたヴァルジャンが驚いたことには、司教が彼の作り話をほんとうだと言い、さらに、もっともらしい口調でこう言ったのです。「『私はあなたに燭台も上げたのだが。あれもやっぱり銀で、二百フランぐらいにはなるでしょう。なぜあれも食器といっしょに持って行きなさらなかった？』」

司教は彼に近寄って、低い声で言った。『忘れてはいけません、決して忘れては



いけませんぞ、この銀の器は正直な人間になるために使うのだとあなたが私に約束したことは。』

何も約束した覚えのないジャン・ヴァルジャンはただ茫然としていた。司教は……おごそかさをもってまた言った。

『ジャン・ヴァルジャンさん、あなたはもう悪のものではない、善のものです。私が贖うのはあなたの魂です。私はあなたの魂を暗黒な思想や破滅の精神から引き出して、そしてそれを神にささげます。』

ジャン・ヴァルジャンはほんとうに生まれ変わって正直な人になり、多くの人を助けました。神に仕えるために自分の心が贖われたことを思い出させてくれる二つの燭台を生涯手放すことはありませんでした。⁶

現世にかかわる贖いの働きには、共同で行う作業もあります。救い主が教会を築かれたのはそのためでもあります。定員会や補助組織、ステークやワードや支部が組織されているので、福音の中で互いに教え合い、励まし合うことに加えて、緊急事態に対処するためにあらゆる資源を活用することができます。大きな問題が発生して大規模な支援を必要とする

ときには、個人や急ごしらえのグループでは力に限界があります。イエス・キリストに従う聖徒の共同体は、同胞である教会員だけでなく、世界中のできるだけ多くの人々の必要を満たすために組織されているのです。

ダリン・H・オークス長老によると、この1年間に教会が行った人道的援助により、36か国の89万人が飲料水を、57か国の7万人が車いすを、25か国の7万5,000人が眼科治療を、52か国の人々が自然災害後の支援を受けました。また教会は他の機関と協力して、約800万人の子供たちに予防接種を、また、トルコ、レバノン、ヨルダンの難民キャンプにいるシリア人に生活必需品を提供しました。同時に、教会員の中で困っている人々が、2012年には数百万ドルを超える断食献金やその他の福祉支援を受けました。皆さんの惜しみない支援に感謝いたします。

これらすべての支援の中には、個人的に行われた親切や援助は含まれていません。食べ物、衣類、お金、世話など様々な形で慰めや思いやりが示され、それによってわたしたちはキリストが行われた贖いにか

かわる働きを行っています。わたしは子供のころ、困っていたある女性を助ける母の行動を目にしました。何年も前、わたしたちが幼いころ、母は命の危険にさらされる大手術を受けて、その後1年近く、ほとんど寝たきりの生活を余儀なくされました。その間、親戚とワードの会員たちが母とわたしたち家族を助けてくれました。扶助協会会長のエブraham姉妹は、家政婦を雇ってはどうかと勧めてくれました。ワード内に仕事に就く必要のある姉妹がいると言うのです。この話に出てくる人については、匿名にしたいと思います。その女性をサラ、娘をアニーと呼ぶことにしましょう。母は次のように記しています。

「昨日のことようにはっきりと思い出せます。ベッドで寝ていると、エブraham姉妹がサラを連れて来ました。わたしの気持ちは沈みました。そこに立っていた女性は、みすばらしく、やせて、服はぼろぼろで、髪はくしゃくしゃで、肩を丸め、うなだれて、床を見ていました。服はだぶだぶでした。うつむいたまま話す声は、小さすぎて聞き取れませんでした。彼女の後ろには、3歳くらいの小さな女の子がい



ました。このような人にどう対応したらよいのでしょうか。彼女たちが部屋を出た後、わたしは涙に暮れました。助けが必要なのに、問題が来るなんて。エーブラハム姉妹はサラと一緒に残り、二人で掃除をして、おいしい食事を作ってくれました。エーブラハム姉妹は『2, 3日試してみても。彼女はほんとうにつらい目に遭って、助けを必要としているのだから』と言いました。

翌朝サラが来ると、ベッドのそばまで来てもらいました。これで彼女の声が聞こえます。サラに用事を伝えた後で、言いました。『でもね、いちばん大切なのは子供たちの世話よ。一緒にいて、本を読んでやっ。子供たちは家事よりも大切なの。』サラは料理と掃除と洗濯が得意で、子供たちにも優しく接してくれました。

その数週間の間、サラの身の上話を聞きました。[難聴だったサラは、学校の成績が悪く、退学させられました。若くして結婚しましたが、相手は酒飲みでした。アニーが生まれ、サラの生活に喜びがもたらされました。ところがある冬の晩、酔っ払って帰宅した夫が、サラとアニーを寝間着のまま車に押し込み、道路のわきへ下ろして去ってしまったのです。その後二度と会うことはありませんでした。凍てつく寒さの中、サラとアニーははだして何キロも歩いて、実家にたどり着きました。]家事や料理、高校生の弟や妹の世話をするという条件で、母親は家に置いてくれました。

わたしたちはサラを耳鼻科医へ連れて行き、補聴器をつけてあげました。……サラに成人教育を受けさせて、高校の卒業証明書を取得させました。それからサラは夜間学校へ通い、大学を卒業し、特殊学校の教師になり、小さな家を買いました。アニーの方は神殿で結婚し、二人の子供をもうけました。サラは耳の手術を受けて、ついによく聞こえるようになりました。数年後、定年退職し、伝道に出ました。……サラはわたしたちに度々感謝し、わたしから多くのことを学んだと言ってくれました。特に、子供たちは家事よりも大切だとわたしが言ったことが忘れないでいてくれて、アニーにも同じようにするよう教えたと話してくれました。……サラはとても大切な人です。]

イエス・キリストの弟子としてわたしたちは、ほかの人を苦痛や重荷から贖うために最善を尽くす義務があります。しかし、人を贖う最大の奉仕は、キリストのみもとへ導くことです。人を死と罪から救う主の贖いがなければ、社会的正義の福音しかありません。社会的正義はこの世的な助けと和解を与えますが、天の完全な正義と無限の憐れみを受ける力はありません。究極的な贖いはイエス・キリストのみが成し遂げられるものです。へりくだり、感謝の念をもって、主が贖い主であると証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第10版(1993年), "redemptor" の項
2. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第3版(1988年), "redeem" の項
3. 「神の御子は最初のとがを贖われ、それによって両親の罪がその子供たちの頭に帰することはあり得ない。彼らは世の初めから罪がない。」(モーセ6:54) キリストの贖いにより、すべての人は墓から出て復活し、不死不滅になります。さらに、すべての人は神の御前に連れ戻されて裁きを受けることにより、霊の死を克服します。イエスはこのように言われました。「わたしは人々によって〔十字架に〕上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。」(3 ニューファイ

27:14) 罪から清められた人々は天の王国で神とともにとどまりますが、悔い改めずに清められていない人々は聖なる神とともに住むことはできません。裁きの後、彼らは御前から離れ、再び霊の死を受けるのです。これは時々、第二の死、すなわち霊の死を二度受けることだと言われます(ヒラマン14:15-18参照)。

4. 聖文は贖いの恩恵を受けない人々について語っていますが、それはわたしたち自身の罪に関して語っているのです。「悪人はあたかも贖いがなかったかのような有様であり、ただ死の縄目からの解放だけがある。」(アルマ11:41) 「悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法にこたえなければならぬ。したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。」(アルマ34:16) もし人が救い主の贖いを拒むなら、自分自身で負債を正しく返済しなければなりません。イエスはこのように言われました。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しんであろう。」(教義と聖約19:16-17) 贖いを受けない人が罪のために受ける苦しみは地獄として知られています。それは悪魔に従うという意味であり、聖文には鎖で縛られることや、火と硫黄の池という比喩で説明されています。リーハイは息子たちにキリストの贖いを選ぶように懇願しました。「肉の思いとその中に潜む悪に従って、永遠の死を選んではいけません。肉の思いは、悪魔の霊に力を与え、あなたがたを捕らえて地獄に落とし、悪魔は彼自身の王国でああなたがたを支配するであろう。」(2 ニューファイ2:29) ただし、たとえそうであっても、イエス・キリストの贖いのゆえに、地獄には終わりがあり、地獄を通ることを余儀なくされた人たちは、「最後の復活〔で〕悪魔から贖われ〔る〕」のです(教義と聖約76:85)。比較的わずかの「滅びの子」は、「第二の死が何らかの〔永続的な〕力を持つ唯一の者であり、まことに、主の激しい怒りによる苦しみを受けた後も、主の定められたときに贖われない唯一の者」です(教義と聖約76:32; 37-38)。
5. 預言者ジョセフ・スミスはこう言って歓喜しました。「死者は、王なるインマヌエルに向かつて永遠の賛美の歌を語り出しなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。」(教義と聖約128:22)
6. ヴィクトル・ユーゴー「レ・ミゼラブル(一)」岩波文庫、豊島与志雄訳、193-196参照



トーマス・S・モンソン大管長

また逢う日まで

主が兄弟姉妹の皆さんを祝福し、守ってくださるよう祈ります。
主の約束された平安が、今から常に皆さんとともにありますように。

兄 弟姉妹の皆さん、非常にすばらしい大会でした。メッセージは靈感にあふれていました。皆さんも同じように感じていると思います。感動し、この聖なる業に対する証あかしが強くなり、主の御霊を感じました。この2日間に聞いた事柄を心に留めることができますように。この大会のメッセージは来月号（訳

注——本誌の『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』に印刷されます。それが手もとに届いたら、各説教をさらに研究するようお勧めします。

話してくれた一人一人に、同じく祈ってくれた一人一人に感謝します。それに加え、音楽も、心を高め、靈感を与えるすばらしいものでした。タバナクル合唱団の美

しい歌声をわたしたちは愛しています。音楽を提供してくれたほかのすべての皆さんにも感謝しています。

昨日解任された中央若い女性の会長会および役員に、わたしたちの感謝の気持ちを伝えます。彼女たちは傑出した奉仕を行い、これ以上はできないほど献身的な働きをしてくださいました。

わたしたちはこの大会で新しい責任に召された兄弟姉妹を挙手によって支持しました。ともに主の大義に仕えることをわたしたちが楽しみにしていることを、彼ら全員に知ってほしいと思います。

兄弟姉妹の皆さん、この教会は世界に広がっています。この教会の会員は世界中にいます。それぞれの国で良い市民となり、それぞれの町で良い隣人となって、この教会の会員はもちろんのこと、ほかの宗教を信じている人にも手を差し伸べてください。この教会とは異なる信条や標準を掲げる人に対しては親切にし、





愛を示すだけでなく、寛大になってください。救い主がこの地上に携えて来られたのは、すべての人に対する愛と思いやりのメッセージです。常に救い主の模範に従えますように。

周囲の人が何を必要としているか、わたしたちが察知できるよう祈ります。特に若い人の中には、違法薬物や不道徳、ポルノグラフィーなどの問題を抱えて苦しんでいる人たちがいます。夫や妻を亡くした人、心配してくれる仲間を切に求めている人など、孤独な人たちがいます。このような人たちに、愛の心をもって助けの手を差し伸べる用意が常にできていますように。

わたしたちが生きているのは、世界の歴史の中でも困難な課題が多い時代です。しかし同時に、大いなる機会があり、喜ぶべき理由のある時代でもあります。もちろん、落胆し、嘆くときもあれば、悲劇に見舞われることもあります。しかし、主を信頼するならば、どんな困難にあらうと、主は助けてくださいます。詩篇の作者はこう断言して

います。「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」¹

兄弟姉妹の皆さん、この末日にジョセフ・スミスを通して回復されたイエス・キリストの福音に、わたしがどれほど感謝しているか、皆さんに知ってほしいと思います。この福音は幸福への鍵です。わたしたちが謙遜になってよく祈り、天の御父がわたしたちの人生を導き、祝福してくださるという信仰を持つことができますように。

わたし個人の証を皆さんに伝えます。神は生きておられ、心のへりくだった者の祈りを聞いてくださいます。その御子、わたしたちの救い主であり贖い主である御方は、わたしたち一人一人に語りかけておられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい〔る〕であろう。」² わたしたちがこの言葉を信じ、この約束された祝福を受けられますように。

この大会を閉じるに当たり、皆さん一人一人のうえに天の祝福があるよう祈り求め

ます。皆さんの家庭が平安と調和、礼節、そして愛で満たされますように。また、主の御霊で満たされますように。皆さんが福音に対する証を養い育てることができ、その証によってサタンからの攻撃から守られますように。

兄弟姉妹の皆さん、6か月後に再び会うまで、主が皆さんを祝福し、守ってくださるよう祈ります。主の約束された平安が、今から常に皆さんとともにありますように。わたしのため、またすべての中央幹部のために祈ってくださりありがとうございます。心から感謝を申し上げます。わたしたちが仕える救い主であり、贖い主である御方の御名によって、アーメン。■

注

1. 詩篇 30 : 5
2. 黙示 3 : 20



中央若い女性会長会第二顧問
アン・M・ディブ

あなたにとっての 聖なる場所

〔皆さんの聖なる場所〕は、ある場所であれ、時であれ、いずれも神聖で、大いに強めてくれる力がありません。



20 13年のミューチャルのテーマは教義と聖約第87章から取っています。この教えは、教義と聖約の3つの章に出てきます。この勧めが重要なのは明らです。それは困難な時代の中での守りや力、平安を得る方法を教えています。これがその靈感を受けた教えです。「あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。」¹

このテーマについて思い巡らすと、天のお父様が言われる聖なる場所とはどこなのだろうかと考えずにはいられなくなります。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう述べています。「聖なる場所には、『防衛のため……避け所となるため』の場所である神殿、礼拝堂、家庭、シオンのステークが含まれています。」² これらに加え、わたしたちは自分たちそれぞれの場所を、さらに見いだすことができます。場所という言葉を見ると、物理的な環境や地理的な地点を考えがちですが、英語の場所 (place) という言葉には「個々の状況、立場、精神状態」³ という意味も含まれています。聖なる場所には、時あかしも含まれます。それは、聖霊が証してくださる時や、天の御父の愛を感じる時、祈りの答えを受ける時などです。さらには、勇気を出して正しいことを擁護する時、特にだれ一人そのような立場を取ろうとしない状況でそのような勇敢な行動をするときはいつでも、皆さんは聖なる場所を作り出しているのです。

ジョセフ・スミスは、その短くも偉大な生涯を通じて真に「聖なる場所に立ち」、動かされませんでした。10代前半のときに地元の宗教的な騒ぎに悩まされ、すべての教会のうちどれが真実かを知りたいと思うようになりました。近くの森でひざまずき、初めて声に出して祈ったとき、その森は聖なる場所となりました。ジョセフの祈りはこたえられました。そして、今日、末日聖徒はその森を聖なる森と呼んでいます。

世界中の若い女性にも、若い女性キャ



ンブで自然に囲まれた聖なる場所に立つ機会があります。ある指導者は、一人の若い女性が経験したことをわたしに話してくれました。彼女は教会に来ることが少なく、森の中で霊的な経験などできるはずがないと思っていました。1日目が終わり、指導者にこう言いました。「とても楽しいです。でも、御霊について話すのはもうやめていただけませんか。自然を満喫して、友達と一緒にいて、楽しむために来たんですから。」でも、最後の証会で、この若い女性は涙を流しながらこう言ったのです。「家に帰りたくありません。今感じている御霊をいつも感じるには、どうしたらいいですか。」彼女は聖なる場所を見いだしました。

ジョセフ・スミスの生涯において、聖なる場所がほかにもありました。それは寝室です。皆さんと同じようにジョセフも兄弟と一緒に部屋を使っていました。ですから信じがたいかもしれませんが、彼が大きな信仰をもって謙遜に必要だと思い祈ったときにそこが聖なる場所となったのです。ジョセフはこう説明しています。「わたしはその夜、床に就いたのち、全能の神に、わたしのすべての罪と愚かな行いを赦してくださいるように……祈って嘆願した。」⁴ 聖なる森で示現を受けてからの3年間は、ジョセフにとって楽なものではありませんでした。17歳のジョセフは絶え間ないあざけりやいじめに耐えてきました。でもその晩、ジョセフの嘆願にこたえて、天使モロナイがジョセフの寝室に現れたのです。その夜に、ジョセフは知識と

慰めを受け、彼の寝室は、聖なる場所となりました。

青少年用のモルモンメッセージを見ていたとき、もう一つの寝室が聖なる場所になったことに気づきました。ビデオの中で、エル・サルバドルの若い女性イングリッド・デルガドは神殿についてこう語っています。「この世を離れて神聖な儀式を受けて、現世で儀式を受けられなかった人々を助けられる場所があるのを知るのは、すばらしいことです。」イングリッドの言葉が流れる間、彼女が聖典を読んでいる姿が映し出されます。リアホナのポスター、指導者の言葉、聖句、「成長するわたし」の冊子、家族や神殿の写真、大好きなぬいぐるみがイングリッドを囲んでいます。⁵ 彼女は恐らく気づかずに、この世から離れられる神聖な場所を作っていたのです。自分の聖なる場所で、彼女はこれまで何度聖文を読み、御霊を感じ、答えを受けてきたことでしょうか。

ジョセフ・スミスの生涯におけるもう一つの聖なる場所は、意外にもリバティーの監獄でした。ジェフリー・R・ホランド長老は、こう語っています。「ジョセフの生涯で最もつらかったのは、冷酷で、不法で、不義なこの監獄で過ごした時期でした。」ホランド長老は、リバティーの監獄は「監獄神殿」と呼ばれていると説明しています。なぜならそこで預言者ジョセフ・スミスは、神聖な経験をしたからです。⁶

若い女性の皆さんの中にも、リバティーの監獄を経験している人がいるかもしれません。侮辱され、あざけられ、いじめら

れ、身体を傷つけられ、愛と優しさを感じられないでいる人がいるかもしれません。若い女性の皆さんに、ホランド長老の言葉を贈ります。「皆さんは、人生で最も惨めな経験をしても、すなわち最もつらい不公平や最も堪えがたい試練や反対に遭っても、主とともにいれば、それは神聖で、靈感を与え、深い教訓に満ちた経験になるでしょう。」⁷ 言い換えれば、皆さんも預言者ジョセフ・スミスと同じように、最も大きな試練の最中に「聖なる場所」を作り、見だし、その中に立つことができるのです。

キルスティンというヤングアダルトが、自分のつらい経験を話してくれました。高校が、彼女にとってのリバティーの監獄でした。幸いにも、音楽部の部室が安らぎの場所でした。「その部屋に入ると、安全な場所にいると感じました。そこではあざけりや、汚い言葉の代わりに、励ましと愛の言葉が聞かれました。みんなが互いに親切に接していました。幸せな場所でした。練習したり、演奏したりするときに、部屋には御霊があふれていました。この部屋がそのような場所になったのは、第一に音楽部の先生のおかげでした。彼は善良なクリスチャンでした。今思えば、高校生活はわたしを霊的に精錬してくれました。困難ではありましたが、前向きに辛抱することを学びました。わたしの避け所となり、聖なる場所となってくれた音楽部の部屋に、永遠に感謝し続けるでしょう。」⁸

今晚、皆さんは自分にとっての聖なる場所について考えているでしょうか。わたしは今まで何百人もの若い女性に、個人的な「聖なる場所」について話してもらいました。それらは、ある場所であれ、時であれ、いずれも神聖で、大いに強めてくれる力がありました。その中から心に残った9人の経験を紹介しましょう。

- 1 ——「病院で、生まれたばかりの弟を抱っこしたときです。」
- 2 ——「祝福師の祝福を読む度に、天

のお父様がわたしのことを御存じで、愛してくださっていると感じます。」

- 3 —「12歳になった日に、ワードの若い女性たちが家のドアにハートの形をした紙をたくさんはってくれました。⁹ 愛され、受け入れられていると感じて、うれしくなりました！」
- 4 —「ある日聖文を読んでいると、ある言葉が目飛び込んできて、祈りの答えを見つけました。」
- 5 —「パーティーに行くと、みんなお酒を飲み、そのほかの受け入れられない行動をしていました。すぐに家に帰るようにと御霊が告げてくださり、それに従いました。たしかに、友達関係にひびが入る結果になりました。でもそのとき、自分には福音に従う力があることが確信できました。」
- 6 —「聖餐会で贖いについて考えていました。そのとき、人に対する怒りを捨て、赦さなければならないと悟りました。赦すことを選択することにより、日々の生活で贖いの力を受けられるようになりました。」
- 7 —「母と一緒に新年度セミナーに出た日の夜、母が頬にキスをしてくれ、覚えている限り初めて、『愛している』と言ってくれました。」
- 8 —「ビショップの励ましがあり、聖典にある約束が真実であるを知っていました——『たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。』¹⁰ わたしは希望を感じ、長期にわたる悔い改めを始められると分かっていました。」
- 最後に——「ある晩わたしは勇気を出して、福音に対する思いを親友に話して、モルモン書を上げました。後に、彼女のバプテスマ会に出席する特権にあずかりました。今では一緒に教会に行っています。」

わたし自身の聖なる場所を分かち合ってもよろしいでしょうか。あるとき恐れと

孤独で押しつぶされそうで、心の中でこう祈りました。「天のお父様、乗り越える方法が分かりません。どうか、どうか、助けてください。」するとすぐに、ある人が不意に来てわたしの肩に手を置き、心から励ましてくれました。わたしは安心し、孤独ではないことが分かり、すべてが変わりました。そのとき、スペンサー・W・キンボール大管長の言葉を思い出しました。「神はわたしたちを心に留め、見守っておられます。しかし、神は普通、だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。」¹¹ その時と、その場所が、わたしにとって神聖なものになりました。

愛する若い女性の皆さん、聖なる場所は数え切れないほどあります。それをお互いに分かち合えたらどんなによかったでしょう。今晚家に帰ったら、自分が聖なる場所と分かっている、また覚えている場所を、日記に書き留めてください。何千人もの皆さんが不安定な時期にいることをわたしはよく分かっています。すばらしい方法で真理と義を擁護しているので、皆さんの証はますます強められています。

教会の高貴な青少年である皆さんは、わたしのヒーローです。皆さんを愛しています。天の御父の皆さんへの大きな愛を

感じます。そしてイエス・キリストの福音が真実であると証します。「聖なる場所に立ち、動かされないように」するとき、主はすぐに助けてくださいます。トーマス・S・モンソン大管長を愛し、支持しています。彼は、励ましを与えてくれる真の預言者です。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 87 : 8。教義と聖約 45 : 32 ; 101 : 22 も参照
2. エズラ・タフト・ベンソン “Prepare Yourself for the Great Day of the Lord” *New Era* 1982年5月号, 50。教義と聖約 115 : 6 も参照
3. Merriam-Webster Online, “place.” (場所) の項, merriam-webster.com/dictionary/place.
4. ジョセフ・スミス—歴史 1 : 29
5. “Practice, Celebration, Dedication: Temple Blessings in El Salvador,” lds.org/youth/video 参照
6. ジェフリー・R・ホランド “Lessons from Liberty Jail” *Ensign*, 2009年9月号, 26, 28
7. ジェフリー・R・ホランド “Lessons from Liberty Jail,” 28
8. 著者との個人的な会話
9. アメリカ合衆国では、時々「ハートアタック」と呼ばれています。
10. イザヤ 1 : 18
11. スペンサー・W・キンボール “The Abundant Life,” *Ensign*, July 1978年7月号, 4 ; 「豊かで満ち足りた人生」『聖徒の道』1979年6月号, 2



エルサルバドル, サンサルバドル



中央若い女性会長第一顧問
メアリー・N・クック

一人の若い女性を 救うことは、その子孫を 救うことにもなる

皆さんの徳高い生活が皆さんの先祖や現在の家族、将来の家族
にとって祝福となります。

教 会の忠実な若い女性に話すのは光栄です。皆さんが、交わした聖約を尊んで前進しているのが分かります。そして、皆さんの徳高い生活が皆さんの先祖や現在の家族、将来の家族にとって祝福となることをわたしたちは知っています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が言ったように、「一人の若い女性を救うことは、その子孫を救うことにもなるのです。」¹

皆さんが聖約の道を歩み始めたのは、バプテスマと聖霊の賜物を受けたときでした。それは毎週の聖餐会に続きます。聖餐会は、皆さんがバプテスマの聖約を更新する神聖な場なのです。そして今は、神殿の聖約を交わす用意をする時です。「聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠の一つとなることを可能にするのです。」²

皆さんの先祖のために、聖なる場所に立ってください。「この地上に来るすべての人は脈々と続く先祖の子孫として誕生します。わたしたちは生来、先祖との結びつきを求める気持ちを持っています。」³ 家

族歴史と神殿の業に携わるとき、皆さんは先祖に救いの儀式を与え、自分の人生を先祖の人生に編み込んでいるのです。

皆さん自身と皆さんの家族のために、聖なる場所に立ってください。皆さんの義にかなった模範は、家族の状況にかかわらず、大きな喜びの源となります。正しいことを選べば、家族を永遠に結ぶ聖なる聖約を交わし、守ることができるようになるのです。

皆さんの将来の家族のために、聖なる場所に立ってください。神殿で神権によって結び固められて永遠の家族をスタートさせることを決意してください。皆さんの徳高い模範と揺るぎない証^{あかし}を子供たちの人生に編み込み、聖約の道を子供たちに示すならば、子供たちは真理によって祝福されるでしょう。

わたしは、最近開かれた青少年国際美術コンテストで、このような永遠の原則が表現されている作品を見ました。ミーガン・ワーナー・テラーは、写真をデジタル処理して構成し、十人のおとめ⁴ というキリストのたとえを現代的な手法で描きました。わたしはミーガンに会いました。

彼女は10番目のおとめが何を象徴しているかを説明してくれました。徳と信仰を備え、神聖な神殿の聖約を交わす備えのできた若い女性の象徴として、ミーガンはこれのおとめを描いたそうです。ほかの賢いおとめたちと同様、これのおとめはたゆまず義にかなった生活をすることによって、自分のランプに1滴ずつ油を加え、備えをしてきました。これのおとめの髪が三つ編みになっているのにわたしは気がつきませんでした。この三つ編みはこの若い女性の義にかなった生き方が無数の子孫に影響を及ぼすことを象徴しているとミーガンは説明してくれました。髪の一つの房は先祖を愛し敬う気持ちを示し、もう一つの房は現在の自分の家族に与える義の影響を表し、3つ目の房は、自分の人生が未来の子孫に編み込まれる様子を象徴していたのです。

わたしはまた、早くから霊的な備えをして義にかなった生活を送り、多くの世代に影響を与えているもう一人の若い姉妹に会いました。

天気の良い9月のある日、夫とわたしは神殿で儀式に携わる機会を待っていました。そのとき、わたしたちの友人であるクリスが部屋に入って来ました。ロシアでの伝道から最近帰って来たこの若い兄弟に会えてとてもうれしく思いました。

セッションが始まる時、美しい姉妹が、わたしの隣の席に座りました。彼女は輝きとほほえみをたたえ、光に満ちていました。わたしは彼女と知り合いになりました。小さな声で自己紹介をしました。すると彼女は名前をささやきました。名前はケイト。そして姓を聞いたとき、彼女はかつてわたしたち家族がミシガン州に住んでいたときに近所にいた家族の一員だということが分かりました。ケイトはその家族の、今は成人した娘だったのです。彼女は5週間前にドイツでの伝道から帰還していました。

セッションの間、「ケイトをクリスに紹介しなければ」という思いが何度も浮か



アメリカ合衆国, アリゾナ州クイーンクリーク

びました。「いつ、どこで、どうやって紹介するか」を考えて、この促しをひとまず心の隅に置いておくことにしました。帰り支度をしているとクリスが別れのあいさつを言いに来て来たので、この機会にケイトを連れて来てこうささやいたのです。「あなたがた二人は徳高い若者よ。知り合いになったほうがいいわ。」わたしは促しに従ったことに満足し、神殿を後にしました。

帰り道、夫とわたしはケイトの家族を襲った悲しい出来事について、覚えていることを話し合いました。このとき以来、わたしはケイトをよく知るようになりました。そして、神殿でケイトを見ていて、なぜ彼女がその日喜びに満ちた表情をしていたのかが分かってきました。

ケイトは聖なる場所を求めることによって、聖約の道にとどまるよう常に努力しました。ケイトは家庭の夕べを開き、家族で祈り、聖典の学習をする神聖な家庭で育ちました。子供のころ神殿について学び、「神殿に行きたいな」⁵ という歌を家庭の夕べで好んで歌いました。幼いころ、両親は週末の夜に映画や夕食ではなく神殿に行っていました。そのようにして、聖なる場所を求めるという模範を両親が示す

のを見たのです。

ケイトは父親が大好きでした。父親は神権の権能を使って、ケイトに最初の聖約であるバプテスマを施してくれました。次にケイトは、頭に手を置かれて、聖霊を受けました。こう言っています。「聖霊を受けてうれしく思いました。永遠の命への道を歩めるよう聖霊が助けてくださることを知っていましたから。」

その後ケイトはととても祝福の多い幸せな人生を送っていました。14歳のとき高校に入り、セミナリーが大好きになりました。セミナリーは、もう一つの聖なる場所、つまり福音を学ぶ場です。ある日教師が試練について話し、わたしたちはだれでも試練を受けると断言しました。ケイトは心の中で言いました。「試練など経験したくないわ。こんな話は聞きたくない。」

そのわずか2、3週間後のことです。復活祭の日、父親は非常に気分が悪くて目を覚ましました。ケイトはこう言っています。「父はととても健康な人でした。マラソンをしていたのです。母は、父があまりにつらそうにしているの、心配して病院に連れて行きました。父は36時間以内に重い脳卒中を起こして、体のほとんどの機能がまひしてしまいました。まばたきはできたも

の、それ以外はまったく体を動かすことができなくなりました。わたしは父を見て思いました。『何てことでしょう。ほんとうになってしまった。セミナリーの先生の言ったとおりだわ。試練が来たのだわ。』父親は2、3日後に亡くなりました。

ケイトは続けてこう言っています。「とてもつらい経験でした。自分の人生のヒーローを奪われたなどと思う人はいません。これをばねに成長することもできれば、これを理由に成長する努力を怠ることもできることをわたしは知っていました。わたしはまだ14歳でしたから、これをきっかけに自分の人生をだめにしたくはありませんでした。できるかぎり主に近づこうと努力しました。聖文をたくさん読みました。アルマ書第40章を読んで、人はほんとうに復活し、キリストの贖罪しよぐいを通して自分は父にまた会えるんだと確信しました。何度も祈りました。できるかぎり頻繁に日記を付けました。証を書き留めて、いつも生き生きとした証を持てるように努めました。教会と若い女性の集會に毎週行きました。いい友達とつきあうよう心がけました。気遣ってくれる親族、特に一家の大黒柱であった母のそばにいました。祖父やその他の神権者に



神権の祝福をお願いしました。」

このように、常に正しいことを選んで行ううちに、ケイトのランプには、賢いおとめのように油が加えられていきました。父親にまた会いたいという望みに突き動かされていました。自分が何を選ぶか父親が見ていることを知っていましたから、父親をがっかりさせたくないと思いました。父親と永遠に一緒に暮らしたいと思いましたし、聖約の道にとどまるならばその望みがかなうことを理解していました。

しかし、試練はそれで終わりではありませんでした。ケイトが21歳のときのことです。伝道に出るための申請書を提出した直後に、母親が、癌と診断されたのです。人生を左右する重大な決断を下さなければならなくなりました。家において母親を助けるべきでしょうか。それとも伝道に出るべきでしょうか。母親は神権の祝福を受け、この病気を克服するだろうと約束されました。ケイトはこの祝福の言葉に胸をなでおろし、伝道に出る計画を、信仰をもって進めました。

ケイトは言います。「暗闇の中を歩くようなものですが、伝道中は闇が晴れて、母が祝福されたとおりの回復したという知らせが届きました。わたしはうれしくて、

主への奉仕にさらに力を注ぎました。つらいことがあったとき、行き詰まりを感じて前進する意欲を捨ててしまうのは簡単だと思います。でも、主を第一にするならば、逆境がすばらしい祝福になることがあります。主の御手を目の当たりにし、すばらしい奇跡を見ることがができるのです。」ケイトは、まさにトーマス・S・モンソン大管長の次の言葉どおりのことを経験しました。「最大の困難の中こそ、成長への最高の機会が潜んでいるのです。」⁶

ケイトがこのような信仰を持っていたのは、救いの計画を理解していたからです。わたしたちはこの世に来る前に存在しており、地上は試しの時であって、人は再び生きるのだということを知っていました。母親が祝福されて癒されるという信仰はありましたが、父親を亡くしたときの経験から、母親が死ぬことになったとしても心配はないことを知っていました。こう言っています。「わたしは父の死を乗り越えただけでなく、善いことをする気質が身に付いたようです。万が一母が亡くなっていたとしても同じだったと思います。その経験が人生に編み込まれて、証がさらに強くなっていただろうと思うのです。」⁷

ケイトは神殿でわたしと会った夜、聖な

る地を求めていました。神殿での奉仕がもたらす永遠に続く関係をしっかりと編み込もうと思い、定期的に神殿に参入するという、両親が示してくれた規範に従ったのです。

わたしがケイトをクリスに紹介した晩には大きな進展はありませんでした。しかし、ケイトが次の日曜日にもう一つの聖なる地を求めてインスティテュートのディビジョナルに行くと、来ていた数百人のヤングシングルアダルトの中にクリスがいました。そこで二人はお互いのことをもつと知ることができました。2、3週間後、クリスはケイトを誘って総大会を一緒に見ました。二人はその後も御霊を招く聖なる場所で交際を続け、ついに、初めて互いを紹介された聖なる場所、神殿において結び固められたのです。二人は現在、神聖な親の責任を果たしており、救いの計画の証を、幼い3人の男の子たちの人生に編み込んでいます。子供たちに聖約の道を示しているのです。

「一人の若い女性を救うことは、その子孫を救うことにもなるのです。」ケイトは14歳のときに正しい道にとどまり、自分のランプに常に油を増し加え、聖なる地に立ち続けることに決めました。この決意

が子孫を救っていますし、これからも子孫を救い続けることになるのです。先祖を探究して神殿で奉仕することによって、ケイトは心を先祖に向けてきました。同じようにわたしたちは、家族歴史と神殿の業に携わることによって先祖と心を合わせ、永遠の命にあずかる機会を先祖に与えるのです。

家庭で福音を実践することによってもランプに油を加え、霊的な強さを家族に編み込み、将来の家族に無数の方法で祝福を与えることができます。さらに、ロバート・D・ヘイルズ長老が言ったように、「両親から良い模範を受けられなかったとすれば、その悪循環を断つのは自分の責任です。……その過程で……、幾世代にもわたって正しい伝統を伝えることができるのです。」⁸

できるかぎりのことをして自分のランプに油を満たして、皆さんの強い証と良い模範を過去と現在と将来の多くの世代の生活に編み込んでいこうと、今、決心してください。皆さんが徳高い生き方をすれば、多くの世代が救われるだけでなく皆さんに永遠の命がもたらされることを証します。なぜなら、それが天の御父のみもとに帰って、今のみならず永遠にわたる真の喜びを得るただ一つの方法だからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「堅く立って動かされない」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20；ゴードン・B・ヒンクレー「若い女性に対する私たちの責任」『聖徒の道』1989年2月号、116も参照。
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129
3. ラッセル・M・ネルソン「先祖と愛によって結ばれる」『リアホナ』2010年5月号、92
4. マタイ 25:1-13 参照
5. 「神殿に行きたいな」『子供の歌集』99 参照
6. トーマス・S・モンソン「あなたのゴリアテに立ち向かう」『聖徒の道』1987年5月号、6
7. 著者との個人的な会話、2013年
8. ロバート・D・ヘイルズ「どのように子供の心に残る親か」『聖徒の道』1994年1月号、6



中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトン

動かされないように しなさい

確固として、揺らぐことなく、「真理と義を守〔り〕」、証人として立ちましょう。世の規範となりましょう。聖なる場所に立ちましょう。

今夜、預言者、聖見者、啓示者、そして神の王国の娘たちを前にこの説教壇に立つときに、わたしは聖なる場所に立っています。今、地上において若い女性でいられるこの瞬間はすばらしいときです。皆さんは天の御父の選ばれた娘たちです。わたしは皆さんが自分は何者であるか、そして天の御父にどれほど愛されているかに気づいてほしいと思います。主は皆さん一人一人を愛しておられ、わたしも皆さんを愛しています。

わたしの執務室の机の上には、クリスティーナという若い女性のレプリカのブロンズ像が置いてあります。元になった等身大のクリスティーナの像は、デンマークのコペンハーゲンの埠頭で海に向こうの

シオンを望むようにして立っています。クリスティーナにとって教会に入り、家を出るという決意は簡単なものではありませんでした。彼女に反対する風が激しく吹き荒れる様子は想像に難くないことでしょう。しかしクリスティーナは確固として立ち、困難ではあっても自分が正しいと信じたことを行いました。彼女がその日下した決断が、幾世代にもわたって大きな意味をもたらしたことを子孫が感謝して、クリスティーナを記念するためにその埠頭に像を立てたのです。

わたしには、クリスティーナの像が皆さん一人一人に見えます。クリスティーナのよう、皆さんは多くの大切な決定を抱えて、ぎりぎりのところに立って日々選択をしています。選択の中には皆さんの未来だけでなく、何世代もの人々の行く末をも左右する難しいものもあります。皆さんも、教えに反すること、困難、友人からの圧力、道徳的な汚れなどの猛烈な風に直面しているのです。でも皆さんはこの世の荒れ狂う嵐に直面しながらも、動かされることなくしっかりと立ち、福音に生きています。クリスティーナのよう、皆さんは聖霊に導かれ、正しい選択をしています。皆さんは忠実な、神の王国の娘なのです。

「聖なる場所に立ち、動かされないよう



にしなさい¹という、愛ある天の御父から皆さん一人一人への勧告以上に大切な勧めを思いつきません。天の御父は、確固として、揺らぐことなく、²「真理と義を守〔り〕」、³証人として立つ⁴ように言っておられます。世の規範となりましょう。聖なる場所に立ちましょう。皆さんへのわたしのメッセージはシンプルです。「動かされないようにしなさい。」

第1に、正義を選ぶときに動かされないようにしてください。この末日にあって、小さな決断というものはありません。今、皆さんがしている選択は非常に重要な

です。選択の自由、または選ぶ能力は、神の子供たちへの最も偉大な贈り物の一つです。それは皆さんやわたしが前世で選び、擁護した幸福の計画の一部を成しています。聖霊に耳を傾け、その声を聞くことのできるような生活をすれば、正しい選択ができるように聖霊は皆さんを助けてくださるでしょう。実際に聖霊は「あなたがたがなすべきことをすべて」告げてくださるでしょう。⁵

数週間前、わたしは久しぶりに自分の出身高校に行きました。その講堂で開かれたステーキ大会を訪問したのです。廊

下を歩いていると、思い出が洪水のようにわたしに押し寄せてきました。若い女性として学校に通っていたときに感じた気持ちがそのままよみがえってきました。わたしは不安で、自分に自信が持てず、自意識過剰だったので、何とか溶け込もうとしていました。講堂に入ると、再び思い出が洪水のように押し寄せました。わたしは講堂の隅から隅までよく知っていました。ただ一つ変わったものがありました。それは自分でした。

その日、わたしは高校の生徒会役員として何度も立った同じステージに立つ機会がありました。聴衆の中には昔のクラスメートも何人かいましたし、デートした相手もいました。でも今回は、集会を司会するのではなく、高校の講堂で、救い主イエス・キリストについての証人として立ち⁶、証を述べる特権にあずかりました。

若い女性の皆さん、今から40年たっても恥ずかしい思いをしなくて済む友人関係を築いてください。友達から圧力をかけられても、受け入れられなくても、人気者になれなくても、妥協するだけの価値はありません。皆さんの与える影響は、若い男性が神権の力を保ち、神殿の聖約や、伝道に出るのにふさわしくなる助けとなるでしょう。そしてもしかすると、今から40年後、高校の講堂でだれかがあなたのところにやって来て感謝するかもしれません。あなたのおかげで、栄えある伝道に出るふさわしさを保つことができ、神権の義務を果たすことができました、と。ひょっとすると皆さんはこれらの若い男性の妻から感謝の手紙を受け取るかもしれません。はるか昔、高校時代にあなたが彼とその将来の家族に及ぼした影響に感謝します、と。皆さんの選択にかかっています。皆さんが今、選ぶことは、皆さんに影響を与えるだけでなく、周りの人々にも影響を与えるのです。それは永遠の意味を持ちます。動かされないようにしてください。

第2に、徳高く、道徳的に清くありたいという望みと決意を持ち、動かされないで





ください。徳を大切にしてください。皆さんが肉体を清く保てば、最も大きな力の源になります。皆さんが地上に生まれたとき、肉体という尊い贈り物を授かりました。皆さんの肉体は心によって管理されており、選択の自由を行使するために神から与えられた贈り物なのです。この贈り物はサタンには与えられなかったものです。ですからサタンはほとんどすべての攻撃を皆さんの肉体に対して仕掛けてきます。サタンは皆さんが肉体を大切にせず、悪用し、不正に使うことを望んでいるのです。慎みがないこと、ポルノグラフィ、不道徳、入れ墨、ボディピアス、薬物の乱用、あらゆるものへの依存症はこの尊い贈り物を奪い取ろうとする意図があり、皆さんが選択の自由を行使できないようにするものです。パウロはこう尋ねています「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」⁷

皆さんの肉体は神の宮です。それはなぜでしょうか。それは皆さんの肉体は皆さんの永遠の霊を宿す場所となるだけでなく、永遠の家族の一部として、この地上に生を受ける子供たちの永遠の霊を受け入れる場所となるからです。ダリン・H・オークス長老は次のように教えました。「この世に生命を送り出す能力は神がその子らに賜った至高の力です。」⁸ 皆さん

の役割は至高の役割なのです。神は皆さんに神聖な信頼を寄せておられます。皆さんは、これからの世代の母親となる備えをしているのです。自らを清くふさわしく保ち、「あらゆるものに勝って最も大切に貴いもの」——徳と純潔を守ってください。⁹ 天の御父に選ばれた娘である皆さん一人一人に与えられた賢明な勧告は、「徳の道を歩」みなさい、ということです。¹⁰

徳は神殿への黄金の鍵^{かぎ}です。ですから**第3に、聖約を交わし、守るときにふさわしくあって、動かされないでください。**皆さんがバプテスマのときに交わす聖約は、毎週聖餐を取って聖約を新たにすることにより、皆さんを徳と幸福の道に結びつけてくれます。皆さんがバプテスマの聖約を守るならば、皆さんは世の人とは違って見え、服装も異なり、行動も違ったものとなるでしょう。聖霊に導かれるようになります。聖なる場所に立ち、御霊を伴侶とすることができなくなるような環境や音楽、メディア、交わりに近寄ることのないようにしてください。¹¹ 皆さんが自分の聖約を守るならば、ふさわしさを保ち、主の神聖な神殿に参入する備え^{しよぐさ}ができるでしょう。

最後に、救い主の贖罪を心に刻んで、動かされないでください。贖罪は皆さんのため、そしてわたしのためのものです。それは人に能力を授け、人を贖^{あがな}う力です。

もし自分には聖なる場所に立つふさわしさがなくても、その重荷を引きずらないでください。死すべき世では皆、間違いを犯します。救い主はあなたを心から愛しておられるので、間違いを犯した後でも、変わることができ、悔い改めることができるようにしてくださいました。サタンは、あなたに自分は変われると思わせたくないのです。¹² サタンはもう希望はないとあなたに思い込ませようとします。それはうそです。あなたは戻れます。あなたは悔い改めることができます。救い主の無限の贖罪があるので、あなたは清く、神聖な者となれるのです。

では最後に、これまで語られた中で最も素晴らしい愛の物語を話して終わりにしたいと思います。多分「愛の物語が聖なる場所に立つこととどういう関係があるの」と思われることでしょう。ところが聖なる場所に立つことと大いに関係があるのです。これはリベカという若い女性の話です。¹³

この話の中で、アブラハムは、息子イサクの妻にふさわしい若い女性を見つけて来るように僕に言いつけます。その女性は結婚の聖約にふさわしい、徳高く、清い、立派な女性でなければなりません。そこで彼は僕をハランと呼ばれる場所に遣わします。長い、危険な旅路です。そこに行かなければならない理由は明白です。互いに支え合う



ブラジル、ブラジリア

ために、聖なる男性には聖なる女性が必要だからです。僕はナホルの町に近づくと、らくだに水を飲ませるために井戸に立ち寄り、祈りました。選ばれたその若い女性のところに導かれるように、また自分と10頭のらくだに水を飲ませましようと言ってくれる女性がその人だと分かるように祈ったのです。わたしはかつて、らくだに乗ったことがあり、これだけは知っています。らくだはとてまたくさん水を飲むのです。

創世記にはリベカが井戸に降りて行き、水をくんだだけでなく、この仕事を成し遂げるために「急い[だ]」¹⁴、または走ったとあります。それから僕はリベカに腕輪や宝石を与え、彼女の父の家には彼が泊まる場所があるか尋ねました。宝石が役に立ったと思います。聖書には次のようにあります。「娘は走って行って、母の家のものにこれらの事を告げた。」¹⁵ きっとリベカは走るのが得意だったのでしょう。

僕はリベカの家族にこの長旅の目的を告げ、リベカはイサクの妻になることに同意しました。僕は次の日リベカとともに出発したいと思いましたが、家族は娘に少なくともあと10日間はとどまるように懇願しました。彼らはリベカにどうしたいか尋ねると、彼女の答えはただ一言「行きます」¹⁶でした。この答えは、預言者トーマス・S・モンソン大管長によって若い男性

と若い女性にもっと若い年齢で伝道する機会が与えられるとの発表がなされたとき、「わたしは行って行きます」¹⁷と確固として答えた多くの若人の答えと似ていません。

さて、この愛の物語の教訓と結末です。リベカは聖約を交わし、守り、イサクの聖約の妻となるために備えられ、ふさわしくありました。彼女は自らを備えるために待つ必要はありませんでした。家族から離れる前に、彼女は祝福を受けましたが、その言葉はわたしにとって感動的なものでした。なぜなら彼女は「ちよろずの人の母とな[る]」¹⁸と約束されたからです。しかしこの愛の物語の最もすばらしいところは、リベカが初めてイサクを見て、イサクも初めてリベカを見たときのことです。聖書には記されていませんが、これは一目ぼれではないかとわたしは思います。なぜなら「徳は徳を愛し、光は光に結びつ[く]」¹⁹からです。イサクが一行に会おうとやって来たとき、リベカは「らくだからおり」ました。²⁰そして「イサクは……彼女を愛した」とあります。²¹わたしにとって、ここがため息をついてしまうところです。

リベカとクリスティーナにとって、聖なる場所に立つことは容易ではありませんでした。動かされないようにすることは簡単なことではありません。風は激しく吹きつ

け、井戸の水は重く、慣れ親しんだ家や、前の生活から離れることはほんとうに容易ではありませんでした。しかし彼女たちは正しい選択をしたのです。彼女たちは聖霊に導かれました。また高潔な女性でした。聖約を交わし、守るために自らを備えました。救い主はリベカの家系の子孫です。リベカはこのことが起こることを当時知っていたのでしょうか。いいえ。あなたの今の選択は大切ですか。確かにそうです。

若い女性の皆さん、皆さんの選択、純潔、ふさわしい生活に幾世代もの人々の行く末がかかっているのです。動かされないようにしてください。皆さんには偉大な運命が待っています。今があなたの時です。御霊に導かれた一人の徳高い若い女性は、世界を変えることができるとわたしは心から信じています。

救い主が生きておられることを証します。主は皆さんとともにおられ、皆さんを支えてくださるでしょう。そして苦難のときに主の「天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支える」でしょう。²² イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 87:8
2. モーサヤ 5:15 参照
3. 若い女性のモットー、「若い女性——成長するわたし」(小冊子, 2009年) 2
4. モーサヤ 18:9 参照
5. 2ニーファイ 32:5
6. モーサヤ 18:9 参照
7. 1コリント 3:16
8. ダリン・H・オークス「人に幸福を与える偉大な計画」聖徒の道 1994年1月号, 80
9. モロナイ 9:9
10. 教義と聖約 25:2
11. 1コリント 6:9 ; 1テサロニケ 5:22 ; 2テモテ 2:22; 教義と聖約 9:13 参照
12. 『若人の強さのために』(小冊子, 2011年) 28-29 参照
13. 創世 24 章参照
14. 創世 24:20
15. 創世 24:28
16. 創世 24:58
17. 1ニーファイ 3:7 参照
18. 創世 24:60
19. 教義と聖約 88:40
20. 創世 24:64
21. 創世 24:67
22. 教義と聖約 84:88



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

故郷へ向かう すばらしい旅

愛情深い御父がこの旅のために下さった地図を喜んで使うなら、
聖なる場所へ導かれ、皆さんは天の可能性に手が届くのです。

わたしたちの敬愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長が、今晚ともにごくごさることを光栄に思います。大管長、わたしたちはいつもあなたのためにお祈りしています。

わたしの愛する姉妹の皆さん、靈感をもたらしてくれる音楽とお話をありがとうございました。今週お祝いする復活祭にふさわしいものでした。

それぞれの場所にいる大切な若い姉妹の皆さんと、皆さんのすばらしい指導者とともに過ごせることは喜びです。皆さんの霊は輝きを放ち、周りの人まで笑顔にします。主は確かに皆さんを気遣い、天から愛を込めて見守っておられます。

わたしは旧東ドイツのツピッカウで育ちました。11歳のころ、父は反体制派として監視されていました。監視が厳しさを増してきたため、両親は西ドイツに逃げるしか家族を守る方法はないと感じました。両親は、西にたどり着くための最も安全な方法は、すべての所有物を後に残し、家族がそれぞれ違うときに、違う道を通って行くことだと判断しました。

家族の中で捕まる危険性が最も高かった父は、ベルリン経由の最短距離を選びました。兄たちは北へ向かい、各自で西に向かうことにしました。姉は今日ここ

にいる多くの皆さんと同じ年ごろで、若い女性の教師ヘルガ・ファスマン姉妹ら数人とともに、西ドイツを少しだけ通る列車に乗りました。乗務員にお金を払って列車のドアの鍵を一つ開けてもらい、西ドイツの国境を通過したときに、走っている列車から、自由主義の世界に飛び降りました。わたしは姉の勇気を心から称賛します。

わたしはいちばん年下でした。母はわたしと一緒に二つの国を分ける山地を歩いて渡ることになりました。母がわたしを連れて山にハイキングかピクニックでもしに行くかのように昼食を作っていたのをわたしは覚えています。

列車で行ける所まで行き、それから何時間も歩いて西ドイツの国境に近づいて行きました。国境は厳しく統制されていましたが、わたしたちには地図があり、何時にどこを安全に通過できそうか分かっていました。母の不安な気持ちが感じ取れました。母は辺りを確認し、後をつけられていないことを何度も確かめました。一歩ごとに母の足とひざが弱くなっていくようでした。食糧と重要書類と家族の写真を詰め込んだ母の重いかばんを持つのを手伝いながら、最後の丘の長い傾斜を登りました。母はもう国境を越えたと確信したようで、ついに胸をなで下ろし、わたしと一緒に地面に座ってピクニックの弁当を食べ始めました。母はその日初めて、安心できたと思います。

そのときです。わたしたちは国境の目印がまだずっと先にあることに気づきまし



ブラジル、ソブラル



た。境界線の反対側でピクニックをしていました。まだ東ドイツにいたのです！

今にも国境警備隊が現れるかもしれません！

母は慌てて昼食をかばんに詰め、わたしたち二人は大急ぎで丘を駆け上がりました。今度は、国境を越えたことが確かに分かるまで立ち止まりませんでした。

わたしたち家族は一人一人違う道を通り、道中まったく異なる試練をくぐり抜けましたが、ついに全員が安全な場所にたどり着くことができました。そして、再び家族が一つになりました。それはほんとうにうれしい日でした！

旅の物語

今皆さんに話したこの経験は、わたしにとってとても大切な旅の物語です。今人生を振り返って、長い年月の間にそのような「旅」をたくさんしてきたことに気づきます。そのすべてで山脈や国境を越えたわけではありません。むしろ試練を克服したり、霊的に成長したりすることにかかわっていました。しかし、すべてが旅でした。だれの人生もすべて、「旅の物語」でできていると思います。

どの文化の伝統にも旅の物語がたくさんあることを、皆さんは知っているでしょう。例えば、『オズの魔法使い』に出てくるドロシーと犬のトトの旅は、皆さんにとってなじみ深い物語でしょう。ドロシーとトトは竜巻に巻き上げられてオズの国に

飛ばされました。そこでドロシーは、はっきりと分かる黄色いれんが道を見つけます。旅で進むべき道を示し、最後には家まで導いてくれる道です。

それから、チャールズ・ディケンズのエベニーザ・スクルージの物語があります。場所を巡る旅ではなく、時を巡る旅でした。まさに自らの心の旅であり、なぜ彼がそのような人物になったのか、また、利己的で恩知らずな生き方をそのまま続けていくと最後にどうなるのかを教えてくれる旅でした。¹

中国古典文学の一つに『西遊記』があります。16世紀に書かれたこの物語では、ある僧が4人の友の助けを得ながら、霊的な悟りに向けて冒険と巡礼の旅をする様子が描かれています。

そしてもちろん、小柄で控えめなホビット族のビルボ・バギンズの物語もあります。彼としては家でスヌープをすすっている方がずっとよかったです。ドアが一度ノックされた後に、危険ではありましたが大切な使命を果たすために、魔法使いと小人たちとともに未知の世界へ冒険の旅に乗り出します。²

万人に共通の物語

わたしたちはそのような旅の物語を自分に当てはめてみることもあるのではないのでしょうか。旅人の成功や失敗から、自分の人生の道を見いだすことができます。数分前に見たビデオは、もう一つの

すばらしい旅物語について伝えていました。あるいは、わたしたちがよく知っているはずの旅を思い出すかもしれません。その旅ではわたしたち一人一人が、重要な役割を演じているのです。

この物語は大昔、地球が軌道を回り始めるよりずっと前、太陽がその燃える腕を冷たい宇宙に向かって伸ばし始めるよりずっと前に、大小様々の生き物がこの地球に増え広がるずっと前に始まります。この物語の初めに、皆さんははるか遠くにある美しい場所で暮らしていました。

前世と呼ばれるその場所での生活について詳しいことは分かりません。でも、知っていることも少しはあります。わたしたちの天の御父は、御自分がどのような御方か、わたしたちが何者でどのような者になれるのかについて明らかにしてくださいました。

第一の位と呼ばれるその場所で、神を見て、神の御声を聞いた皆さんは、神が存在されることを完全に理解していました。神の小羊となられるイエス・キリストを知っていました。御子を信じる信仰がありました。そして、安全な前世にとどまることが自分の使命ではないことを知っていました。永遠の家を愛していましたが、旅に出たいと願い、旅に出る必要があることを知っていました。御父の腕を離れて忘却の幕を通り抜け、死すべき肉体を受け、成長して天の御父にさらに近い者となり、御父の御前に帰るために助けとなる、様々な事柄を学び、経験するのです。

その神聖な場所で、よく知り愛する人たちに囲まれて、皆さんの考えた問いはこうだったはずで、「わたしは天の我が家に無事に戻れるだろうか。」

思いどおりにならないことがたくさんありました。死すべき人生は時に厳しく、病気や失意、事故、争いなど、予期せぬ経験に満ちています。

前世の記憶がなくても、天の御父とともに住んでいたときのことを覚えていなくても、この世の雑音と気をそらすものばかり



デンマーク、コペンハーゲン

の中で、皆さんは今でも御父の御声を識別することができるでしょうか。

行く手はとても長く不確かで、危険に満ちているように思えます。

易しくはないでしょう。でも努力する価値があることを皆さんは知っていました。

皆さんはそのとき永遠の旅の出発点に立っていました。言葉にできない興奮と希望、そして恐らくは多少の不安と恐れを抱いて、楽しみに待っていたでしょう。

皆さんは神が公平な御方で、神の慈しみが最後には勝利を得ることを知っていました。皆さんは天の大いなる会議に参加して、罪から清められ、肉体の死から救われる方法を、救い主であり贖い主であるイエス・キリストが提供して下さることを知っていました。最後には、聖い御名をほめたたえて歌う天の聖歌隊とともに、喜び、歌うという信仰を持っていました。

ですから、皆さんは深呼吸をして……

大きな一歩を踏み出して……

今ここにいるのです！

皆さん一人一人は、天の家に帰るといって自分自身のすばらしい旅に乗り出したのです！

皆さんの地図

今地球にいる皆さんにとって、旅が順調かどうか自分に問いかけるのは賢明なことです。正しい道を進んでいますか。なるべき自分、なりたい自分になりつつありますか。天の御父のみもとに帰るために役立つような選択をしていますか。

御父は皆さんを、当てもなくさまよわせるためにこの旅に送り出されたのではありません。みもとに戻すためです。愛に満ちた両親と、忠実な教会の指導者を下さいました。地形を示し危険を知らせる地図を下さいました。その地図は平安と喜びが見つかる場所を示し、天の国に帰る道順を計画できるように助けてくれます。

では、この地図はどこにあるでしょうか。

- 聖典の中に。
- 預言者と使徒の言葉の中に。
- そして、聖霊からの個人的な啓示を通して見つかることができます。

この地図は、イエス・キリストの福音、良い知らせ、キリストの弟子が歩む喜びの道です。御自身がその道であるがゆえにその道を御存じの御方³、わたしたちの弁護者であり、指導者である御方が下

さった戒めと模範です。

もちろん、地図を持っていても、研究して人生の旅の道案内として使わなければ、何の役にも立ちません。神の御言葉を研究し応用することを最優先するよう、わたしは皆さんに勧めます。聖霊に心を開き、人生を通じて皆さんの旅を導いてもらってください。

皆さんの地図は天の御父と御子イエス・キリストの励ましと教えで満たされています。皆さんが無事に天の家に帰れるように、今日その中から3つのメッセージを分かち合います。

第1のメッセージ——「**恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともに〔いる〕からである。**」⁴

皆さんはこの旅において独りではありません。天の御父は皆さんを御存じです。だれも皆さんの言葉を聞いてくれないときでも、御父は聞いてくださいます。皆さんが義を喜ぶとき、御父はともに喜んでくださいます。皆さんが悩むとき、御父は皆さんとともに悲しまれます。

天の御父の皆さんに対する関心は、皆さんがどれだけ裕福か、美しいか、健康であるか、頭が良いかということによって決まるではありません。御父の視点はこ

の世の視点とは違います。皆さんの本質を、皆さんの心を、御覧になります。⁵そして皆さんが御自分の子供なので、皆さんを愛しておられます。⁶

愛する姉妹の皆さん、御父を熱心に求めてください。そうすれば、皆さんは御父を見いだすでしょう。⁷

約束します。皆さんは独りではありません。

今少しの間、周りにいる人を見てください。皆さんの指導者、友達、家族のだれかがいるかもしれません。これまで一度も会ったことのない人がいるかもしれません。それでも、周りにいる人はすべて、この会場にいる人も、ほかの場所にいる人も、今日いる人も、どの時代の人も、前世で勇敢だった人なのです。隣に座っている、控えめでごく普通に見える人は、かつて霊界にいたときにあなたが憧れ、大好きだった偉大な人物の一人かもしれません。あなた自身がそのような手本になる人物だったのかもしれません。

一つ確かなことがあります。人種、宗教、政治的信条、体型、外見にかかわら

ず、皆さんの目に映る一人一人は、家族なのです。皆さんが見ている若い女性には皆さんと同じ天の御父がいて、彼女も皆さんと同じように、愛に満ちた御父のみもとを旅立ったのです。この地球に来て、いつの日か御父のみもとに帰ることを熱望しながら。

しかし、皆さんと同じように、時々孤独を感じるかもしれません。自分の旅の目的を忘れることさえあるかもしれません。皆さんの言葉と行いで、独りではないことを思い出させてあげてください。わたしたちは助け合うためにここにいるのです。

人生はつらいかもしれませんが、ある人とは心を通わせられないとさえ思えることもあります。怒りに満ちた人がいるかもしれません。愛情にあふれる神を信じる人をあざけるような人がいるかもしれません。しかし、考えてみてください。たとえ覚えていなくても、彼らもかつては天の御父のみもとに戻りたいと思ったことがあるのです。

だれかを改心させることは皆さんの責任ではありません。それは聖霊の仕事で

す。皆さんの責任は、信じていることを恐れずに伝えることです。標準を曲げることなく、すべての人の友となってください。自分の確信と信仰を忠実に守ってください。自信を持ってください。皆さんは神の娘であり、神は皆さんとともにおられます。

第2のメッセージ——「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」⁸

神のみもとにいたときに、わたしたちがどのような言葉を話していたか考えたことがありますか。恐らくみんなドイツ語を話していたのではないかと思うのですが、ほんとうのところはだれにも分かりません。でも前世では万人共通の言語を霊の御父から直接学んでいたことをわたしは知っています。情緒的、物理的、霊的に互いを隔てるものを乗り越える力を持つ共通言語です。

その言語は、イエス・キリストの純粋な愛です。

世界で最も力強い言語です。

キリストの愛は、見せかけの愛ではありません。グリーティングカードにしか書かない愛ではありません。はやりの音楽や映画でもてはやされるような愛ではありません。

この愛は、人の本質を変える愛です。憎しみを克服し、ねたみを溶かします。怒りを治め、苦々しい気持ちを乗り越えさせてくれます。この愛は奇跡を起こすのです。

わたしたちは神の御前で霊として、この愛の言葉で「最初の教え」⁹を受けました。そして、地上でその言葉を練習して流暢に話せるようになる機会があります。皆さんはこの愛の言葉が上達しているかどうかを、自分の思いと行いの動機を評価することで知ることができます。

物事が自分に都合よく進むことを第一に考えているなら、皆さんの動機は利己的で浅はかなものでしょう。そのような言葉を覚えたくはないはずです。

皆さんの思いと言動が神と人に仕える



オーストラリア、シドニー



ことを第一にしているなら、周りの人を祝福し高めることを心から望んでいるなら、キリストの純粋な愛が皆さんの心と生活の中で力を発揮できます。皆さんが習得したいのはそのような言葉です。

そのような言葉を習得して、そのような言葉で交わるなら、人はあなたの中に何か特別なものを感じて、天の家に戻る旅の正しい道を探したいという、長い間眠っていた感情が目覚ますことでしょう。結局のところ、愛の言葉は人のほんとうの母国語でもあるのです。

このように、深く、いつまでも変わらない影響力こそが、心の奥に触れる言葉なのです。それは理解の言葉、奉仕の言葉、人を高め、喜ばせ、慰める言葉です。

キリストの愛という共通の言葉を使えるようになりましょう。

第3のメッセージ——「元気を出しなさい。」¹⁰

この旅の途中で、自分のいる場所にて時々どかしい気持ちになることがあるでしょう。12歳なら14歳になりたがり、14歳になったら18歳に憧れます。18歳になると、今度は12歳に戻ってやり直したいと思うこともあるかもしれません。

思うとおりにいかないこと、不平の種というものは、常にあるものです。悲しかったり、寂しかったり、誤解を受け必要とされていない、と感じたりする日もあるでしょう。それは皆さんが望んだ旅でも、天の御父が望まれた旅でもありません。思い出してください、皆さんはほんとうに、神の娘なのです。

そのことを心に留めて、自信と喜びをもって歩むよう勧めます。道にはどこほこの所や遠回り、危険もあるでしょう。でもそれにとらわれずに、皆さんの天の御父がこの旅の一步一步に備えておられる幸福を探してください。幸福は到着地でもあり、またそこへ続く道でもあるのです。「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」¹¹ というのが、御父の約束です。だからこそ、わたしたちは御父に「元気を出しなさい」と命じられているのです。

愛情深い御父がこの旅のために下さった地図を喜んで使うなら、聖なる場所へ導かれ、皆さんは天の可能性に手が届くのです。皆さんがなりたいたいと願っているような神の娘に成長するのです。

愛する姉妹の皆さん、愛する教会の若

い女性、愛する若い友の皆さん、主の使徒の一人として、皆さんが家に戻る旅路にあって自分の道を見つけ、旅の仲間に靈感を与える者となるように、皆さんを祝福します。聖約、原則、イエス・キリストの福音の価値観を尊び、それらに忠実に生きるなら、旅の終わりに天の御父のみもとに行けることを約束し、そうなるように祈ります。御父が皆さんを抱き締めてくださり、皆さんは自分が無事に天の家に戻ったことをはっきりと知るでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. チャールズ・デイケンズ、*A Christmas Carol* 参照
2. J・R・R・トールキン、*The Hobbit* 参照
3. ヨハネ14:6 参照
4. 教義と聖約68:6。イザヤ41:10; ヨハネ14:18も参照
5. サムエル上16:7 参照
6. 1ペテロ5:6-7 参照
7. エレミヤ29:13 参照
8. ヨハネ15:12。ヨハネ13:34; モロナイ7:45-48も参照
9. 教義と聖約138:56
10. 教義と聖約78:18。ヨハネ16:33; 3ニーファイ1:13も参照
11. 教義と聖約59:23

大会を 生活に取り入れる

家族で話し合ったり、個人でじっくり考えたりする際に、これらの活動や質問を使ってみてはいかががでしょうか。

各 アイデアとともに、該当する説教の最初のページを括弧の中に示しています。

子供

- トーマス・S・モンソン大管長は、従順の大切さと不従順がもたらす結果について話しています(89ページ)。家族で決めたルールに従ったときのことを考



えてみてください。神様のルールに従ったときはどうでしたか。従順でいると、どのように感じますか。

- 十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は、小さな種からトマトを育てた少女について話しました(18ページ)。この話を家族で読むか話して、天の御父のようになる方法について、この話から学べることを話し合ってください。御父に少しでも近づけるように実践目標を立てることもできます。
- 七十人のエンリケ・ファラベラ長老は、家族を強めるものについて話しています(102ページ)。家族で使う最も大切な言葉に、「愛しているよ」「どうもありがとう」「ごめんなさい」があると話しています。中央初等協会会長のローズマリー・M・ウィクソム姉妹は、「君のすべてを愛しているよ」と言うように勧めています(81ページ)。家族にこの言葉を使うときにどんなことが起きるか、試してみてください。その言葉で、家族は幸せになるでしょうか。自分はどのように感じるでしょうか。

青少年

- トーマス・S・モンソン大管長は伝道活動に備えるための4つの原則について教えました。それは専任宣教師のためだけではなく、会員のための原則でもあります(66ページ)。次の質問を心に留めながら大管長の説教を読んでくだ

さい。「自分がより良い宣教師になるために、今何ができるだろうか。」

- 十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、疑問や質問を持つことはいいことですが、「すでに知っていることに固くしがみついて、新たな知識を得るまで、強くあってください。……持っている信仰に忠実になるように……」と教えています(93ページ)。日記に、自分が信じていること、証、そして霊的な経験を書いてください。また、疑問や質問があればそれも書き留めておきましょう。聖文やこの大会号を読むときに、答えを探することができるからです。
- 多くの話者が、従順とその祝福について話しました。例えば、モンソン大管長は「神の戒めに従順になることによって、真理を知り、人が抱く最大の疑問への答えを得ることができます」と教えました(89ページ)。この大会号



をよく研究して、従順がもたらす多くの祝福についてマーカーで印を付けたり書き留めたりするとよいでしょう。これらの祝福を一つ一つ確認していくと、霊的な導きを受けて義にかなった生活を続けることができるでしょう。

- 数人の話者が、わたしたちは奉仕活動をするときだけでなく、いつでも奉仕できることを教えました。「毎日、仕え、教え導いてください。その機会は皆さんの周りの至る所にあります」と、中央若い男性会長のデビッド・L・ベック兄弟は教えています。ベック兄弟の説教には、青少年が人々に奉仕する幾つかの例が述べられています（55 ページ）。

成人

- 多くの話者がイエス・キリストについて証あかししました。22, 70, 96, 99, 109 ページから、主の神聖な特質、使命、務めについて何を学べるでしょうか。



- 5月の青少年用教科課程のテーマは、預言者と啓示です。教会で青少年を教えている、または10代の子供がいる場合、教科課程と次の質問について子供たちと話し合ってください。「生ける預言者に耳を傾けて従うことは、なぜ大切なのでしょうか。」この大会号を研究し、注意を払うと、困難なときに成長させてくれる預言や警告にはどのようなものがあるか調べてみましょう。

- 何人かの話者は、家族を強めることに焦点を当てて話しました。例えば、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、「[救い] 主が家庭の中心になっているときには、平安と安らぎがあります」と教えました（29 ページ）。スコット長老の説教や6, 81, 83, 102 ページにある説教を研究する際に、主を家庭の中心にする方法を探してみましょう。■



聖文から教える

総 大会で何度か使われた、以下の聖句を研究してください

サムエル上 16 : 7*
 マタイ 7 : 24 ; 28 : 19
 ヨハネ 13 : 34 - 35 ; 14 : 6 ;
 16 : 33
 モーサヤ 3 : 19* ; 18 : 8 - 9
 ヒラマン 5 : 12*

3 ニーファイ 11 : 7
 モロナイ 9 : 9
 教義と聖約 42 : 22 ; 59 : 23 ; 64 :
 34 ; 84 : 88 ; 87 : 8 ; 115 : 6
 ジョセフ・スミス—歴史 1 : 17*

* セミナリーマスター聖句の節

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭のタベ、その他の教える機会に活用してください。説教が掲載されている最初のページを示しています。

話者	実話や物語
ニール・L・アンダーセン長老	(77) モザンビークのカップルは、伝統ではなく、主に従っている。
M・ラッセル・バラード長老	(18) 7歳の孫娘が、しおれたトマトの苗を生き返らせる。
デビッド・L・ベック	(55) アロン神権者たちが、いじめに遭っている若い女性の味方になる。 インドのバンガロールにいる執事が、支部の若い男性全員が活発になるように助ける。
タッド・R・カリストア長老	(52) 17歳のジョージ・F・リチャーズが、母親に祝福を施すことで神権の力について学ぶ。
D・トッド・クリストファーソン長老	(109) D・トッド・クリストファーソンの母親が、自分の潜在能力を発揮する必要がある若い女性を助ける。
メアリー・N・クック	(118) 若い女性が、信仰を行使して父親の死と母親の癌との闘いに向き合う。
クエンティン・L・クック長老	(32) フィジー・スバ神殿のオープンハウスが行われていた間に、ヒンドゥー教徒の女性が平安を感じる。
ディーン・M・デイビーズビショップ	(9) 1989年のアメリカ合衆国カリフォルニア州ロマ・フリータで起きた地震を通して、堅固な基の上に生活を築くことの大切さを、ディーン・M・デイビーズは心と思いの中で再確認する。
アン・M・ディブ	(115) 若い女性キャンプで、あまり教会に来ていなかった若い女性が御霊を感じる。
ヘンリー・B・アイリング管長	(62) 親をなくした少年が、人口13万人の都市にある教会の最初の会員になる。 ヘンリー・B・アイリングがアメリカ合衆国ニューメキシコ州とニューイングランド州で奉仕しているときに、神の王国を築かれる神の御手を見る。
エンリケ・R・ファラベラ長老	(102) アメリカ合衆国アリゾナ州の教会員たちは、エンリケ・R・ファラベラと夫人が神殿結婚をした後にグアテマラに帰れるように、お金を支援してくれた。
ジェフリー・R・ホランド長老	(93) ジェフリー・R・ホランド長老が14歳の少年に、「ただ信じている」ために謝る必要は決まないと伝える。
トーマス・S・モンソン大管長	(66) カナダで二人の専任宣教師が預言者ジョセフ・スミスについて力強い証を述べた後に、教会について学んでいた男性が教会に入る。 毎週書いた手紙の中で愛を表現したことで、ある専任宣教師が彼の父親を教会に導く。 (89) 8歳のトーマス・S・モンソンは野原を火事にしてしまった後に、従順について学ぶ。 ハンガリーの忠実な教会員が、ホームティーチャーに渡せるまで、長年の間 十分の一をためる。
リチャード・G・スコット長老	(29) ある専任宣教師が、伝道部会長の家族を自分の将来の家庭のお手本にしたいと思う。
ディーター・F・ワークトドルフ管長	(70) 西アフリカの聖徒たちが、集会所の停電が続く中、賛美歌を歌い始める。 若い女性が虐待された幼少期の暗闇のような経験を、福音のおかげで克服する。 (125) ディーター・F・ワークトドルフと家族が東ドイツから逃れる。

わたしたちの時代のための教え

✕ ルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます（下記の表参照）。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調してください。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよ

う祈ってください。教師はほかの資料を使ってレッスンを準備したいと思うことがあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それによって生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、^{あかし}証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。

レッスンを教える月	第4週の日曜日のレッスン教材
2013年4月 - 2013年10月	2013年4月の総大会で話された説教*
2013年10月 - 2014年4月	2013年10月の総大会で話された説教*

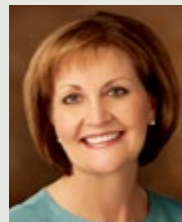
* 4月と10月の第4日曜日のレッスンのためには、前大会または最新の大会から説教を選んでください。説教は多くの言語で入手できます。

中央補助組織会長会

扶助協会



第一顧問
キャロル・M・スティーブンス



会長
リンダ・K・バートン



第二顧問
リンダ・S・リーブス

若い女性



第一顧問
キャロル・F・マッコッキー



会長
ボニー・L・オスカーソン

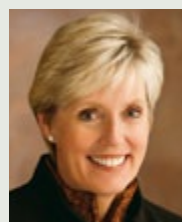


第二顧問
ニール・F・マリョット

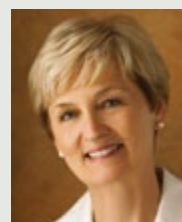
初等協会



第一顧問
ジーン・A・スティーブンス



会長
ローズマリー・M・ウィクストム



第二顧問
チェリル・A・エスプリン

若い男性



第一顧問
ラリー・M・ギブソン



会長
デビッド・L・ベック

日曜学校



第一顧問
デビッド・M・マッコッキー



会長
ラッセル・T・オサゴソブ



第二顧問
マシュー・O・リチャードソン

第183回総大会で、 新しい 中央若い女性会長会が 支持される

2013年4月7日に開かれた第183回年次総大会の最後の部会の中で、トーマス・S・モンソン大管長は次のように述べた。「感動し、この聖なる業に対する証が強くなり、主の御霊を感じました。この2日間に聞いた事柄を心に留めることができますように。」

4月6日と7日の両日に、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターで10万人以上が総大会の5つの部会に出席した。全世界で数百万人がテレビや衛星放送、ラジオ、インターネットで視聴した。生放送やLDS.orgの大会のオンラインビデオ、音声、書面を通して、会員は95の言語で大会にアクセスすることができた。

モンソン大管長は年次大会の冒頭で、アメリカ合衆国ユタ州シーダーシティーとブラジルのリオデジャネイロに神殿を建設する計画を発表した。これにより、発表された神殿と建設中の神殿の合計は29となる。現時点で儀式が行われている神殿は141である。

土曜午後の部会で、教会の指導者に幾つかの変更があった。中央若い女性会長会のすべての会員が解任され、ウォルター・F・ゴンサレス長老が七十人会長会の会員から解任された。51人の地域七十人も解任された。

七十人第一定員会のウリセス・ソアレス長老は、七十人会長会の会員として支持された。

新たに中央若い女性会長会として支持されたのは、ボニー・リー・グリーン・オスカソン(会長)、キャロル・フォーリー・マッコスキー(第一顧問)、ニール・フット・マリOTT(第二顧問)である。

エドワード・デュベ長老(ジンバブエ)、S・ギフォード・ニールセン長老(アメリカ合衆国テキサス州シュガーランド)、アルヌルフ・パレンスエラ長老(メキシコ・ケレタロ州)が新たに七十人第一定員会の会員に召された。新たに5人の七十人第二定員会の会員も支持された。

助けることができる

トーマス・S・モンソン大管長と十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、中央宣教師基金への献金を会員たちに勧めた。2013年4月4日の時点で、6万5,634人の専任宣教師が奉仕しており、すでに召しを受けている者はさらに2万人以上に上る。

総大会の最初の部会で、モンソン大管長はこう述べた。「この伝道の勢いを維持できるように、また宣教師の多くは

前中央若い女性会長のイレイン・S・ダルトンは、中央若い女性会長会の中で会長または顧問として、4月に解任されるまで11年間奉仕した。

支持された役員と解任された役員全員の氏名は、26ページを参照してください。

新たに召された指導者の略歴は、139ページ以降を参照してください。■



必ずしも豊かでない家庭から伝道に出ているため、できる範囲で、教会の中央宣教師基金に惜しみなく献金してください。皆さんをお願いします。」

会員は、什分の一・献金票の中央宣教師基金の欄に貢献したい額を記入することによって寄付することができる。会員はインターネット〔英語のみ〕でも寄付することができる。

教会は年配の夫婦の円熟した人格と豊富な人生経験を必要としている

伝道に出られる年齢の引き下げによって若い宣教師の数が増加するとともに、年配の夫婦も、世界中の伝道部で大いに必要とされている。最近 58 の新しい伝道部が創設されたことに伴い、より多くの年配の夫婦が今後ますます必要とされるようになるであろう。彼らの提供する、指導者としての経験その他の支援は、伝道部の成功に必要不可欠である。

2013 年 4 月の大会の中で、トーマス・S・モンソン大管長は、急激に増加する宣教師の数に言及し、伝道地で主に進んで仕える人々への愛を表明した(4, 66 ページ参照)。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、特に年配の夫婦に、伝道

に出るよう勧めた。「年配の夫婦の皆さん、伝道に行ける日の計画を立ててください。わたしたちが皆さんの奉仕をとて感謝する日になることでしょう」と述べている(45 ページ参照)。

2012 年 10 月の総大会の開会に当たり、モンソン大管長はこう述べた。「わたしたちは引き続きもっと大勢の年配の夫婦を必要としています。事情が許し、退職することができ、健康上可能なら、専任宣教師として奉仕する準備をするようにお勧めします。夫婦と一緒に御父の子供たちに仕えるとき、二人はともにもっと大きな喜びを得られるでしょう。」「(大会へようこそ)『リアホナ』2012 年 11 月号, 5)

教会指導者は年配の夫婦が伝道に出る

ことを、長年にわたって奨励してきた。十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老はこう言っている。「どこの伝道部でも、もっと大勢の夫婦宣教師を必要としています。円熟した人格と豊富な人生経験が、最も優れた宣教師を生み出すことがあるのです。……〔彼らの〕特別な技能のゆえに、地元の指導者たちを効果的に訓練することができます。また会員たちを強め、再活発化し、会員ではない人を……キリストのみもとへ連れて来ることができるのです。」「(夫婦宣教師——良いものをさらに良いものに換えるために)『聖徒の道』1990 年 5 月号, 21)

宣教師として奉仕することを望むふさわしい夫婦は、その望みをビショップまたは支部会長に知らせるとよい。奉仕の期間は 6 か月以上 23 か月未満である。

夫婦伝道について質問がある方は、1-800-453-3860、内線 2-6741 (または 1-801-240-6741) に電話してください。または特定の質問に対して答えが欲しい場合は、電子メールを送ってください。■

年配の夫婦は、その円熟した人格と豊富な人生経験ゆえに、地元の指導者たちを効果的に訓練したり会員たちを強めたりすることができ、会員ではない人をキリストのみもとへ連れて来ることができるのである。





新たなオンラインツールにより、家族の 写真や思い出の保存・共有が可能になる

FamilySearch.orgにアクセスすると、大きく変更になった箇所が幾つかあることに気づくだろう。

2013年4月付の変更により、新鮮で明るい色彩や、興味をそそる写真、数々の新しい機能が提供できるようになり、探究にとどまらず様々な操作が可能になった。系図を探究する者がその目的を果たすためのサイトとしては、これまでと同様にすばらしいサイトであるが、新たな機能が加わったことにより、さらに幅広い層の人々を引きつけるようになるだろう。

新たな機能の追加により、家族歴史は単なる系図探究にとどまらず、年齢に関係なく初めて家族歴史に取り組む幅広い層の人々に魅力を感じさせるものになった。利用者はオンラインでほかの人と共同でファミリーツリーを作成することができるようになり、家族の写真や先祖の話の保存・共有もできるようになった。これらの操作はすべて無料である。

家族の写真や話が加わることにより、先祖のイメージに命が吹き込まれる。日付の陰に隠れていた人物が生き生きとよみがえり、勤勉の大切さや人生の諸問題の乗り切り方、選択が人生に与える影響などの原則を、わたしたちに教えることができるようになるのである。

家族歴史がより簡単に記録・保存できるようにする技術は、わたしたちを過去と結び、未来への遺産を生み出す。

FamilySearch.orgの新しい機能

ファミリーサーチ・ファミリーツリー。FamilySearch.orgを初めて利用する人は、すべてオンラインで、ほかの人と共同でファミリーツリーを作ることができる。まず

自分自身の情報を入力し、次に、亡くなった先祖の情報を加えていくのである。

ファミリーツリーのおもな機能――

- ファミリーツリーは、FamilySearch.orgの、「ファミリーツリー」のタブにある。
- ツリー（家系図）には、利用者から提供された9億人以上の個人名があらかじめ入力されている。
- 無料である。
- すべてオンラインで、ほかの人と共同で自分たちの家族歴史を作成・管理・共有することができるようになっている。
- 自分の家族歴史について、ほかの人がすでに発見していることを確認することができる。
- 簡単に写真やストーリーを添付し、様々な情報源にリンクすることができる。
- 共有しているファミリーツリーを、将来の子孫のために永久に保存することができる。
- 「つかんで引く」という簡単な機能を使って、自分の家系図を簡単に上下に動かすことができる。
- 家系図の欠けている部分を埋めるために、FamilySearch.orgの莫大な数の記録に無料でアクセスできるようになる。

写真。利用者は先祖のお気に入りの写真を、保存したり、ファミリーサーチ・ファミリーツリーの中の自分のプロフィールに添付したり、ソーシャルメディアを通じて分かち合ったりすることができる。すでに20万枚以上の写真が寄せられ、保存され、共有されている。

ストーリー。利用者は、ファミリーサーチ・ファミリーツリーの中の、特定の先祖のお気に入りの話を書くことができる。この機



能を使うと、家族は自分たちの家族の話を集め、共有し、永久に保存することができる。

インタラクティブ扇形チャート。2012年、ファミリーサーチは、色分けした扇形の家系図で自分や先祖を見ることのできる機能のテストを行った。この機能は現在改善され、FamilySearch.orgで利用できるようになってきている。

ファミリーツリー・ウィザード。初めてファミリーツリーを作成する人は、このツールの便利さを実感することだろう。利用者はインタビュー形式で自分の生活や亡くなった先祖に関する質問に答える。すると利用者と先祖の関係が家系図になって現れ、簡単に始めることができるのである。

ライブヘルプ。家族歴史への関心は世界中で高まっている。ファミリーサーチでは、世界規模のオンラインコミュニティを立ち上げ、製品の案内と個人探究支援を1日24時間、電話とウェブ上での対話により、無料で提供している。これは現在、10か国語で利用可能になっている。

言語。すべての新しい機能とサービスは、10か国語で利用可能になっている。利用方法を教える無料のビデオその他のオンラインリソースが、すべての機能について用意されている。詳細については、「ヘルプ」ボタンをクリックするだけでよい。■

家族歴史は心を変える

R・スコット・ロイド

Church News

「多くの家族歴史センターは将来、家庭に置かれるようになるでしょう」と、七十人のブラッドリー・D・フォスター長老は予見している。2013年3月23日にアメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで開かれた、ルーツテク2013年家族歴史技術大会の講演でのことである。

家族歴史部の管理ディレクター補佐であるフォスター長老は、まもなく地球上の人口は90億に達し、主は「それらすべての家族を結びつけ、結び固める」ことを可能にする技術を用意して下さっていると語った。

長老はまた、系図や名前、日付を調べるだけでなく、先祖にまつわる話を調べながら家族歴史を探究することの大切さを強調した。世界中どここの墓地でも、

墓石には名前が刻まれ、次に、生年月日、短い線、死亡年月日と続くと言い、「墓石に刻まれた誕生日と死亡年月日を結ぶ線はあまりに短く、重要なものには見えませんが、その線の中に、すべての物語が入っているのです。わたしたちはよく日付を見つけることにこだわりますが、先祖を愛することは、つまり先祖に心に向けるということは、この線が何を意味するのかを発見することから始まるのです」と述べた。

家族歴史に携わり、先祖の話分かち合い、ともに働くことにより、わたしたちはより近くなり、一致できる。長老はこう説明している。「ですから、系図探究はわたしたちの家系図を変えますが、家族歴史はわたしたちの心を変えるのです。」

エルドレッド・G・スミス長老 (106歳) 死去

サラ・ジェーン・ウィーバー
Church News

19 47年から1979年にかけて教会の大祝福師を務めたエルドレッド・G・スミス長老が、2013年4月4日に自宅で亡くなった。106歳だった。

ユタ州の最年長者とされていたスミス長老は、これまでの中央幹部のどれよりも長寿であった。

トーマス・S・モンソン大管長は、2013年1月9日、スミス長老の最後の誕生日に彼を訪問していた。モンソン大管長はこう述べた。「エルドレッド・スミスはわたしの良き友です。ともにたくさんの距離を旅しました。わたしは彼を愛し、尊敬しています。」

エルドレッド・G・スミスは1947年4月10日に、当時教会の大管長だったジョージ・アルバート・スミスによって大祝福師として召された。スミス長老は教会最後の大祝福師であった。彼は1979年に名誉幹部の称号を受けた。大祝福師の職は、預言者ジョセフ・スミスの父であるジョセフ・スミス・シニアが1833年に召されたのが始まりである。スミス長老は預言者の兄ハイラムの玄孫(孫の孫)である。

大祝福師として奉仕する中、スミス長老は世界の多くの地域を訪問し、祝福師がいない地域で多くの祝福師の祝福を受けた。1966年、彼は当時十二使徒定員会会員だったモンソン長老とともに、オーストラリアとサモアを訪問し、会員たちに祝福師の祝福を受けた。管理祝福師が



2013年1月9日、106歳の誕生日を迎えたエルドレッド・G・スミス長老を訪問するトーマス・S・モンソン大管長(右)。スミス長老は1947年から1979年にかけて教会の大祝福師を務めた。スミス長老は4月4日に自宅で亡くなった。

サモアを訪問したのはそのときが初めてであった。今日ほとんどのステークには、ステーク在住の祝福師がいる。

モンソン大管長と十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はともにスミス長老の葬儀で話した。モンソン大管長は、遺族に向けた大管長会からの哀悼の手紙を読み、続けてこう述べた。「一時的に、わたしは良き友を失いました。」

スミス長老と同じくハイラム・スミスの玄孫であるバラード長老は、家族の歴史を維持するためにスミス長老が貢献したことについて語った。「わたしたちは彼を大祝福師として、またわたしたちの一族の族長として尊敬しています」とバラード

長老は述べ、さらに、スミス長老が自身の最大の業績は家族であると感じていたことを知っていると言った。

スミス長老は1932年にジーン・オードリー・ネスと結婚し、5人の子供をもうけた。1977年6月に夫人が亡くなった後、彼はホーテンス・チャイルドと再婚した。ホーテンスは当時、中央若い女性会長会で顧問をしていた。彼女は2012年5月に死去した。

スミス長老の遺族には、二人の息子と二人の娘(もう一人の娘は死去)、孫22人(孫二人は死去)、ひ孫63人、および玄孫22人がある。■

この記事はゲリー・アバントの寄稿によるものである。



ウリセス・ソアレス長老

七十人会長会

ウリセス・ソアレス長老は、2013年1月より七十人会長会の一員として奉仕を開始しました。長老はこれまで世界の様々な場所で教会の急成長を目の当たりにしています。

ソアレス長老は1958年10月にブラジル・サンパウロで生まれました。彼が5歳のときに、父アレシド・ソアレスと母メルセデス・ソアレスが教会に入りました。当時彼らが出席した教会の集会は、パン屋の階上の部屋で行われていました。ソアレス長老は、1966年にサンパウロで、南アメリカで最初のステークが組織されたときの興奮を覚えています。当時、彼は8歳でした。ブラジルでの教会は急速に発展し、1990年までに50のステーク、2000年までには200以上のステークが組織されました。

ソアレス長老は、ポンティフィシアカトリック大学で会計と経済の学士号を、ブラジルの国立大学院でMBAを取得しました。その後、教会職員になるまでタイヤの多国籍企業で働きました。教会の財務部に就職した後すぐ、サンパウロにある教会地域事務所の実務ディレクターとなり、そこで10年にわたり地域会長会を支援しました。また、ブラジル・サンパウロコチアステークの初代ステーク会長としても奉仕しました。

2000年から2003年にかけてポルトガル・ポルト伝道部の会長として奉仕し、2005年4月に七十人第一定員会の会員に召されました。これまでブラジルおよびアフリカ南東地域会長会で奉仕しました。

「このような経験から、教会は忠実な人がいる所ならどこでも設立されるということを理解しました」と彼は語ります。「そして、さらに効果的に奉仕するために学ばなければならないことを理解しました。」

ソアレス長老とロザナ・フェルナンデス・モルガード夫人は、ブラジル・サンパウロ神殿で1982年10月に結婚し、3人の子供がいます。

ソアレス長老はブラジル・リオデジャネイロ伝道部で専任宣教師として奉仕しました。また、長老定員会会長、ビショップリック顧問、高等評議員、ステーク幹部書記、地域福祉代理人としても奉仕しました。■



エドワード・デュベ長老

七十人

エドワード・デュベ長老は、1981年に勤め先の雇用主の家で福音を紹介され、モルモン書を1冊もらいました。1983年までそれを読むことはありませんでしたが、誘いにこたえて参加し、ジンバブエのクウェクウェにある集会所で行われた断食証^{あかしかい}会で聞いた、モロナイの訪れについてのジョセフ・スミスの証が強く心に残りました。

初めは良い気持ちがありませんでした。この集會に出席している人々の使用人であるかのように感じたからです。

「しかし、彼らがモルモン書について証を述べるにつれ、これらの人々との何らかのつながりを感じたのです」と彼は思い出します。「そして、わたしもモルモン書についての自分の気持ちを分かち合うことができました。」

彼は後に宣教師から福音のレッスンを受け、バプテスマを受け、最終的にはジンバブエ・ハラレ伝道部で奉仕しました。

伝道中、彼は当時16歳のナウメ・ケレシヤ・サラザニの家族を教えました。二人は伝道後も親交を続け、1989年12月9日にクウェクウェで結婚し、1992年5月に南アフリカ・ヨハネスバーグ神殿で結び固められました。夫妻には、3人の娘と息子が一人います。

デュベ長老は1962年5月にジンバブエのチルマンズの村で、クレメント・デュベ、ローズマリー・デュベ夫妻の間に生まれました。1992年にジンバブエ教育単科大学で教育の学位を取得後、教会教育システムで働きました。そこでジンバブエ、ザンビア、マラウイにおける宗教教育セミナー・インスティテュートを設立しました。卒業証書を手渡した多くの生徒たちが、教会の発展とともにこれらの国々で教会の指導者として奉仕する姿を見るという祝福にあずかってきました。

デュベ長老は、長老定員会会長、支部会長、地方部会長、ステーク会長、伝道部会長顧問、そして、2009年から2012年にはジンバブエ・ハラレ伝道部会長として奉仕しました。七十人第一定員会での召しを受ける前は、地域七十人として奉仕していました。■



S・ギフォード・ニールセン長老

七十人

ス タンリー・ギフォード・ニールセン長老は運動競技に熱心ですが、自分の人生においてはスポーツが最も重要なことではありません。バランスが重要であり、福音は現在および永遠にわたる幸福の土台であると信じています。

長老は1954年10月にハリー・ニールセンとロイス・ニールセン夫妻のもとに生まれました。単科大学を卒業するまで、アメリカ合衆国ユタ州プロボに住んでいました。両親は、人生を導く福音中心の価値観を彼に教えました。

大学フットボールの選手生命を終わらせることになった致命的なけがをした後、ニールセン長老は人生で最も大切なことはけがによって失われることはないということを学んだと言っています。

幸いながら回復して、全米プロフットボールリーグでクォーターバックを務めましたが、選手生命は3年で終わりを告げました。彼は広く笑い者になりました。それは自省の時であり、彼がほんとうに信じているものは何かを見つけ出す時でした。「わたしはどんなことがあっても、救い主は決して皆さんを見放されないことを学びました」と、現在テキサス州シュガーランドに住むニールセン長老は語ります。

彼がその後の人生の指針にしようとした聖句があるとすれば、それはマタイによる福音書第5章14節から16節です。「あなたがたは、世の光である。……あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

「主は皆さんに御腕を^{みうで}広げてくださっています」とニールセン長老は言いました。「福音に添った生活をする^{みうで}ことで主を愛します。」

彼がウェンディー・オルソンと出会ったのは、単科大学時代でした。二人は1975年4月23日にユタ州プロボ神殿で結婚しました。彼はブリガム・ヤング大学でコミュニケーションの学位を取得しました。彼はヒューストンオイラーズのクォーターバックでした。また、専任で奉仕する召しを教会から受ける前は、KHOU テレビ（訳注——テキサス州ヒューストンのテレビ局）のスポーツディレクターでした。

6人の子供の父親であるニールセン長老は、セミナー教師、若い男性会長、長老定員会会長、ビショップ、ステーキ会長として奉仕してきました。七十人第一定員会の召しを受けたときには、地域七十人として奉仕していました。■



アルヌルフォ・バレンスエラ長老

七十人

ア ルヌルフォ・バレンスエラ長老は、メキシコ・チワワのモルモン入植地で育ち、教会が経営するアカデミア・フアレスを卒業しました。そこで過ごした子供時代には、福音に献身し主に仕える忠実な男女から教え導かれるという貴重な経験をする機会にあずかりました。

ラテンアメリカでも名高い教会の一角で学んだ教訓は、七十人第一定員会会員としての義務を引き受けるうえで大いに役立つだろうと、バレンスエラ長老は思っています。

「フルタイムで主に仕えるというこの召しは、非常に大きな祝福だと感じています」と彼は言っています。

1959年5月にギルバート・バレンスエラとロサ・バレンスエラ夫妻の間に生まれたアルヌルフォは、若いころから教会の召しに魅力を感じていました。19歳のときにメキシコ・ベラクルス伝道部への召しを受けました。メキシコの中でも風光明媚なこの土地で、日々福音のために働くことに満足を覚え、キリストのもとに人を導くことの喜びを知りました。

バプテスマを施したある家族がその後メキシコシティーに転居したので、伝道を終えた直後にその家族を訪ねました。その家族の隣に住んでいたピラール・ポラスは、教会への改宗者で忠実な会員でした。アルヌルフォとピラールは仲良くなり、ほどなくして交際するようになりました。当時は本国に神殿がなかったため、二人は1982年4月6日、アリゾナ州メサ神殿で結婚しました。

3人の子供を育てながら教会で奉仕を続け、やがて、メキシコに神殿が建つ^{みうで}のを見てきました。「現在メキシコに神殿が12もあり、建設中の神殿がもう一つあるなんて、当時は想像することもできませんでした」とバレンスエラ長老は話しています。

ビショップとして、また、ステーキ会長と伝道部会長の顧問として、そして地域七十人として召しを果たしながら、バレンスエラ長老は、主の業のために持てるものをすべてささげ、驚くべき献身的な奉仕をするメキシコ人の会員を、数え切れないほど見てきました。

バレンスエラ長老は、メキシコシティーの会計学政策研究大学を卒業し、国際的な企業で様々な管理職を務めました。■



ティモシー・J・ ダイクス長老

七十人

ティモシー・ジョン・ダイクス長老の特に好きな役割の一つは、「証人」になって人々に証し、人々がキリストのもとに来られるよう助けることです。宣教師として奉仕しているときであろうと、家族で何かをするときであろうと、職場で働いているときであろうと、喜んでその役割と責任を引き受け、ほかの人も同じことができるよう助けます。

長老は1951年1月にアメリカ合衆国ユタ州マリーで、マイロ・フレデリック・ダイクスとメアリー・キャサリン・ダイクス夫妻の間に生まれました。7人きょうだいの上から2番目でした。若い執事のころに家族はネバダ州エルコに引っ越しました。学校が終わると、父親が経営していた薬局で働きました。父親と肩を並べて働きながら、勤勉の大切さを教わりました。父のこの教えは、1970年から1972年までドイツ南伝道部で若い宣教師として奉仕したときに、非常に力になりました。

「伝道は大変でしたが、わたしにとってはすばらしいものでした。勤勉と従順の大切さを知っていましたから、途中で投げ出すことはありませんでした」と話しています。

伝道が終わってからも、同じ姿勢で教育を受け、職場で仕事に取り組み、教会の割り当てを果たしました。ダイクス長老は、ブリガム・ヤング大学在学中に、将来妻となるジル・ダドリーと出会いました。1974年4月26日に、二人はユタ州マンタイ神殿で結婚し、3人の子供がいます。

ダイクス長老はブリガム・ヤング大学で学士号を取得後、ワシントン大学医学部で医学の学位を取得しました。その後ネバダ州リノで医院を開業し、耳鼻咽喉外科医として働きました。

ダイクス長老は七十人第二定員会の召しを受けたとき、若い男性の組織で執事定員会アドバイザーとして奉仕していました。ほかにも、地域七十人、オレゴン州ポートランド伝道部会長、ステーキ会長、ステーキ会長会顧問、高等評議員、神殿儀式執行者、日曜学校会長、ワード書記など、これまで多くの責任で奉仕してきました。■



ランディー・D・ ファンク長老

七十人

七十人第二定員会のランディー・デニス・ファンク長老は、「主とその慈しみに頼る」という何よりも大切な原則に従って生きてきました。

法科大学院の3年生のときには、妻が2番目の子供を宿しており、職場では法律評論の共同編集者を務めていました。そんなときに、長老定員会会長の召しが来たのです。「大変な時期に、わたしはその召しを受け、弱いところを助けてよく奉仕できるようにしてくださいと天の御父に祈りました」と彼は言います。「召しを果たし、立派に学問を修め、仕事を見つけ、幼い子供たちの面倒を見るために、わたしには助けが必要でした。わたしたちは身に余るほどの祝福を頂きました。この経験から主の慈しみを知り、主に熱心に仕えようと努める者を主がいかに祝福なさるかも知り、信仰が非常に強くなりました。」

ファンク長老は、1952年8月にC・デニス・ファンクとレベッカ・ハンク夫妻の間に生まれ、アメリカ合衆国ユタ州マンタイ、ウィスコンシン州マディソン、ユタ州スミスフィールドで育ちました。父親が教会で忠実に奉仕するのを見て育ち、神権の義務を果たすことの大切さを教えられました。

インドネシアでの伝道を終えてから、1976年5月29日にユタ州ローガン神殿で、アンドレア・クライドと結婚しました。現在は6人の子供の親です。ファンク長老は、ユタ州立大学で歴史学の学位を、ユタ大学では法学博士号を取得しました。2010年にインド・バンガロール伝道部の伝道部会長に召されてから教会の専任奉仕が始まりました。その召しを受ける前は、コロラド州デンバーで大規模な弁護士事務所を共同経営していました。

「インドに行ったとき、わたしたちは救い主の次の言葉に信仰を持っていました。『さらにまた、わたしはあなたがたに言う。あなたがたによって正式に推薦されて権能を与えられた者で、兄弟たちすなわち十二使徒会の声により、わたしの名によって遣わされる者は、あなたがたから遣わされるどの国に対してでも、わたしの王国の門を開く力を持つ。』(教義と聖約112:21)」ファンク長老はこれまで、長老定員会会長、若い男性会長、ビショップ、ステーキ会長、地域七十人として奉仕してきました。■



ケビン・S・ハミルトン長老

七十人

ケビン・スコット・ハミルトン長老は、自分のことを「改心と救助の産物」と言っています。

1955年3月にアメリカ合衆国ワシントン州ウェナッチーで生まれたとき、母親のケイの心には、人生にはどんな意味があるのか、という疑問がわき上がりました。友人だった末日聖徒のリチャード・プラットに話すと、宣教師から話を聞けるように取り計らってくれました。

彼女の夫ノーマン・ラッセル・ハミルトンは、10代になったころから教会にはあまり行かなくなっていたものの、既に教会員だということを説明しました。妻が教会に入ると、彼も教会に活発に集うようになりました。

「両親はすばらしい会員で、わたしたちが今持っている信仰を育ててくれました」とハミルトン長老は言います。

しかし、人生を根本から変えたのはフランスとスイスでの伝道だったとハミルトン長老は証し、「この伝道のおかげで、決して消えることのない、燃えるような望みが生まれました」と言っています。

気心の知れたクラウディア・カイザーと、1978年7月27日にロサンゼルス神殿で結婚しました。6人の子供をカリフォルニアで育てながら、家庭を訪問者センターのような所にしました。

「家庭では声に出さない説教ができるものだと言われ、短い引用文を家中にはりました」とハミルトン姉妹は言います。家への通用門にはモルモン書と『若人の強さのために』、またその他の教会の書籍が何冊も置いてあり、訪問者が持ち帰った分は定期的に補充しています。

奉仕する意志の固いハミルトン長老にはビショップやステーク会長として奉仕する機会が与えられ、2003年から2006年にはベルギー・ブリュッセル・オランダ伝道部の伝道部会長として奉仕する機会が与えられました。七十人第二定員会に召される前は、南カリフォルニア州教会広報評議会のディレクターでした。これは、ロサンゼルス大都市圏の64のステークから成る評議会です。

ブリガム・ヤング大学から学士号、ワシントン大学から修士号を、いずれも経営学で取得したハミルトン長老は、職業人生の大半を電気通信業界で過ごし、最高経営責任者を何度も務めました。■



アドリアン・オチョア長老

七十人

地域七十人としてメキシコで奉仕の責任にあったアドリアン・オチョア長老は、チワワ市に2、3日滞在してステーク会長らと会合を持った後、帰りの飛行機に乗りました。しかし、座席に着いてから、チワワでの自分の仕事はまだ終わっていないという強い霊的な促しを感じました。

客室乗務員は離陸前の最後の準備に入っていました。「でも、わたしはその飛行機を降りなければなりませんでした。」そこで飛行機を降りました。チワワで面接を重ねるうちに、重要なことが分かってきました。そのおかげで難しい問題が解決し、ある家族が霊的に成長することができたのです。

しかし、チワワでのオチョア長老の仕事は、それでもまだ終わっていませんでした。御霊に導かれ、何年も会っていなかった、いとこの粗末な家に行きました。久しぶりに会う、あまり活発でない、いとこの彼女の小さな家族は、経済的に追い詰められていました。「教会とキリストが解決の道だと、確信しました。わたしは、いとこに教会に戻るよう懇願しました」と彼は言います。

このいとこは教会に戻り、貴い家族関係が回復されました。一人の男性が御霊の促しに従ったおかげで、チワワに住む何人かの人々を、主は救うことがおできになったのです。

人の人生を変えるこのような御霊の促しは、すべての人が受けられると、オチョア長老は証しています。オチョア長老は広告業界で働きながら、教会の様々な召しを果たしてきました。2004年から2007年にホンジュラス・サン・ペドロ・スラ伝道部を管理し、2009年から七十人第二定員会に召されるまでの間は、中央若い男性会長会第二顧問として奉仕しました。

オチョア長老は1954年3月にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコで、エデュアルド・オチョアとコンスエロ・オチョア夫妻の間に生まれ、カリフォルニアとメキシコで子供時代を過ごしました。若い男性のときに、メキシコで特別な広報の任務を受けて奉仕しました。妻のナンシー・ビジャリアルとは、メキシコ・メキシコシティー神殿で結び固められ、5人の子供に恵まれています。■



テレンス・M・ ビンソン長老

七十人

新たに七十人第二定員会に召されたテレンス・M・ビンソン長老は、1970年代初頭にオーストラリアのシドニーでケイ・アン・カーデンに出会うまで、「モルモン」という言葉を聞いたことがありませんでした。二人は宗教について話し、やがて話がまとまりました。二人は毎週、テレンスが子供のころから通っていた教会と、末日聖徒イエス・キリスト教会の小さな支部の両方に出席しました。前者は大きくてきれいな建物に集い、後者は少人数の末日聖徒が手配できた小さな貸しスペースに集っていました。

しかし、しばらく両方に通っているうちに、「比較してもつまらない」と思い、テレンスは宣教師から福音のレッスンを受け始めました。疑問はたくさんありました。そんなとき、ステーキ大会に出席していて、声が聞こえるかのようにはっきりと、こんなことを感じたのです。「わたしは成長するためにこの教会に入らなければならない。わたしが持っている多くの疑問にはすべて、答えがあるのだ。」

翌週、テレンスはバプテスマを受けました。

テレンス・マイケル・ビンソン長老は、1951年3月にオーストラリアのシドニーで、ジョン・ローレンス・ビンソンとメイ・テレサ・A・ビンソン夫妻の間に生まれました。消防士として働いていた父親は、犠牲を払って7人の子供が教育を受けられるようにしました。

ビンソン長老は、シドニー大学で数学と統計学の学士号を取得し、シドニー教員養成カレッジで教員免許状を取得しました。また、ディーキン大学からファイナンシャルプランナーの資格を取得し、マクォーリー大学から応用財政学の修士号を取得しました。仕事面では、名高い数学教師であり、講師であり、ファイナンシャルアドバイザーでした。そして、ファイナンシャルプランニングと投資を行う会社も経営しました。

自分に福音を紹介してくれた女性ケイ・アンと1974年5月2日に結婚し、1975年8月23日にニュージーランド・ハミルトン神殿で結び固められました。二人には6人の子供がいます。ビンソン長老は、バプテスマから3年もたたないうちにビショップに召されました。その後、何度かステーキ会長会で奉仕し、地区代表や地域七十人としても奉仕しました。■



ボニー・L・ オスカーソン

中央若い女性会長

2009年から2012年にスウェーデン・ストックホルム神殿のメイトロンとして奉仕している間、ボニー・リー・グリーン・オスカーソンは、主の宮で礼拝するために犠牲を払うスウェーデン、ノルウェー、およびラトビアの末日聖徒を見てきました。

これらの「とても謙遜で、非常に献身的で熱心な」会員から学んでいたことが、中央若い女性会長に専念することへと助け導かれることになるとは、その当時の彼女には分かりませんでした。

「近ごろは多くの若い女性が伝道に出るという選択をし、若い年齢で神殿に集うので、神殿で働いた自分の経験が、彼女たちの備えをどのように助けたらよいか理解するうえで役立つよう願っています。」オスカーソン姉妹はそう話しています。

ボニー・リー・グリーンは、1950年10月にソルトレーク・シティーでセオ・ジェームズ・グリーン、ジーン・S・グリーン夫妻のもとに生まれました。子供たちにユタ州外で教会の経験をさせたいと両親が決めたときに9歳だったボニーは、家族と一緒にアメリカ合衆国オクラホマ州に引っ越しました。やがて家族はコロラド州とテネシー州にも住んだ後、ミズーリ州に引っ越しました。神殿の敷地があったミズーリ州ファーウエストで、ボニーはポール・ケント・オスカーソンと出会いました。二人にはファーウエストの町があったところに生きていた先祖がいるので、そこはとても重要な場所なのです。

ブリガム・ヤング大学で学んだ二人は、1969年12月19日にソルトレーク神殿で結婚しました。その後7人の子供がいる家族になりました。

1965年から1968年までスウェーデンで専任宣教師として伝道した夫がスウェーデン・エーテボリ伝道部の伝道部会長として召されたとき、オスカーソン姉妹はまだ25歳でした。

オスカーソン家はアメリカ合衆国に帰還すると、ミズーリ州、ニュージャージー州、マサチューセッツ州、テキサス州に住みました。それらの地でオスカーソン兄弟がデパートの地区統括責任者として働いたからです。オスカーソン姉妹は両親のように、教会の会員数が少ない地域で暮らすことに大きな喜びを見いだしました。

オスカーソン姉妹は、3度にわたり若い女性会長として、9年間早朝セミナー教師として、そして福音の教義クラスの教師として奉仕しました。■



キャロル・F・マッコンキー

中央若い女性会長会
第一顧問

キャロル・フォーリー・マッコンキーは若いころから「神殿に熱い思い」を抱いていました。その思いは生涯を通して彼女の行動を導いてきました。

マッコンキー姉妹は、1952年4月にアメリカ合衆国ワシントン州スポケーンで、ウィリアムズ・フォーリー、ジョアン・W・フォーリー夫妻のもとに生まれました。デラウェア州ウィルミントンの両親の家に宣教師が訪れて家族に福音を紹介したとき、マッコンキー姉妹はまだ幼児でした。両親は周囲の反対をよそに教えをすぐに受け入れ、生活のスタイルを変えていきました。

幼いときに、ユタ州マンタイ神殿で結び固めの儀式を受けるために、家族と列車でアメリカを横断しました。

マッコンキー姉妹はこうに述べています。「それはとても素晴らしい経験でした。白い服を着て、それが家族にとってどのような意味があったのかを覚えています。崇高な経験でした。わたしはとても幼かったのですが、そのときの気持ちや、白い服が見えていたこと、その日の美しさを覚えています。あの経験が、神殿を常に生活の一部にしたいと願うきっかけとなりました。」

彼女が自分の家族を持つてからの試練の時に、神殿は希望の光になりました。

夫のオスカー・ウォルター・マッコンキー3世とは、アリゾナ州立大学に通っていたときに出会いました。マッコンキー姉妹は英語教育で学士号を取得しました。二人は1973年12月22日にアリゾナ州メサ神殿で結婚し、7人の子供がいます。

中央若い女性会長会第一顧問の召しを受けたときにマッコンキー姉妹は、若い女性中央管理会で奉仕していました。教会内でのほとんどの奉仕を、教えることに関与しているワード若い女性会長、ワード扶助協会会長と初等協会の顧問の召しに費やしてきました。2005年から2008年まで夫がカリフォルニア州サンノゼ伝道部を管理している間、夫とともに同伝道部で奉仕しました。■



ニール・F・マリオット

中央若い女性会長会
第二顧問

教会に入る前にもかかわらず、子供のころからニール・フット・マリオットは、神が存在し、彼女を愛しておられることを学びました。

「わたしの父は、天の御父の特質を生き写しにしたような人でした」と、新しい中央若い女性会長会の第二顧問は語ります。「父は人々に対して限りない愛と思いやりを抱いていました。わたしの地上での父への信頼と愛は、素朴に、自然に、天の御父への信頼と愛へと移っていきました。」

1947年10月にアメリカ合衆国ルイジアナ州アレクサンドリアでジョージ・フット、アントニア・フット夫妻のもとに、6人の弟たちの唯一の姉として生まれました。テキサス州ダラスのサザン・メソジスト大学を英文学と中等教育の学位を取得して卒業しました。その後マサチューセッツ州ケンブリッジに引っ越し、ハーバード大学で秘書として働きました。そこでデビッド・キャノン・マリオットと出会いました。彼は「会ってほしい友達がいるんだ」と言い、その後すぐに彼女とルームメートを教えるために宣教師を連れて来ました。

宣教師の話の聴いて彼女はこう言いました。「わたしの福音に対する理解で欠けていた部分が、レッスンによって満たされました。」1970年5月にバプテスマを受けた後、デビッドとは友達のままでいましたが、その1年後につきあい始め、1971年6月にソルトレーク神殿で結婚しました。

夫と協力しながら、マリオット姉妹は11人の子供と家庭において、夫は実業界でキャリアを積んでいきました。二人は教会のたくさんの召しを果たしてきました。2002年から2005年までサンパウロ・インテルラゴス伝道部を夫が管理している間、姉妹も一緒に奉仕しました。また、ソルトレーク神殿の儀式執行者、ステーキとワードの扶助協会会長、ワードの若い女性会長、福音の教義クラスの教師、食料貯蔵スペシャリストとしても奉仕しました。

新しい割り当てに対してマリオット姉妹は、若い女性のとくに受けた同じ証あかしを分かち合いたいと望んでいます。「栄光に満ちた至高の愛で天の御父から愛されている」ことを若い女性たちに知ってもらいたいと思っています。■



「わたしは盲人であったが、今は見える」 ブレイディー・フェアバンクス作

「イエスが道をとおっておられるとき、生れつきの盲人^{うま}を見られた。……

イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、

『シロアム……の池に行って洗いなさい。』そこで彼は行って洗った。そして見えるようになった。……

すると彼は言った、『……ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であったが、今は見えるということです。』

(ヨハネ9:1, 6-7, 25)



第183回年次総大会の最後の部会で、
トーマス・S・モンソン大管長はこのように話しました。
「わたしたちが生きているのは、
世界の歴史の中でも困難な課題が多い時代です。
しかし同時に、大いなる機会があり、
喜ぶべき理由のある時代でもあります。
もちろん、落胆し、嘆くときもあれば、
悲劇に見舞われることもあります。
しかし、主を信頼するならば、どんな困難にあろうと、
主は助けてくださいます。」